

節と肢とは濃黄褐色である。岐阜市公園名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏に據れば(昆  
 虫世界第九)本種はイネノズイムシ、トバヨコバヘ、イネノアヲムシ、コクロウンカ、ダテ  
 ハマキムシ、セジロウンカ、ツマガグロヨコバイ、ムクゲムシ、フタテンヨコバイ等を捕食  
 するを實驗せられたりといふ。

〔二〕 フタホシメダカ *Stenus tenuipes* Sharp. = *S. alienus* G. H.

本種の翅鞘上の圓紋及び肢色は頗る變化に富むといふ。尙詳細は昆蟲世界第九  
 十二號所載横山桐郎氏の論説を参照せらるべし。

以上の外本科には次の如き種類がある。

- |  |  |
|--|--|
| ヒゲブトハネカクシ ( <i>Aleochara lata</i> , Grav.)     | アシアカヒゲブトハネカクシ ( <i>A. asiatica</i> , Kr.)                                      |
| × オホハネカクシ ( <i>Greophilus maxillosus</i> , L.) | ハイロハネカクシ ( <i>Enchirdelus japonicus</i> , Sharp.)                              |
| ハネナガハネカクシ ( <i>Olophrum simplex</i> , Sharp.)  | キアシロケハネカクシ ( <i>Ocolea japonica</i> , Sharp.)                                  |
| クロハネカクシ ( <i>Ocytus nigro-aeneus</i> , Sharp.) | キンボシハネカクシ ( <i>O. Weise</i> , Har.)  |
| セスデハネカクシ ( <i>Oxyletus vicinus</i> , Sharp.)   | オホキハネハネカクシ ( <i>Oxyporus maxillosus</i> ,<br>F. var. <i>angularis</i> , Gebl.) |
| ルリハネカクシ ( <i>Philonthus cyanipennis</i> , F.)  |  |

アリガタハネカクシ (*P. Poweri*, Lew.)

■ガシラハネカクシ (*P. japonicus*, Sharp.)

ハネアカコガシラハネカクシ (*P. punilus*, Sharp.)

シマアカコガシラハネカクシ

サビハネカクシ (*Leistotrophus gracilis*, Sharp.)

(*P. sordidus*, Sharp.)

キバネホソハネカクシ (*Leptocinus flavipennis*, Kraatz.)

ヒメクロハネカクシ (*Quedius sinulans*, Sharp.)

ヒラタハネカクシ (*Siagonium Haroldi*, Weis.)

オホアカバハネカクシ (*Staphylinus curinatus*, Sharp.)

ダイメウハネカクシ (*S. daimio*, Sharp.)

アカバハネカクシ (*S. inornatus*, Sharp.)

クロメダカ (*Stenus cindela*, Sharp.)

サンジョメダカ (*S. confertus*, Sharp.)

キアシメダカ (*S. dissimilis*, Sharp.)

モリアカメダカ (*S. puberula*, Sharp.)

マルクビハネカクシ (*Talinus luridus*, Sharp.)

クシヒゲハネカクシ (*Vellinus pectinatus* Sharp.)

(七) 蟻塚蟲科 (*Pselaphidae*)

翅鞘は短き微小種にして、藓苔若くは蟻塚中に棲息するものが多い。而してヒゲブ  
 トアリヅカムシ (*Thesiphorus speratus* Sharp.) はこの一例である。

(八) 埋葬蟲科 (*Silphidae*)

本科のものは、大部分は動物質の屍肉骨片を食するが、又中には他の動物を食する

ものがある。

一三六

〔一〕 シデムシ *Nerophorus japonicus*, Harold.

體長六分乃至九分許、全體黒色にして翅鞘は短く、翅鞘面には赤褐色の四斑紋が二列に並んで居る。

〔二〕 オホヒラタシデムシ *Thanatophilus japonicus* Mots.

體長七分内外で、扁平楕圓形にして帶藍黒色をなし、蝸牛を食する。

〔九〕 穀盜科 (*Trogositidae*)

多くは扁平なる種類にして樹皮に棲息すれども、又コクヌスト (*Tenebrioidea mauritanicus* L.) の如く穀物類、糊粉、菓子、種子等を食するものがある。

〔一〇〕 鱈節蟲科 (*Dermestidae*)

本科の幼蟲は、俗にガイタと稱し、頭部は四節より成れる短き觸角と、頭の兩側には通例六個宛の單眼を有し、體軀は細長にして、尾端より長毛を密生するのである。

〔一〕 トビカツチブシムシ又コカツチブシムシ

*Dermestes coarctatus* Harold.

體長三分内外、體軀は暗褐色にして、頭部は殆んど前胸下に隠れ、黄色の短毛を密生し、翅鞘は暗褐色にして、黄色の短毛を生じ、腹部腹面には、左右各一個の曲玉狀の斑紋を有し、また其の中間に於て、一對の小斑點を有する。幼蟲は、干鱈、蠶繭、鱈節、毛皮、動物性標本を害する。而して春期より現出する。

〔二〕 ケアカカツチブシムシ *Dermestes tessellatocollis* Motsch.

成蟲は體長二分五厘、黒色にして、頭部には黄褐色の毛を密生し、翅鞘には白色の短毛を密生し、腹部各環節の腹面の左右には、各一個の黒色斑點ありて、其の中第一節にあるものは特に大きい。本種の幼蟲は、前種と同様のものを食害し、また前種と共に、其の加害は激甚である。

〔三〕 ハナマルカツチブシムシ *Anthrenus serophilariae* L.

成蟲は體長一分内外、扁平にして前種より幅廣く、黒褐色を呈し、前胸背と翅鞘には、横に三條の白毛を生ずる部がある。本種は繭、其他の動物性標本を害し、明治四十年京都蠶業講習所技師、荒木武雄氏の標本繭にて發見し、其後農學士明石弘氏も、東京蠶業講習所にて、伊國及び佛國産の繭より採集せられたといふ。因つて蠶繭の輸入に伴ふて、歐洲より傳搬せられたるものにはあらざるかといふ説がある。成蟲は野外花上に

て捕獲するを得るのである。

〔四〕 ヒメマルカツテブシムシ *Anthrenus varius* F.

幼蟲は動物性の標本を害すれども、成蟲は繖形科の花蜜を吸収するのである。

〔一〕 鋏形蟲科 (*Platyceridae*)

大顎はよく發育し、殊に雄にありては鋏形を呈する。前肢の脛節には、多くの刺を有すれども、後肢の脛節には刺はない。跗節は細く、爪間には小爪を具へて居る。常に朽木に棲息すれども、また檜櫟等に来りて、樹液を吸収するのである。



シムタガワク 圖七十六第  
(*Macrodorus rectus* Mots.)

〔一〕 ノコギリクワガタ  
*Cladagnathus inclinatus* Mots.

雄は大きく、體長一寸四五分あれども、雌は小さく、九分内外である。頭胸部は黒く、少しく赤色を帯び、翅鞘

は赤褐色である。雄の大顎は基部に近き部にて、下方に屈曲し、中央には大なる一刺を具へ、其の後方に一個と、前方には數個の小刺を具へて居る。然し雌にありては、大顎は發育して居ない。

〔二〕 ヒラタクワガタ *Eurytrachelus platymelus* Saund.

體長一寸乃至一寸六七分、體は黒色にして、光澤を帯び、且つ扁平にして、前胸は甚だ大きく、幅は八分餘もある。

〔三〕 ヒメクワガタ *Macrodorus montivagus* Lew.

體長六七分、黒色にして、大顎は頭より少しく長く、中央には大なる一齒を有する。

〔四〕 ミヤマクワガタ *Platycerus maculifemoratus* Mots.

雄の胸部は左右に張出し、且つ高く隆起して居る。

〔一〕 金龜子科 (*Scarabaeidae*)

觸角は短く、七乃至十一節より成り、基部の環節は大きく、末端の三乃至七節は鰓葉状をなし、各葉片はよく動かすことが出来る。多くの場合に於て、前肢は地を掘起するに適し、跗節は五節より成り、末端には二鋭爪を具へ、爪間には小爪を缺く。この類には黄昏より頻りに空中を飛翔し、また燈火に来るものがある。

〔一〕 チャイロコガ子 *Adoretus umbrosus* F.

150

var. *tenuimaculatus* Wat.

體長三分五厘内外、全體黄色を帯び、各翅端には灰色の二小點を有する。

〔二〕 オホスヂコガ子又スギコガ子 *Anomala costata* Hope.  
體長五分五厘、體軀は長橢圓形である。頭胸部は藍綠色にして滑らかに、翅鞘は幅廣く、腹部の末端は翅鞘外に出で、翅鞘は茶褐色にして藍綠色の光澤を帯び、各翅鞘には五條の縦隆起ありて、其の間には微小の皺紋を有する。本種は赤松、杉、落葉松等の大害蟲で、矢野理學士に據れば、大分、山口、長野縣等に於て大發生をなしたことがある。杉は枯れないやうであるが、落葉松の若木は枯れたことがある。また樅の直徑六七寸のものが枯れたことがあるを聞いたといふことである。幼蟲は九、十月頃より現出し、杉苗の根部を咀嚼するのである。

〔三〕 サクラコガ子 *Anomala geniculata* Mots.

體長五分内外、翅鞘は淡褐色に、青藍色を帯びて金屬光澤を有し、頭胸部と腹端の背面は、多く青藍色を呈する。櫻に大害をなすのである。

〔四〕 ヒメコガ子 *Anomala rufocuprea* Mots.

體長四分五六厘、體軀は橢圓形である。青藍色にして、多少暗褐色を有するものと、黒藍色のものがある。大豆、サ、ゲ、スモモ、ウメ、リンゴ、カキ、キク、クリ、ブドウ、イタドリ等を害し、六月下旬盛んにノイバラの葉に集り、之を食害するを見る。

〔五〕 ハンノキコガ子 *Anomala puncticollis* Har.

體長六分許、頭胸部は深綠色にして、翅鞘は色淡くして赤味を帯び、粗き隆條を有する。

〔六〕 マグソコガ子 *Aphodius solskyi*, Har.

體長二分乃至二分三厘、圓筒形にして、全體黒色なると、黄色に黒紋を有することがある。馬糞に集まる。

〔七〕 ビロドコガ子 *Aserica orientalis* Mots.

體長二分五厘内外、體軀は略ぼ圓形にして天鵞絨に似たる色をなし、リンゴ、クハ、亞麻等を害し、また初夏、ノイバラの葉に多く集るを見る。

〔八〕 シロホシオホハナムグリ *Cetonia brevitarsis* Lew.

體長八分内外、體軀は黒紫色にして光澤あり、前胸背には十二三の白斑を散在し、翅鞘には各七八個の白斑を有する。

〔九〕 ドウガ子ブンブン *Euchlora cuprea* Hope.  
褐色の大形種にして葡萄の葉を食する。

〔一〇〕 センチコガ子又コウカコガ子

*Geotrupes laevistriatus* Mots.

體長六七分、體軀は橢圓形をなし紫黒色である。

〔一一〕 クロハナムグリ *Glycyphana fulvistriatus* Mots.

體長四分五厘、體軀は黒くして天鵞絨様の光澤あり、前胸の兩側には黄條を有し、翅鞘の中央には、稍大なる一黄紋ある外に、微小なる黄點を散布して居る。

〔一二〕 コアヲハナムグリ又ハナムグリモドキ

*Glycyphana jucunda* Fald.

體長四分内外、深綠色にして、各翅鞘には各數個の黄斑を有するのである。

〔一三〕 ハナムグリ *Glycyphana pilifera* Mots.

體長五分五厘、腹部には淡黄色の短毛を生するのである。

〔一四〕 オホコフキコガ子 *Hoplosternus japonicus* Harold.

體長一寸内外、翅鞘は赤褐色にして粉狀に見ゆる灰色毛を密生する。本種は杉を害すると聞けど、余が埼玉縣川越にて實驗せる所では、そのオニグルミの葉に甚しき傷害を與へたのを見たのである。

〔一五〕 アシナガコガ子 *Hoplia communis* Wat.

體長は二分有餘、體軀は暗灰綠色にして、翅鞘は稍褐色を帯び、後肢は甚だ長く、跗節端には長さ一爪を有する。川越附近にては、六月頃ノイバラの花にて捕ふことが出来る。余は某年四月二十日ノイバラ葉上にて本種の交尾せるものを見たるに、雌は雄よりも大きく、且つ體軀の腹面も稍綠色が勝り、光澤も雄よりも強い。また頭部と前胸部の背面の綠色も共に濃かつたのである。

〔一六〕 クロコガ子 *Lachnosterna inlegans* Lew.

體長六分乃至六分五厘、全體は黒褐色にして、翅鞘には粗く細條を有する。七月頃多く現出し、黄昏より出で、桑葉を食するのである。

〔一七〕 コガ子ムシ *Mimeia lucidula* Hope.

體長五分乃至七分、全體青綠色にして、光澤を有する。本種は柿、葡萄の葉を食し、またよく薔薇の花に飛來する。

〔一八〕 ヒゲコガ子 *Polyphylla laticollis* Lew.  
 體長一寸一二分、體軀は茶褐色にして、翅鞘には灰黄斑を有し、雄の觸角は鰓葉狀にして大形である。

〔一九〕 マメコガ子 *Popilia japonica* New.

體長四分内外、頭は小さく、前胸背は稍球形に膨起し、頭と共に點刻多く、體は暗綠色にして、翅鞘の兩側には大なる橢圓形の黄褐紋を有し、尾端は翅鞘外に出で、其上に二個灰色の毛塊を有する。葡萄及び荳科植物を害する外に、また盛んにグミの葉及びクサギの葉なども食するのである。

〔二〇〕 カナブン *Rhomborrhina japonica* Hope.

青銅色の大型種にして、好んで殼斗科の樹液に集る。

〔二一〕 クロカナブン *Rhomborrhina polita* Wat.

前種に似れども黒色にして、好んで殼斗科の植物の樹液に集る。

〔二二〕 ヒラタハナムグリ *Valgus angusticollis* Wat.

體長二分内外、體軀は黒色にして扁平で、翅端に灰色點を有する。春季シロツメクサなどの花に多く集る。

〔二三〕 カブトムシ又サイカチムシ

*Xylotrupes dichotomus* L.

體軀は肥大し、雄は頭部に兜狀の角と、胸背に稍短き一本の角を有すれども、雌は雄よりも小さく、頭胸部には僅に三個の小突起を有するのみである。成蟲はヤナギ、サイカチ、クヌギ等の樹液に集る。幼蟲は濕りたる堆肥料中、及び朽腐せる栗の材中などに棲息し、腐敗有機物を食するのである。

〔二四〕 セマダラコガ子又バラコガ子

*Anomala orientalis* Waterh.

體長三分乃至三分五厘許、頭胸部は暗綠色である。翅鞘の大部分は漆黒色にして、後部には翅鞘毎に灰白の斑點五個許あり、而して胸部に接する處には、黒斑ありてその周圍は灰色である。本種は薔薇を害すれども、亦柑橘の花の内心にも蝕入するといふことである。

〔二五〕 クロヒラタコガ子 *Gymnopleurus sinuatus* F.

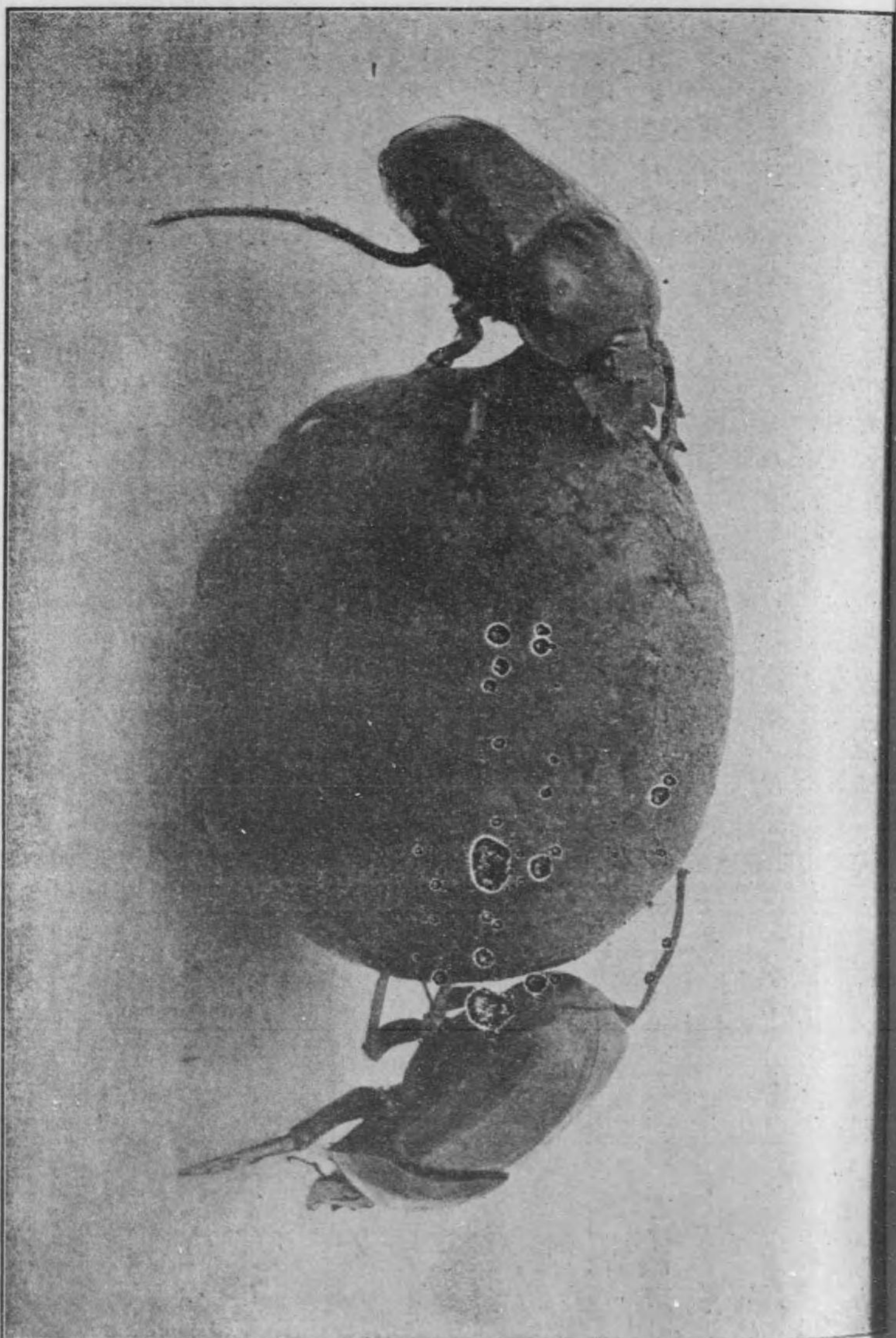
全體は黒色にして、雄は體長一寸二三分で、胸の前方の幅は七分許もあつて、頭部の前端と前肢の脛節にあたる所の外方には、鋸齒狀突起ありて、これで土を掘るのであ

る。朝鮮では到る處に澤山居つて、牛糞のある處には必らず其一二頭を認めざるはな  
い位で、牛糞を丸めて、往々小梨子大の球を造るといふことである。

【二六】 スカラブ (Scarab) *Ateuchus sacer* L.

クロヒラタコガネに似た習性を持つて居つて、同じく金龜子の一種である。スカラ  
ブといふ蟲は、今から三千幾百年の昔から、埃及人が神聖なる者として崇拜したもの  
である。埃及人の衣服の模様や、日常の器具や、繪畫や、護身符にも、この甲蟲を用いたも  
のである。又墓紀念碑、寶石や種々の石にも彫み刻まれて居る。屢々死人と共に埋葬せ  
られて、惡魔を追ひ拂ふと信じられて居つた。時にはスカラブ丈けをば、棺の中に收め  
て置かれたこともある。

次に面白いことには、埃及人はスカラブをば、種々の寓意畫として用いたものであ  
る。即ち此の甲蟲が日出より日没に至るまで、せつせと糞塊を回轉する様を見て、之れ  
をば「地球」に擬したのである。またスカラブの頭より出づる角狀の突起は、恰かも太陽  
の光線の射出することに似て居るし、またスカラブが前方に頭を向けつゝ、脚を以て  
後方に球をば回轉する有様から、「太陽」の義に取つたものである。此の外、埃及人はスカ  
ラブは二十八日間、地中に糞塊を置いて二十九日目に地上に出現するものと考へて、



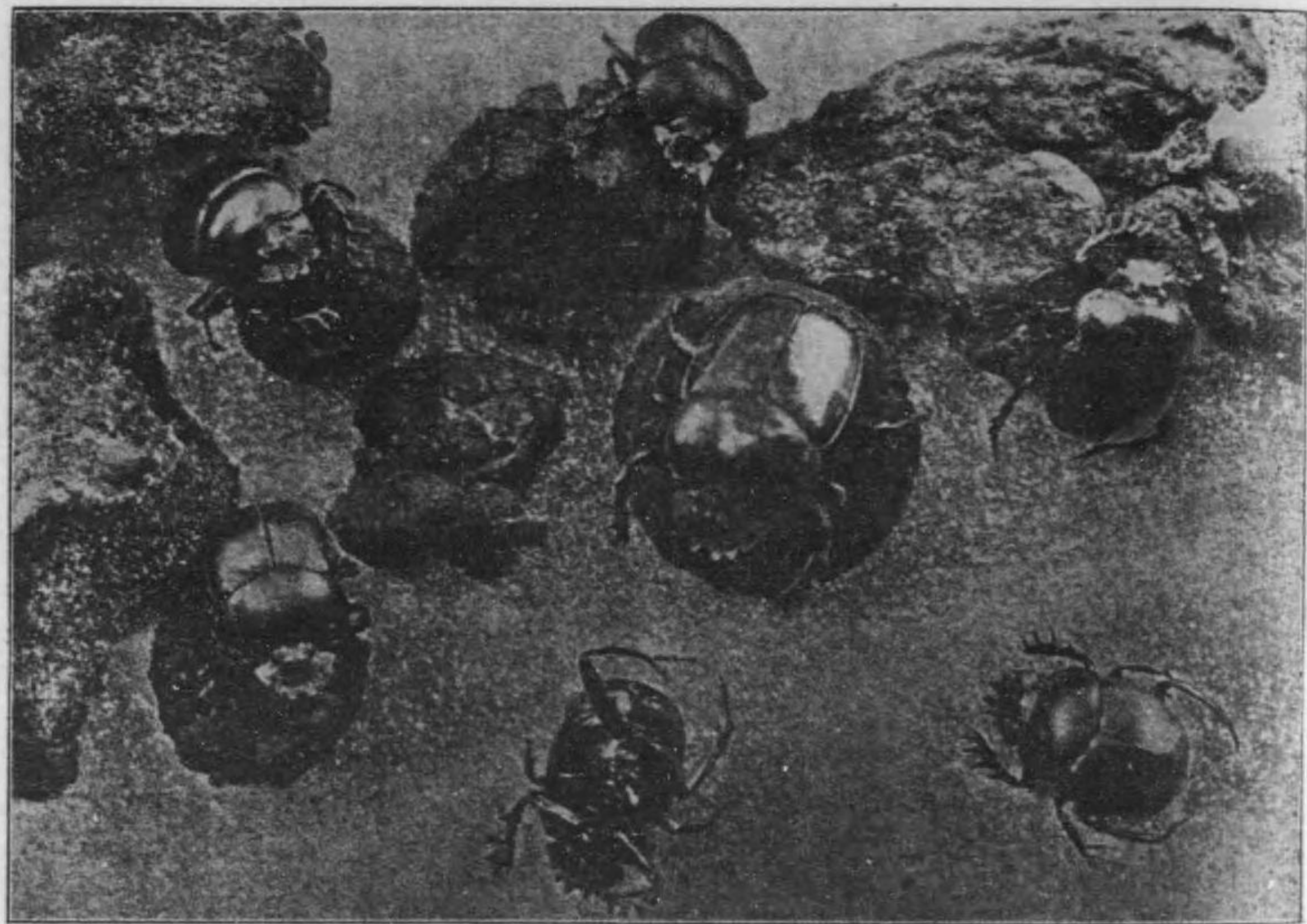
はるかに方右の圖で蟲るすじんせ搬運に集今てり道を塊糞はるかに方左の圖) プラカスるす搬運を塊糞 圖八十六第  
(after P. H. Fahe) のもるあまつみ武じんへ糞を向方の塊糞め爲がんせ埃糞を之  
内外普通動物誌 一四七

二十八日毎に一箇月を分けて、スカラブをば「太陰」に擬したものである。またこの蟲はニール河の洪水が静まつた後初めて澤山に現出する。して埃及人は、この蟲には雌がないと想像したものであるから、全く糞塊から自然に湧き出でたものに外かならないものだと、思ひ込んでしまつた。そこでスカラブをば「造化」又は「再生の神」の徽章として選んだのである。又此の甲蟲は多數の仔を産むといふ意からして「多産」を代表すべく想像せられたのである。今でも子供を多く産みたいと念じて居る埃及の婦人は、これらの甲蟲を食するといふことである。

スカラブの産地と其の形貌

スカラブは埃及の外地中海沿岸なるパリパリ地方、佛蘭西の一部、歐洲の南部に産する。體長は七八分位の黒い光澤がある甲蟲であつて、肢は長いのである。甲冑状の翅鞘の下には、廣大な下翅があつて、迅速に飛び得るのである。頭には突起があつて、それで地を掘ることをする。後肢は長くて、圓く曲り、糞塊を握ることが出来る。前肢の地面に附ける部分——跗節——は小さくして無い位である。これは動物が生活上に使用しない爲めに縮小したものであらう。

彼の天牛の類はよく「ギイ／＼」と鳴くものであるが、嘗つてノコギリカミキリを捕



第六十九圖 糞塊を集めつゝあるスカラブ (after P. H. Fabre)

へて、その胸部をば手にて握つて見た。すると腹部の兩側をば、後肢の兩側の裏面に摩擦させて頻りに「ギイ／＼……」と音を出したのを見た。スカラブの雄も天牛のなすやうにやはり、體の硬い部分を摩擦合はせて音を出すといふことである。これは糞塊を運びつゝある雌をば、鼓舞する爲めだと解釋した人がある。また雌をば、他の方へ奪ひ取つたならば、同様に雄は頻りに音を出して、其の悲痛の意を洩すかの如き有様であるといふことである。

スカラブが糞球を運ぶ方法

スカラブは駱駝、牛、其他の家畜などの糞を碎き、之を適當なる地點に運搬して、



地中に埋めて食料とするのである。これらの糞球には蟲の卵が産み附けられるといふ説があつた。然るに佛人ジェー、エイチ、フアー、ハ氏の研究に因つて、この説が眞實でないことが判断したのである。氏の説は次の通りである。

スカラブは六月と七月との二箇月間、食料に供する糞塊をば集めて、頻りに回転する。然し夏季炎熱の候には、涼しい地下に隠れて仕舞つて、翌春になつて再び出現するのである。彼れの嗅覺は鋭敏であるから、容易に糞塊をば發見し、それに飛び行き、前肢で球狀に集めるのである。次に糞をば體の下部を通じて、長い圓い回転する後肢の處に送るのである。かくして糞塊は球狀となるが、随分大きな糞球が出来ることがあつて、時としては林檎位のものがある。然かもこれが極く短時間に集められたものと聞いては、この蟲の勤勉には驚かざるを得ないのである。さて糞球が出来た後に、スカラブは後肢で、球をば後方に回転しつゝ、進行する。回転しつゝある間、球の位置は種々に變化するから、爲めに球のあらゆる部分が、地面と接觸する。従つて、球は硬くなり且つ圓くなつて回転するのである。スカラブが斯く糞塊を丸るめて運搬する目的は、前のクロヒラタコガネの如くに、適當なる地に之を埋めて、ゆつくり食餌に供する爲めである。

(一三) 吉丁蟲科 (Buprestidae)

體軀は長く、尾端は細くして、多くは金屬光澤を帯びたる美麗なる種類にして、前胸部には二個の突起を有し、中胸部の凹溝と嵌入する。成蟲は樹液及び花汁などを吸収するのである。

(一) 吉丁蟲 *Chrysochroa elegans*, Thunb.

體長一寸餘、翅鞘は所謂タママムシ色をなし、複眼は茶褐色にして、前胸には二條翅鞘毎に各一條の暗赤褐色の縦帶を有する。本種は松を害するのである。

(二) ウバタマムシ

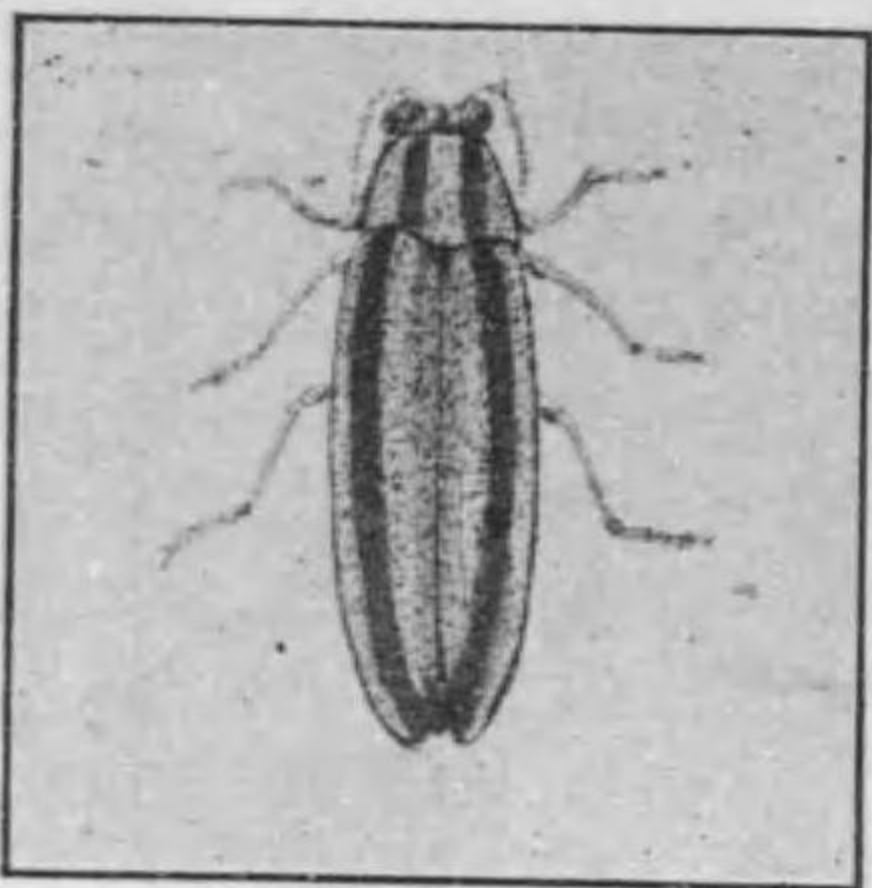
*Chalcophora japonica* Gory.

體長九分乃至一寸二分、背面には黒色の隆條を有する。而して松の害蟲である。

(三) サビタマムシ *Buprestis lecontei* Saund.

前種より小さく、翅鞘端は尖り、且つ金光を放つて居る。

(四) マメタマムシ *Tachys inconspicua* Saund.



シムマタ 圖十七第

體軀は短小にして黒く、翅端の基部は最も廣く、翅鞘には灰色の毛條を有する。

〔五〕 ヒメタマムシ *Agrilis cyaneoniger*, Saund.

體長は四分餘、幅は一分許の細長種にして、頭部及び前胸は銅色に少しく黒色を帯ぶれども、他は全體黒くして翅鞘の先端は稍尖つて居る。

〔一四〕 叩頭蟲科 (Elateridae)

體軀は伸長し、前胸節には一個の棘狀突起を有し、之にて中胸節の凹處に嵌入するを以て、背を下にして横はる時は、跳躍するに適應するのである。腹節と跗節とは五節より成り、後者は自由に動く。本科の幼蟲はコメツキムシと云ひ、皆植物に有害である。

〔一〕 カバイロコメツキ *Agriotes sericeus*, Cand.

幼蟲は麥類、玉蜀黍、大小豆、麻、茄子、蔬菜類の莖の髓心に侵入して害をする。

〔二〕 ウバタマムシモドキ又ホシコメツキ

*Alaus ferus* Cand.

體長七分乃至一寸、全體灰色にして黒斑を有する。前胸は大きく、後縁兩側は刺狀に突出し、翅鞘の先端は圓いのである。

〔三〕 サビキコリ *Laeon bimodulus* Mots.

體長四分五厘許、前胸は大きく、翅鞘は穹狀をなし、九條の點刻ある縦溝あり、其間に小點刻を密布する。翅尖は細まり、體軀は赤錆色である。

〔四〕 コメツキムシ *Melanotus legatus* Cand.

體長六分許、光澤ある黒色にして、灰色の短毛を密生し、翅鞘の尖端は甚しく細まる。

〔五〕 ヒゲコメツキ *Pectocera fortunei* Cand.

體長八分許、體軀は赤褐色である。雄の觸角は櫛齒狀で、雌のは鋸齒狀である。

〔六〕 ビイロフナルス *Pyrophorus*

南米の西班牙人は、ククヨス (*Cucuyos*) といふ胸部の基部には、二個の小形にして、平滑光澤ある斑點ありて、夜間發光し、また腹部の環節にも、發光器ありて光るのである。

〔一五〕 螢科 (Cantharidae)

本科に屬するもの、幼蟲及び成蟲は、食肉種にして有益蟲である。而して螢の發光作用は、臀部に存在する一種の物質が、呼吸作用の爲めに酸化する結果、起るものにして、其の物質の化學的性質及び成分は、尙未詳である。

〔一〕 平家螢又姫螢又幽靈螢又子子螢又糠螢

*Luciola parvula* Kies.

形状小さく、觸ると直ぐ光を消して、二三十分間また光ることはない。而して光は黄色である。而して本種は塵芥、泥土等のある不潔なる川に棲んで居る。而して源氏螢が棲む同一の流水では、廣い緩かなる淀みのある所に居る。尙詳細は理學博士渡瀬庄三郎氏著「螢の話」を参照せらるべし。

〔二〕 源氏螢又大螢又一寸螢又山吹螢又虛無僧螢又宇治螢又石山螢又螢 *Luciola vitricollis* Kies.

前種よりも大きく、體長四分二厘乃至五分五厘、全體黒色にして、前胸のみ樺色を呈し、中央には黒點を有し、またこの黒點を貫通せる黒色の縦條がある。捕へたるとき一寸觸はりても光を發して居る。光は青色である。常に清き砂等のある水流の早い川の附近に棲む。若し平家螢が棲む同一の流れの附近にあるときは、川幅の狭い水勢の強い所に棲んで居る。

〔三〕 秋螢 *Pyrocoelia atripennis* Lew.

對馬、石垣島、臺灣、朝鮮、及び支那等に産し、雄は翅を有すれども、雌は蛆形にして翅を缺き、成蟲は九月より十月にかけて飛翔する。而して幼蟲は盛んに蝸牛を食するのである。

〔四〕 ジョウカイボン又キクスヒダマシ

*Telephorus melanopus* Har.

成蟲は春夏の候に現出し、體は柔軟にして、體長は六分内外である。前胸は稍方形をなし、光澤ある黒色にして、其兩側は鈍黄色を呈し、短細毛を生ずる。中後兩胸節は癒着して方形をなし、背上是光澤ある黒色にして、翅鞘は黄赤褐色であり、且つ短き細毛を生ずる。本種は好んで蚜蟲を食する。

〔五〕 セボン ジョウカイ *Cantharis vitellina* Kies.

雄は頭頂に一黒紋を有し、前胸の中央に一縦線あり。雌は雄よりも大きく肥大し、且つ腹部表面は黄色が濃いのである。

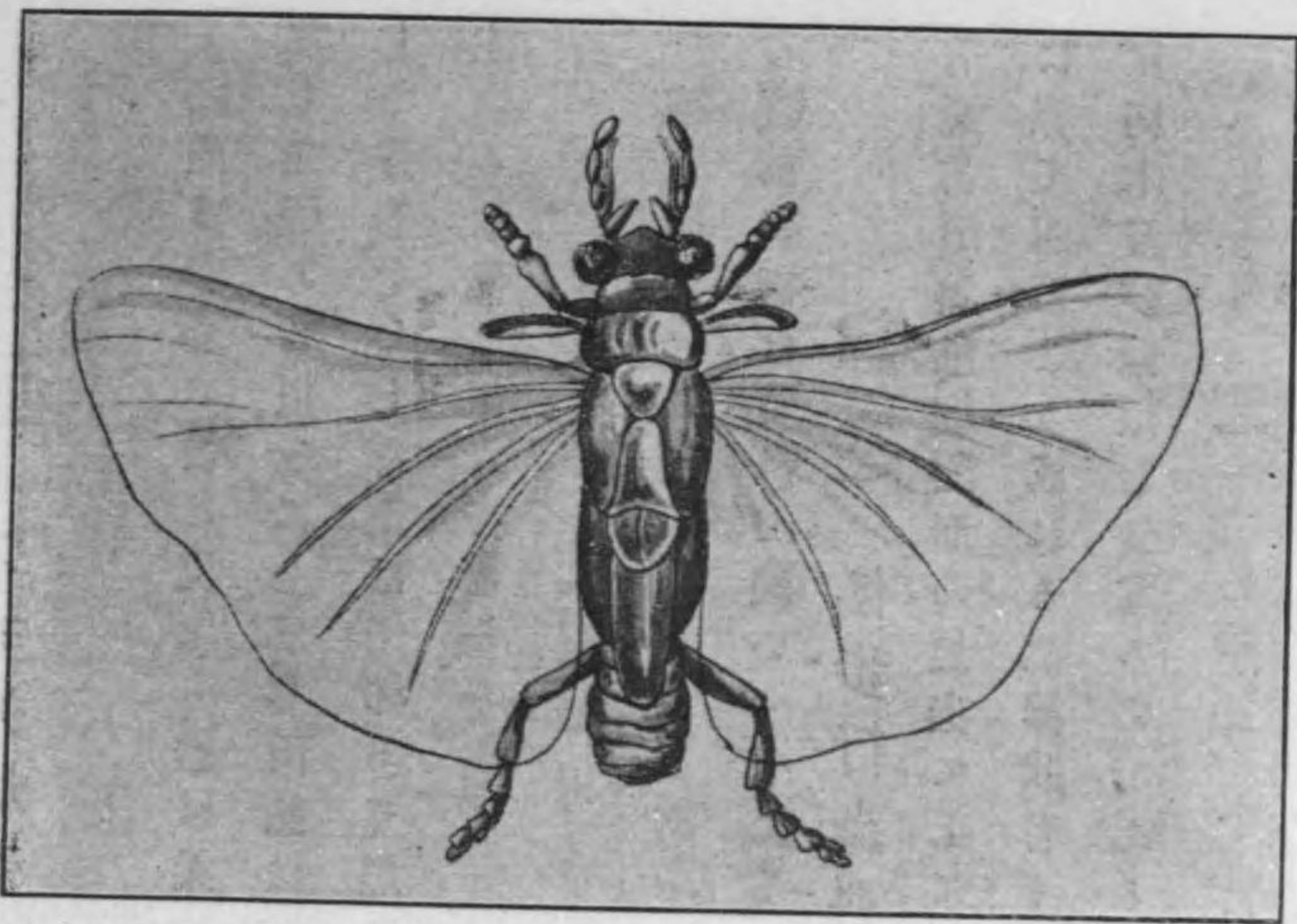
〔一六〕 偽步行蟲科 (*Tenebrionidae*)

通常暗黒色、橢圓形の昆蟲にして、外觀はゴミムシに似て居る。幼蟲はハリガネムシに似て、四節より成れる棍棒狀若くは絲狀の觸角と、五節より成れる肢とを有し、多くは朽木及び草類を食するのである。

〔一〕 ヒゲブトゴミムシダマシ又ゴミムシダマシ  
*Lyrops sinensis* Mars.

體長三分二厘、體軀は黒褐色にして細長く、稍扁平にして觸角は赤褐色、連環状をな

一五六



(after Packard)雄の(Styllops childreni Westwood)種一科蟲翅然 圖一十七第

し、先端は膨大するのである。

(一) キマハリ *Plesiophthalmus*

*nigrocyaneus* Mots.

體長六分乃至六分五厘、體形長橢圓形をなし、翅鞘は帶青赤銅色にして、末端は細り、肢は最も長く、且つ黒色である。常に林地のクヌギ、コナラ等の樹幹上に棲み、之に近くときは、直ちに樹幹を廻り歩く性がある。

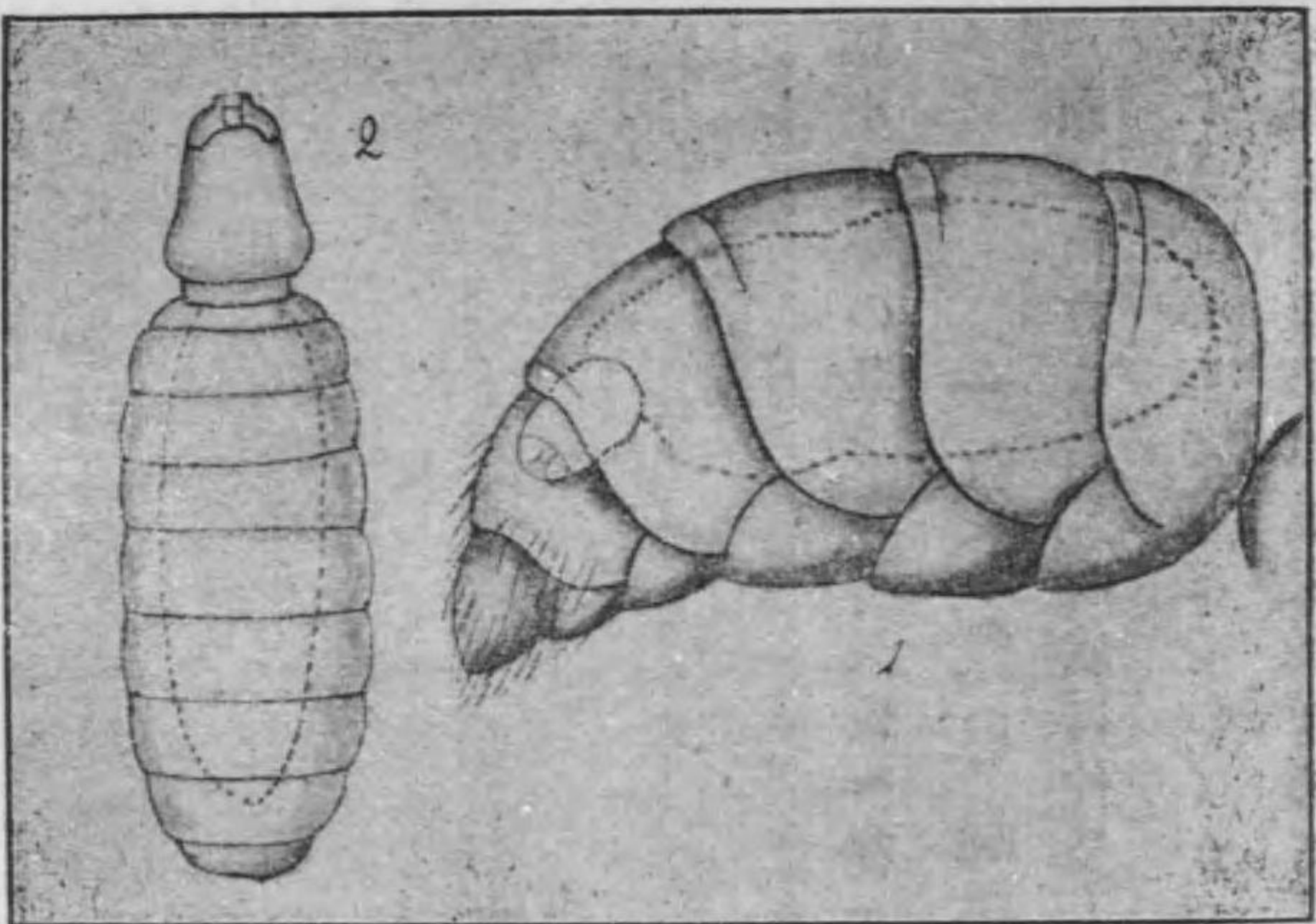
(三) ゴミムシ *Damas*

*Tenebrio ventralis* Mars.

體長五分弱、體軀は長形黒褐色にして、翅鞘の縦溝は深いのである。

(一七) 撚翅蟲科 (Stylopidae)

雄は退化せる前翅と、後翅とを有すれども、



蜂蜜るたけ受を生寄のこさ(2)雌、のものな種同と圖前 圖二十七第 (after Packard) す示を(1)部腹の

雌は退化して蛆状を呈する。而してヤマバチ、アシナガバチ等に寄生するのである。

(二八) 地膽科 (Meloidea)

本科の幼蟲は多く蜂に寄生するのである。

(一) ツチハンメウ又アリノ

チャヂ *Meloe auriculatus* Mots.

體長五分乃至六七分、前翅は不完全にして、また後翅を欠き、體は深藍色である。ソラマメ等の葉を食害するのである。

(二) マルクビツチハンメウ

*Meloe corvinus* Mars.

頭部と翅端とは圓い。

(三) コツチハンメウ *Meloe proscarabaeus*, L.

ツチハンメウよりも小さく、路傍に普通である。

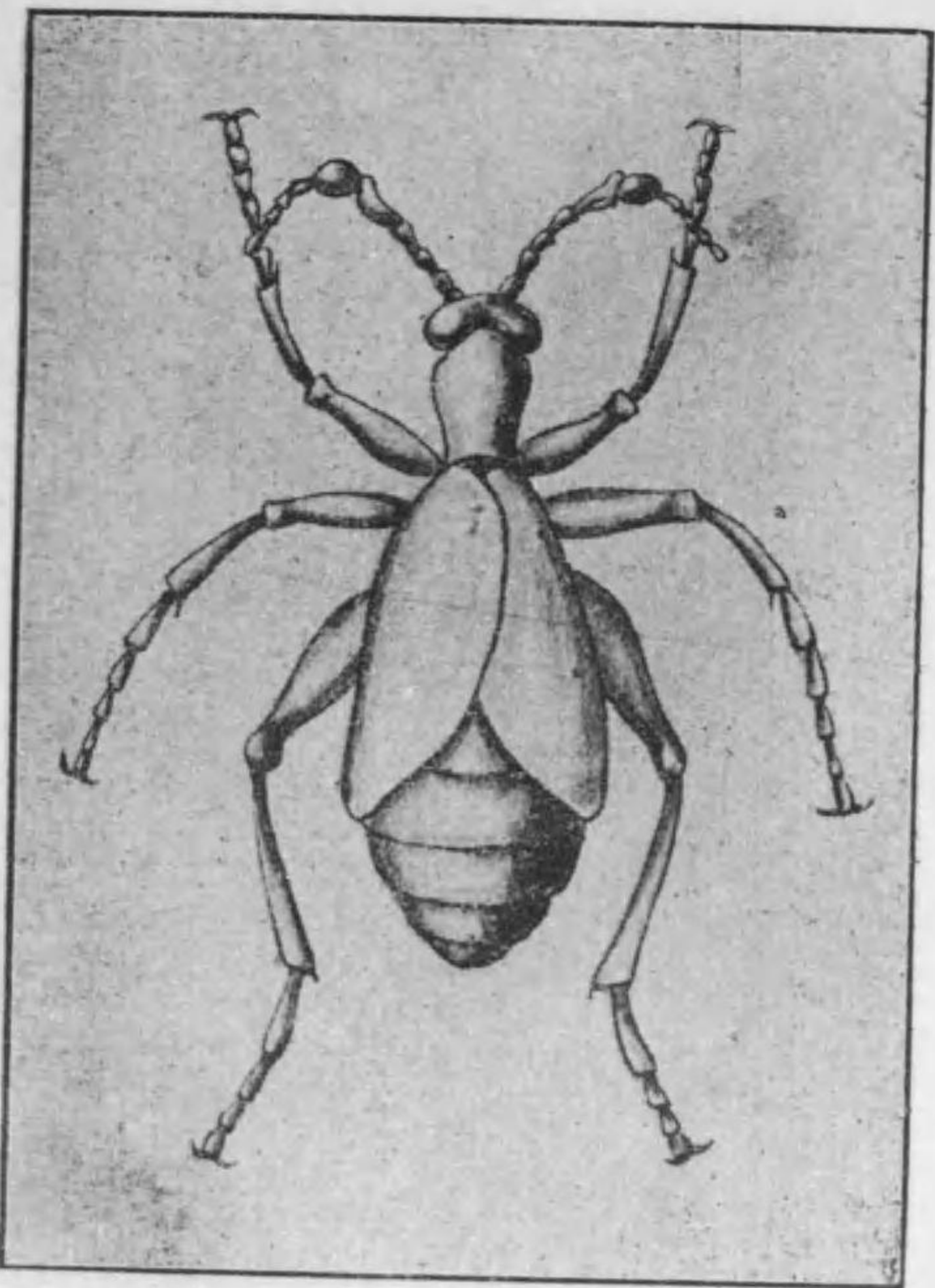
内外普通動物誌

一五七

〔四〕 マメハン

メウ *Epicauta*  
*Gorbani* Mars.

體長六七分、體軀は長圓筒状をなし、頭頂は赤褐にして、Y字状の黒斑あり。前胸は頭より狭く、前方は頸状をなし、翅鞘の周縁には短黄毛を密生する。成蟲は七八月頃現出し、多數群をなして進行し、大



種一屬ウメンハチツ 圖三十七第  
(*Meloe angusticollis* Say) (after Packard)

豆、小豆等の葉を食し、又他へ移りて食害し、一箇所へ留ることはないのである。

〔一九〕 象鼻蟲科 (*Curculionidae*)

頭は前方に於て吻状に伸長し、觸角は膝状にして、口吻の中央に位する。幼蟲は圓柱状にして、單眼と肢とを缺くか、或は退縮せる肢を有するものがある。而して本科昆蟲の殆んど全部は食葉性である。

〔一〕 オトシブミ *Attelabus jekeli* Roel.

體長三分許、全體黒く翅鞘のみ帯赤褐色である。多くクヌギ、ナラ等の葉を食害する。

〔二〕 ヒメクロオトシブミ *Attelabus rufiventris* Roel.

體は小さく、黒色にして肢は黄褐色である。本種は薔薇及びハンノキを害する。

〔三〕 シギゾウムシ *Balanus dentipes* Roel.

全體黒褐色なれども、黄灰色の短毛ありて、翅鞘には茶褐色の斑紋がある。成蟲は栗カシ、クヌギ等の果實に産卵し、幼蟲は是等の果實を害するのである。

〔四〕 ヒメゾウムシ *Baris deplanata* Roel.

體長一分四五厘、全體黒色にして、前胸は大きく無數の小點刻を有する。年一回の發生にして、四五月頃より出で、成蟲は桑芽を害し、幼蟲は桑の枯れたる木質部を食する。

〔五〕 コクゾウムシ *Calandra elongata* Roel.

體長一分内外、赤褐色を帯び、胸部大きく前胸背には點刻を密布し、後種よりは稍大きく、圓形にして、翅鞘には點刻を有する縦溝列がある。年二回發生し、穀粒に蠶入する。

〔六〕 ヨツモンコクゾウ *Calandra oryzae* L.

體長一分一二厘全體黒褐色にして翅鞘上には四個の赤褐紋を有する。米穀の大害蟲である。

〔七〕 アチゾウムシ *Chlorophanus grandis* Roel.

體長四分乃至四分五六厘全體灰綠色で翅鞘の前縁兩側と前胸とは黄色である。成蟲は五六月頃現出し、ノイバラの葉、柳葉を食し、またイタドリイタドリの葉に多く集まる。

〔八〕 リンゴゾウムシ *Hylobius gelberi* Bohm.

體長五分内外全體黒色にして翅鞘上には左右八條宛の陷凹點線ありて、其の一條線内には、點刻約十一二個を有する。本種は、リンゴの材質を食するのである。

〔九〕 コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus* Roel.

體長二分乃至二分二厘許體色は灰綠色に見ゆる。成蟲は、ハギ、マルハギ、大豆等の葉を食し、往々大害をなすことがある。

〔一〇〕 アイゾウムシ又クチトガリ

*Lixus impressiventris* Roel.

體長三分内外、全體黒色なれども、灰白色を呈せる紅毛を生ずるを以つて、灰黒色の觀を呈する。成蟲は五六月頃より現出し、藍の葉を食するが、幼蟲は藍の莖中に蝕入す

る。

〔一一〕 カシハゾウムシ又クヌギゾウムシ

*Myliocernus griseus* Roel.

體長一分六七厘暗褐色にして黒色の微細なる斑紋を有する。雌は雄よりも大きく、黒斑が濃い。本種は六月中旬頃より多く現出し、藤及びイタドリイタドリの葉に多く集り、また後者の葉を盛んに食するを見る。

〔一二〕 アシナガゾウムシ又ハマキゾウムシ

*Phalodes rufipennis* Roel.

體長二分七八厘許翅鞘は帯赤橙黄色にして、其他は黒色である。前肢は長く、黒色にして、前肢の腿節は殊に太い。本種はクヌギ、ナラ等の葉を卷縮するのである。

〔一三〕 シラクモゾウムシ *Piazomis Lewisi* Roel.

體長二分七厘許、腹部は細く、暗灰色を帯び、翅鞘の下方には灰白色の雲狀紋がある。

〔一四〕 フサスグリゾウムシ

*Pseudoecorhinus bifasciata* Roel.

前種に似て白斑を有れども、彼れよりも小形にして、且つ背は高いのである。

一六二

〔一五〕 チヨツキリムシ *Rhynchites leros* Roel.

體長三分許、體軀は光澤ある赤紫色にして、口吻長く、其の中央には棍棒狀の觸角を有する。六月頃現出し、桃梨、苹果、梅、枇杷等の果實に産卵するのである。

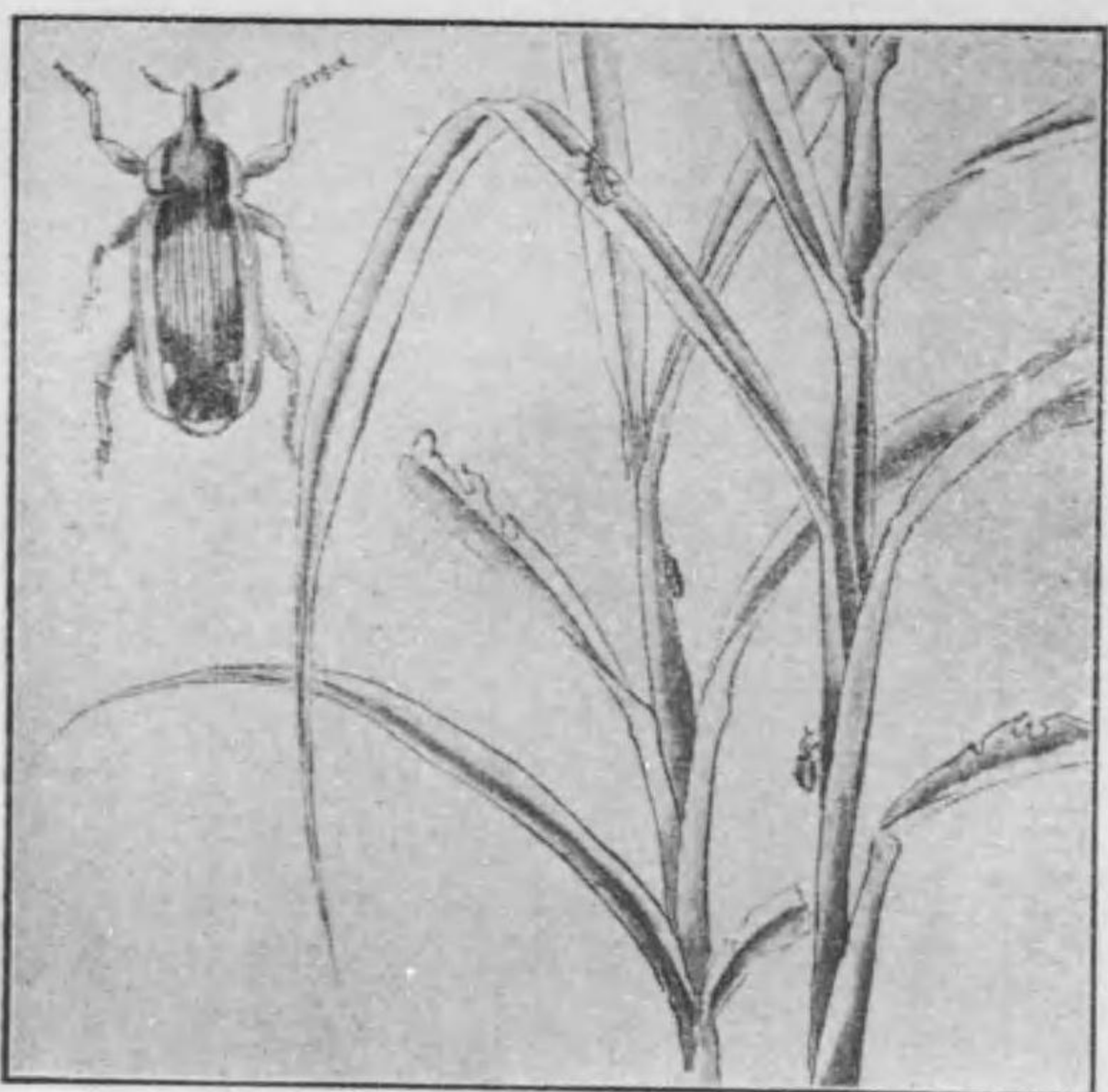
〔一六〕 オホゾウムシ *Sipalus gigus* L.

體長七分内外にして、黒褐色である。本種は松樹を害するのである。

〔一七〕 ムシクサゾウムシ

明治四十三年五月二十六日に、埼玉縣入間郡三芳野村字小沼より採集せる本種の幼蟲を含める蟲癭を飼育したるに、同年六月七日、初めて十數疋の成蟲の羽化せるを見た。超へて同月九日及び十日には、最も盛んに羽化したのである。本種に就いては名和梅吉氏は、昆蟲世界第三十五號に於て「ムシクサ」の蟲癭に就ての論説を掲げられて居る。其の詳細は該誌に譲ることとし、今その中の幾分を左に引用する。

其學名は未だ詳らかならざれども *Anthrenus* 屬のものなるが如し。體の大き僅かに八九厘許全體暗褐色を呈し、細短毛を生ずるに依り、異色の觀あり。而して頭部前胸の背上及び翅鞘の内縁部、黒色を呈するを以て、普通頭部より腹端に至る黒帯を、背上に存するが如く見ゆ。且又翅鞘上にも、細短毛を有すること、體部に同じ、下翅は全く白色半透明なり。觸角は十一環節



シムウゾネイ 圖四十七第

より成る。此種冬季は松、梨其他粗糙なる皮を有する樹木幹の皮裂間に潜伏して越冬す。四五月頃、暖氣を得て潜伏所を出で、ムシクサの生ずる場所を尋ね行き、該草の開花終るや、子實中に口吻にて穴を穿ち産卵す。卵子は橢圓形にして、淡黄白色を呈す。孵化すれば蛆狀をなし、咀嚙口を有し、子實を食して成長す。此時子實に刺戟を興るに依り、該部は變形して漸次圓球形を呈するに至る。始めの内は綠色にして、隨分堅きも、幼蟲の内部を食するを以て空虚となり、恰も護謨球の如き有様となる。而して漸次着色し來りて、鈍き赤色に變せり。六月上旬より七月上旬頃孵化する。

〔一八〕 イ子ゾウムシ

*Echinonemus bipunctatus* Roel.

體長二分内外、黒色にして、體には灰黄の鱗毛を有し、翅鞘は前胸と略同幅にして、兩側には鱗毛より成れる灰黄の太き縦線を有する。本種は稻の葉を害する外に、莎草類も食する。

(110) 小蠹蟲科 (*Scolytidae*)

多くは微小なる圓筒狀の昆蟲にして、頭は常に前胸節内に隱伏する。肢は四跗節を有し、其の第三節は二片に分かる。幼蟲は木材中に侵入して害をなすのである。

〔一〕 マツノコヒメシンクヒ又マツノコシンクヒ又

叉孔穿孔蟲 *Blastophagus minor* Hartig.

本種については理學士矢野宗幹氏は時事新報(大正元年十一月二十八日)に「老樹枯死と昆蟲なる論說中に述べられて曰く。

▲穿孔蟲の類 生木に劇しい害を興へるものは、今では只マツノコシンクヒ、一名又孔穿孔蟲が知れて居るばかりだが、他にも居る事と思ふ。本種は歐洲から日本まで頒布して居る松を害する。日本では一、二回標本が得られたばかりで、珍らしいものゝやうに思つて居ると、一面では其被害の劇しい事實が起つて來た。現に薩摩國の西海岸一帯の地は、有名な吹上の濱であつて、烈風は砂を卷いて襲來り、水田を埋めるのを、僅かに松の林で支へて居る。吹上の松は眞砂に埋れて老木ながらの「小松原哉」と云ふのは、今も昔に變らない。此松林に數年來マツノコシンクヒが發生して、處々一團をなして廣きは二町歩近くのもの、全部枯死する慘狀を呈した。前述のやうな土地の事で、白砂の間に出來た松であるから、其生長は非常に遅いし、若し無くなれば砂防の方法に困難を感じるところであるから、驅除豫防にも勉めて居るが、只被害木から害蟲の飛び出さない間に切倒して害蟲を燒棄し、他に移るを防ぐより他に途が無い。この爲め昨年度切つた黒松は、八九十年生のもの四千五百八十九本である。併し害蟲は

決して薩摩のみに止まらない。昨年長崎市附近にも、處々に發生して、市街の老松が多く枯死した。さうである。しかも其發生は東京附近にも起つた。それは本年三月上總一ノ宮海岸の別荘地に於て、處々に老松の枯死を發見した事である。一ノ宮の景色は大洋の荒波と、海岸の老松から出來て居るから、松が枯れては其一半を失ふことになる。佐藤林學士の話す所に依ると、根際を埋めた爲めに衰弱した木に多數蕃殖して、其が附近の健康樹を侵して來たやうに考へると、本邦に廣く頒布して居ると思はれる。本種が近年斯様に處々に大發生した理由に就ては不明であるが、兎に角適當な事情に遇ふと蕃殖する者であらうから、後來松樹に對しては注目すべき大害蟲であらうと思ふ。

▲皮下に蝕入る 此蟲は三月末頃から成蟲が飛出して、一本の木に無數群集して、皮下に蝕入り産卵するので、被害樹は十數日で枯色を帯びるに至り、斯くなつたものは、如何ともする事が出來ない。他の葉を食ふ害蟲ならば、氣の附いた時に驅除する事も出來るが、本種は、其加害が急劇であるから、氣の附いた時には、已に施すべき策はない。只枯死を待つばかりであるが、初夏には成蟲になつて出るから、其前に枯死した木を切倒して、燒棄するのは、他に害を及ぼさない良法である。云々

〔二〕 マツノヒメシンクヒ又マツノオホシンクヒ又

直孔穿孔蟲 *Blastophagus piniperda* F.

本種は前種によく類似せるが、これは病木若くは切り倒した木にのみつく。また成蟲が産卵の爲め樹皮下に造る穿孔は、前種が括弧形で横に造るに反し、本種にては一



直線に縦につくるといふ。尙詳細は、矢野理學士の「老樹枯死と昆蟲」(動物學雜誌第二)を参照せられんことを望む。

一六六

(二一) 天牛科 (Cerambycidae)

本科のもの、觸角は、普通は體長の半分よりは長い。複眼は普通は腎臟形をなし、大顎は大に發達する。肢は細長にして脛節端に刺を有し、跗節は四節にして、第三節は二片に分る。幼蟲はヂムシ状をなし、角質の頭部と有力なる大顎とを有し、觸角は短く、肢と單眼とを缺き、樹幹に穴居して植物を害するのである。

(一) ウスバカミキリ

*Aegosoma sinicum* White.

翅鞘は薄く、左右共に三條の細き隆起線ありて、全身は淡栗色である。

(二) クハカミキリ

*Apriona rugicollis* Chev.



リキミカハク 圖五十七第

體長一寸二分乃至一寸三四分、全體灰黄綠色である。幼蟲は柔幹を蠶蝕するが、又イチジク、ビハをも害する。而して幼蟲は通例三年目に成蟲となりて羽化するのである。

(三) カミキリムシ又シロスヂカミキリ

*Batocera lineolata* Chev.

全體黒褐色なれども、體の兩側と、胸背と翅鞘とには、白色の斑紋を有する。而して幼蟲は殼斗科のクリ、シヒ、カシ等の材部を蝕害し、枯死せしむることが少くないといふことである。

(四) ミドリカミキリ *Callichroma tenuatum* Har.

體長五六分、體軀は細長にして腹端細く、全體は綠色で、肢は帶黑色にして、後肢は長い。

(五) ルリヒラカミキリ又ルリカミキリ

*Chreonema Fortunei* Thon.

體長約四分内外、頭部と前胸と腹部の側面と、腹面と肢とは、橙黄色である。前肢は濃瑠璃色にして、複眼は漆黑色を呈し、これは觸角によりて、恰も四眼の如く分離せらる。幼蟲は萃樹及び梨に多く加害し、また桃、カナメ等にも加害するのである。

〔六〕 コキイロトラカミキリ又タケノトラフカミ  
キリ *Clytanthus annularis* Fab.

竹の枯れたるもの、即ち竹細工及び竹の柱等を加害するのである。

〔七〕 ホタルカミキリ *Dere thoracica* White.

體長三分餘、細長の種類にして、前胸は赤く、他は黒綠色である。幼蟲はオムノキ及びアカガシ等を食する。

〔八〕 キボシカミキリ *Hammoderus Suzukii* Mats.

體長八分内外、全體は灰黒色にして、頭胸腹及び翅鞘の全面には、黄色の斑点を有し、後頭部の中央には黄色の縦線がある。本種は京都附近にては四月頃より現出し、七八月頃最も多い。而して桑樹及びカデノキを害するのである。

〔九〕 ヤマカミキリ又ミヤマカミキリ

*Mallambyx japonicus* Bates.

體軀は細長にして、體長一寸五分内外、前胸背は圓柱状をなし、兩側には横皺を有し、翅鞘は長方形にして、灰黄綠色に見ゆる。本種は栗櫛の樹幹を害するのである。

〔一〇〕 ゴマダラカミキリ又ホシカミキリ

*Melanauster chinensis* Forst.

體長一寸許、翅鞘は光澤ある黒色にして、白毛より成れる大小の白斑を有する。幼蟲は柑橘類の根部の樹幹中に喰入する。又本種はクスノキ、柳及びイチジクをも害するのである。

〔一一〕 ホシベニカミキリ *Scotinages dipheis* Pase.

體長七八分、體軀は暗紅色にして、前胸の中央には一黒紋を有し、また翅鞘には黒點を散布する。幼蟲はタマノキ及びクスノキを害すといふ。余は本種の三重縣産の標品及び紀州南牟婁郡尾呂志村産のものを所藏する。

〔一二〕 ノコギリカミキリ *Prionus insularis* Mots.

體長一寸二分許、黒色に少しく褐色を帯び、觸角は稍鋸齒状をなし、前胸の兩側に鋸齒状の棘を有する。本種は松、杉、檜等の樹幹を害するのである。

〔一三〕 コスギカミキリ又ヒメスギカミキリ又スギ

ノアカカミキリ *Senanotus rufipennis* Mots.

體長三分乃至三分七厘許、前胸は球状にして黒く、翅鞘は赤褐色のものや、帶紫黒色のものあり、肢の腿節は膨大して居る。本種は杉の枯死に近づける大木に寄生し、又ヒ

ノキをも害するのである。

一七〇

〔一四〕 スギカミキリ *Sympiezocera japonica* Lacord.

體長四分乃至八分、全體黒褐色にして、翅鞘に四個の黄褐色の斑紋を有する。

〔一五〕 ベニカミキリ又タケノベニカミキリ

*Purpuriceus Temmickii* Guer.

體長四分乃至六分、翅鞘は紅色にして、前胸背には五黒點を有し、他は全體黒色である。成蟲及び幼蟲共に、枯れたる竹を害するのである。

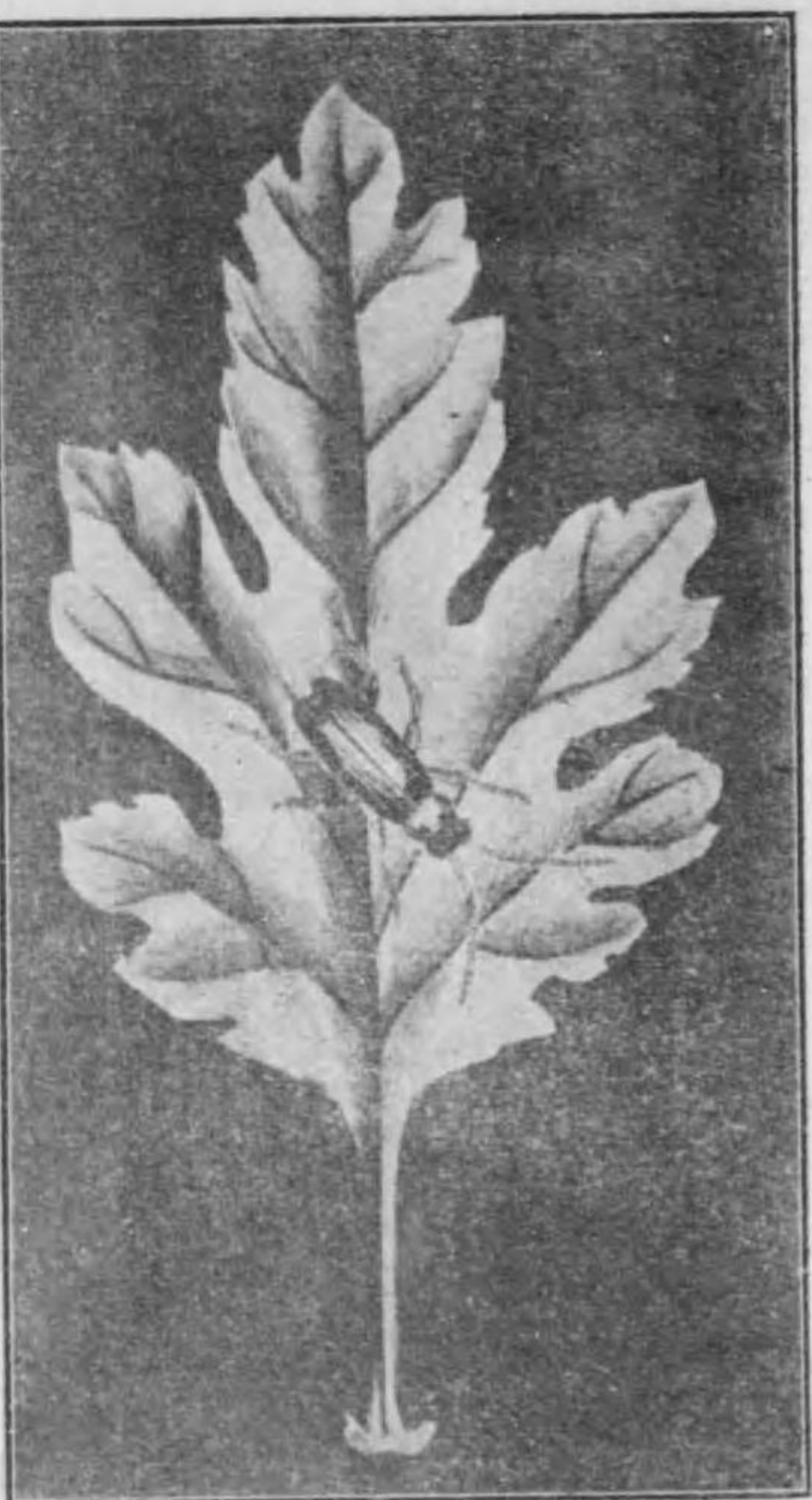
〔一六〕 キクスイ(菊虎、菊牛) *Phytaecia ventralis* Chev.

體長二分七厘乃至三分、前胸の背面中央には縦隆起を有し、其の前端に近く大なる圓形の赤褐紋を有する。年一回發生し、幼蟲は菊の莖部を食害し、また野生の菊科植物をも食するのである。

〔一七〕 クハトラムシ又トラフカミキリ又トラムシ

又ハチカミキリ *Xylotrechus chinensis* Chev.

體長六七分乃至八分四五厘許、體軀は黄褐色にして、前胸は球狀をなし、翅鞘の肩は



第七十六圖 キスヒ

張りて幅廣く、後方は狭小となり、背面には黄色の斜條と横紋とを有する。桑の害虫である。本種は蜂とよく擬態するが、またアラメアブとも何にか擬態的關係なきかとも思はれる。

金花蟲科  
(Chrysomelidae)

觸角は絲狀若くは亞棍棒狀にして、體軀に比すれば長い。肢は細く、剛毛或は刺毛を有すること殆んどなく、跗節は四節にして、第三節は膨大し、且つ二片に分れ、其の下面には細短毛を密生して居る。成蟲は大概美麗なる光澤ある色彩を有し、植物の葉を食する。幼蟲は圓筒狀をなせる短大なる體軀を有し、通例疣及び棘狀突起を具へて居る。

〔一〕 キンサルハムシ又アカガ子サルハムシ

*Aerothinium Gaschkewitichi* Mot.

體長二分二厘乃至二分八厘、全體青藍色にして、翅鞘の周圍は青藍色で、中央は赤銅

色である。而して翅鞘全面には小點刻の縦列あれども、一體に平滑にして光澤がある。本種は葡萄の害蟲である。

〔二〕 ベツコウムシ又ジンガサハムシ

*Aspidiomorpha difformis* Mots.

體軀は扁平、陣笠状をなし、藍甲色である。翅鞘には弓状をなせる褐色縦帯紋がある。幼蟲、成蟲共にヒルガホを食するのである。

〔三〕 アトボシハムシ又カラスウリハムシ

*Anlacophora angulicollis* Motsh.

體長一分六七厘、體軀は黑色を呈し、翅鞘は淡黄褐色にして、兩縁は黑色を帯び、翅端には黒紋を有する。

〔四〕 瓜<sup>ウリ</sup>守<sup>バイ</sup>又ウリハムシ *Anlacophora femoralis* Mots.

體長二分五六厘、體軀は濃黄褐色にして光澤を有し、眼と腹部と中後の兩肢は黑色で、前肢の脛節と跗節とは暗褐色である。成蟲にて越冬し、六七月頃より盛んに現出し、キウリ、南瓜其他の葫蘆科植物の葉及び果實を蝕害するのみならず、好んでエゾギクに集り、其の莖葉を蠶食し、枯死せしむるのである。

〔五〕 クロウリハムシ *Anlacophora nigripennis* Mots.

體長二分三厘乃至二分五厘、體軀は黄色なれども、翅鞘は黒藍色を呈し、翅鞘は短く尾端を露出する。本種はキウリ、西瓜、南瓜等を害する。

〔六〕 ジンガサハムシ又アカザノジンガサムシ

*Cassida Mebulosa* L.

體長二分五厘、體軀はベツカウハムシに似たれども、全體褐色である。

〔七〕 ムシクソハムシ又フンムシ *Chlamys spilota* Baly.

體長一分内外、體軀は蟲糞に似て居る。常にコナラの葉上などに棲息する。

〔八〕 メニハムシ *Crioceris parvicollis* Baly.

體長二分許、頭黒く、前胸背と翅鞘とは赤褐色にして、觸角と肢とは黒いのである。

〔九〕 ヨモギヒメハムシ *Chryptocephalus approximata* Baly.

體長一分六七厘、全體瑠璃色にして圓筒状である。

〔一〇〕 クロボシハムシ又アカジクロホシ

*Chryptocephalus instabilis* Baly.

體長二分内外、體軀は圓筒狀をなし、赤褐色を呈し、翅鞘には各三個宛の黒斑がある。

〔一一〕 ヨモギハムシ又ルリムシ

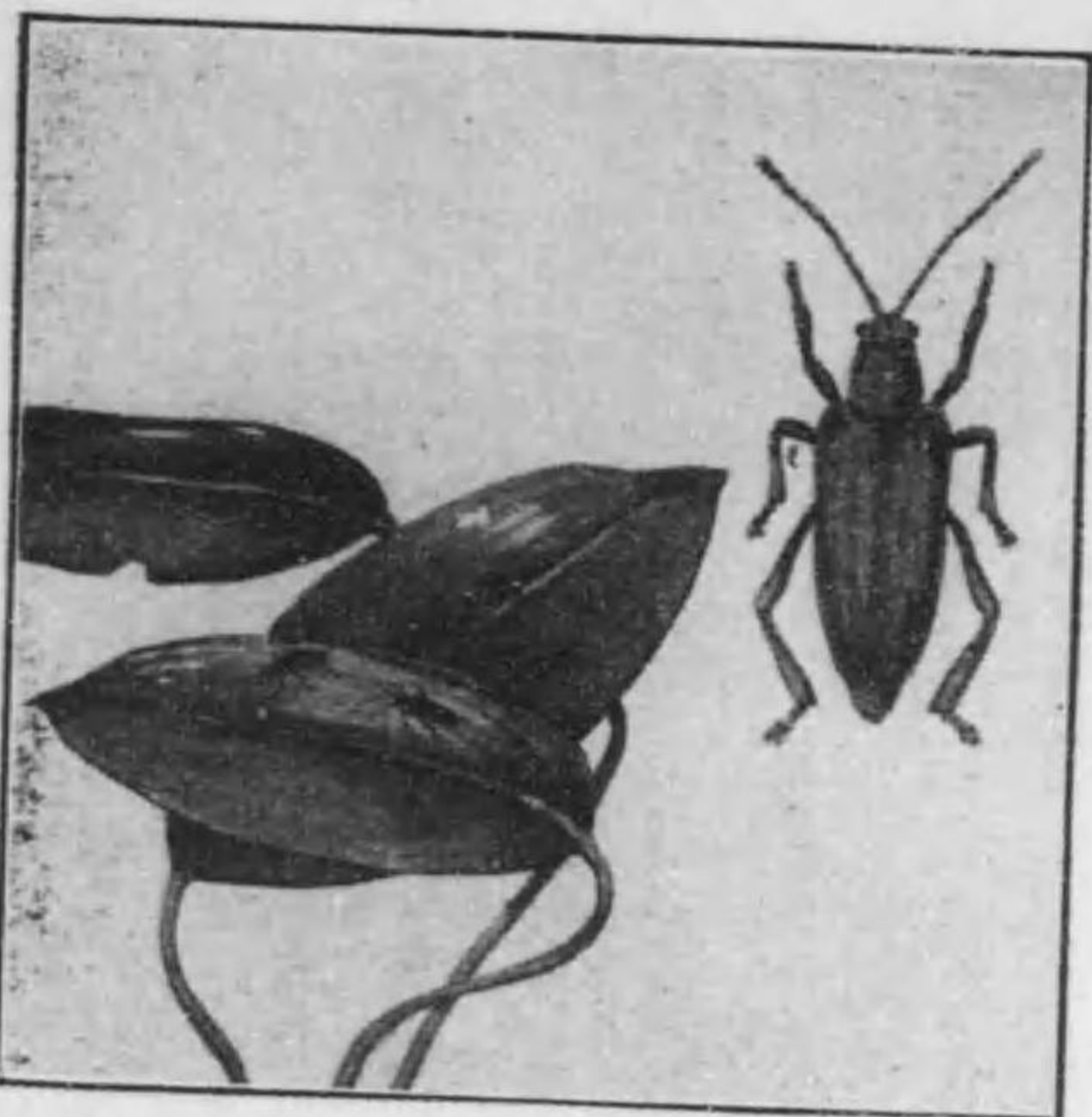
*Chrysomela aurichalcea* Gef.

體長三分許、全體光澤ある黒藍色にして、前胸は幅廣く、ヨモギを害する。

〔一二〕 オホ子クヒハムシ又ス

ゲムシ *Donacia aenaria* Baly.

體軀は黒褐色長形にして、一見天牛狀をなし、金屬光澤を帯び、翅鞘は幅胸部より廣く、長く、背面には左右各十一個の縦點線を有する。成蟲はヒルムシロの葉を食する。幼蟲は白色蛆狀をなし、肥大にして横皺多く、稻の根、其他ヒルムシロ等の水草の



シムハヒクネ 圖七十七第

根を食するのである。

〔一三〕 ホシタデハムシ又ホシスゲハムシ

*Galernucella maculicollis* Baly.

體長三分内外、體軀は黒色、翅鞘の肩部に一黒褐紋を有し、全面には灰色の短毛を密生し、肢は黄色にして、腿節の末端と脛節の下面と跗節の末端とは、黒褐色である。本種は川越附近にてはマンサクの葉に群集し、葉脈を残して、葉身全部を食害する。

〔一四〕 トボシクビボソハムシ又クコハムシ

*Lema decempunctata* Gebl.

體長一分八厘許、雄は雌よりも小さく、翅鞘に光澤が多い。體軀は黒くして、少しく銅色を帯び、各翅鞘には二乃至五個の黒紋あり。中には黒斑を缺くものがある。クコの葉を害する。

〔一五〕 クハハムシ *Luperus impressicollis* Mots.

體長二分乃至二分五六厘、體軀は黒く、翅鞘は藍綠色を帯び、光澤がある。年一回の發生にして五月頃羽化する。幼蟲は桑の根を害し、成蟲は桑の葉を害するのである。

〔一六〕 ホタルハムシ *Monolepta fulvicollis* Jacoby.

體軀は卵形にして、體長一分五六厘、頭部は濃橙黄色なるも、翅鞘は漆黒色である。年二三回發生し、蔬菜類、アキ、及びワタ等の葉を食するのである。

〔一七〕 サルハムシ又ダイコムシ又サル又ダイコン  
ハムシ *Phaedon incertum* Baly.

體長一分二厘乃至一分五厘、光澤ある黒色圓形をなし、頭は小さく扁平である。翅鞘は堅厚にして、九個の平行せる縦點線を有し、觸角と肢とは短い。本種の幼蟲及び成蟲は、秋季に於て盛んに油菜、ダイコンの葉等を蝕害するのである。

〔一八〕 キスヂノミムシ又キスヂハムシ又シマハムシ  
*Phyllotreta sinuata* Redt.

體長七厘内外、卵形藍黒色にして、翅鞘には淡黄色の縦線あり。後肢の腿節はよく發達して跳躍するに適する。成蟲は蔬菜類の葉を害し、幼蟲は其の根部を食するのである。

〔一九〕 ヒメハムシ又クハノミムシ  
*Phyllotreta funesta* Baly.

體長一分乃至一分五厘、全體は黒色である。年二回發生し、第一回は五月頃に、第二回は八月頃羽化し、幼蟲は桑の根を害し、成蟲は桑の葉を害するのである。

〔二〇〕 フヂハムシ *Phytodecta rubripennis* Baly.

體長一分八厘許、體軀は黒褐色にして、肢は黒く、腿節の末端と跗節とは褐色である。藤葉、殊に新芽を食害すること烈しいのである。

〔二一〕 ナノミハムシ又オホダイコンノミムシ  
*Psylliodes punctifrons* Baly.

體長一分許、全體橢圓形にして濃藍綠色をなし、後肢の腿節は發育して跳躍に適する。本種は蔬菜類を害するのである。

〔二二〕 カサハラハムシ *Xanthonia placida* Baly.

本種は岐阜縣長良村笠原幾太郎氏の初めて發見せしものである。體長は一分乃至一分二三厘、全體褐色にして灰白の短毛を生じ、複眼のみ黒く、體軀は圓筒狀をなす。幼蟲は桑根を害し、成蟲は桑葉を食するのである。

〔二三〕 瓢蟲科 (*Coccinellidae*)

觸角は複眼の前方より起り、頭下に收藏することが出来る。跗節は四節より成れども、其中の一環節は甚だ小形である。本科のものは、多くは蚜蟲介殼蟲葉捲蟲の如き小蟲を捕食すれども、亦僅少のものは植物を食するのである。

〔一〕 オホニジユヤボシ又オホテントウムシダマシ

*Epilachna 28-punctata* F.

體長二分二三厘、體の中央の横徑二分、頭部と前胸部とは黄褐色にして、中央には黒帯を有し、其の兩側には各二個の黒點を有し、翅鞘上には二十八個の大小黒點を有する。本種は茄子、胡瓜、西瓜、南瓜、馬鈴薯等を害する。

〔二〕 ニジユヤボシ又テントウムシダマシ

*Epilachna 28-maculata* Motsch.

體長二分、横徑一分六厘、前胸背には中央に切れたる黒帯を有し、翅鞘上の黒點は二十八個あれども、前種よりは小形である。その食草は前種と同一である。

〔三〕 マクガタテントウ *Coccinella groetchi* Lew.

光澤ある黒色種にして、翅鞘上部にある黄色部は、中央黒色を以つて界せられ、恰も幕を縛り上げたやうである。

〔四〕 ナナボシテントウ *Coccinella 7-punctata* L.

體長二分六七厘、翅鞘は黄赤色にして、七個の黒點を有する。幼蟲成蟲共に蚜蟲を食

するのである。

〔五〕 アカボシテントウ *Chilocorus rubidus* Hop.

體長二分二厘許、翅鞘は光澤ある黒色にして、中央には朱赤色斑を有する。本種は介殼蟲を捕食するのである。

〔六〕 ヒメアカボシテントウ *Chilocorus similis* Roso.

體長一分四厘許、翅鞘上には朱赤色の橢圓紋を有する。本種は介殼蟲及び綿蟲を食するのである。

〔七〕 ベニヘリテントウ *Rodolia limbata* Motsch.

體長一分八厘許、翅鞘は黒褐色にして、周圍は紅色である。本種の幼蟲及び成蟲は共に介殼蟲を捕食する。

〔八〕 テントウムシ *Pychanatis axyridis* Pall.

最も普通なるものにして、體長は一分八厘乃至二分六七厘にして、色彩には種々の變化がある。幼蟲は成蟲と共に蚜蟲類を食し、灰黒色にして黄斑を有する。

明治四十年五月三日、四日の兩日に於て、余は埼玉縣川越中學校校庭にありし一本の樅樹上に瓢蟲の群集せるを見た。其中にて交尾せる若干組を採集したるに左の如

き結果を見たのである。

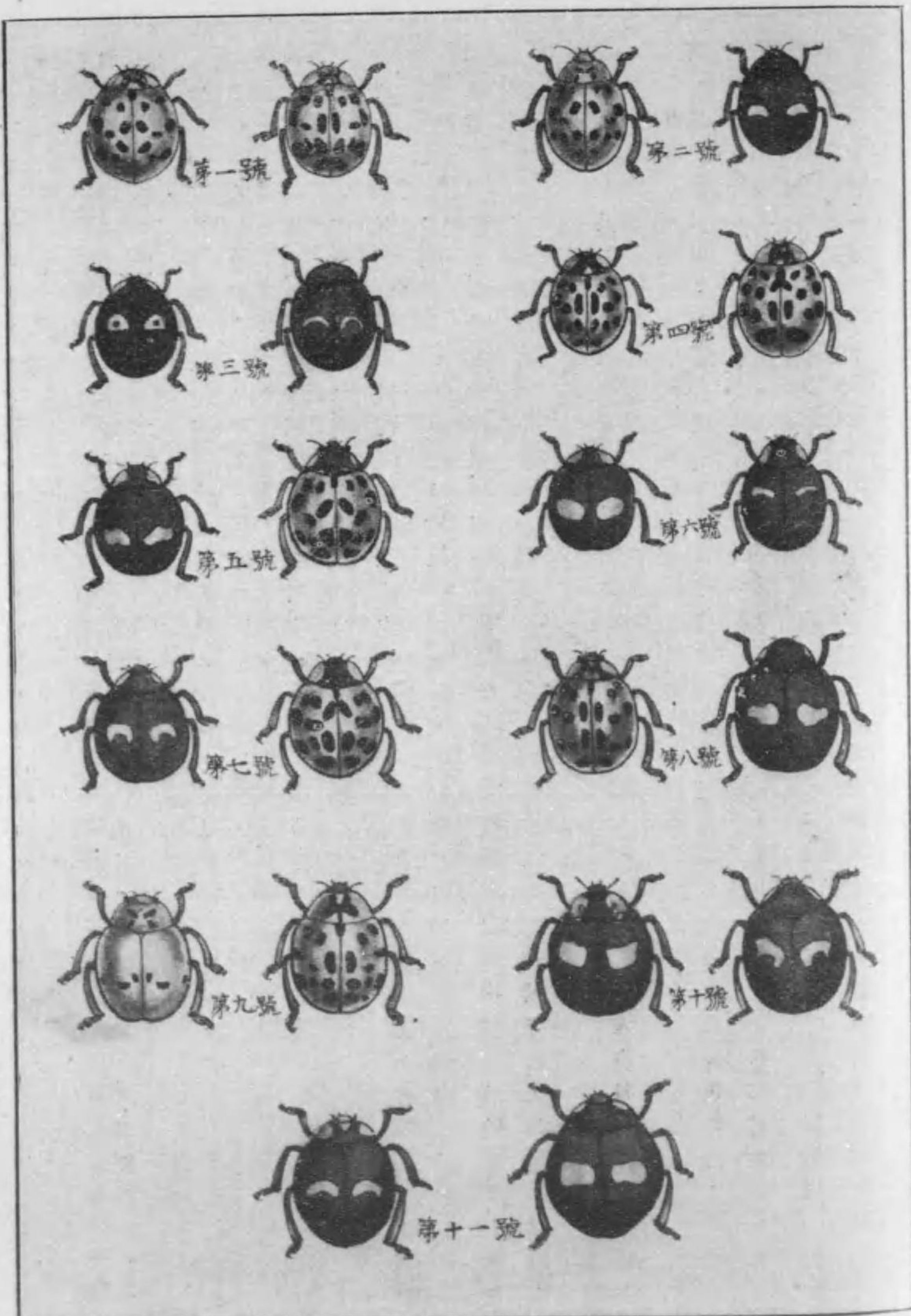
第一號 雄は大體長二分四厘、中央の横徑一分八厘、翅鞘黄褐色にして、各翅鞘毎に八個の黒點を有し、翅鞘中央の上部の基部に一黒點あり。  
 雌は小體長二分、横徑一分六厘、翅鞘紅色、各翅鞘上に九個の黒點あり。又左右翅を合せたる上部の基部に一黒點あり。

第二號 雄は大體長二分五厘、横徑一分八厘、翅鞘は黄褐色にして、各翅鞘に九黒點あり。又翅を合せたる上部の基部には黒點を缺く。  
 雌は小體長二分二厘、横徑一分六厘、全體黒色にして翅鞘上に一個宛の半月形の紅點あり。

第三號 雄は小體長二分、横徑一分六厘、全體黒色にして翅鞘上に一個宛の半月形の紅點あり。黄紅點あり。またこの點の下部中心に一小黒點あり。  
 雌は大體長二分三厘、横徑一分八厘、全體黒色にして、翅には一個宛の半月形の紅點あり。

第四號 雄は小體長二分、横徑一分六厘、全體赤黄色にして兩翅鞘毎に九黒點あり。且つ翅を合せたる所に一黒點あり、前胸の中央にはM字形の黒紋ありて、其の兩側は黄色である。  
 雌は大體長二分四厘、横徑一分八厘、前胸は黄色にして中央に黒紋あり。翅鞘は黄褐色にして兩翅を合せたる中央線には、品字形の黒紋ある外、左右兩翅鞘共に、八個の黒點を有する。

第五號 雄は小體長二分二厘、横徑一分七厘、前胸の兩側は黄色にして、其の中央に凸字形の黒紋あり、翅鞘は黒色にして左右共に各一赤紋を有する。  
 雌は大體長二分四厘、横徑一分七厘、前胸の大部分は黒色にして、兩側は少しく黄色である。



第七十八圖 シムウトンテの尾交せ十一組の翅鞘變を示す圖  
 (右の圖は雄、左の圖は雌)



翅鞘は黄褐色にして、兩翅を合はせる線の上部に一黒點あり。翅鞘毎に九個宛の黒點を有する。

一八二

第六號 雄は小、體長二分三厘、横徑一分九厘、前胸の大部分は黒色にして、兩側は少しく黄色を帯ぶ。翅鞘は黒色にして、翅毎に大なる一赤斑を有する。

雌は大、體長二分六厘、横徑一分九厘、前胸の大部分は黒色にして、兩側は少しく黄色である。翅鞘は黒く、毎翅鞘に大なる一赤斑と、小なる半月状の一黒點とを有する。

第七號 雄は小、體長二分、横徑一分七厘、前胸の大部は黒色にして、兩側は黄色である。翅鞘は黒色にして、左右翅毎に、倒凹字状の赤紋一個宛を有する。

雌は大、體長二分五厘、横徑一分八厘、前胸の中央は黒色にして、兩側は黄色である。翅鞘は黄褐色にして、翅を合はせる上部に、一黒點を有し、左右の翅鞘毎に九個宛の黒點を有する。

第八號 雄は小、體長二分一厘、横徑一分八厘、前胸は黄色にして、M字状の黒紋あり、翅鞘は黄褐色にして、翅を合はせる中央線上には一黒點を有し、左右翅鞘毎に、九個宛の黒點を有する。

雌は大、體長二分五厘、横徑二分、前胸は殆んど黒く、翅鞘も黒くして、左右毎に各一赤點を有する。

第九號 雄は雌と略同大、體長二分二厘、横徑一分八厘、前胸の大部分は黄色にして、四個の小黒點を有する。翅鞘は黄褐色にして、各翅鞘毎に二個の小黒點と、一個の淡黒點とを有する。

雌は雄と略同大、體長二分四厘、横徑一分八厘、前胸は其の中央にM字状の黒紋あり、他は黄色である。翅鞘は黄褐色にして、その左右相合したる中央線に一黒點を有し、各翅鞘に十個宛の黒點ありて、その中で翅鞘の末端外部に近く存する一黒點は、淡色である。

第十號 雄は雌と略同大、體長二分四厘、横徑二分、前胸の中央には凸字形の黒紋を有し、その兩側は黄色にして、この部分には黒紋を有する。翅鞘は黒色にして、左右翅毎に一個宛の赤紋を有する。

雌は雄と略同大、體長二分四厘、横徑一分八厘、前胸は殆んど黒色にして、その兩側は少しく黄色を呈する。翅鞘は黒色にして、一個宛の赤紋を有する。

第十一號 雄は雌より少しく小、體長二分、横徑一分六厘、前胸には $\cup$ 状の黒紋あり、他は黄色である。翅鞘は黒色にして、左右翅鞘毎に、一個の半月形の赤點を有する。

雌は雄より少しく大、體長二分二厘、横徑一分八厘、前胸は殆んど黒色にして、翅鞘は黒く、左右共に、一個宛の略方形の赤紋を有する。

卵は先端尖り、且つ兩側は少しく稜をなし、中央部は膨れ、低部は尖る。縦の葉に四列位に産み附けられ、一列九個許に並び、黄色にして、一卵の長さは一分位である。五月四日午後二時頃に産卵せるを見たるものは、五月八日頃孵化したやうである。

瓢蟲の色彩大さには非常に變化あるものにして、名和昆蟲研究所助手名和梅吉氏は、既に昆蟲世界第二十六號に於て詳細に記述せられ、且つ該號には美麗なる彩色版をも添へて説明せられて居る。今余が見たるものにつき、聊か記述すると左の如くで

ある。

第一 翅鞘黒色にして二赤紋を有するもの。

(甲) 前胸の大部分に凸字形の黒紋ありて、其の兩側は黄色なるもの。

(一) 赤紋は大きく殆んど方形に近きもの。 三頭

(二) 赤紋は小さく殆んど圓形なるもの。 一頭

(三) 赤紋は大きく殆んど半月形なるもの。 一頭

(乙) 前胸は全く黒きもの。

(一) 赤紋は小さく圓形なるもの。 一頭

(二) 赤紋は半月形をなすもの。 四頭

(三) 赤紋は大きく殆んど方形なるもの。 二頭

(丙) 前胸の大部分は黒色にして、その兩側は黄色を呈し、其の中に一黒點を有するもの。 二頭

第二 翅鞘黒色にして四赤紋あるもの。

(甲) 前胸背の中央には $\cup$ 状の黒紋あり、其の兩側は黄色にして、大なる方形の赤紋と翅鞘毎に其の後端に近く稍淡色の一小圓形の赤紋を有するもの。 三頭

(乙) 翅鞘にある赤紋は稍黄褐色にして、その中前端に近く位するものは $\cup$ 状をなし、後端に近く存する圓紋は、稍大なるもの。 一頭

第三 翅鞘黒色にして、左右兩翅鞘に大形の赤紋を有するもの。

(甲) 前胸背の中央には $\cup$ 状の黒紋ありて、其の兩側は淡黄にして、各翅鞘には、六個宛の赤紋を有し、その中で中央にあるものと、翅鞘の前縁部即ち外側に近く存する紋とは、相連絡し、又翅鞘の後端に存する紋は殆んど一直線となれるもの。 一頭

(乙) 前胸背の中央には $\cup$ 状の黒紋を有し、その兩側は黄色にして、各翅鞘には總べて分離せる六個宛の赤紋を有し、翅鞘の後端に位する赤紋は大なるもの。 二頭

第四 翅鞘は黄褐色にして明瞭なる黒紋を有するもの、而して前胸背の中央にはM字状の黒紋ありて、其の兩側は黄色である。

(甲) 兩翅鞘の接合部には一黒紋を有し、且つ各翅鞘には九個宛の黒紋あるもの。

(一) 黒紋は稍大にして、前胸部より數へて第二列及び第三列の黒紋は、各三個宛連絡するもの。 三頭

(二) 黒紋は稍大にして、前胸部より數へて第二列及び第三列の黒紋は連絡せざるもの。 四頭

(三) 黒紋は稍大にして(二)の如く連絡せざれども、翅鞘の後端にあるものは極めて淡きもの。 一頭

(四) 黒紋は稍小にして總べて連結せぬもの。 二頭

(乙) 兩翅鞘の接合部の黒紋は不明なるもの。

(一) 翅鞘上の黒紋は左右共に四紋位は明白なれども、他は判然せざるもの。 一頭

(二) 翅鞘上の黒紋は少しく縦線状となり、且つ色淡きもの。 一頭

(三) 翅鞘上の黒紋は殆んど判然せぬもの。 一頭

〔九〕 カメノコテントウ *Ithone hexaspiota* Hop.

内外普通動物誌

體は圓形をなし、體長三分六七厘、翅鞘は朱赤色にして連接したる黑色紋を有する。嘗つて偶然交尾せる一組を見たるに、雄は雌よりも小さく、前胸は黑色なれども、翅鞘の接合部のみ黒線を有し、他は樺色にして少しく黄色を帯びて居る。本種はクルミハムシ、ドロハムシ、ヤナギハムシ等の幼蟲及び其の卵を捕食すること多しといふ。

第三目 雙翅類又二翅類 (Diptera)

雙翅類を分ちて次の三亞目となし、更に微翅類を附録として記述する。

第一亞目 長角類又蚊類 (Nematocera)

觸角は六分乃至數十節より成り、普通は連鎖狀にして細長である。肢も亦細長である。蛹は被蛹 (Pupa obtecta) である。

第二亞目 短角類又蠅類 (Brachycera)

觸角は三節より成り、通常頭部より短く、第三節は膨大し、之に一個の端刺 (Arista) 若くは角片 (Style) を有し、發狀の後翅には鱗狀瓣 (Alulae) を以て被覆するものが多い。蛹は幼蟲の皮膚の硬化して殘留せるものを以つて被覆せらる。之を圍蛹 (Pupa Coarctata) とす。

第三亞目 蠅蠅類 (Pupipara)

觸角は短くして二節のもの多く、多くは胎生にして、幼蟲は産まるゝや否や、直ちに蛹化する。本類のものは禽獸に寄生して有害のものが多し。

第一亞目 長角類又蚊類 (Nematocera)

(一) 大蚊科 (Tipulidae)

肢の腿節は非常に長くして、靜止するときは、翅を半開する。幼蟲は濕地に多く棲息する。

〔一〕 ミカドカバンボ *Tipula mikado* West.

體長一寸三分、體軀は暗黄にして翅は長く、長さ一寸三分に達し、暗黄色にして脈は頗る濃色である。また肢は長くして褐黄色である。

〔二〕 キスヂカバンボ *Pochyrhina virgata* Coq.

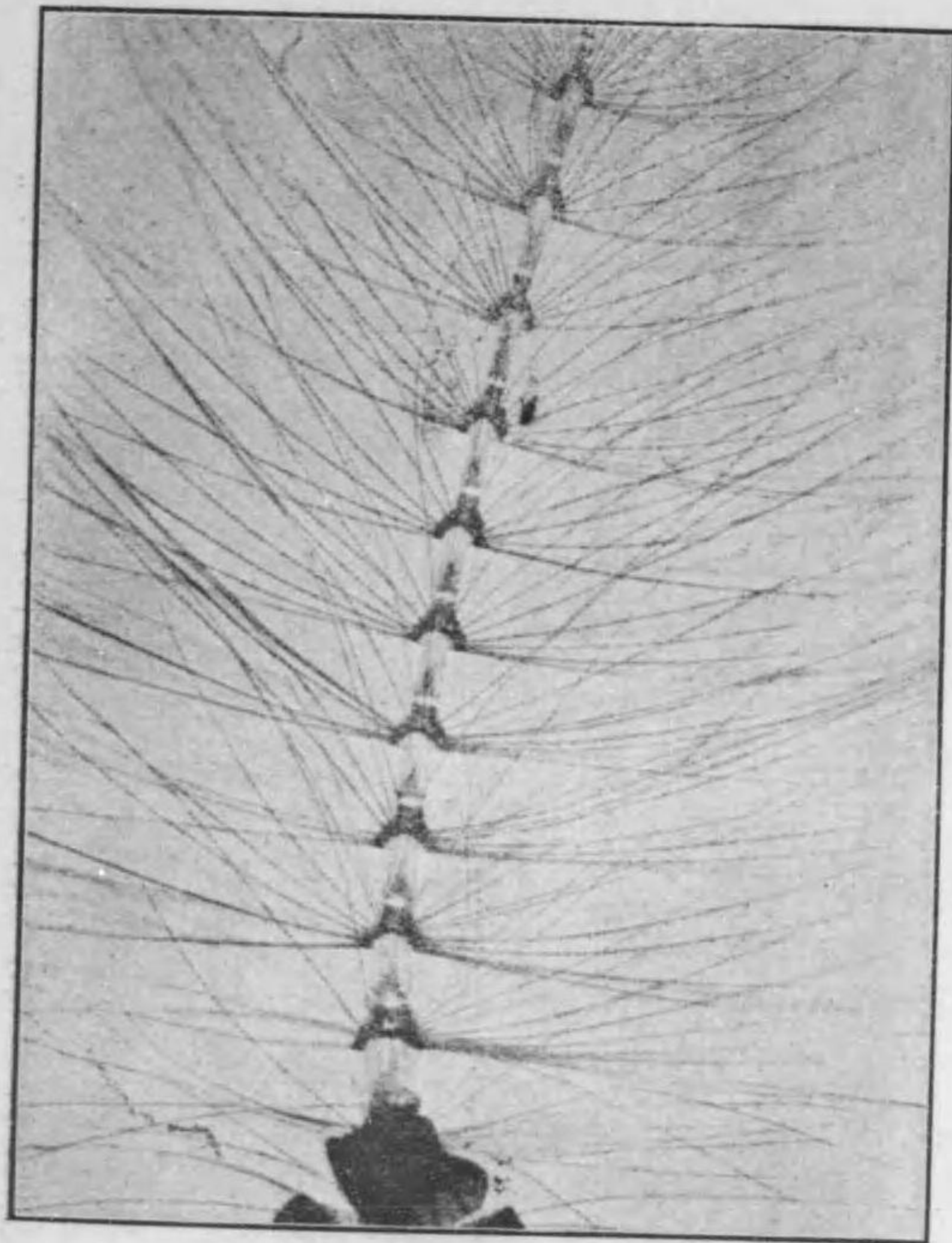
體長九分許、胸背は黄色にして三個の太き黒色の縦線あり、腹部は黄色である。

〔三〕 キリウジカバンボ *Tipula praepotens* Wied.

年一回の發生にして、三四月頃より羽化して群飛する。幼蟲は苗代田にありて、稚苗の根を食害するのである。

(II) 蚊科 (Culicidae)

頭部は小形にして圓く、大部分は複眼にて占められて居る。雄の觸角は羽毛状をなし、普通は十五節より成り各節共に長き細毛を生ずるも、末端の二節は殆んど裸出して居る。口吻は長く管状にして、頭部の前下方に伸出する。胸部は稍や圓形にして、多少

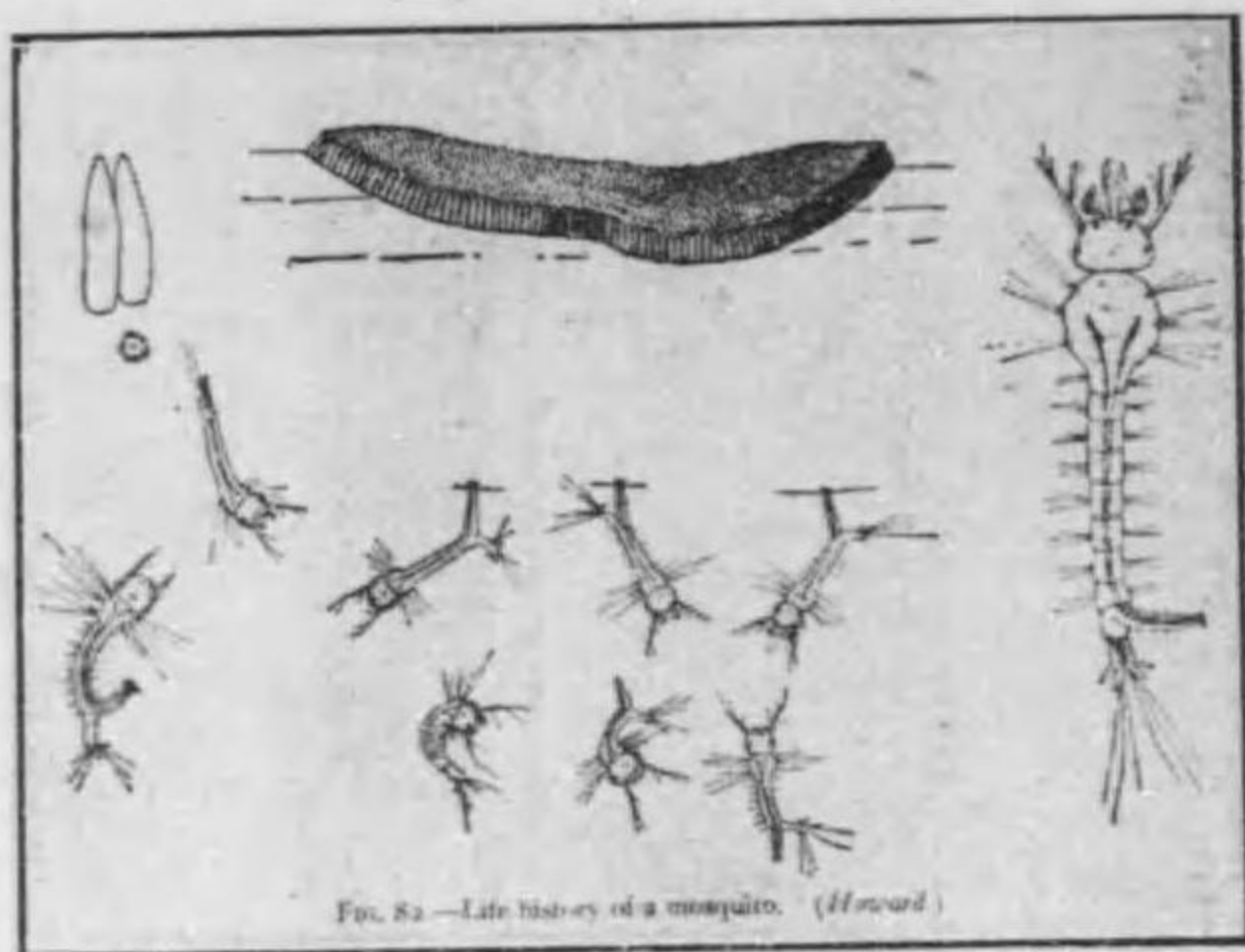


大廓の分節一角瓶の蚊雄 圖九十七第  
(after H. S. Cheavin.)

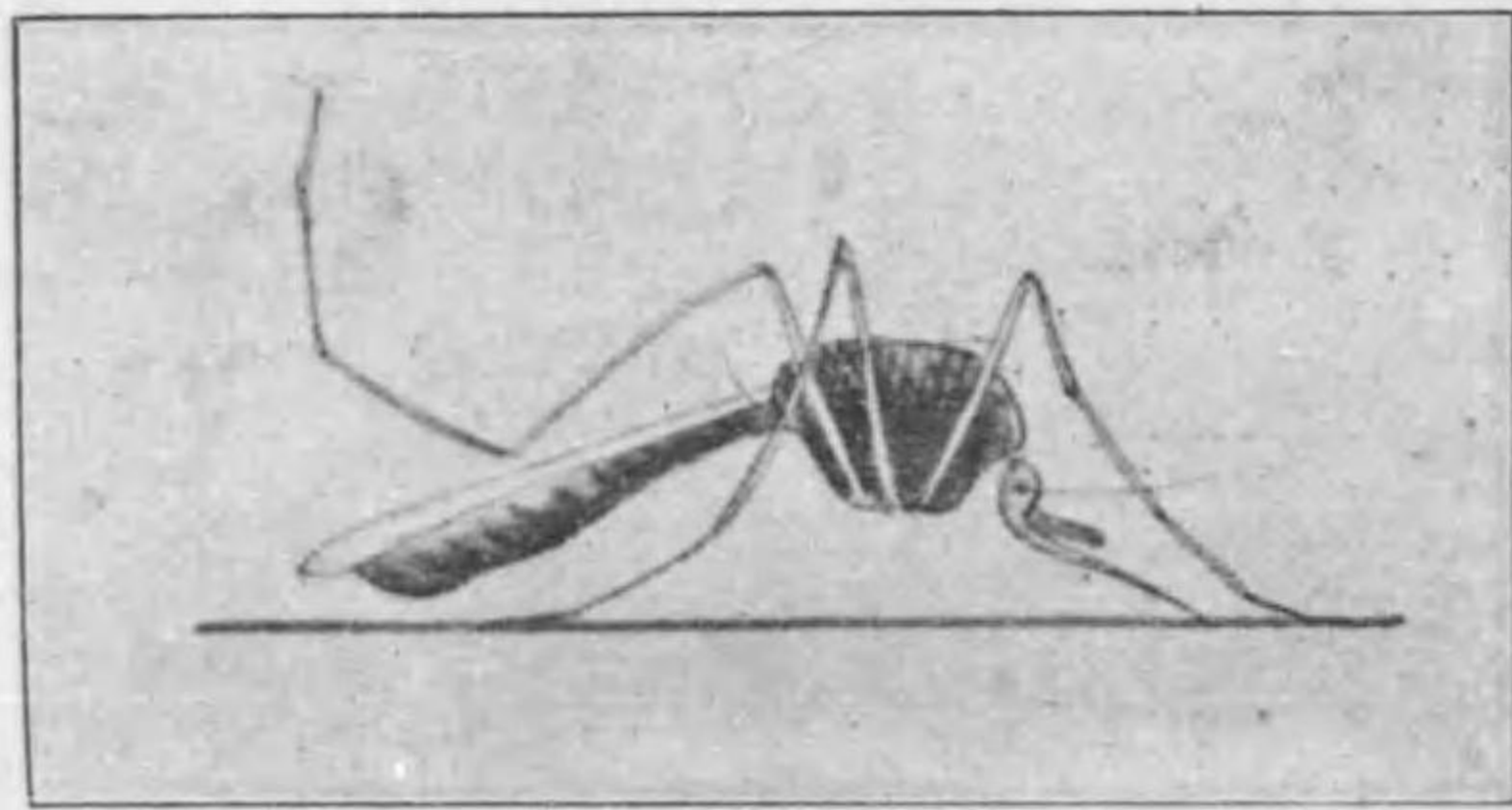
隆起し居り、横線を缺いて居る。翅は細長にして、翅縁及び翅脈上には鱗状毛を生ずるに依り、半透明に見ゆる。脚部は細長にして、基節は長くなく、跗節は腿節若くは脛節等より長いのを常とする。腹部は比較的長く八節より成り多少扁平なるものがある。而してこれは細毛若くは鱗状毛を以て被包されて居る。

雄は植物の汁液を吸収するが、人畜の血液を吸収すること能はずして、唯雌のみ人畜を惱ますのである。

幼蟲は止水又は溜水中に發生し、有機物を食ひて生活する。普通は肢を缺き、腹部の



(Howard) 史活生の蚊 圖十八第



(After Eyszel) 勢姿の蚊 圖一十八第



(Eyszel) 勢姿スレエフノア 圖二十八第

末端には呼吸管を有し、蛹化せば、呼吸管は胸部に變形して二個を残すに至るのであ

る。卵子は二三百個を一塊として、水面に産下するものと、數粒宛産下するものがある。イーイーグリーン氏 (E. E. Green) に據れば、象蚊 (Elephant-mosquito) (*Toxorhynchites immitis*) の幼蟲は肉食性なりといふ。

〔一〕 蚊又ウスカ *Culex pallens* Coq.

全體鈍灰褐色にして、腹部の連接部は鈍灰色を呈し、口吻は灰黄褐色なるも、末端部は多少黒味を帶ぶ。本屬の幼蟲は溜水の表面に約四十度の角度をなして懸垂する。又成蟲は静止せる時、物體と平行して止まる。また本屬のものは象皮病を傳染するといふ。

〔二〕 ヤブカ *Culex subabatus* Coq.

竹藪に多く棲む。全體は暗褐色にして、腹部には灰色の横帯を有する。

〔三〕 ハマダラカ又肉叉蚊 *Anopheles sinensis* Wied.

全體灰褐色にして、翅には斑紋を有する。本屬の幼蟲は水面に平行に懸垂する。又成蟲は角度をなして物體に静止し、三日熱及び四日熱のマラリヤ寄生體を傳染する。而して本種は、日本全國、支那大陸、馬來半島等に分布する。

〔三〕 蚋科 (*Simuliidae*)

單眼を缺き、複眼は赤色なるものが多い。翅は廣く、胸背は球狀に膨大し、腿節は太く

静止するときは翅を腹上に置く。幼蟲は水中に棲息し、成蟲の雌は、哺乳類の血液を吸収して大害をなすのである。

〔一〕 ブユ又ブト *Simulium pollipes* Fries.

卵は水邊の石や草の上に塊狀をなして産附せられ、幼蟲は圓筒狀にして、體の後端



種一屬ユブ 圖三十八第  
腐蟲幼の (*Simulium molestum*)  
(after Packard) 大

は太く、且つ此部に吸盤を有し、藻類其他植物質を食する。成蟲の雌は、牛馬、人などを刺螫するのである。

第二亞目 短角類又蠅類 (*Brachycera*)

〔一〕 水虻科 (*Stratiomyidae*)

翅には五角形の中胞を有し、又鱗狀瓣を缺く。幼蟲の多くは水中に棲み、長尾を有す

〔一〕 コウカアブ又コウカバイ *Ptechicus invencus*, Schin.  
 體長五分乃至六分、翅の開張一寸一分内外、體軀全體は黒く、第二腹節の兩側は透明にして、中央縦に黒く、全觀はクロアナバチに似て居る。常に便所の附近に飛翔する。

〔二〕 コナメウジアブ *Odontomyia staurophora* Schin.  
 體長三分五厘乃至四分、翅の開張六分内外、胸部は黒く、腹部は稍扁平にして黒く、四條の灰黄横帯あり、翅は透明である。

〔三〕 ミヅアブ又ナメウジ *Stratiomyia liarca* Walk.

幼蟲は濁水に棲息し、時に苗代に蕃殖し、稻根を浮上げて大害をなすことがある。

〔二〕 虻科 (Tabanidae)

觸角は大形にして、第三節には輪環を有する。幼蟲は通例地中にありて、植物質を食するが、成蟲の雌は人畜の血液を吸収するを以つて、有害である。

〔一〕 ウシアブ又アブ *Tabanus trigonus* Coq.

形灰黒色にして、體長八分内外、胸背には五條の黄縦線を有する。

〔二〕 メクラアブ *Chrysops dispar* F.

黒色にして、腹部の基部は赤黄色を呈し、翅の中央には大黒紋を有する。常に牛馬の眼の周圍を噛みて害をなすのである。

〔三〕 クロメクラアブ *Chrysops japonicus* Wied.

前種に似れども、黒色である。前種同様に牛馬の眼の周圍を噛むのである。

〔三〕 食蟲虻科 (Asilidae)

觸角は細長にして、第三節には角片若くは端刺を有し、又之を缺くものがある。腹部は八節より成り、肢は強壯にして粗毛を多く生じ、鱗狀瓣は小形である。静止の時は翅を水平に開き、成蟲は他蟲を捕食する。

〔一〕 シホヤアブ *Promachus yesonicus* Big.

雌は體長一寸許、翅の開張は一寸五六分内外、胸部は褐色、腹部は略黒く、各節の後部は黄色で、且つ鈍黄色の毛を生ずる。雄は腹端に白色の細毛を密生する。常に蠅類、セマダラコガネ、コアラヲハナムグリ等の金龜子類を捕食するのである。

〔二〕 ムシヒキアブ *Asilus angusticornis* Loew.

前種よりも小形にして、體長五分乃至七分、體は著しく細く、黒色で、肢は黒く、脛節は褐色である。本種は種々の昆蟲類を捕食すれども、特に金龜子類を食する。

〔三〕 オホイシアブ *Laphria mitsukurii* Coq.  
體長七八分許、複眼は黒く相隔離し、其間に單眼を有し、體軀は黒く、腹部の下半部は赤褐色にして、オホマルバチに似て居る。

〔四〕 アチメアブ *Ommatius fulvidus* Wied.  
體長七八分許、全體黄褐色にして、胸部には細毛を生じ、頭は黄褐色で、複眼は青緑色である。常に金龜子類を始め、其他の昆蟲類を捕食し、蜂に擬態するのである。

〔四〕 長吻虻科 (*Bombyliidae*)  
體軀は肥大し、多くは長毛を密生し、黒色部を有するものが多い。而して口吻は割合に長い。夏日飛翔せるとき一時空中に靜止するを以つて、ツリアブの名がある。成蟲は花に多く来る。

〔一〕 ビロウドツリアブ *Bombylus major* L.

體軀は黒く、天鵞絨様の黄褐色毛を密生する。某年四月二十日、本種の交尾せるものを見たるに、頭と頭とを反對に向けて一直線に體を横へて飛翔したのである。

〔五〕 食蚜蠅科 (*Syrphidae*)

頭は半球狀をなし、其の幅は殆んど胸部と同じく、後胸背に於ける稜狀部は大きく、

通例粗毛を缺いて居る。又肢は短く、鱗狀瓣は小形である。靜止のときは翅を水平に全く開くものと、半ば開くものがある。幼蟲は蚜蟲を食することが多い。

〔一〕 ハナアブ又チナガウジバイ *Erastalis tenax* L.



第八十四圖 ハナアブ

體長五分内外、翅の開張は九分内外、腹部の基半は淡黄色にして、工字形の黒斑を有し、其の先半は黒色である。尾長蛆は太く長くして、體長六七分許、體は十二節より成り、皺襞多く、側面には縦に太き皺襞を有し、腹面には肉質疣狀のものがある。また體の末端には、尾狀の細長なる軟管ありて、其の根元には太き鞘ありて、

自由に入らせしめることが出来るが、これは呼吸管である。幼蟲は成熟すれば糞汁より這ひ出で、土中にて蛹化するのである。

一九六

(二) ノラハナアブ又ノラアブ

*Erastalis incisuralis* Lew.

體長四分餘翅は透明にして斑紋なく、各腹節の後縁には細き黄色帯を有し、第二腹節は黄色にして、工字形の黒紋を有する。

(六) 牛蠅科 (Oestridae)

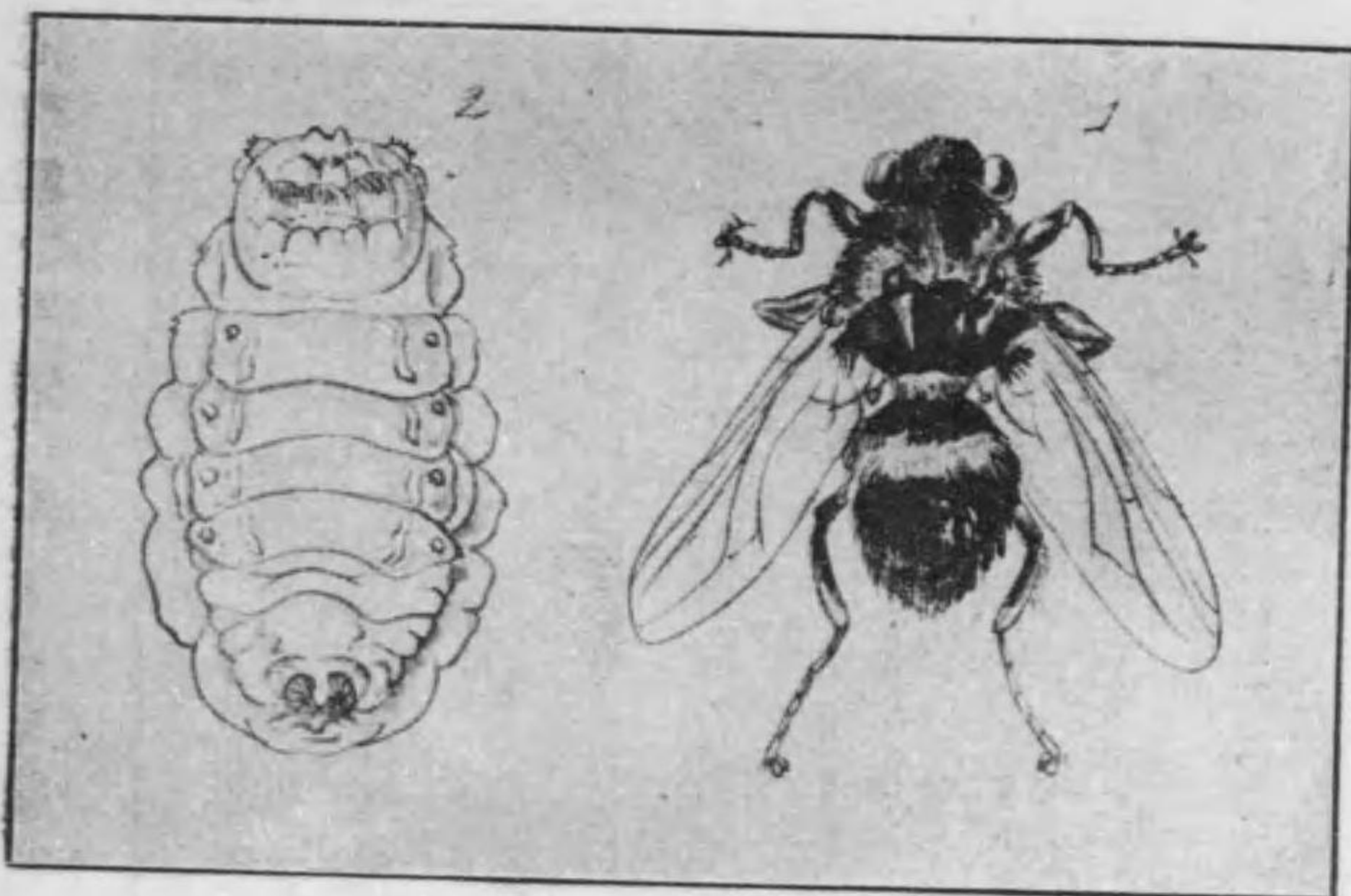
本科の幼蟲は、家畜の體の諸部に寄生する。

(一) 羊蠅 *Oestus ovis* L.

幼蟲は羊に寄生し、又人體に寄生することもある。

(二) 牛蠅 *Hypoderma bovis* Deg.

幼蟲は牛の皮下に寄生し、潰瘍を發せしむ。成蟲は頭大きく、毛を密生し、顔及び前頭は淡黄色を帯



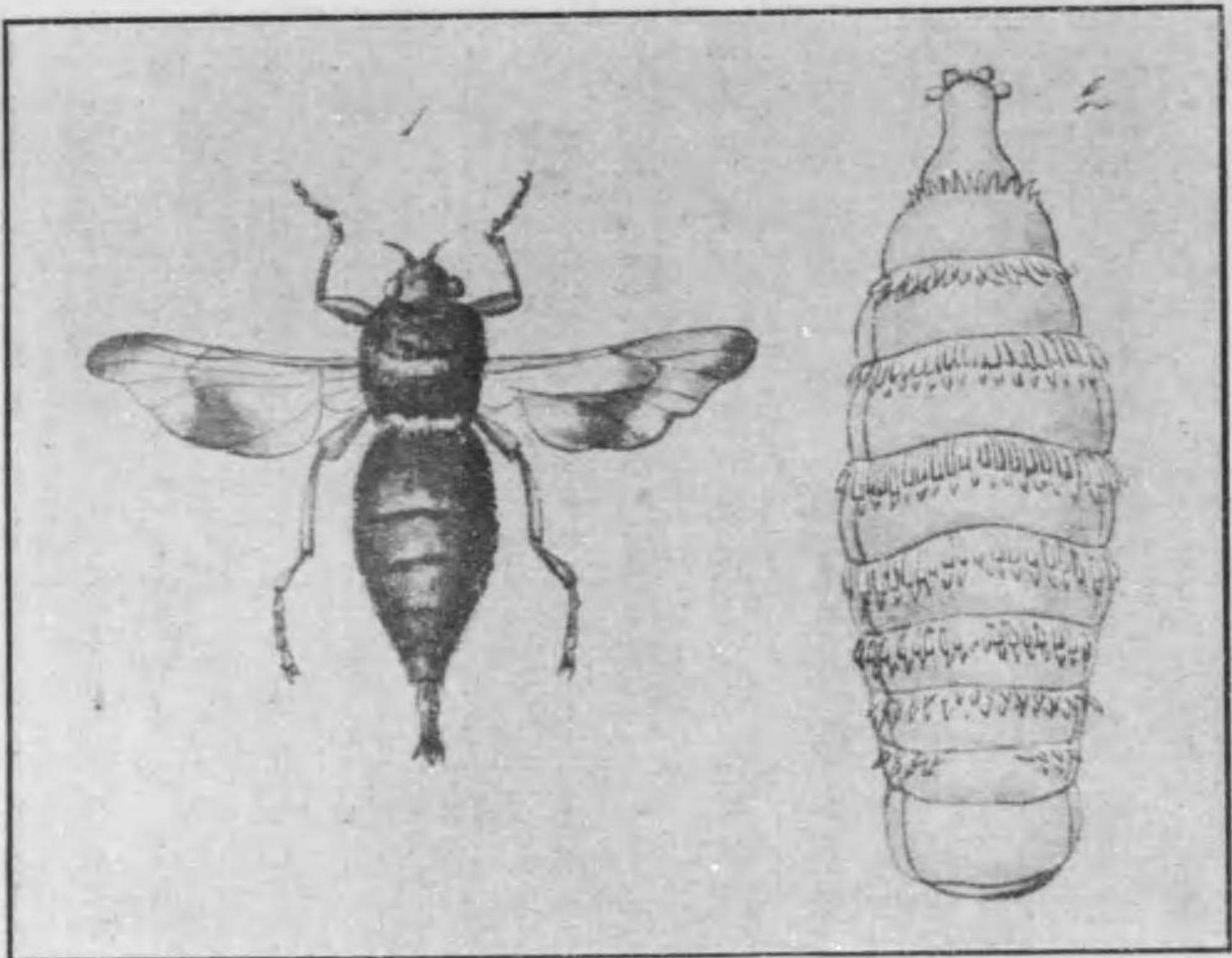
(Packard) (2) 蟲幼の其と (1) 蠅 牛 圖五十八第

び胸部は黄色にして黒條を有する。腹部基部は灰白色にして、第三節には黒毛あり、他の環節は橙黄色にして、翅は煙褐色である。

本屬一種 (*Hypoderma lineata*) の幼蟲は、牛に寄生して牛肉の價値を損するのみならず、また牛皮にも孔を穿ち、爲めに其の價格を損するといふ。米國シカゴに於て、千八百八十九年に於ける六箇月間の統計に據れば、この種の與へたる損害高は、少く見積るも、尙三百三十三萬六千五百六十五弗に上り、其中六十六萬七千五百十三弗は、牛皮の蒙れる損害なりといふ。

(三) 馬蠅 *Gastrophilus equi* Fab.

淡褐色の大形種にして、頭は大きく鈍角である。顔は淡黄色にして、白色柔軟毛を生じ、眼は黒味を帯ぶ。腹部は帶赤黄色にして、黒



(Packard) (2) 蟲幼の其と (1) 蠅 馬 圖六十八第



き斑紋を有する。翅は稍白く金色を帯び、稍黒き波状帯にて横断せられ、肢は淡黄色である。幼蟲は筍蟲ムクゴムシといひ、馬の胃中に寄生する。

(七) 家蠅科 (Muscidae)

第三觸角節は側扁にして、一個の長刺若くは羽狀刺を有し、口吻は肉狀にして、二個の刺毛を有する。また大形の鱗狀瓣を有するもの多く、背上には一個の横溝がある。本科には他蟲に寄生するものが少くないのである。

(一) 蠶蛆 *Crissocosmia sericariae* Rond

成蟲は體軀肥大し、黒色にして粗毛を被り、體長五分内外、翅の開張は一寸許、胸部前縁は稍方形にして後縁は圓く、前中胸節には五條の黒色縦線ありて、其間には黒き粗毛を生せる一條を有する。後胸の後部には長き粗毛を散生し、その色は赤い。腹部は六節より成り、雄にありては、此部は稍三角形をなし、側面に大なる半圓形の濃褐色紋あり、雌の腹部は橢圓形に近く、且つ斑紋を缺く。翅は狭長にして翅底の方に向つて漸く廣くなり、透明にして鼠色を帯び、基底に接せる處は暗褐色をなし、全面には短小なる毛を密生するのである。五六月頃蠶繭を破りて出でたる蛆は、床下に落ちて蛹化して越冬し、翌年四五月頃蠅となり飛び出で、桑葉の裡面に産卵する。而して蠶兒の三齡以

後は、卵をば桑葉と共に嚙下し、これが胃中に入りて孵化し、胃壁を経て神經球内に寄生する。岐阜縣蠶業豫防事務所の調査によれば、去る明治四十年年度の被害は、二千七十万圓の多額に上つて居るといふ。

(二) ミカドヤドリバイ又セスヂハリバイ

*Echinomyia mikado* Kirby.

體長五分許、體軀は黒褐色にして、胸背の中央には二個の細き濃色縦線を有する。腹背は黄褐色で、中央には黒色の太き縦線を有する。尾端には黒き剛毛を粗生する。本種は毛蟲に寄生するのである。

(三) シマバイ又ニクバイ

*Sarcophaga privigna* Rond.

胸背は灰色にして二條の暗色縦線を有し、腹部は亞鉛様の光澤を帯び、刺毛を粗生する。本種は胎生し、よく肉に集まれども、又幼蟲は人糞尿中にありといふ。

(四) クロバイ又クソバイ *Calliphora lata* Coq.

大形種にして黒藍色である。幼蟲は人糞尿中に棲んで居る。

(五) キンバイ *Lucilia caesar* L.

全體光澤ある綠色にして、黒色の長毛を生ずる。好んで腐敗せる魚肉に寄生し、幼蟲は人糞尿中に棲息する。

1100

[六] イヘバイ *Musca domestica* L.

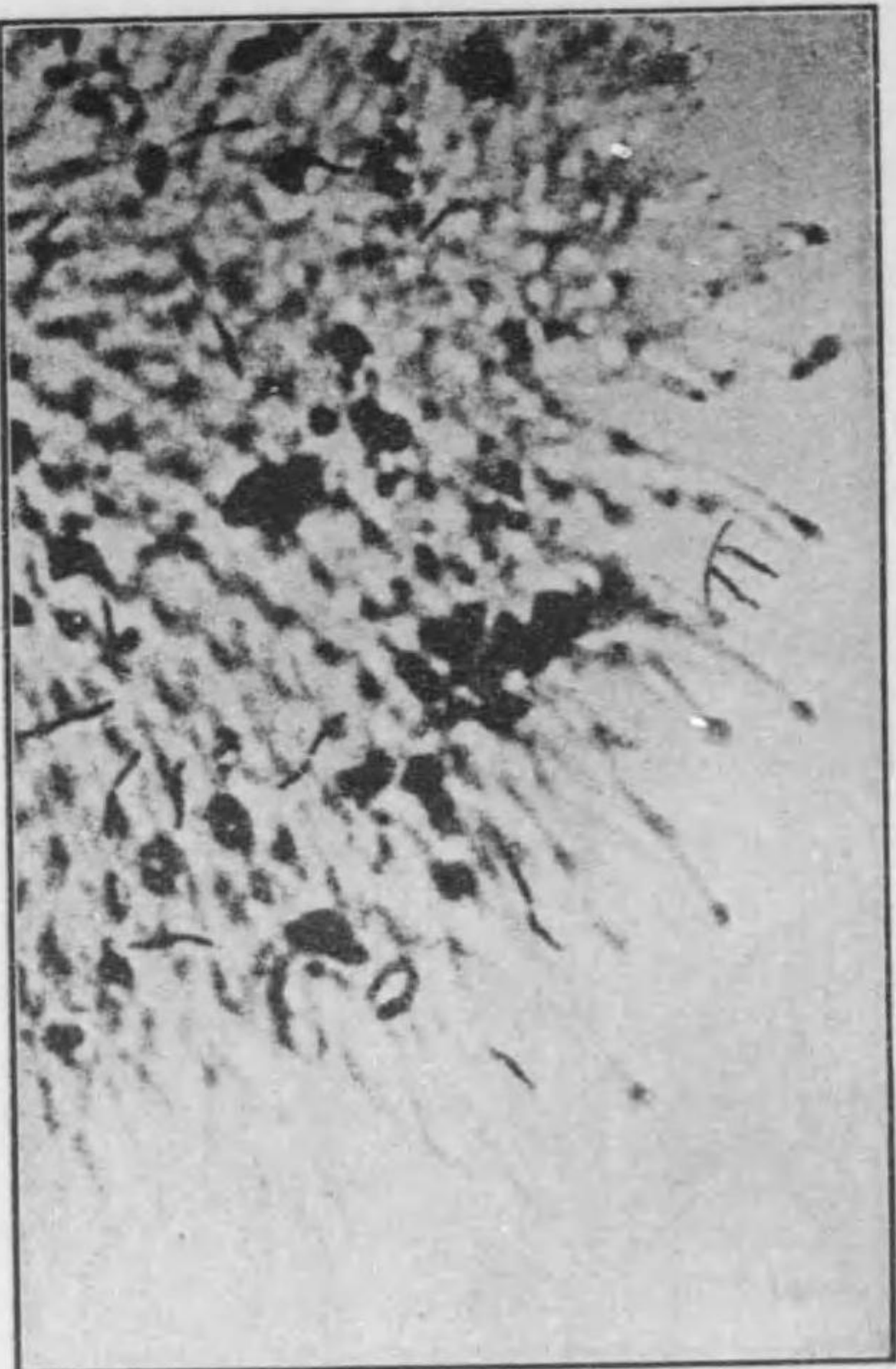
體長二分五六厘、頭は黒く、複眼は暗赤褐色である。胸部は灰黄色にして四黒縦條を有し、肢は黒く、其の先端には二個の膜瓣と、二本の爪とを有するのである。

シー・デー・ヘット氏の研究に據れば、夏日飛翔せる家蠅は、冬季近づけば死するも、秋末に羽化せるもの、若干は越冬し、冬季は冬眠をなすのである。斯くの如き蠅を解剖して見ると、其腹部には脂肪細胞存在し、脂肪體頗る肥大し、消化器は萎縮して頗る小形となるに至るのである。而して其の冬眠せんとするや、暗黒の處を求め、室内の壁と壁紙との間に隠れる。冬眠は温度の高低によりて、其の行はるゝ程度に相違がある。而して温度の高低は、春季其の出づるに大に關係あるものである。また家蠅は可成よく飛翔するを得るものなるも、其の繁殖する場所より、遙に遠き處へ行くものではなく、只風の爲めに、遠き處に運ばるゝことである。

家蠅に對する自然界の敵中、尤も肝要なるは、エレブサムスカエと稱する菌にして、之れが爲めに、冬季は多數斃死する。壁などに附着し死せる家蠅の體に、白色の輪の存

するを見るは、この菌の孢子である。此菌の生活史は、ヘット氏が記述する所では、其の菌を培養して、蠅の害を除くことが出来る。また、ケルネス・ノドスと稱する一種の蜘蛛及び壁蝨類は、往々家蠅の體に附着することがある。然れどもこれ寄生の現象なるか、將た他の動物に寄生せんか爲め、一時單に附着せるものなるかは、未だ判然たる實驗の認證がない。ボンペイのカルター氏は、家蠅二疋の頭部を切開して、ハプロネマ・ムスカエと稱する線蟲の存在を見たれども、ヘ氏は未だ英國では、如此現象を見ないといふて居る。

ヘ氏は家蠅が病原體を散布するものなるやを研究したるが、其の説述する處によると、軍隊に於て特發する窒扶斯病の忽ち流行するに至るは、唯家蠅のみの作用である。而して癩、虎列刺、肺結核等に就て考ふるに、是等も亦



圖七十八第 細菌の附着せる蠅の腹一面一部 (大麻の點黒と條黒がバクテリアのある部) (after E. T. Spitta)

家蠅の爲めに、流行傳染を惹起するものにして、家蠅はこれらの病原體たる細菌をば、其の身體に附着し、之を食品、人體の傷部、若くは濕潤せる物體に運ぶのである。結膜炎殊に埃及眼炎と稱するものは、前記と同様の方法にて、傳搬するが如きも、未だ是等を決する有力なる實驗はないといふことである。

蠅は又蛔蟲、條蟲、蟻蟲、毛頭蟲の卵も食ひ、糞と共に撒布すといふことである。

〔七〕 扁前又アカバイ *Eggizonenra formosa* Wied.

體長六分許、體軀は黄褐色にして、胸背には三縦線を有し、中央のものは太い。本種は人糞上に普通である。

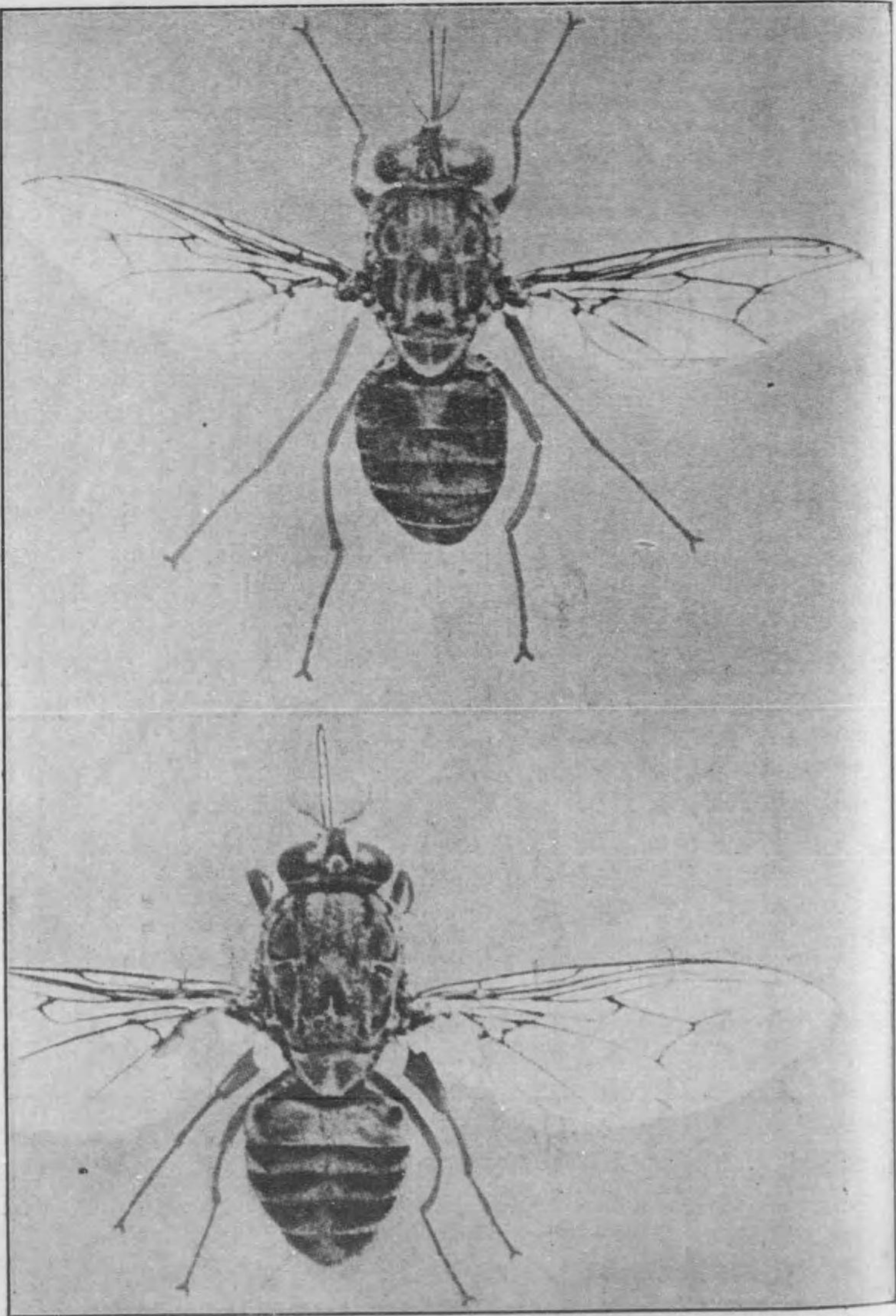
〔八〕 ヒメベツコウバイ又クソバイ

*Scotophaga stercoraria* L.

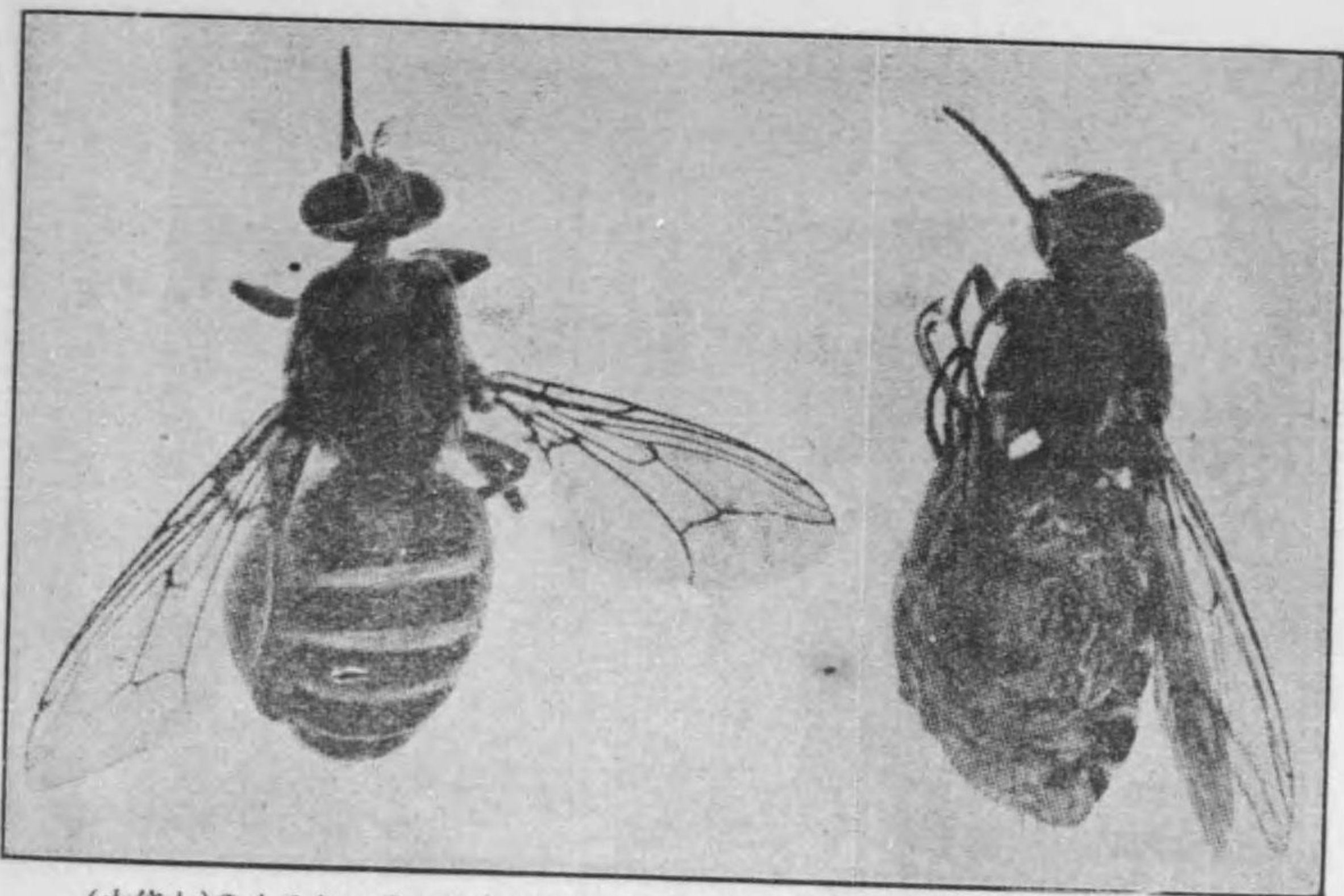
體長三分内外、黄褐色にして、黄毛を密生する。本種は人糞上に集る。

〔九〕 睡眠病傳播蠅 *Glossina palpalis* Austen.

英にツエツエフライス (*Tsetse-flies*) といふ「ツエツエ蠅」の義である。ツエツエとは亞弗利加の土語にて「蠅」といふ義である。今より十年許前に、軍醫總監サー・デービッド・ブルース (Sir David Bruce) 其他の博物學者の研究によりて、熱帶亞弗利加に流行する睡



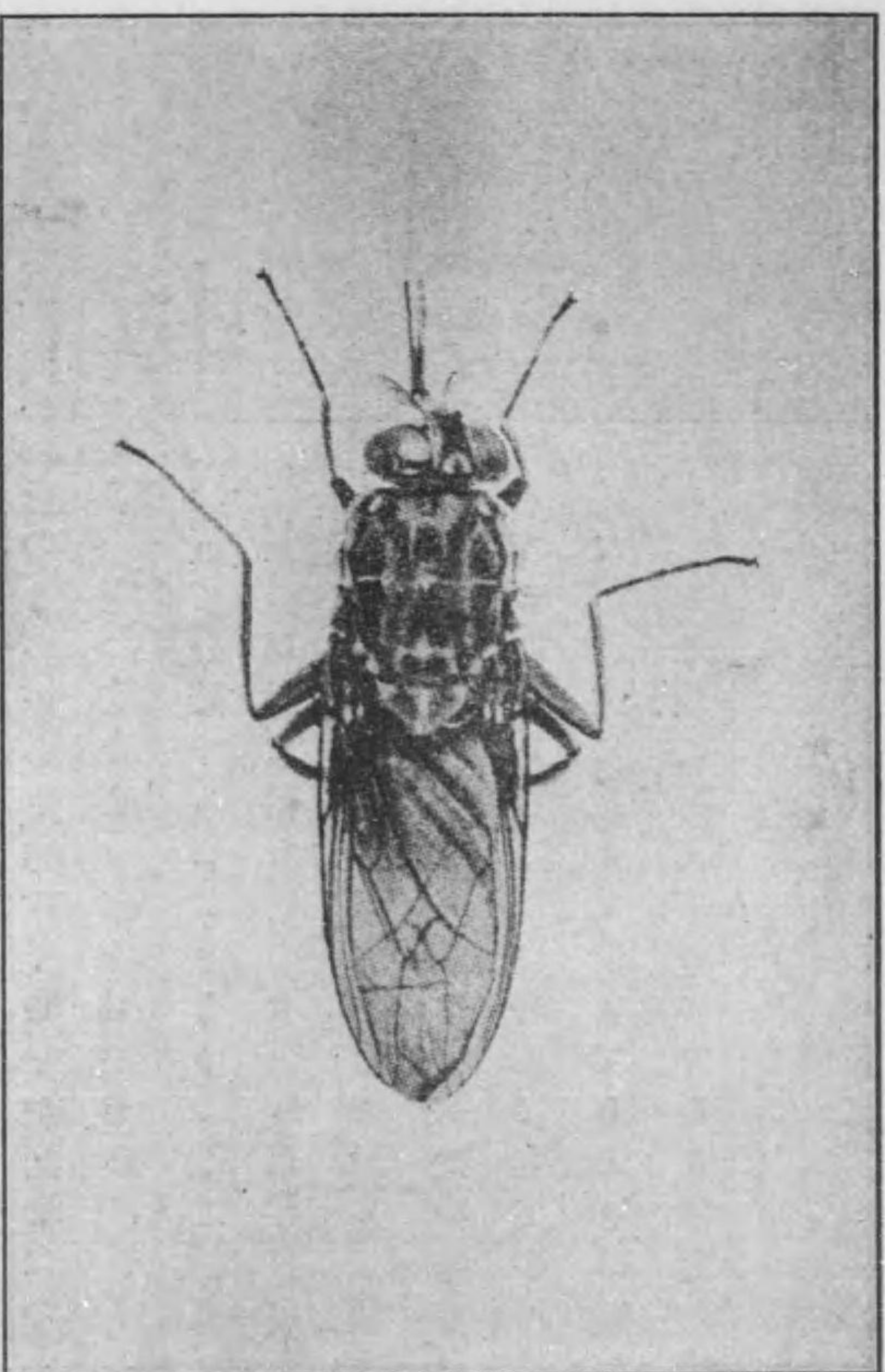
第百八十八圖 蠅エツエ 上圖は西アフリカ、自由國、ガウダンに於て睡眠病を運ぶもの最暗なる色は之。のもふ運をに常非はりよ種前。のもるむしさ起を病エツエツの畜家れらせ見發てに (Rokisia) (Er. m. Marv. l.) (大倍五に共圖兩)。りあ帶るな明著はに部中後の體たまりな色淡



第百九十八圖 睡眠病を傳播する蠅が血液に十分をたみもるもの (大倍六)  
(from Marvels)

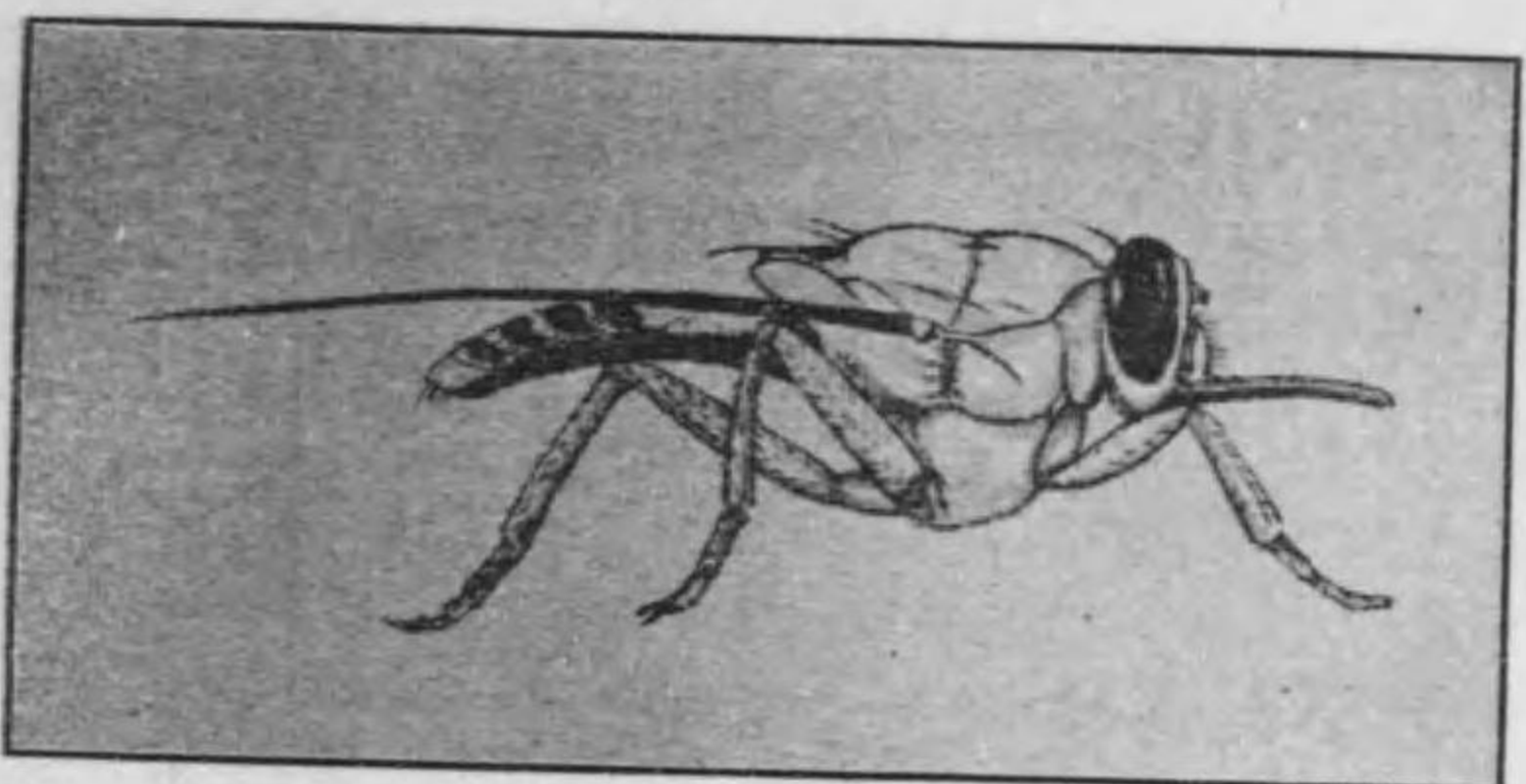
睡眠病を起さしむる原始動物の鞭毛蟲類なるトリパノゾーマ・ガンビエンセ (*Trypanosoma gambiense Dutton*) の病原體及びナガナ (*Nagana*) 一名ツエツエ病と稱する亞弗利加サハラ以内に流行する、有蹄類の疾病の病原體なる、トリパノゾーマ・ブルケイ (*Trypanosoma Brucei Pinner et Bradford*) を傳播するものとして知られて居る。ツエツエ蠅には約十五種あるが、一種アラビアの南西隅に到るまで分布するものを除き、總べて亞弗利加の熱帶地方に限りて産する。而して人類の睡眠病を人より、人に傳染せしむるものは、グロツシナ・バルバリス (*Glossina palpalis*) にして、またグロツシナ・フアスカ (*Glossina fuscipes*) 及び

グロツシナ・タキノイデス (*Glossina tachinoides*) も、恐くは傳播をなすならんも、確定ならすといふ。又ナガナ病を傳播するものは、主としてグロツシナ・モルシタンス (*Glossina morsitans*) でグロツシナ・パリヂベス (*Glossina pallidipes*)、グロツシナ・タキノイデス (*Glossina tachinoides*) も、同様に病原體を傳播するといふことである。



第百十九圖 睡眠病を運ぶ蠅が翅を畳み (大半倍五) 靜るせし (from Marvels)

ツエツエ蠅は小形の種類にては、體長は殆んど二分一厘位であるが、大形種にては、四分二厘位ありて、色は暗褐色なるあり、或は黒色を帯べるあり、或は黒



第九十一圖 フエツエツ 蠅

色なるあり、或は黄褐色のものがある。總べて嘴を使用せぬ時は、水平に頭の前面に突出させる。又静止する時の翅の位置は、一種特獨の姿勢にして、家蠅の如く翅の先端に於て分離することをなさずして、兩翅は背上に於て相重さね、且つ扁平に閉ぢ、其の形状も西洋缺の刃を合せたるやうである。而して翅は體の後部よりは、遙に後方に伸出する。雌雄共に血液を吸吮して生活し、人類、野獸、家畜鳥類及び爬蟲類を攻撃するのである。腹部は卵形にして、平時は甚だ瘦せて居るが、一たび寄主に止りて吸血するときは、僅か二十秒乃至四十秒にして、球狀に膨脹するのである。舉動敏捷なれども、飛ぶ際音を發せぬといふことである。

産卵の方法は、他の蠅類と異り、一種奇態にして、卵は雌の輸卵管中にありて、此處にて支へられて成育して幼蟲となり、毎回唯一仔を産むのみである。幼蟲は母體を出るや、緩き砂質の地中に穴を穿ちて、堅き暗褐色若くは黒色の蛹となり、凡そ五週間後に成蟲となるのである。

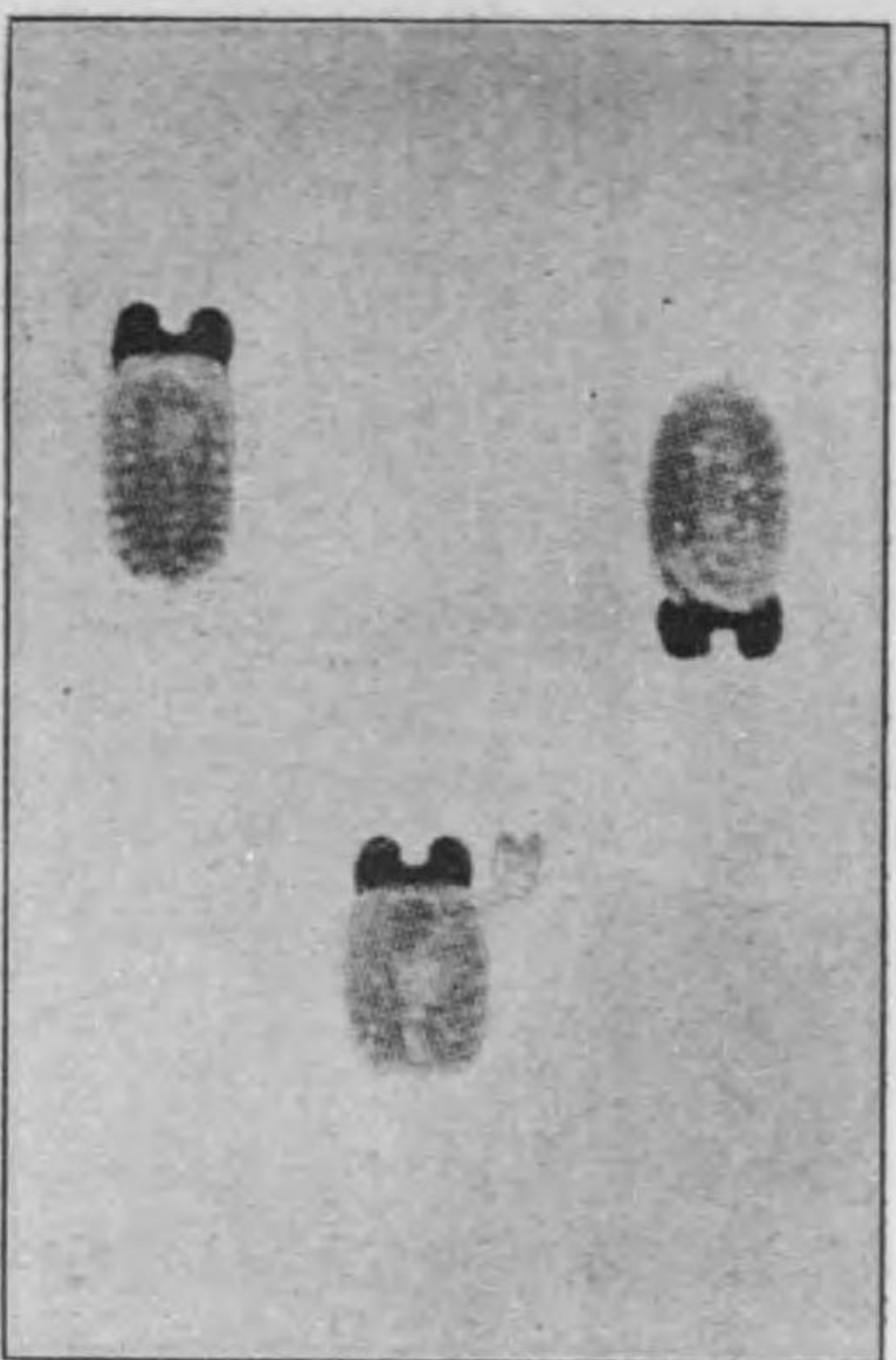
### 第三亞目 蝨蠅類

(Pupipara)

#### (一) 蝨蠅科

(Hippoboscidae)

本科のものは、哺乳類及び鳥類に寄生し、體は一般に扁平にして幅廣く、翅は長い。尤もヒツジシラミバイ屬 (Melop-



第九十二圖 フエツエツの蛹(後部) には時刻ありて黒色をなせる特徴あり (from Marvels) (大倍四)

hagus) 及びアロホスカ屬 (Allobosca) は前翅を缺いて居る。

(一) ウマシラミバイ *Hippobosca equina* Latr.

馬に寄生する。

(二) イヌシラミバイ *Hippobosca capensis* Oef.

犬に寄生する。

(三) ヒツジシラミバイ *Melophagus ovinus* L.

羊に寄生する。

内外普通動物誌

〔四〕 アチバトシラミバイ *Ornithonyia Aobatonis Mats.*  
アラバトに寄生する。

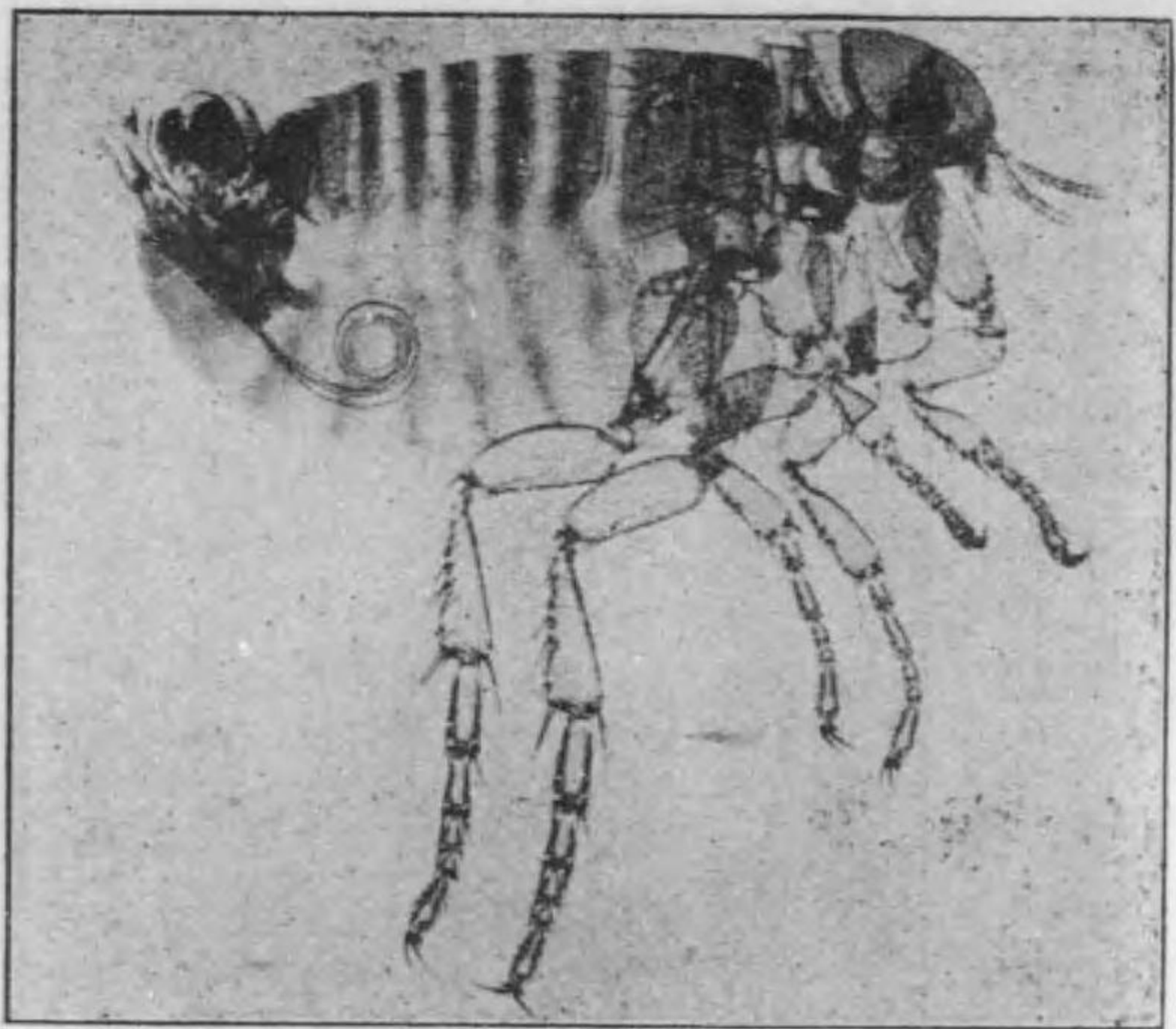
附 録

微翅類 (*Siphonaptera* 又 *Aphaniptera*)

(一) 蚤科 (*Pulexidae*)

普通の蚤は小形の頭部を有し、觸角は短く、頭の前外側に於て前上方より後下方に斜めに走れる觸角溝中に收容せられ、此前に眼があるが、眼は盲蚤にては之を缺いて居る。觸角の状態は蚤の種類によりて異なる。口器は刺螫に適し、下唇鬚などは、種属によりて、その環節の数を異にする。胸部は小さく、後肢はよく發達して跳躍に適する。肢の脛節にある刺は、種類によりて一様でない。腹部の背部の末端に近き處には、圓形の特別なる器官がある。之をヒギジウムと名づけ、其の前にある毛列は、蚤の種属の鑑別に必要なものである。成蟲は哺乳類、鳥類等に寄生し、幼蟲は圓筒状にして、淡黄白色を呈し、咀嚼口を有し、以つて固體を咀嚼するに適するのである。

〔一〕 蚤 又 人蚤 *Pulex irritans L.*



(after A. Banfield.) 雄の蚤人 圖三十九第



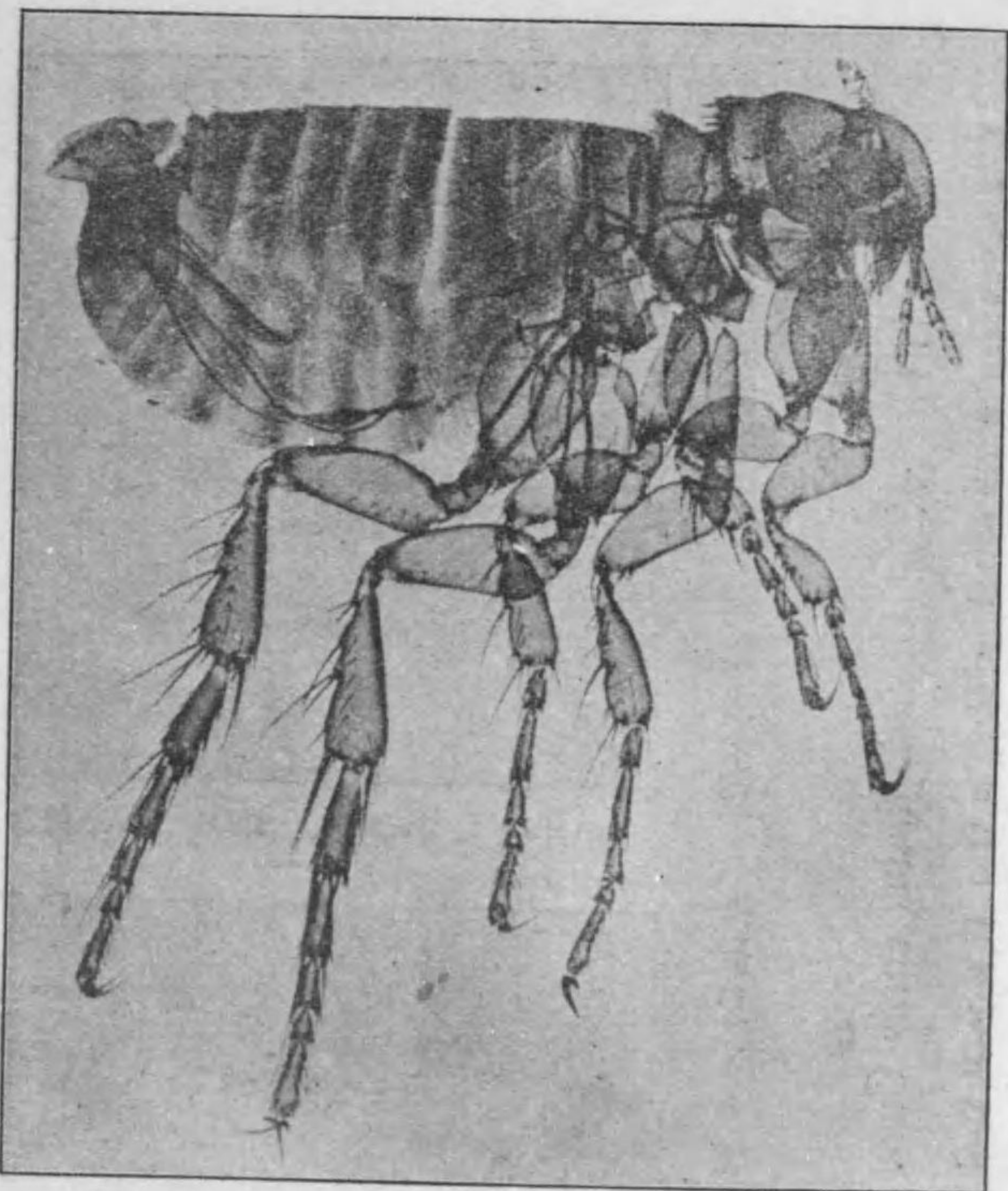
こるす曲彎に方下は部後の體) 雌の蚤人 圖四十九第  
(after J. J. Ward) (る異と雄がと)

人に最も普通にして、また猿、犬、猫、鼠にも發見する。體軀は圓味を帯び、一般に褐色が濃く、全身の毛は少いのである。

〔二〕 犬蚤 *Ctenocephalus canis Curt.*

猫蚤 (*Ctenocephalus felis* Bonche) も本種と同一種なりとの説がある。

内外普通動物誌



第九十五圖 犬蚤の雄 (after A. Banfield)

本種は犬猫に寄生し、また稀に人にも寄生する。體の大きさ、色彩、形狀等は、大體前種と似たのであるが、口圍の剛毛列は、大抵一側七本で、恰も人の鬚の如く、下方を向いて居る。

〔三〕 印度蚤

*Pulex cheopis*  
Rothschild.

鼠屬に寄生する蚤にして、時々鼠より離れて猫及び人に着くことが多い。印度のベストを傳搬するに大なる危険あることが證明せられ、又明治四十一年十二月發表せられたる醫學博士北里度のベスト調査委員の研究でも、他の鼠蚤よりは、この種がベストを傳搬するに大なる危険あることが證明せられ、又明治四十一年十二月發表せられたる醫學博士北里

柴三郎氏、醫學博士宮島幹之助氏、理學士小泉丹氏、高野親雄の四氏が同年兵庫縣津名郡由良町に於ける、ベスト流行の際の研究成績によつても、本種が最も多く、家鼠に附著し、以つてベスト病を傳染するものなることが判然したのである。斯く由良町に於て發見せる印度蚤は、熱帶地方、殊に印度、亞弗利加、濠太利亞、フィリッピン諸島に廣く、且つ最も多數に分布せる種である。この蚤は船舶によつて、由良町以外、大阪、神戸、横濱、東京などにも擴がり、印度南清の諸港を経て來れる外國船の鼠に附著せるものは、悉く印度蚤なりしといふ。人蚤に比して遙に小さく、雌雄の差餘り甚しくない。體長は雄は四五厘、雌は五六厘である。全體濃黃褐色にして、眼は黒く、體軀には剛毛を多く生じ、跗節は細い。

〔四〕 鼠蚤 *Ceratophyllus anisus* Rothschild.

本邦鼠蚤中最も普通のものにして、本邦固有のものである。宿主を轉移すること少きを以つて、ベストの流行上に及ぼす影響は、決して大ならずといふ。

〔五〕 盲蚤 *Ctenopsyllus musculi* Duges.

鼠に寄生する蚤なれども、宿主を轉移すること少きを以て、ベスト流行上に及ぼす影響は大ならずとす。雄は體長七八厘なるも、體長の割合に細長く、全體淡黃褐色を呈

し、頭部の下側面に四個宛と、前胸部の後縁に、多数の太き附屬物がある。

[六] スナノミ *Sarcopsylla penetrans* L.

南米に産する蚤にして、雄は砂中に棲めども、雌は人類其他の哺乳類の足に侵入して、其の部に卵子を産む。孵化せる幼蟲は足に潰瘍を生ずる。而して體は球形に膨大し、口吻は甚だ長くして、體長と同一である。背には一白斑を有する褐色種である。

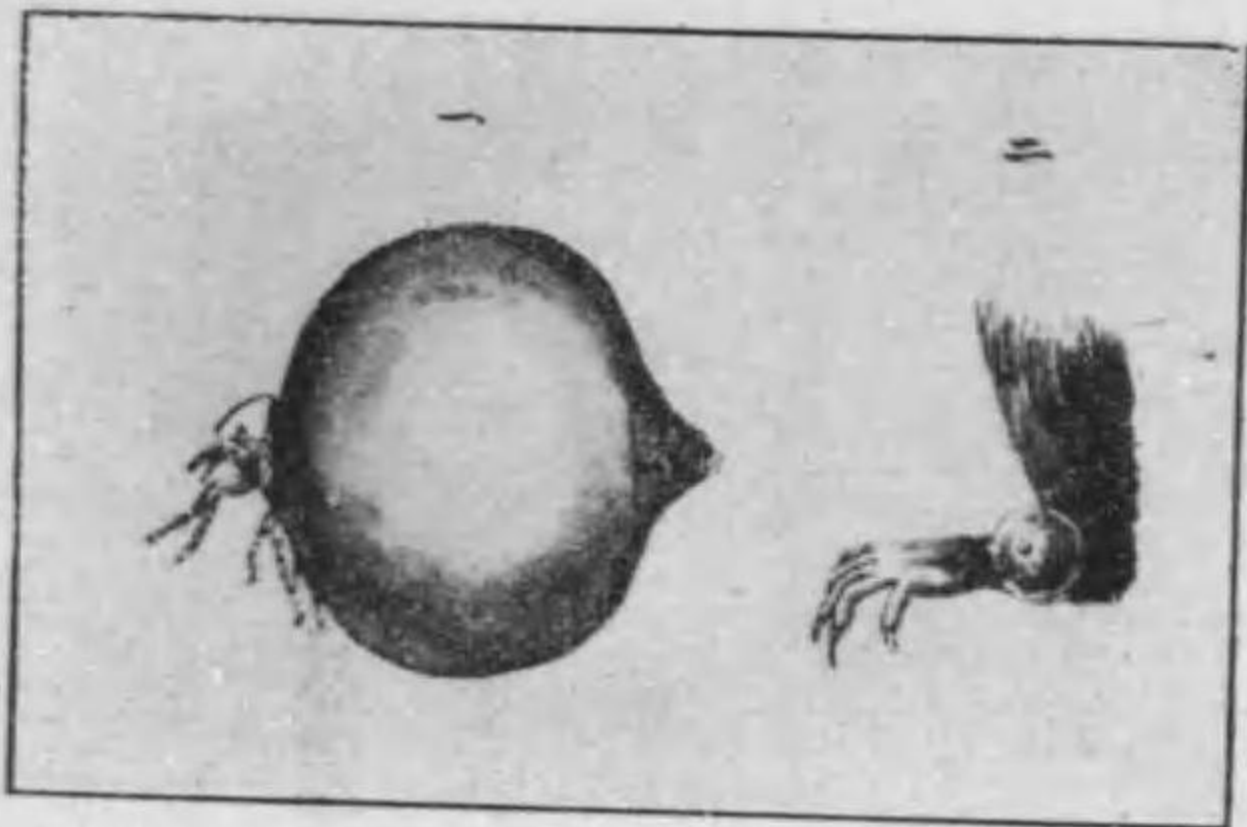
第四目 鱗翅類 (Lepidoptera) 又有舌類

(Glossata)

鱗翅類を分ちて次の二亞目とする。

第一亞目 蝶類 (Rhopalocera)

觸角は棍棒狀にして、翅は大略三角形をなすを以つて三個の縁邊を有する。即ち前縁 (Costal margin) 外縁 (Outer margin) 及び内縁 (Inner margin) これである。また翅の基部の前縁に於ける終りの角を肩角 (Humeral Angle) といひ、前縁と外縁とより成れる角を前角一名翅頂 (Apex) といひ、内外兩縁のなす角を、後角一名臀角 (Anal angle) といふ。而して



野と(一) 雌るせ娠妊のミノナス 圖六十九第 (Rhynchoprion) 蟲幼るせ着附に足の鼠 (after H. Karsten)

後翅の前縁の基部に肩角刺を缺く。體軀は割合に小形にして、翅は體に比して遙かに大形である。而して捩蝶科を除き、皆後肢の脛節には、分明なる脛刺と、脛側刺とを缺いて居る。蝶類は晝間飛翔し、靜止の時は翅を直立せしめる。これは翅の表面は裏面に比して遙かに鮮麗なるを以つて、敵に發見せられざる爲めに、かく翅を直立せしむるものなりといふ。

第二亞目 蛾類 (Heterocera)

觸角は鞭狀、絲狀羽狀若くは紡錘狀等をなし、後翅の前縁基部には、肩角刺を有するが常であるが、又之を缺けるものがある。體は割合に肥大するに反して、翅は小形である。多くは夜間出で、飛翔すれども、また中にはセスヂスマメ、スヂグロスキバ、ホウシヤク、マイマイガ、アカモンドクガ、トンボエダシヤク、カノコガ及び硝子蛾科等の如く、晝間出で、飛翔するものがある。後肢の脛節には、分明なる脛刺と、脛側刺とを有する。而して靜止の時は、翅を屋背狀に置くのである。

第一亞目 蝶類 (Rhopalocera)



(一) 鳳蝶科 (Papilionidae)

二二四

大形の蝶にして、後翅には通常燕尾状のものを有する。幼蟲は多くは裸にして、毛を有するものは稀れである。また其の胸部の第一節には、二個の肉角を有する。蛹は絲にて身體を縊り、尾端にて他物に附着する。

[一] アゲハ *Papilio xuthus* L.

春形は此の種の變種 (Var. *xuthus* Brem.) にして形狀は小さく、翅の開張一寸六分乃至二寸位で、また黄色部が多い。而して夏季に現出するものは原種にして、體は肥大し、且つ黑色部を増して居る。原種は本邦何れの地にも普通なれども、臺灣には稀れである。又變種は北海道には多しと雖も、本邦の暖國には産せざるが如しといふ。本種の前翅の中央室には、綠黄色なる四條の點線ありて、縦に排列さる。而して年三回發生し、蛹にて越冬する。幼蟲は始めは茶褐色に黄白色を交へ、恰も鳥糞の如くであるが、其後は暗綠色となり、眼状紋と馬蹄紋とを有し、所謂警戒色を現出する。而してサンセウ、イヌザンセウ、柑橘類の葉を食するのである。

[二] キアゲハ *Papilio machaon* L.

極めて廣く分布し、殆んど世界到る處として産せざる所はない。原種は早春より出

づれども、變種 (Var. *hyppocrates* Falst.) は夏季に現出する。前翅は黒色にして三列の黄斑を有し、其の中央室にあるものは大きく、且つ二個である。春生種は形小さく、色澤淡けれども、夏生種は形大きく、且つ色澤は濃いのである。幼蟲はニンジン、ウキヤウ、ミツバ、セリ、防風等を害する。年三回の發生にして蛹にて越冬する。

[三] クロアゲハ *Papilio demetrius* Gram.

雄は後翅の前縁には淡黄白色の半月紋と、後縁角には赤紋とを有し、雌は後翅裏面には黄白色の半月紋を缺き、又表面に於ける半月形の赤紋には多少の差がある。

[四] カラスバアゲハ *Papilio bianor* Gram.

體翅共に天鵝絨様の光澤あり、翅には藍色鱗を散在し、後翅の尾状部は短く、内縁角には赤色の大紋ありて、其の中には黒紋を有する。又外縁に近く半月形の赤紋を有する。原種は九州及び臺灣地方には稀ならざるも、未だ北海道には發見せられないといふ。然し春生 (*Majalis* Setz.) は稀ならずといふ。而して最も普通なるは *Maackii* Mén にして、春生を *Paddai* Brem. といふ。變種 *dehani* Feld は本邦には稀ならざる種類にして、其の春生を *jaonica* Butl. といふ。分布は甚だ廣く、樺太、北海道、本州、四國、九州、琉球、臺灣、支那及び朝鮮なりとす。(博物の友第四十八號所載、理學博士松村松年氏の、本邦の鳳蝶に就てに據る) 幼蟲は柑橘類を食し、また青森縣

にありてはキハダを食するといふ。

〔五〕 姫岐阜蝶 又東北岐阜蝶 *Luedorfa puziloi* Ersch.

東北地方に多く産する。幼蟲はウスバサイシンを食し成蟲は三月下旬より四月に亘りて現出する。また岐阜蝶一名ダンダラテフ (Var. japonica Leech) は明治十六年四月名和靖氏が始めて岐阜縣郡上郡祖師村にて採集せるものであるが、幼蟲は同じくウスバサイシンを食するのである。

〔六〕 日光白蝶 又ウスバシロテフ *Parnassius stubendorfi*

*Mén. var. citrinarius* Motsch.

本州にありては高山の谷間に産するが、北海道にては平地に普通である。體毛と翅とは黄色、若くは淡黄色をなし、北海道にては六月中旬に發生する。而して樺太に産するものは、白色の原種 (*Parnassius stubendorfi* Mén.) にして、六月下旬若くは七月上旬に發生する。而して此原種は、滿洲及西比利亞地方にも産するといふ。(博物の友第七十號小椋樺氏南樺太の蝶類に據る)

(II) 粉蝶科 (Pieridae)

白色若くは黄色の中庸大の蝶にして、常に花園、原野、森林中、若くは其の附近の廣濶地に飛翔する。後翅の内縁は凹んで居ないことは、鳳蝶科と異なる所である。幼蟲は圓筒

狀にして、通例綠色をなし、且短毛を有する。また頸部には肉角を缺き、蛹化するときは、絹絲を以つて、自體を繅るのである。

〔一〕 モンシロテフ 又ツマグロテフ *Pieris Rapae* L.

前後翅共に白色にして、前翅には二個の暗褐點を有し、前縁角部は暗褐色で、基部及び前縁は稍黒味を帯びて居る。後翅は前縁に暗褐色の小點を有し、翅底は黒味を帯びて居る。而して發生の時期により、大小色澤を異にする。春生種は形小さく、夏生種に比すれば黒斑少く、特に雄に於ては翅の表面殆んど無紋の有様である。幼蟲は綠色にして、ダイコン、ハボタン、アブラナ、カブラ、イヌガラシの如き十字花科植物を食する。外、白花菜科のクレオメサウをも食するといふ。(據矢野宗幹氏發生回数は深井武司氏に據れば、博物の友第五十二號参照) 埼玉縣下にては年五回である。氏が年々實驗せる所より綜合せるものを見ると、第一回は蛹にて越冬せるものが羽化發生するものにして、四月上旬に多く、主にアブラナとハボタンに産卵する。第二回は六月上旬に發生し、同じくハボタンに産卵すれども、亦イヌガラシにも産卵することがある。第三回は七月中旬に發生し、第四回は八月中旬に發生し、兩回共に各種の菜類に産卵する。第五回は九月中下旬に發生し、ダイコン、カブラ及び菜類に産卵する。而して第五回の幼蟲は、大抵十月下旬若

くは十一月月上旬に至り、小屋納屋の檐、木材の下、枯木の皮目、塀垣等雨露を防げる所にありて、帯蛹となりて越冬する。但しこの發生回数は、地方と年とによりて不同である。

〔二〕 スヂグロテフ *Pieris napi* L.

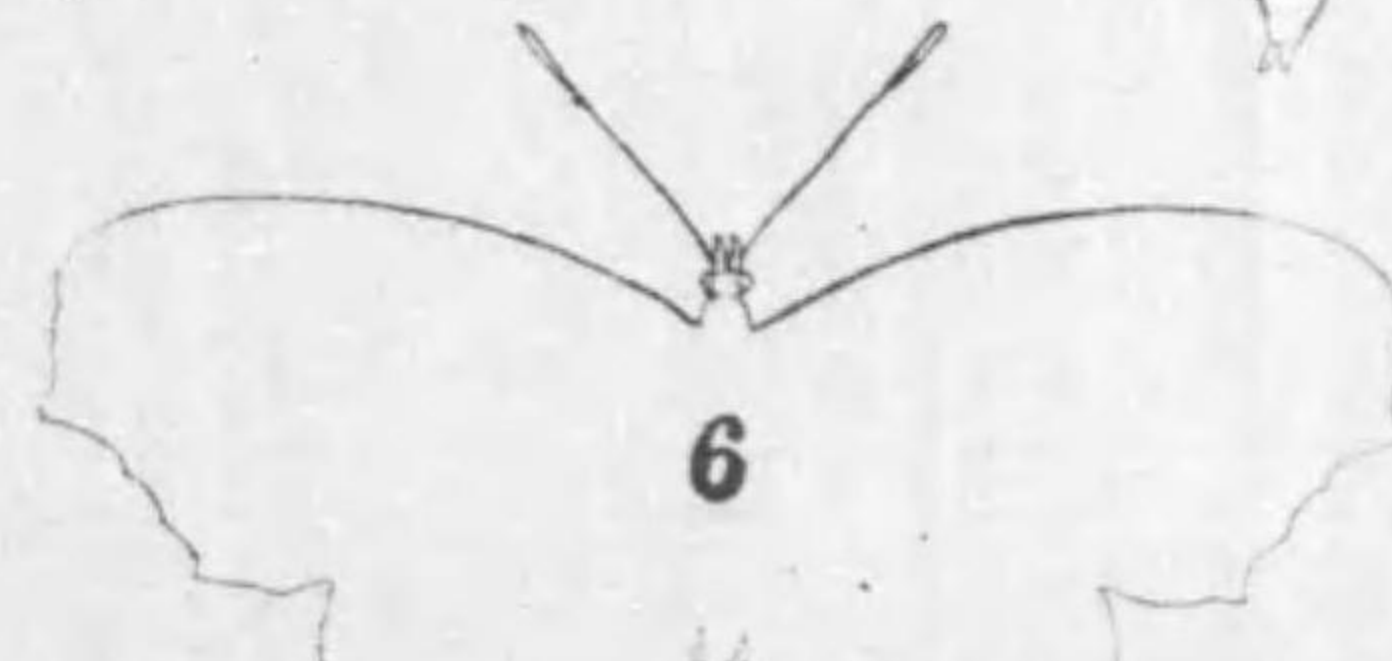
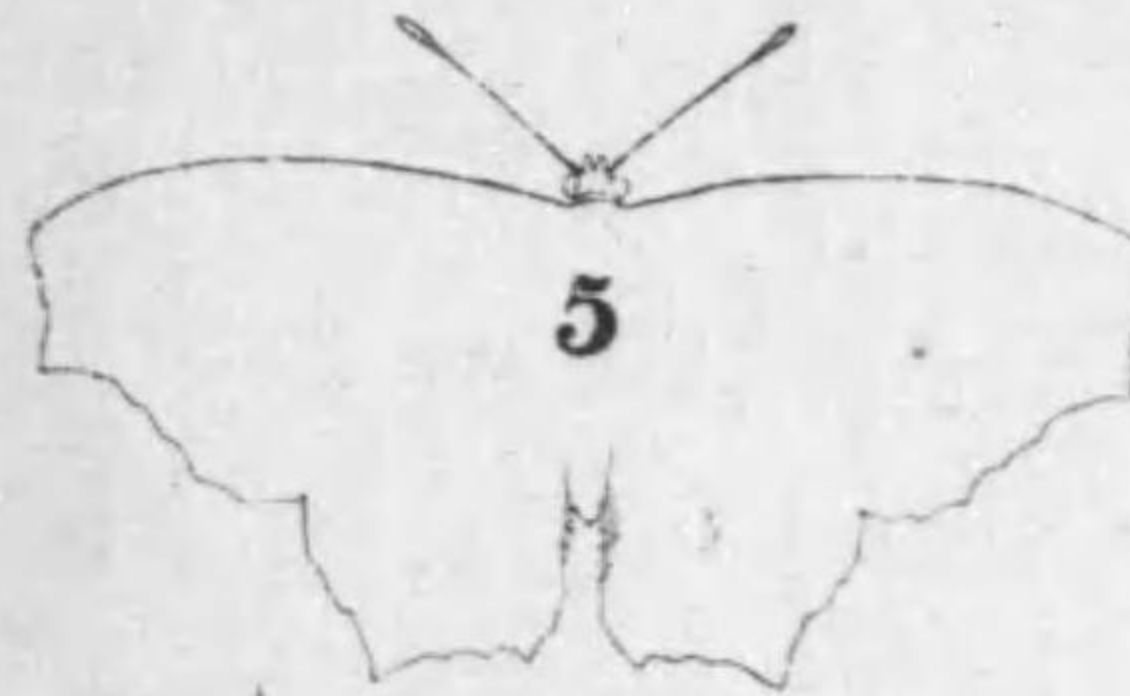
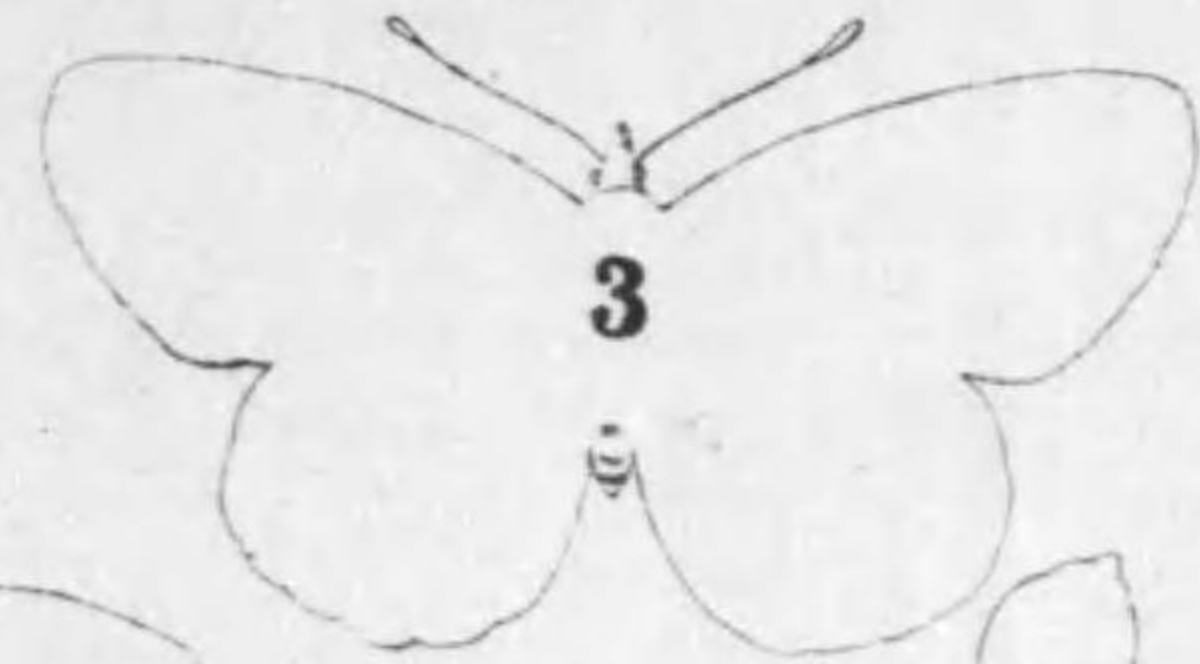
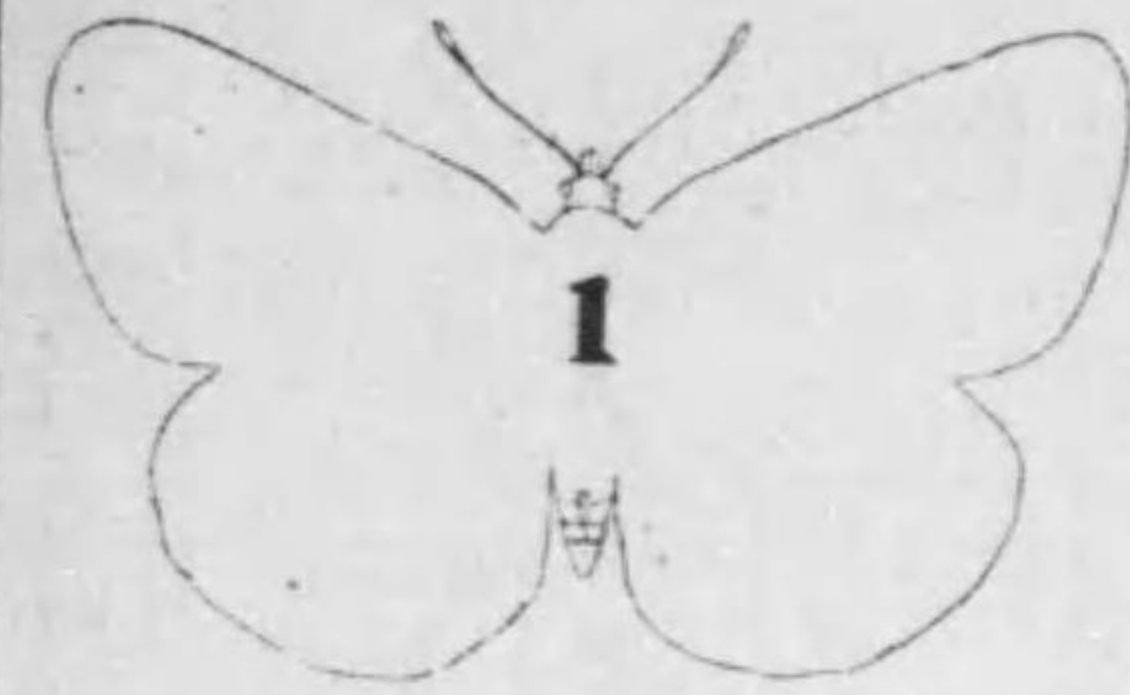
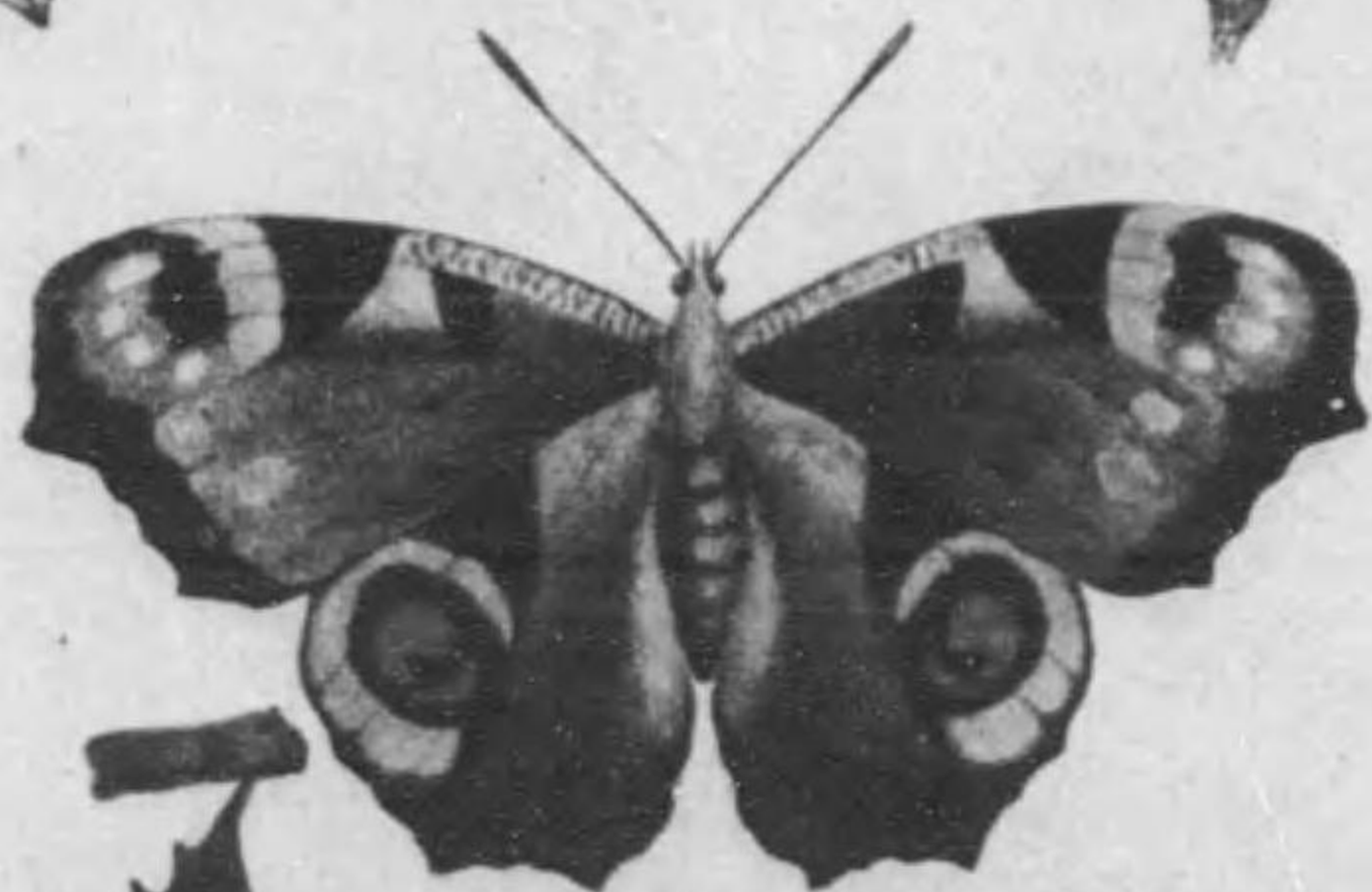
翅は白く、翅脈は黒い。而して發生の時期により、大小色彩に變化がある。

〔三〕 ツマキテフ *Euchloe scolymus* Butl.

小形の蝶にして、前翅の翅端には、橙黄色の斑紋あれども、雌にては之を缺く。

〔四〕 モンキテフ又越年蝶 *Colias hyale* L.

全國到る處に普通である。雄は皆黄色なれども、雌には黄色のものと、帯黄白色のものがある。前翅の中央部には黒點を有し、後翅の中央部には橙黄色の斑紋を有する。而して色彩は春生と夏生とに因りて異なる。幼蟲はカラスノエンドウ、スマメノエンドウ、ウマゴヤシ、ヤハズサウ及びレンゲサウの如き野生の豆科植物を害すれども、東北地方にてはルーサン (*Medicago balcata* Schiva; *M. sativa*) を稱する牧草に、大慘害を與へたことありといふ。成蟲にて越冬する。一にまた越年蝶と稱すれども、蝶類には他にもヤマキテフ、ヒオドシテフ、ヒメアカタテバ、ルリタテバ、ウラギンシヤミ等の如く、成蟲にて越冬するものがある。



*Handwritten text:*  
 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.  
 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.



フチヒメヒ5 蛹フテロシンモ4 フテロシンモ3 蟲幼フテキンモ2 フテキンモ1  
 蟲幼フテクヤツク8 蛹フテクヤツク7 フテクヤツク6 シ

[五] キテフ *Terias hecabe* L.

早春に現はるゝものは前翅の外縁の黒色部は少く、中には全く翅の表面無紋のものがある。其の夏月に現出するものは前翅の外縁に黒斑を有する。而して翅の裏面には褐色の斑紋がある。幼蟲は綠色にして、メドハギ及びミヤコグサ等を食するのである。

[六] ツマゲロキテフ *Terias laeta* Boissl.

夏生種にありては、殆んどキテフと區別し難きものあれども、前翅の前縁角の尖れると、外縁の一直線をなし、且つ後翅には一條の褐色線を有するを以つて區別せらる。

[三] 蛺蝶科 (*Nymphalidae*)

中庸大若くは大形の蝶にして、概して輝ける色彩を有する。前肢は退化して爪を缺き、幼蟲は通常分岐せる長形の太き刺毛を帯び、蛹は尾端を以つて垂下し、隆起部が多いのである。

[一] コノハテフ *Kallima inachis* Boissl.

翅の表面は黒色に、青藍色を交へ、前翅には著しき橙色の幅廣き斜帯を有し、美なれども、裏面は木葉其儘である。黒岩恒氏及び森宗太郎氏の觀察によれば、頭部を下方に

向けて倒に静止するといふ。これ枯葉の俛<sup>た</sup>れて、特に枝を辭せんとする瞬間に似て居る。

〔二〕 オホムラサキ又ムラサキテフ *Euripus charonda* Hew.

雄は前後兩翅の基部に美なる紫色を呈し、裏面は前翅の先端及び後翅一面に、青黄色を呈すれども、雌は裏面青白色である。余は明治四十四年七月四日川越の竹藪にて本種の羽化して間もなきものを採集し、また同年同月六日埼玉縣比企郡八保村産のものにて羽化して間もなきものを得たのである。本種はナラの樹液を吸吮する爲めにナラ林に多く飛翔すれども、高く飛ぶを以つて完全なる標本を採集し難いのである。而して之を採集するには、雌を籠に入れて、雄を誘致するのがよいといふのである。

〔三〕 ゴマダラテフ *Hestina japonica* Feld.

翅は黒色にして白色の斑紋を有するが、發生の時期によりて翅色斑紋には變化がある。幼蟲はエノキの葉を食する。

〔四〕 コムラサキ *Apatura ilia* Hb.

翅の表面は黄褐色にして、基部中央及び縁邊は黒褐色である。雄の翅面は見方によりて美麗なる紫光を放てども、雌にては之を缺いて居る。幼蟲は柳等を食する。

〔五〕 アカタテバ

*Pyrameis indica* Hbst.

全國到る處に分布し、翅面は黒褐色の地に、黄赤色の斑紋ありて、頗る美麗である。

〔六〕 ヒメアカタテバ

*Pyrameis cardui* L.

前種に似たるも、翅色は稍淡く、且つ黄色部多く、前翅の翅底は茶褐色で、中央は帯赤棒色にして黒斑を有し、これより先端は黒く、且つ白紋を有する。後翅も翅底の大部分は、赤褐色にして黒斑を有する。幼蟲は牛蒡<sup>ごぼう</sup>及びアザミを害するの



第 七 十 九 圖 フテラダマゴ

にして細毛を生じ、中央より端には、黒斑を有する。幼蟲は牛蒡<sup>ごぼう</sup>及びアザミを害するのである。

〔七〕 クジヤクテフ *Vanessa io* L.

翅の表面は朱黒色にして、孔雀紋を有する。北海道及び奥羽には普通なれども、これより以南の山地にては稀れに見る。而して本種の發生期は信州淺間山地方にては、九

月上旬以後にして、樺太にては小熊樺氏によれば、八月十日に到りて蛹を出でたりといふ。埼玉縣下秩父地方にては、七月頃より九月頃に現出する。余は嘗つて川越町の西約三十丁の入間郡上寺山の杉林にて採集せりといふ一標品を得たのである。

〔八〕 ヒチドシテフ *Vanessa xanthomelas* Esp.

翅の表面は樺色にして、黒色と黄褐色の斑紋を有して美なるも、裏面は黒褐色にして樹皮に酷似する。幼蟲はエノキ、ヤナギ等を害する。

〔九〕 ヒメヒチドシ *Vanessa urticae* L.

前種に似れども小さく、翅は角張り、表面は美赤黄色にして、外縁には美なる藍青色の點列を有する。幼蟲は蕁麻類の葉を害するのである。

〔一〇〕 ウラギンヘウモン *Argynnis adippe* L.

後翅の裏面は、緑黄色に稍褐色を混じ、多數の銀紋を有し、外縁に沿へる銀紋は、半月形にして一列をなす。

〔一一〕 オホウラギンヘウモン *Argynnis nerippe* Feld.

後翅の裏面の外縁に沿へる銀紋はB字形である。

〔一二〕 ウラギンスヂヘウモン *Argynnis loadice* Pall.

後翅の裏面は殆んど中央に於て、前縁より後縁に亘り、切々なる銀紋列ありて二分し、外縁に沿へる部は褐色である。

〔一三〕 オホウラギンスヂヘウモン

*Argynnis rutilana* Motsch.

前種に似れども、前翅の前縁角は長く延び、且つ後翅裏面の黄色部にある褐色線は細く且つ直線状である。

〔一四〕 メスグロヘウモン *Argynnis sagana* Dbl.

雌は表面一般に黒色にして、藍色を混じ、前翅の中央に二個、及び前縁角に近く數個の白斑ありて、横に列んで居る。雄は翅色橙黄にして、前翅には外縁に平行して二列に黒色紋を有し、其の内方には六個の黒色紋がある。

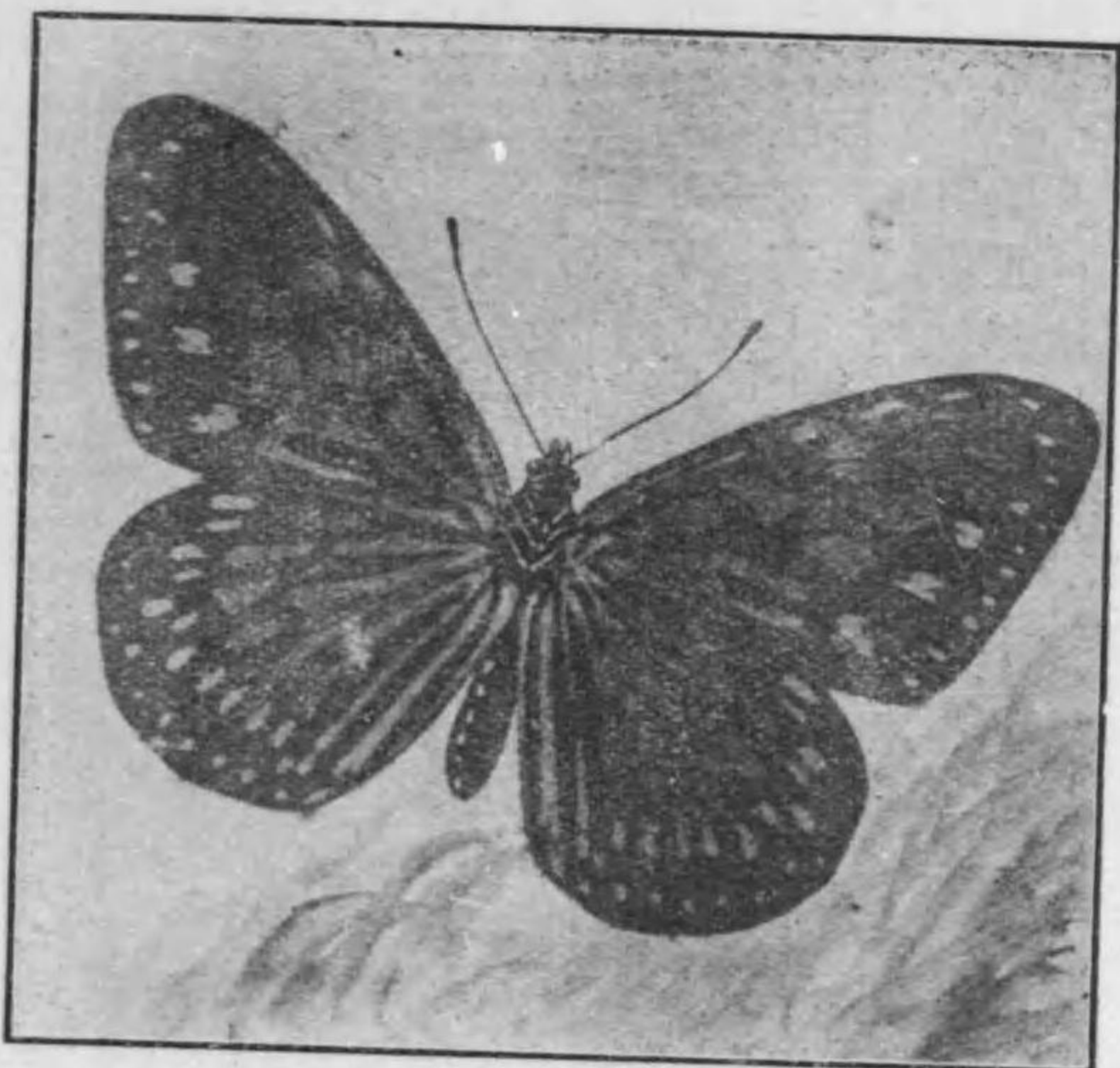
〔一五〕 クモガタヘウモン *Argynnis anadyomene* Feld.

翅の表面は帯赤黄色にして、一帯に黒色の斑紋を有し、後翅の裏面は、帯緑黄色に少しく白色の雲状紋を有する。總べてヘウモンテフの雄にありては、前翅表面の翅脈上に、一種の臭氣を發する鱗毛を有するのである。

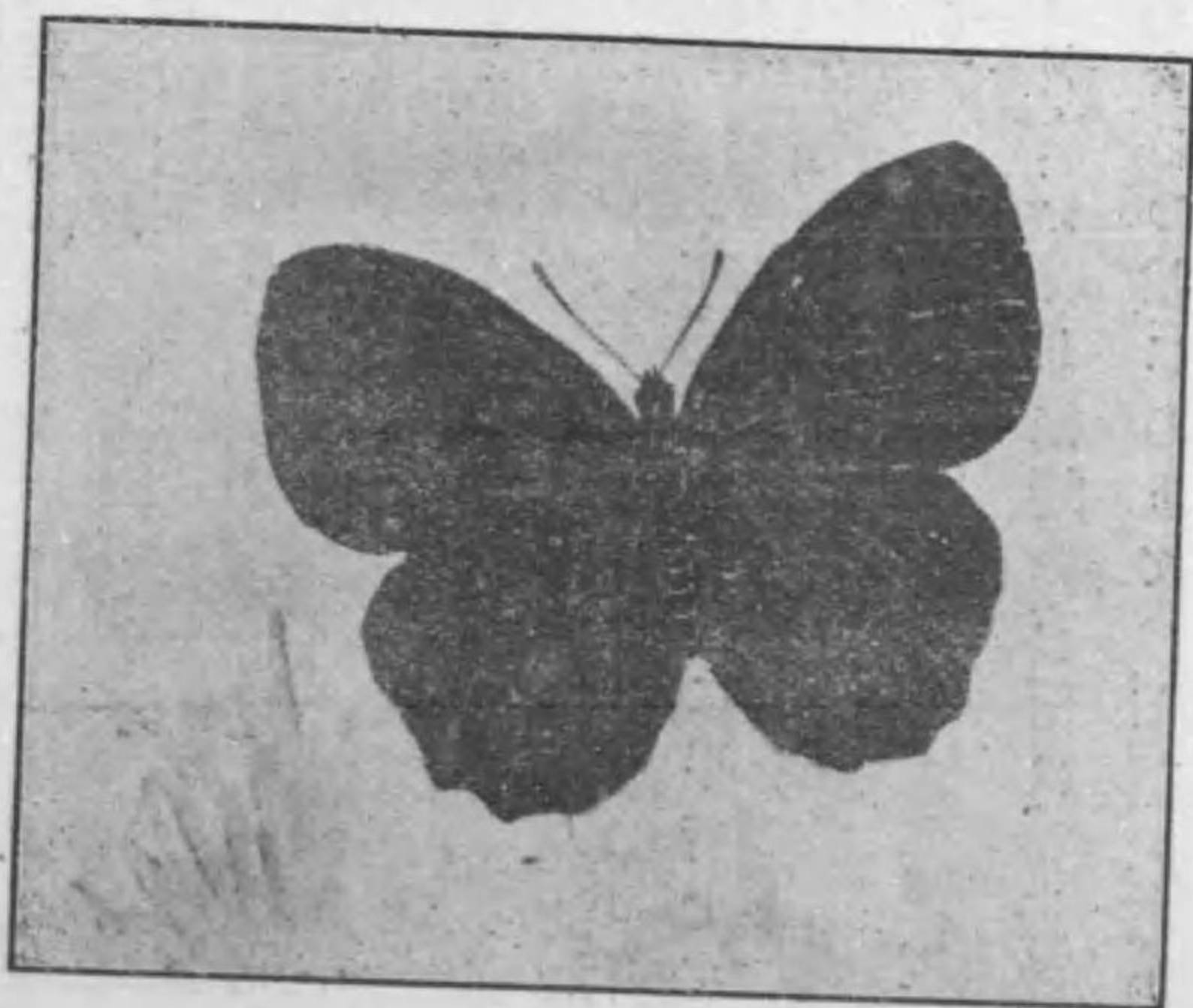
〔一六〕 リウキウアサギマダラ *Radena vulgaris* Butl.

翅は黒褐色にして、淡青色の斑紋を多く散布し、前翅には、外縁に白點列あり、後翅内縁の縦條と、外縁の點列とは、白色を呈する。琉球に産し、七八月頃現出する。

二三四



ラダマギサアウキウリ 圖八十九第



フタメノヤジ 圖九十九第

〔一七〕 ジヤノメテフ *Satyrus dryas* Scop.

翅の表面は暗褐色にして、前翅にある二個の黒紋は、中心に淡碧色の小點を有し、後

翅の臀角に近く一小黒紋を有する。

〔一八〕 ヒメウラナミジヤノメ又ヒメジヤノメ

*Ypthina argus* Butl.

翅の表面は暗褐色にして、裏面は灰白色に黄褐色を帯びて、暗褐色の漣狀あざなの條紋を有する。

〔一九〕 ヒカゲテフ *Icthyopsis* Hew.

翅表面は帶黄褐色にして、前翅の中央には淡色をなせる横帶を有し、後翅には眼狀紋四個を有する。常に日蔭に飛翔する。

〔二〇〕 クロヒカゲ *Icthyopsis* Butl.

前種よりは小さく、後翅は黒褐色の線條あるのみにして、且つ濃紋は比較的に大きいのである。

(四) 小灰蝶科 (*Lycenidae*)

多くは小形美麗なる蝶である。幼蟲は扁平橢圓狀にして、細毛を粗生し、自由に伸縮し、肢は甚だ短い。蛹は短く兩端圓く、自體を縊るものと、又尾端にて懸垂するものがある。



翅表面に濃紫色の部分ありて美麗である。幼蟲は櫟の葉を食す。

〔一〕 ムラサキシバミ *Arihopala japonica* Muir.

〔二〕 ウラギンシバミ又アカシバミ *Curetis acuta* Moor.  
稍小形の蝶にして、體長四分五厘乃至五分内外、翅の開張一寸二分乃至一寸三四分である。雄の前後翅は共に暗茶褐色にして、其他赤橙黄色の部分あり、裏面は前後翅共に銀白色にして光澤がある。而して雌にありては、赤橙黄部は蒼白色に變じて居る。

〔三〕 ヤマトシバミ *Zizera naha* Men.

三月乃至十一月頃普通に現出する小形の蝶にして、雄は翅の表面藍色にして、縁邊は暗褐色であるが、雌にては暗蒼色を呈する。又翅の裏面は雌雄共に灰色にして、中室には黒點と黒條を有し、稍外部には、一列に八黒點を有する。幼蟲はカタバミの類を食ふ。

〔四〕 ベニシバミ *Chrysophanus phlaeus* L.

前翅は紅色にして、八九個の黒點を散在し、後翅は暗褐色にして、外縁部には紅色の凸凹帯を有する。而して夏生種は春生種に比して、色は濃いのである。

〔五〕 シモフリシバミ又ゴイシウラバシバミテフ

*Taraka hanada* Boisid.

翅は暗灰色にして裏面は白く、この部には黒色の太き點を散布する。幼蟲は藪林にありて蚜蟲類を食する。

(五) 弄蝶科 (*Hesperidae*)

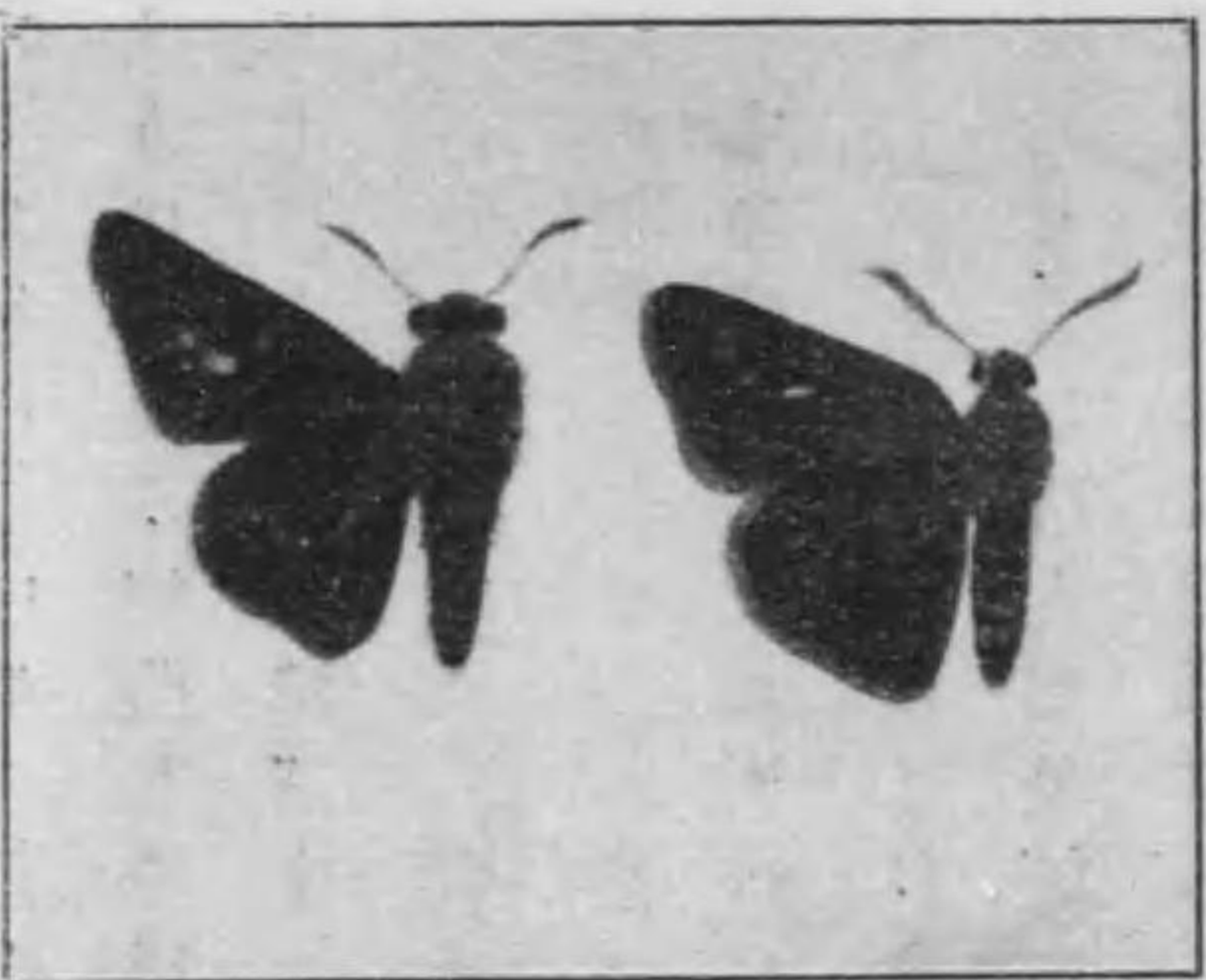
中庸大以下の蝶にして、色彩は暗色を帯び、外形は幾分か天蛾に似て居る。觸角の基部には通例黒色の毛塊を有し、觸角は短く、紡錘狀をなし、末端は少しく彎曲する。翅は短く、翅脈は判然する。而して飛ぶことは迅速である。幼蟲

は紡錘狀をなし、頭大きく、體軀には微細の短毛を有し、普通葉を捲きて其中に棲息する。而して老成するに至れば、枯葉片を以つて粗繭を造り、其中で蛹化するのである。

〔一〕 イチモンジセ、リ又ハマクリム  
シ又ツトムシ又カジ又コウジウ

(以上四項は *Parnara guttatus* Brem.)

體軀はハナセ、リよりは割合に細く、且つ兩翅共にハナセ、リよりは狭い方である。前翅には唯七個の白斑を



第百圖 (左)セ文字、(右)リ、セナハ

有し、後翅には四個の白斑が殆んど一列に並んで居る。また後翅の外縁は、ハナセ、リよりは少しく彎曲して居る。幼蟲は稻及び竹類を害し、絲を吐き葉を綴りて、其中に棲息し、群をなして飛翔することがある。年三四回の發生である。

〔二〕 ハナセ、リ又オホチャバナセ、リ

*Parnara pellicida* Muir.

成蟲はイチモンジセ、リよりは體軀割合に肥大し、胸は割合に細く、前後翅共に廣いのである。前翅には白斑九個を有し、後翅には四五個の白斑あれども、一直線をなすことはない。而して後翅に於ける外縁は、殆んど彎入することはない。幼蟲は多くは葉の葉を捲きて食害するのである。

〔三〕 ダイメウセ、リ *Daimio thety's Mén.*

前後翅共に一様に黒色にして、前翅には大小數個の白斑を有する。山地に多く飛び、静止の時は翅を水平に横へる性がある。幼蟲はナガイモの葉を食ふといふ。

第二亞目 蛾類 (Heterocera)

(一) 天蛾科 (Sphingidae)

體は大形なるか、或は中庸大の蛾で、體軀は肥大し、翅は強壯である。前翅は長く、後縁

は長くして斜めである。後翅は非常に狭小にして、之を擴げても腹部の中央を超へて達することはない。舌は長くして螺旋狀をなすが、稀れに短くして柔軟なるものがある。幼蟲は圓筒狀にして裸出し、通常は第十二節に角狀突起を有する。

本科にはオホスカシバ、ヒメクロホウジャク、ヒメホウジャクの如く、晝間飛翔するものあれども、多くは黄昏より夜間に掛けて飛翔する。其の動作は頗る活潑である。常に其の長き口吻を伸べて花中に挿入し、花蜜を吸収するが、晝間は草叢中、樹幹廢屋に隠れて居る。

今諸家の實驗により本科のもの、來訪する花との關係を示さうと思ふ。クサギの花に來るものには、コスミメ、セスチスマメ等多く、マツヨヒグサの花にはベニスミメ、セスチスマメ、コスミメ等來り、フクシヤの花にはイツボンセスチスマメ(豊前並に山口に於ける矢野宗幹の觀察)、ピロウドスマメ、セスチスマメ等甚だ稀れに來り、カノコユリの花は、天蛾科群集の場所にして、これにはクロホウジャク、ヒメホウジャク、ピロウドスマメ、オホスカシバ、セスチスマメ、コスミメ、時にはエビガラスマメ等がある。其の中セスチスマメ、コスミメは特に多い。又クチナシの花にはセスチスマメ、オホスカシバ飛來する。またエビガラスマメはユフガホの花に多く來る。(博物の友井口宗平氏及び矢野宗幹氏實驗及び三重縣山内甚太郎氏の通信に據る)

余は明治四十二年八月二十二日午後二時頃、埼玉縣入間郡根岸に於て、ステグロスキ  
 パホウシヤクが、コマツナギの花に飛來し、吸蜜せるものを採集したことがある。また  
 嘗つて埼玉縣川越に居住せし際、幸ひ寓居の近傍に一本の合歡（子ムギキ）の樹あるを撰び、少し  
 く其の花に來訪する昆蟲を觀察したことがある。これは合歡（子ムギキ）の花に來る昆蟲と題し  
 て今は廢刊となつた「博物の研究」に寄稿したことがあつたから、茲に再び記録するこ  
 とにする。

頃は明治四十一年の夏七月十六日であつた。今や合歡（子ムギキ）の花が満開である。午後七時半頃か  
 ら少時採集を此花の上に試みた。鞘翅類のドウガネの集來せるものが頗る夥しかつた。その  
 他、天蛾科のヒメホウシヤク及びベニススゞメ各一頭、セスデスゞメ七頭を採集した。午後八時  
 頃にも、セスデスゞメは尙多數花に來遊して、頻りに其の長吻を挿入しつゝあつた。

翌七月十七日、午後一時乃至二時迄に、アゲハを一頭、クロアゲハ一頭を採集し、外に一頭の  
 アゲハを逸した。これは同時に於ける合歡の花に來つた蝶の總數であつた。尤も此日、午前  
 七時四十分頃に、既に花上には、アゲハ二頭、クロアゲハ一頭、及びクロタイマイ一頭の來れる  
 を見たのである。

同日午後三時四十五分乃至四時の間に、ジヤカウアゲハ三頭と、アゲハ及びクロアゲハ各  
 一頭の花に來れるを見た。また午後五時より凡そ十五分間にカラスバアゲハ二頭とジヤカ  
 ウアゲハ一頭を採集したのである。

同日、午後五時二十分頃に、天蛾科のベニススゞメ二頭始めて飛來し、頻りに花蜜を嘗めて居  
 つた。此時東方から風の稍烈しいのが吹き來つて、該樹の枝は頗る動搖し居つたのである。ま  
 た午後六時二十分頃から、同七時四十分までにセスデスゞメ七頭とベニススゞメ三頭、コトラ  
 マルハナバチ二頭、アシナガバチ屬一種二頭、ヒメクロホウシヤク一頭、ピロウドスゞメ三頭  
 を得た。

翌十八日は晴天であつたが、雲は頗る多く空に亘つて居つた。午前十一時乃至同四十五分  
 迄に、クロアゲハ六頭とアゲハ三頭が花に飛來て、間もなく彼方に飛んで行つた。午後一時三  
 十五分乃至二時十分迄に、アゲハ二頭とクロアゲハ四頭とが來遊し、更らに午後二時三十五  
 分乃至三時十分迄にアゲハ一及びクロアゲハ三頭を採集したのである。

翌十九日は午後三時過ぎから驟雨があつて、夕刻空は晴れたが、六時三十五分始めて、一疋  
 の天蛾科のものが飛來し、同時より七時四十五分迄に、セスデスゞメ十五頭、ベニススゞメ三頭  
 ヒメホウシヤク一頭、エビガラスゞメ一頭、及びピロウドスゞメ二頭を採集したのである。

七月二十日は晴天であつたが、あまり暑くはなかつた。然し風は無い。午後三時から僅に十  
 五分間にアゲハ四頭、クロアゲハ三頭外にクロタイマイが一頭飛び來つた。午後六時十五分  
 始めて天蛾一頭飛來し始め、同時より七時四十分迄に、トビロスゞメ二頭、ピロウドスゞメ三  
 頭、セスデスゞメ四頭、ヒメクロホウシヤク一頭、計十頭の天蛾を採集したが、當時、合歡に集合  
 した天蛾の總數は、この二倍半はあつたと概算したのである。

翌二十一日、午後一時乃至二時迄に、アゲハ二頭、カラスバアゲハ一頭及びクロアゲハ四頭  
 を採集した。午後三時ジヤカウアゲハ一頭の來るを見た。午後六時二十分始めてセスデスゞ

メ来り、凡そ十分間に此種を五頭と外にホリジャク二頭を得た。此際コアヲハナムグリの花に集まれるを見る。

二十二日は午後驟雨あり、夕刻雨暫く止みたるを以て、又々合歡の樹下に立ちしに、午後六時二十分に始めて天蛾の一種、花に飛來したり。採集を試みしに、再び猛雨沛然として到りし爲めに僅にコスヾメ五頭とセスヂスヾメ三頭とを得たるのみで、觀察を中絶した。

二十三日は雨天なりしも、幸ひに雨の止みたる時を見計ひ、午後六時四十分乃至七時四十分迄に、セスヂスヾメ九頭、ピロウドスヾメ一頭と夜蛾科のツマキンウハバ三頭を採集した。

翌二十四日、午後七時乃至同二十分迄に、セスヂスヾメ九頭とコスヾメ一頭とを得、翌日は午後七時より採集を始めて、凡そ四十分間に、ツマキンウハバ二頭とトビイロスヾメ、コスヾメ、シモフリスヾメ、ピロウドスヾメ及びヒメホウジャク各一頭と、外にセスヂスヾメ六頭を採集した。又二十八日には、午後七時乃至同二十分迄に、コスヾメ三頭とセスヂスヾメ一頭と外にドクガ二頭とを得たのである。

話は少しく、あとに戻りますが、七月十七、十八の兩日、晝間合歡の花にて採集した昆蟲には胡蜂科のヲホフタラビドロバチ(松村博士益蟲目)七頭(此種は稍多數に來遊す)シリアカドロバチ十頭(此種は最も多く集來す)アシナガバチ屬一種四頭、アシナガバチ三頭、チビドロバチ二頭(此種は集來すること最も僅少なり)コガタノスヾメバチ一頭、チバチ一頭、蜜蜂科のツマキヒメハナバチ一頭、チビヒメハナバチ一頭と外に鞘翅類に屬するセアカゴミムシ四頭(花に來る昆蟲を捕食する爲めに來れるものなり)ゴミムシの類二頭と小甲蟲一種二頭と蠅の

一種數頭を採集したのである。

### 〔一〕 メンガタスヾメ又髑髏蛾 又骸骨蝶

*Acherontia styx* West.

體軀は肥大し、胸部の中央には二黒紋ありて、其の上に半圓狀をなせる黒線が走り、恰も髑髏の様である。七八月頃より十月に至るの間、本州到る處で採集せらる。幼蟲は胡麻、馬鈴薯、茄子、テウセンアサガホ、イガホウヅキを食するのである。

### 〔二〕 クチバスマヾメ *Smerinthus sperchius* Men.

成蟲は六月乃至八月に現出する。幼蟲は名和昆蟲研究所の小竹浩氏の實驗によれば八回の脱皮を重ねたりといふ。尙詳細は昆蟲世界第百八號所載同氏の「八回の脱皮を重ねし、クチバスマヾメに就て」の論説を見らるべし。

### 〔三〕 ウチスヾメ *Smerinthus ocellatus* L.

前翅は暗灰色にして、少しく綠色を帯ぶるものと褐色を帯ぶるものがある。中央は濃色にしてこれに弦月形の灰色紋あり、後翅の中央は桃赤色で、黒輪ある大形の眼狀紋を有する。蛾は夏季室内に入り來るを以て、ウチスヾメの名がある。幼蟲はサクラ、スモモ、リンゴ、ヤナギ、ドロ等を害するのである。

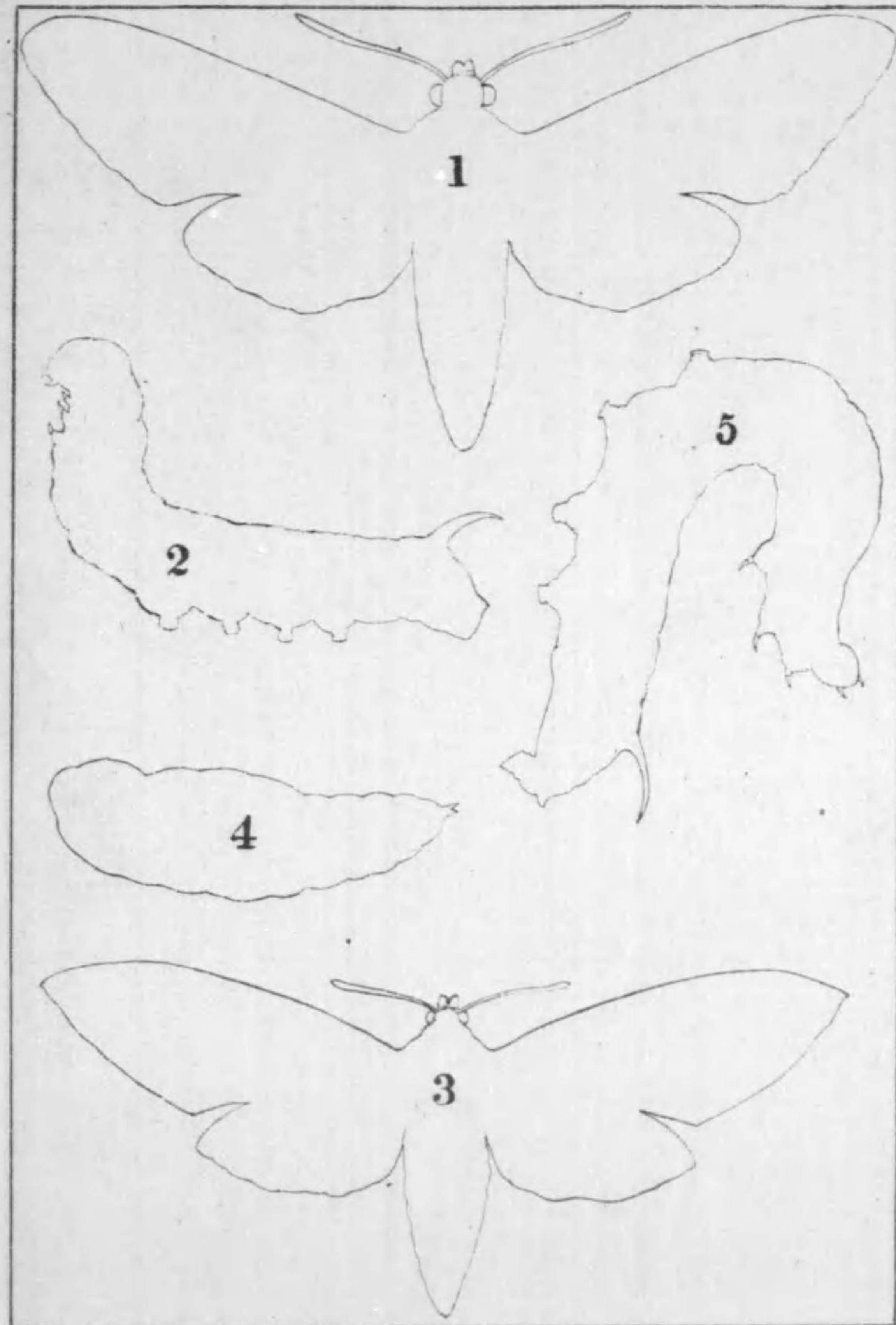
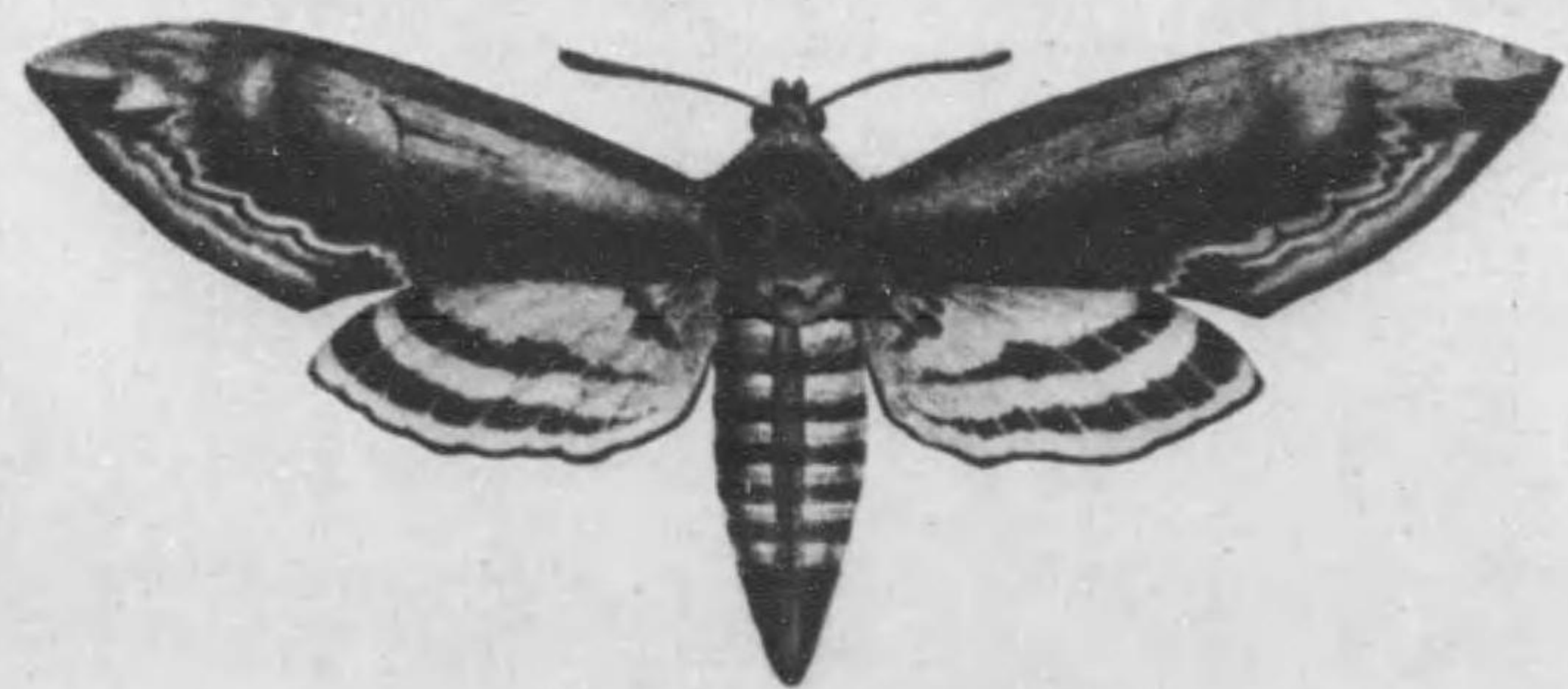
[四] モモスヅメ *Smerinthus Gaschkewitschii* Brem. et Grey.  
 蛾は後翅は赤桃色にして、内縁角には二個、若くは相合せる黒縞紋がある。幼蟲は桃櫻を食する。

[五] クルマスヅメ *Ampelophaga rubiginosa* Brem. et Grey.  
 體翅は褐色にして、前翅には濃色の四横條を有し、後翅は暗黒色にして、中央より少しく下方に、紫褐色部を有する。幼蟲は葡萄の葉を食するのである。

[六] エビガラスヅメ *Proctoparce convolvuli* L.  
 蛾は夜間出で、蕃茄及び葡萄の果實に口吻を挿入して、果汁を吸収し、大害をなす。腹部は蝦の腹部に似たり。幼蟲は甘藷、ヒルガホ、朝顔等を害する。

[七] コエビガラスヅメ *Sphinx ligustri* L.  
 前種より小さく、腹部の色彩は蝦のに似て居る。

[八] クロスヅメ *Hylonicus pinastri* L.  
 體長一寸内外、翅の開張二寸内外、翅は灰色にして、前翅底下には黒褐色の毛塊を有する。又前縁角には一淡色線を横走する。胸背は天鵝絨様の黒色を呈し、腹背には三黒線を縦走する。余は某年五月八日、武州大宮氷川社内の松樹にて、本種の交尾せるもの



ズスラガビエコ4 ヌズスラガビエコ3 蟲幼メズスラガビエ3 ヌズスラガビエ1  
 蟲幼メズスラガビエコ5 蠶メ

を採集したるを以つて、蛾は五月頃より現出するものならん。幼蟲は松を害する。

〔九〕 シモフリスマメ *Psilogramma menephron*  
Cram. var. *inreta* Wk.

體翅は灰色にして白毛を混じ、胸背の兩側には黒條を縦走する。幼蟲はキリ、イボタ等の葉を害する。

〔一〇〕 ベニスバメ *Pergesa elpenor* L.

體は美なる桃色にして、前翅は黄緑を呈し、二個の桃色條線がある。幼蟲はミソハギ、カハラマツバ等を食する。

〔一一〕 セスヂスマメ又キマツトウ  
*Theretra oldenlandiae* F.

體軀は帶綠褐色にして、腹部背面には二本の銀白線を有し、腹面は總べて黄褐色である。幼蟲は黒色にして、胸部の兩側には黄點を有し、體軀には七個の眼狀紋ありて、危険に遭遇するときは、頭の前半を引入れるを以つて、この紋は恰も眼の如くに見へ、全體蛇の頭狀となり、敵を威嚇し、危難を免るごいふ。また幼蟲は天南星科の芋、カラスビシヤクを食する外、ヤブカラシを食する。余は某年六月二十日午後四時頃、本種の蛾が

ムシトリナデシコの花に来るを見た。

〔一一二〕 コスバメ *Theretra japonica* Boisl.

外形は甚だよく、セスヂスバメに似て居るが、腹部背面には銀白色の線を缺き、前翅は褐色に少しく黄緑色を混じ、紋様はセスヂスバメよりは著明でなく、後翅は褐色にして、外縁に接する一半は黄褐色に變じて居る、幼蟲は葡萄を害する。

〔一三三〕 イツボンセスヂスバメ *Theretra silhetensis* Wlk.

腹部の背面にある線條は、白色にして、且つ一本である。本種は九州及び臺灣に産し、幼蟲はサトイモの葉を食する。

〔一四四〕 キイロスバメ *Theretra nesus* Drury.

體翅は黄褐色である。幼蟲はヤマノイモを食する。

〔一五五〕 ビロドスバメ *Metopsilus mongolianus* Butl.

前翅は黒褐色にして、多少天鵞絨様をなし、濃色線を有する。後翅も黒褐色にして不完全なる黄褐色の横帯がある。幼蟲は葡萄、ヤブカラシ、ホウセンクワ等を食する。

〔一六六〕 ヒメホウジヤク *Gurelca hvas* L.

體長八分、翅の開張一寸三分、體翅は暗褐色にして、前翅底には黒褐色の三横帯を有

する。幼蟲はヘクソカヅラの葉を食する。

〔一七七〕 ヒメクロホウジヤク *Macroglossa bombylians* Boisl.

前翅は黒褐色にして濃色の帯條を有し、後翅も黒褐色にして、橙黄色の廣横帯を有し、體は橄欖綠色である。幼蟲はヘクソカヅラ、アケビ等の葉を食するのである。

〔一七八〕 ホウジヤク *Macroglossa stellatarum* L.

前翅は灰褐色にして細鱗を密生し、判然せる二黒條がある。また第四腹節の兩側には灰黄紋を有し、第五腹節には、黒紋と灰黄紋とありて腹端の毛は黒い。幼蟲はカハラマツバ、アカネ等を食する。

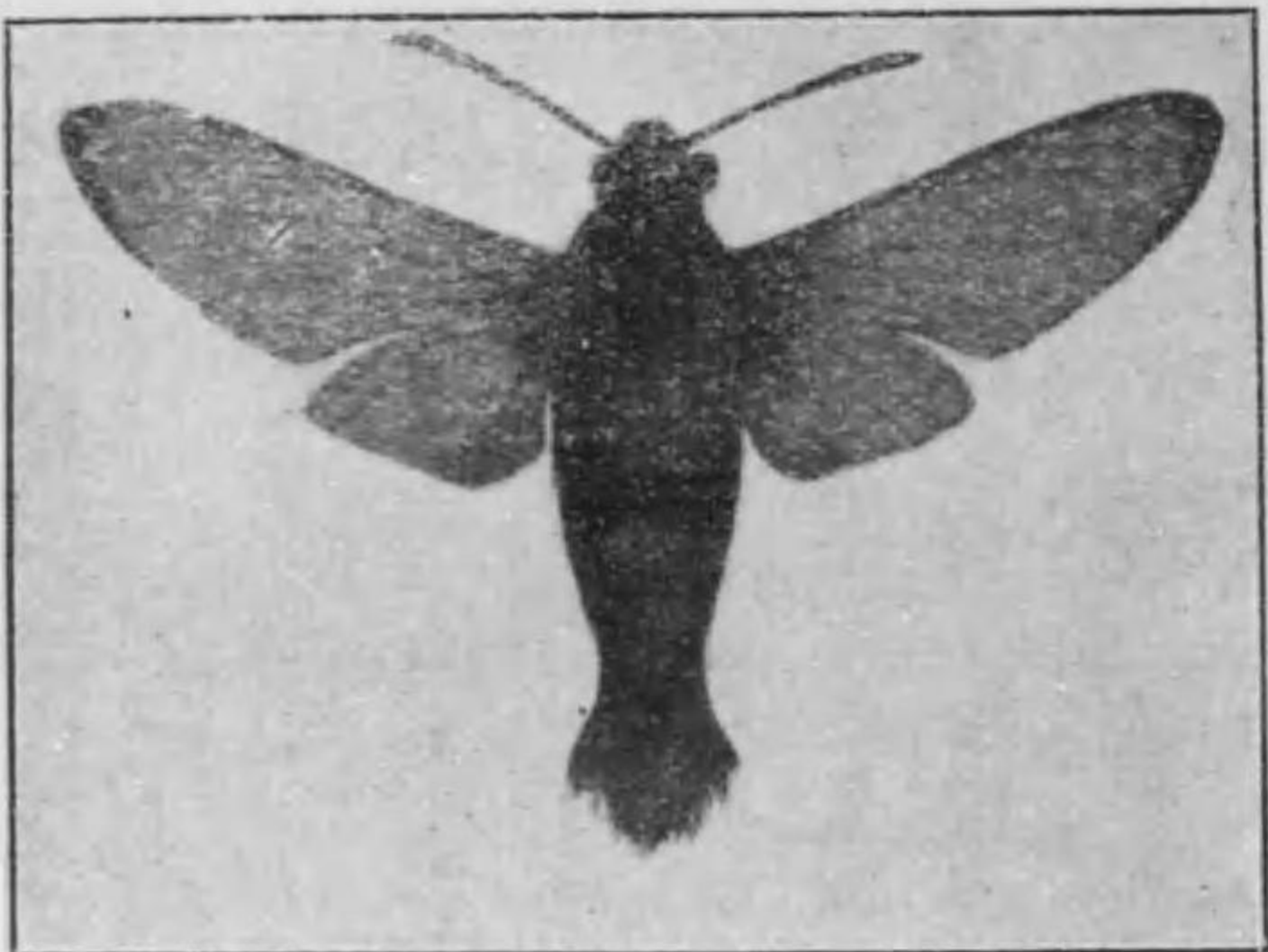
〔一九九〕 スキバホウジヤク

*Hemaris radians* Wlk.

翅の中央は透明にして、前縁及び基部には黄鱗を有する。幼蟲はアカネ、忍冬<sup>スヒカヅラ</sup>等の葉を食する。

〔二〇〇〕 オホスカシバ

*Cephonodes hylas* L.



第百一圖 オホスカシバ



幼蟲はクチナシの葉を害する。

二三八

〔二一〕 スヂグロスキバホウジヤク *Hemaris alternata* Butl.  
前翅外縁は黒褐色にして、透明部に向つて、内方に尖れる黒褐線を出し、腹部の中央と尾端との毛塊は黒色で、翅脈は黒褐色である。

〔二〕 毒蛾科 (*Lymantriidae*)

成蟲は長き毛狀の鱗を以て體軀を被覆し、雌は通例尾端に毛塊を有し、以つて卵塊を被覆する。肢は軟毛を密生し、且つ單眼を有する。幼蟲は毛を生じ、繭を營むときに毛を混するが、幼蟲の毛及び成蟲の鱗は、人の皮膚に觸れて、疥癬を起すことがある。

〔一〕 毒蛾 又 薔薇毛蟲 又 林檎毛蟲 *Euproctis subflava* Brem.

雄蛾は體長四五分、翅の開張一寸二分乃至一寸五分、前翅は濃黄色にして、中央には弓狀の白色帶を有する。後翅は黄色なれども、前翅よりも淡い。雌蛾は前翅には、白色帶なく、中央部には褐色の白斑を散在し、外縁には二個の褐色斑がある。蛾及び幼蟲の鱗毛は、皮膚に觸るれば、疥癬を生ずる。幼蟲は林檎、ナシ、薔薇を食する。

〔二〕 チャドクガ *Euproctis conspersa* Butl.

雄蛾の體長は三分許、翅の開張は七分五厘、前翅は二等邊三角形をなし、黒褐色にし

て黄色不分明なる二横脈を有する。而して其の中央部は、何れも外方に屈折し、前胸には黄毛がある。雌蛾の前後兩翅は黄褐色にして、中央部には多數の黒褐斑がある。而して本種の鱗毛は有毒である。幼蟲は茶、サマシクワ、ツバキ等を食し、年二回の發生である。

〔三〕 キアシドクガ 又 スカシドクガ 又 ウスバシロタヘ

*Leucoma cynibicornis* Butl.

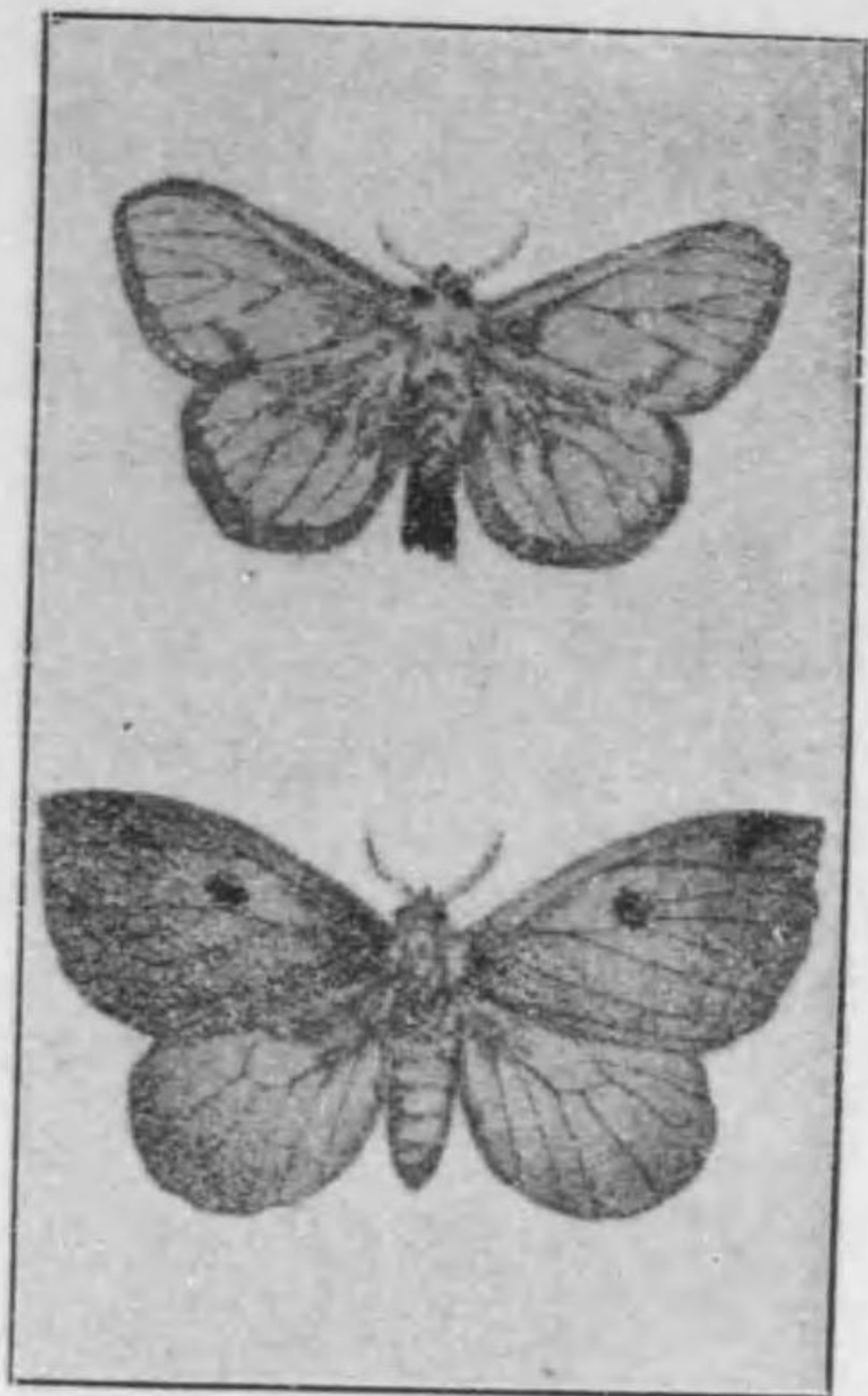
體翅は淡灰色にして、前翅の翅端は天鵞絨様の光澤あり。肢は白く、跗節は橙黄色である。年一回の發生をなし、六月頃羽化し、幼蟲はミヅキを食する。川越にては明治四十二年にては六月三日羽化したものあり、數百疋の蛾がヒラ〜とミヅキの附近に飛翔する光景は、實に美觀である。

〔四〕 マイマイガ 又 ブランコケムシ 又 ハンノキケムシ

シノガ 又 ナスグロサバナミ *Lymantria dispar* L.

雄蛾は體翅暗灰色にして、前翅の外縁は黒褐色を呈し、く形の紋と小圓紋との外に外縁には八個の斑紋がある。觸角は羽毛狀である。晝間出で、活潑に、蝙蝠の如く旋轉して飛翔する。雌蛾は雄蛾よりも肥大し、體翅は灰黄色にして、觸角は微毛狀で、殆んど

飛翔することなしといふも可なりである。食餌植物以外に、二百乃至三四百の卵粒より成れる卵塊を産附する。幼蟲は成熟すれば二寸内外となり、且つ黄褐色である。而してフヂ、ニレ、サクラ、ナシ、モミヂ、ヤナギ、リンゴ、エノキ、クヌギ、ナラ、ウメ、アンズ、カキ、サルスベリ等を食べする。本種は千八百六十八年に、北米マサチューセツツ州に放たれたるものが、大に蕃殖し、爲めに同州にては本種幼蟲の爲めに、千八百九十年乃至千八百九十九年に亘りて、特に百萬弗を費して驅除に盡せしも、尙其の蕃殖を防止すること能はず、遂にキンケード博士を本邦に派遣して、幼蟲の寄生蜂を輸入し、その天敵を利用して驅除を執行した程である。



圖二百第  
上(カクドロシシモ)と  
下(ガクドコトハニ)

翅は純白色にして、殆んど斑紋なく、僅に黒斑を有し、尾端には黄色の毛塊がある。年二三回の發生をなし、幼蟲は毒毛を有し、桑に大害を與ふることがある。

〔五〕 モンシロドクガ又キ

ンケムシ又コシロタ

Porthesia similis Fuess

〔六〕 ニハトコドクガ又ホシウスイロウコン

Aroa Jousi Butl.

體翅は淡黄色にして、前翅中央の圓紋と、前縁の翅端にある紋は褐色である。幼蟲はニハトコの葉を食する。

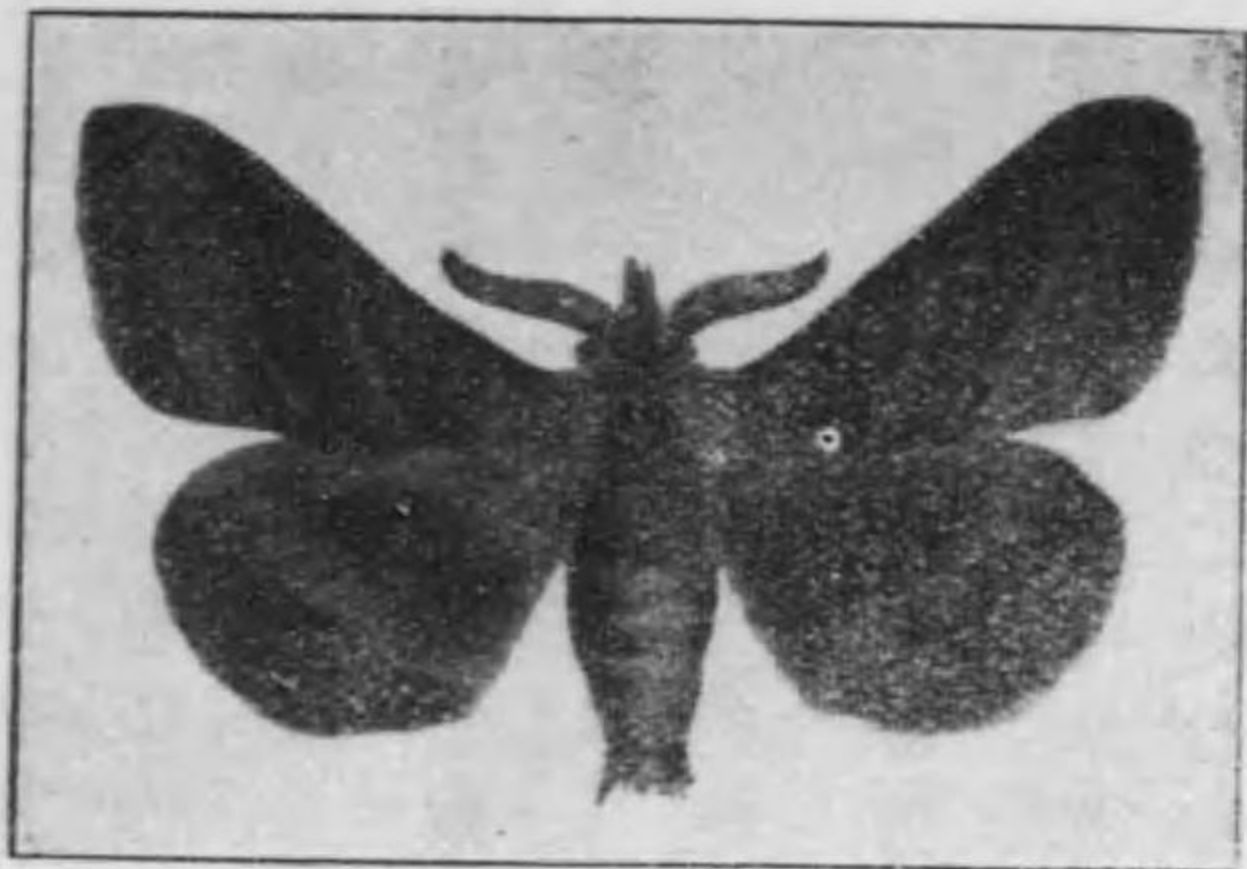
〔三〕 枯葉蛾科 (Lasiocampidae)

〔一〕 オビカレハ又ウメケムシ Malacosoma neustria L.

雄蛾は翅の開張一寸乃至一寸四分許體軀と翅とは黄色にして、二個の赤褐色の斜條を有する。雌蛾は體軀と翅とは共に赤褐色にして、前翅中央には濃色の太き一斜帶ありて、其の兩側は黄色である。幼蟲はウメ、リンゴ、スモモ、サクラ、ヤナギ、カバ、バラ等受害し、天幕狀の巢を造りて群居する。故に天幕ケムシともいふ。繭は白色にして、黄粉を裝ふて居る。

〔二〕 マツカレハ又マツケムシ Dendrolimus pini L.

幼蟲は松の葉を害する。醫學博士荻生録造氏の研究によれば、松枯蝨の體毛には刺毛、蘭狀毛、鱗毛、長毛(同博士命名)の四種ありて、刺毛は頸部にのみ發生する。藍黑色針狀毛で、中空であつて、護身防禦の性質を有し、よく他の動物の侵襲に備ふるもの、如く、極め



ハレカツマ 圖三百第

て容易に體壁より脱離し、他物を刺傷するが、他の三種の毛は柔軟にして、全く刺傷性を有することはない。刺毛は幼蟲の生けると、死せると及び繭附着毛とによりて、その刺戟の程度に相違はなく、また新鮮なると、舊きと、久しく酒精中に蓄へたるものとに由りて、その刺戟の程度に相違なく、これには毒物質の存在を認められざれども、刺毛が眼を刺傷する場合には、結膜にありては、結膜炎を惹起し、角膜上層に倚るときは、局所溷濁に相當する障害を貽し、その深所に達するときには、眼内に没落したると、刺傷の際、直ちに眼内に達したるものを問はず、眼内異物として作用をなすものである。而して刺毛は皮膚及粘膜に對しては、人の恐るゝ如き危険を及ぼすものでないといふ。

(四) 天蠶蛾科 (Saturniidae)

大形の蛾にして、翅は頗る大きく、頭部には毛を密生し、單眼と口吻とを缺き、下唇鬚は甚だ小さく、觸角は兩橢齒狀にして、肢に密毛を有し、刺を缺く。雄に限り晝間飛ぶものがある。幼蟲は通常綠色にして、瘤狀突起多く、體毛少なく、皆厚き繭を造りて蛹化する。

るのである。

- (一) クスサン又クリケムシ又テグスノテフ又ツバ
- リノニシキ又シラガタロウ又ハゼムシ

*Caliguna japonica* Moor.

幼蟲は充分成育すれば、體長三寸五六分に達し、頭部は綠褐色にして、淡黃の毛を被り、體は淡綠にして、各節の突起部及び體面には、白色の長毛を有する。栗の葉の外に、クス、クルミ、トチ、ハゼ、サルスベリの葉を食する。繭は網狀にして、外部よりよく蛹を見透すことが出来る。されば俗にスカシダハラといふ。成蟲は九月頃羽化する。雄蛾は翅の開張三寸五六分にして、前翅の中央には、後方に於て狭き灰褐にして、稍紅色を帯びたる斜紋あり。其の右縁には、僅に透明部を有する眼狀紋がある。而して翅の外半は灰黃褐色である。後翅には中央部に弦月形の透明部を有する。雌は雄よりも大きく、兩者共に色彩と體翅の大きさには變化がある。而して幼蟲より所謂テグスを取り、繭は紡ぎて一種の織物を製するのである。

- (二) オホミズアチ又ユウガホビヤウタン
- (ニテフ) *Aelias artemis* Brem.

蛾の前翅は、前縁淡紅褐色を帯び、其他は緑白色で、中央室には弦月形の黄紋ありて中央は透明である。後翅も前翅と同様にして頗る長く、尾様物がある。幼蟲はハンノキ、リンゴ、ナシ、サクラ、アセビを食し、七月頃蛹となりて越冬し、翌春五六月頃羽化する。

〔三〕 ヤマビシヤク又ヤマガマス又ウスタビカ

*Rhodinia fugax* Butl.

成蟲は十一月下旬發生する。而して雄蛾中には、形の大小、色彩の變化頗る夥しくあるが、大體翅の開張は二寸四分乃至二寸九分で、翅色は赤褐色で、前翅の中央には卵形の透明紋を有し、外縁は前縁角の下方に於て、内方に屈曲して、稍鉤状を呈し、前縁角に近く白色眉狀線がある。後翅も亦中央には透明紋を有する。觸角は兩櫛齒狀にして櫛齒は長い。



第百四圖 ヤマビシヤクの雄雌の繭

雌蛾は翅の開張二寸三分乃至三寸一分、觸角の櫛齒は短く、前後翅共に黄褐色にして、中央に透明紋を有し、前翅の前縁角に近き白色眉狀線は、雄の如く著明でない。幼蟲は

四月頃孵化し、ナラ、クヌギ、クリ、カシ等の葉を食し、六月下旬乃至七月頃に、緑色にして圖の如き形狀をなせる繭を造り、其中に蛹化し、十一月頃成蟲羽化して産卵するのである。

〔四〕 柞蠶 *Anthaerea pernyi* Guér.

幼蟲はナラ、クヌギ、カシ、ハカシ、クリ、シヒノキ等の葉を食し、十分に成長すれば、三寸餘に達し、老熟すれば褐色短楕圓形の繭を營みて蛹化するのである。蛾は五月頃と八月頃とに羽化し、體長一寸二分、内外翅の開張四寸七分乃至五寸、翅は黄褐色にして、前翅の中央室には透明紋を有し、後翅にも中央部に透明紋を有する。而して蛹にて越冬するのである。

支那盛京省、河内、安徽、湖北、直隸、貴州等にては、古來柞蠶を飼養せるが、其中最も盛なるは盛京省にして、山東省が之に次いで居る。本邦にては長野縣、南北安曇兩郡に於て盛んに飼育して居る。また兩郡にては、既に百有餘年前より、天蠶の飼育を試みて居る。柞蠶の飼育は今より二十餘年前支那より輸入したものである。長野縣に次いで、茨城縣の南茨城郡、西茨城郡の數村及栃木縣の那須野郡、北海道十勝國河西郡等でも飼養する。柞蠶や天蠶の野外飼養に受ける害敵には、雀、日雀、四十雀、杜鵑などより野鼠、栗

鼠、狐狸の類もあり、又蜂類、蟻類、蜘蛛、蠶蛆、アマガヘルの類などもある。長野縣に於ける天蠶種は茨城に、柞蠶種は千葉、茨城、北海道に、天蠶生絲は岐阜、栃木、新潟、愛知に、柞蠶生絲は岐阜、栃木、新潟、愛知、京都、埼玉へ賣却する。而して織物として販賣するものに、袴地、帶地、夏外套、蒲團地、蝙蝠傘地等があり。これらは丹後、近江、越後、美濃、足利等へ販賣するのである。又蚊帳の如きは最も適當品にして、大幅に織り成し、縫目なしとなす時は、風もさわらぬ程にて、頗る工合がよいといふ。

〔五〕 テグスガ *Saturnia pyretorum* West.

理學博士佐々木忠次郎氏の記述する所に據れば、本種は南支那の産にして、本邦には産しない。支那にては楓、樟、蠶若しくは楓、蠶、樟、蠶など、稱へる。幼蟲の幼小なるものは黒褐色を呈し、黒毛及び白毛を被むる。老熟せる時は、頭は淡綠色を呈し、胴部は淡綠色なるも、其側面には濃綠色の廣き帯形の模様あり。繭は殆んど紡錘形にして、濃灰褐色を呈し、著しく光澤を帶ぶ。幼蟲の體の二本の長き絲腺より、眞のテグスを得るものにして、本邦漁人の使用する。釣絲は、皆このテグスである。幼蟲の食物は、金縷梅科に屬する楓(モミヂにあらす)及び樟なるも、或は梨、柳等の葉をも食するといふ。佐々木博士が、南部支那旅行の際には、唯楓と樟との葉をのみ食せるを目撃したれども、梨、柳等を食せる

ものは目撃することを得ざりきといふ。因にいふ、楓は支那及び臺灣産の産にして、本州四國九州等には決して産せずといふ。

〔六〕 檮蠶 *Attacus Cynthia*, Drury.

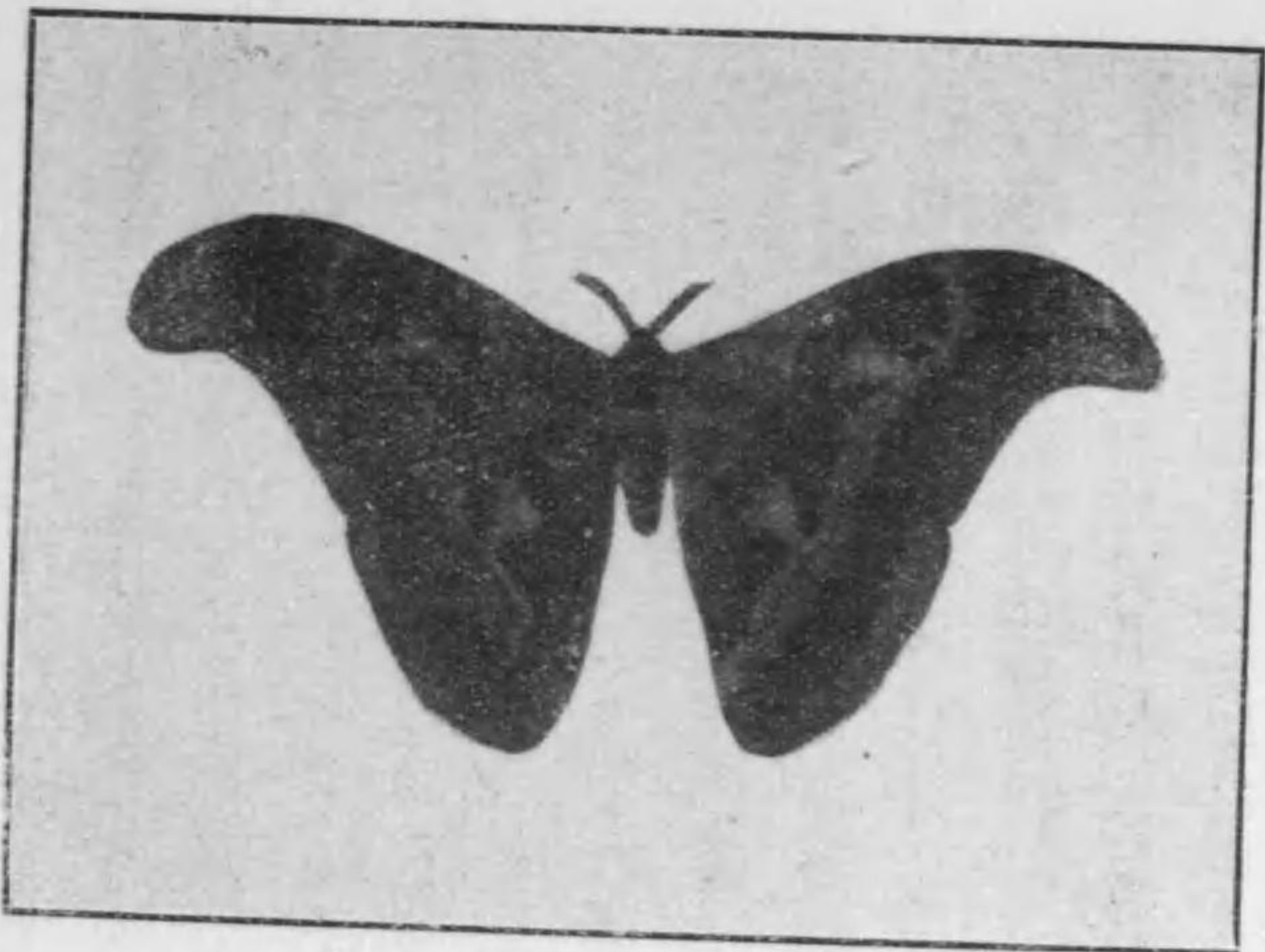
雄蛾は翅の開張三寸七八分なるも、雌蛾は四寸八九分内外である。前翅の外縁は帯緑黄褐色にして、中央には新月形の白紋ありて、其の端に接し屈曲せる一個宛の白帯を有する。後翅の新月紋の兩側の白帯は、その前縁部にて相連續して居る。幼蟲は老熟すれば二寸乃至二寸四五分に達し、全體淡黄綠色にして、圓筒狀をなし、よく肥大して居る。而して柞(シンジュ)、ゴズイ、ヌルデ等を食する。本種の蛾は六七月頃と九十月頃の二回に發生するのである。

〔七〕 與那國蠶 又オホアヤニシキ *Attacus atlas* L.

鱗翅類中最大の蛾にして、我が琉球、臺灣より印度、バルマ、ジャバに産する。成蟲は體長一寸二分乃至一寸八分、翅の開張は七寸乃至八寸五分である。長野菊次郎氏に據れば(昆蟲世界第百三十五號所載同氏の「オホアヤ」ニシキの卵幼蟲蛹等に就きての論說参照)此幼蟲の嗜食植物は種々ある由なれども、石垣島又は與那國島にては、大戟科に屬するアカギの葉を食すること常なりと聞くといふ。支那にては、この繭より強き灰色の絹絲を得るといふ。

〔八〕 天蠶蛾 *Attacus pernyi*, Guen.

Var. *yamanai*, Guen.



第百五圖 ヨナクニサシ

雄は體長一寸一二分、翅の開張は四寸五分乃至五寸である。色彩は個體によりて變化する。先づ體軀は黃褐、灰黃、帶赤灰褐のものがある。又翅は赤褐、帶綠灰色などがある。觸角は兩橢圓狀にして、其の橢圓は甚だ長い。前翅の中央には透明の眼狀紋を有し、その周圍は黃色で、更らに其の外方に向へる部分は、黒黃の二環を以つて包まれ、内方に向へる部分は、白線と赤色とを以つて圍まれて居る。その眼狀紋と外縁との中央には、殆んど外縁に平行して黃、黒、白、相接したる三條の横帯を有するが、黃色帯は不明なるものが多い。後翅にては、中央に透明の眼狀紋を有し、黃色の環によりて圍まれ、更らに其外方に向へ、黒色と黃色線とを以て包まれて居る。雌は觸角の橢圓は甚だ短く、腹部は甚だ肥

大して、黃色若くは灰黃色を帯びて居る。翅は著るしく黄色を帯べるものあり、また灰黄色のものあり、又帶綠灰黄色のものありて一様でない。幼蟲は櫛、襍、檜を食ひ、老熟すれば葉を集めて、帶黃綠色の繭を造り、其中にて蛹化する。繭は紡ぎて種々の織物を製する。卵子にて越冬し、成蟲は八九月頃現出するのである。

〔九〕 ヒメヤママイ又ジヨナシテフ

*Saturnia Boisduvalii* Ev. var. *Jonasi* Butl.

蛾は體長九分乃至一寸一分、翅の開張は三寸乃至三寸九分、體は茶褐色にして、前後兩翅の中央には、赭色の橢圓紋を有し、其の外縁に近き所には、黒斑を有し、前翅の前縁は灰白色を帯び、十月頃現出する。卵子にて越冬し、五月頃孵化して幼蟲となり、梨、梅、ケヤキ、ミヅキ、ガマズミ、エゴ等を食し、四回脱皮を経て、六月中旬繭を結びて化蛹し、十月下旬に羽化産卵するのである。

(五) 家蠶蛾科 (Bombycidae)

幼蟲は裸體にして、第十一節には尾狀突起を有し、絹絲を紡ぎて繭を營む。

〔一〕 家蠶 *Bombyx mori* L.

〔二〕 クハゴ又ヤマカヒコ *Bombyx mandarina* Moor.

成蟲はカヒコの蛾よりは暗色にして、中央の横帯と外縁角の大紋とは暗黒色である。幼蟲は二寸内外に達し、黒褐色にして家蠶の幼蟲に酷似し、桑を害するのである。

(六) 夜蛾科 (Noctuidae)

大概は夜間現出し、複眼は球状をなし、觸角は絲状にして、前翅の半部より長く、雄にありては稀に羽状を呈するものがある。幼蟲は多くは裸體にして、線條を有し、稀に毛を生ずるものがある。或は腹肢を減じて尺蠖に類する運動をなすものがある。多くは繭を營まずして、地中にて蛹化する。而して本科は廣濶なる科にして、種類に富んで居る。

(一) タマナヤガ又ヤハズミツボシ *Agrotis ypsilon* Rott.

蛾は前翅灰褐色にして、少しく赤味を帯び、後翅は白く、體は灰褐色である。幼蟲は俗に根切蟲といひ、タマナ、ニンジン其他の蔬菜類を害する。

(二) ヨトウガ又エンドノキリムシ *Manestra brassicae* L.

蛾は體長六七分、翅の開張一寸五六分、前翅は暗灰色に灰色を帯び、不規則なる黒色の斑紋を散在し、中央には微かなる灰白斑と、外縁には波状線とを有する。後翅は灰褐色にして、基部は淡いのである。年二回の發生をなし、幼蟲は晝間は隠くれ、夜間出で、

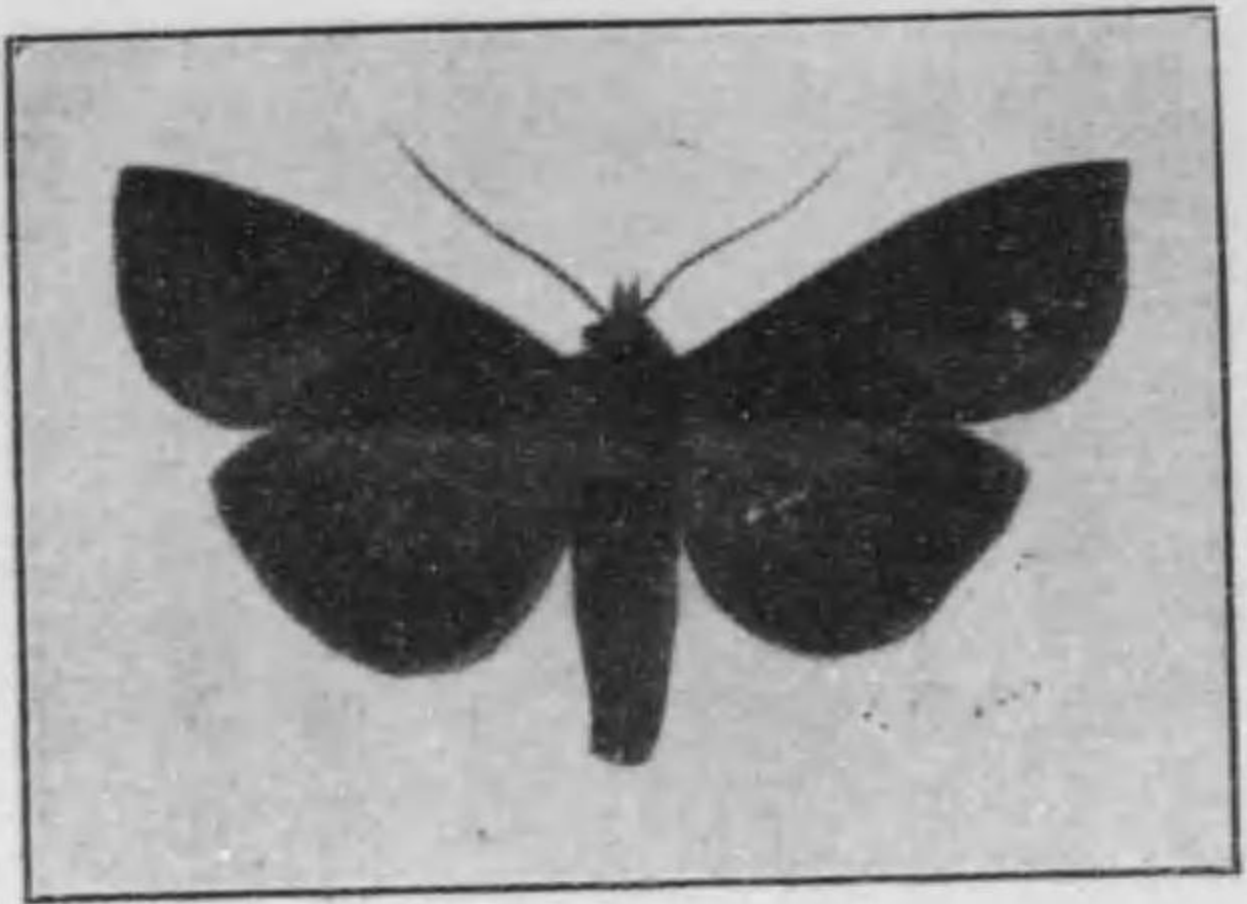
作物を害するのである。

(三) シロスチアチヨトウ又アチフガスリ又アチフモンガ *Trachea atriplicis* L.

蛾は體長七分、翅の開張一寸八分、内外胸部には濃黒褐色に青綠色の斑紋を有し、前翅の中央には、斜に帯紅灰白色の斑紋ありて、青綠色の雲状斑紋を有する。幼蟲はアカザ、ギンギン等を食する。

(四) 大螟蟲蛾 又イネヨトウ *Nonagaria inferens* Wlk.

蛾は淡紫褐色を帯び、二化螟蟲の蛾よりは稍々大きく、前翅は稍々方形にして幅廣く、中央に翅底より外縁に至る紫褐色の線と、其の兩側に散在せる四黒點を有する。年三回發生し、稻藁或は刈株中に越冬せる幼蟲は、五月中旬蛹化し、六月上旬蛾となり、稻苗葉鞘の内面に産卵し、塊状をなすこと



第六百六圖 シロスチアチヨトウ

はない。幼蟲は稻苗中に蝕入する。第二回は七月中旬に羽化し、第三回は九月上旬に羽化するのである。

〔五〕 フタナビコヤガ又イネコアナムシ

*Naranga diffusa* Moor.

雄蛾の前翅は濃黄色にして、中央には褐色の二斜線を有する。雌蛾の前翅は黄色にして、中央には暗色の二紋あり、少しく紫色を帯ぶ。幼蟲は綠色細長にして、第八と第九節とは最も太く、頭部は淡褐色を帯び、第一第二の腹節は退化せるを以て、恰も尺蠖狀の運動をなすのである。而して成熟せるものは、體長七八分に達し、常に稻葉を喰ひ、時に大害をなすことがある。

〔六〕 フクラスバメ又カラムシノガ *Arctococcyx*, Gu.

蛾の前翅は黒褐色にして、腎狀紋は大きく、更らに其内方には二三個の黒紋を有する。後翅は黒色にして、三條の藍色帯を有する。幼蟲は苧麻、苧麻及びカツヅ等を害する。

〔七〕 コガタコノハ又アカエグリバ又コスヂコノハ

*Calpe excavata* Butl.

中形の蛾にして、體長七分、翅の開張一寸五六分、頭部は朱赤色にして、胸部は淡灰色である。前翅は赤褐色にして、翅先尖り、内縁は陥凹して居る。後翅は淡灰色にして、外縁部は淡黒色である。成蟲はアカナス、桃梨、葡萄等の果實を吸収して害をなすのである。

〔八〕 ウスエグリバ *Calpe capucina* Espl.

前種よりは小形にして、體長六七分、翅の開張一寸二三分、頭部は褐色を帯び、前翅は暗黒色である。本種は前種同様に、果實の汁液を吸収して害をなすのである。

〔九〕 ベニシタバ又アカシタバ *Catocala electa* Bk.

蛾の後翅は帶黄紅色にして、頗る美しく、黒斑は二條ありて、外縁に近きものは太く、中央にあるものは細くしてV字狀である。本種は北海道及び本州に産する。

〔一〇〕 シロシタバ *Catocala nivea* Butl.

前種に似れども、後翅には白色部と黒色部とを有する。

〔一一〕 エゾベニシタバ又エゾアカシタバ *Catocala nupta* Esp.

本種は英にレッド・アンダー・ウイング (Red Underwing) と云ふ「赤き下翅」の義である。北海道、北支那及び歐羅巴に産する。後翅は朱色にして、二黒帯を有するが、裏面は白色である。幼蟲は歐洲にありては、白楊及び柳類を食すといふ。

〔一二〕 キシタバ *Catocala volcanica* Butl.



前翅は帯黄褐色にして、微かに雲状紋を有し、中央には黒褐色の曲折せる波状線を有する。後翅は黄色にして、縁邊に平行して稍凹凸せる二黒廣帯がある。幼蟲は藤の葉を食する。

〔一三〕 ヤマトトモエ又トモエガ *Spirama retorta* Clerk.

蛾は體翅暗褐色にして、前翅の中央には巴狀の黒紋ありて、其の内縁は銀白色である。翅の裏面及び體下は美なる赤黄色である。幼蟲は藤の葉を食すといふ。

〔一四〕 ビロウドトモエ *Spirama retorta* Clerk

var. *japonica* Gn.

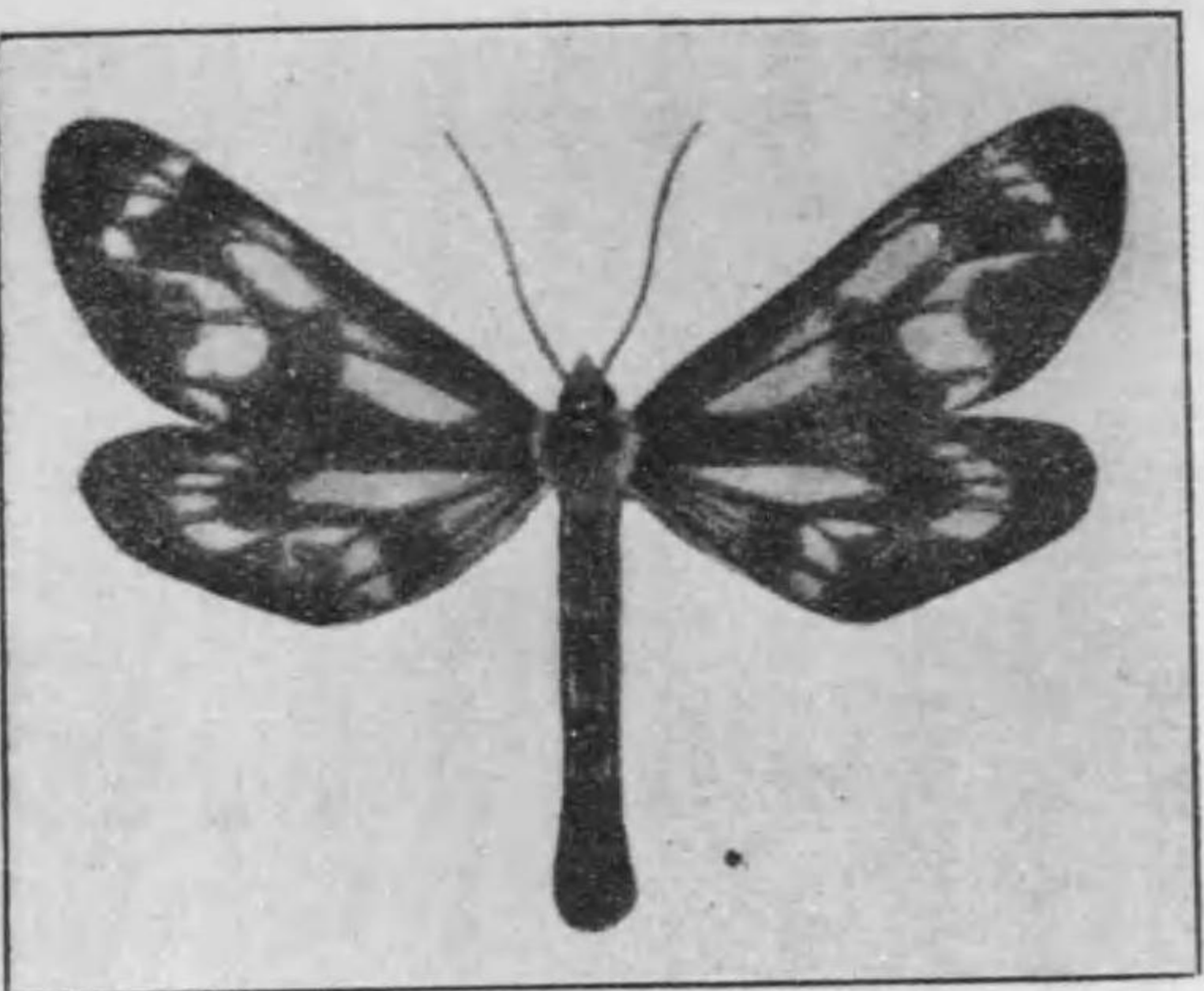
蛾は體長一寸、翅の開張二寸四分内外にして、體下面と尾端とは赤く、前後兩翅は帯紫暗褐色の天鵞絨様をなし、前翅の中央には巴狀紋を有するのである。

(七) 尺蠖蛾科 (Geometridae)

幼蟲は通常腹脚の前方三對のものを缺き、肢は五對である。其の進行は一種特殊の觀を呈する。而して裸體のものと、又僅に毛を生ずるものがある。

〔一〕 トンボエダシヤク又サミダレ *Cistidia strationice* Cr.

蛾の翅は黑色にして、前翅には四個の大白紋を有し、胸背は黒く、腹部は黄色にして、



第百七圖 トンボエダシヤク

各節の背上には、橢圓形の黒紋を有し、其の兩側と腹面にも同様の紋を有する。腹部は長く、尾節には黑色の長毛を叢生する。蛾は晝間飛翔し、幼蟲はサクラ、リンゴ、スモモ等を害する。

〔二〕 ウメエダシヤク又サミダレ  
モドキ *Cistidia couaggaria* Gn.

蛾の前翅は暗黒色にして、多くは五個の大白紋を有する。後翅は黒と白の斑にして、外縁には五個の大黒紋が列んで居る。幼蟲は梅、アンズを害する。

〔三〕 ユウマダラエダシヤク  
*Abraxas sylvata* Scop. var. *miranda* Butl.

翅は白色にして、前翅の基部の内角と、後翅の臀角に近く黄褐色を有し、暗灰色の斑點と斑條とを有する。

〔四〕 アカツマキリエダシヤク又チクサクチバ 又ミ  
スヂツマキリエダシヤク *Zethenia rufescentaria* Mots.

幼蟲は杉を害する。理學士矢野宗幹氏に據れば(時事新報所載「老樹」)「杉の尺蠖蟲は、明治四十四年から秋田縣下長木澤國有林の老杉に發生した。長木澤は日本の三大美林の一と云はれた所で、高さ三十間、直径三四尺の百二十年から二百年許の杉の純林は三千町歩の地を蔽ふて居たが、數里の近くにある小坂鑛山の鑛煙は、この森を襲うて年々其を枯死せしめた。然るに昨年に至つて其の褐色に變じた森の面積が急に増した。注意して見ると尺蠖が群集して居て、晝尙ほ暗かるべき林の中に、日は洩れて、仰げば葉は短く、枝は瘦せて見る影もない姿と化し、九月には尺蠖は地に下つて、腐蝕土中に蛹化した。一坪の地を掘れば三四百の蛹を得るのは困難でなく、千以上も取れた所もある。調べて見ると、害蟲の甚しく發生した部分は、六百町歩に及んで居つた。或は説をなして枯死の原因を主として昆蟲に嫁さうとした人もあつたが、予は其は衰弱した木を一層衰弱せしめたのは、尺蠖であるが、其の最後の致命傷を與へたものは、矢張鑛煙であると思像して居る。鑛煙再び來らざれば、多くは回復するであらうと思ふが、其れは出來がたき事である云々」と。

- 〔五〕 クハトゲエダシヤク 又クハノトゲシヤクトリ  
 又カホカクシテフ 又トゲシヤクトリ 又シモフ

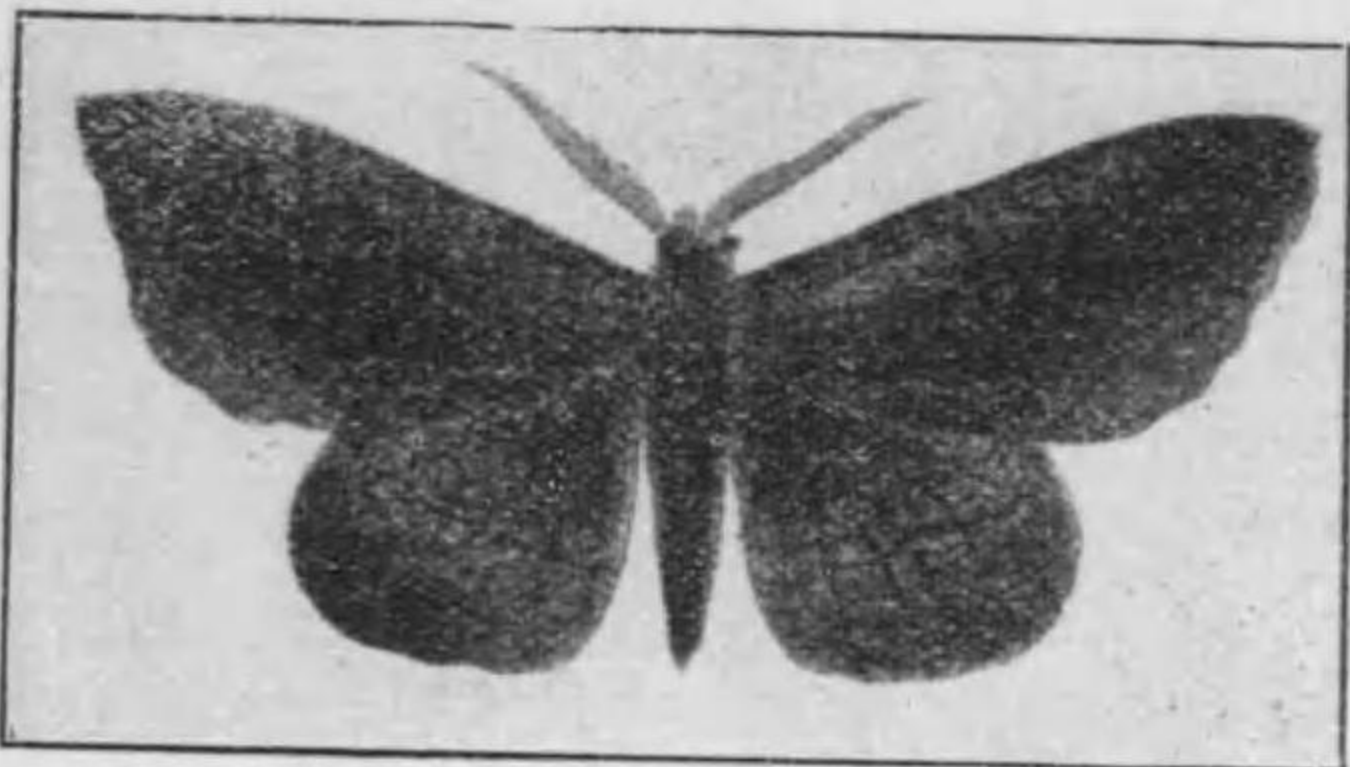
リチ、レバ *Zanagra albofasciaria* Leech.

成蟲の體長は四五分翅の開張は一吋五六分乃至一吋七八分、翅は灰白色にして暗褐色の波紋帯を有し、又微細なる淡褐色點を散布し、恰も霜降の如くである。蛾は静止するときは翅を疊みて稍斜に直立せしめ、恰もミノムシの懸止するが如くである。幼蟲は老熟すれば黄綠色となり、第四乃至第七節と第十一節の背面には、太き刺狀突起を有する。これ刺尺蠖の名ある所以である。また幼蟲は静止するとき、頭部を腹面に捲き隠す性がある。故にカホカクシの名がある。桑の害蟲である。

- 〔六〕 クハエダシヤク *Hennerophila atrilineata* Butl.

桑樹の害蟲中最も分布廣きものにして、幼蟲は桑の枯枝によく似て居る。蛾は年二回發生し、時に三回發生することがある。而して同一時期に發生するものにて、蛾の大小と濃淡とを異にする。翅は灰色にして、黒色を帯び、前翅の中央は縦に三分の一は色濃く、其他は餘程褐色が勝つて居る。又二條の細き黒色の曲線を有し、後翅の中央には黒色の細き一横線ありて、外縁に近く稍太き暗褐色帯があり、外縁は波狀に凸凹がある。幼蟲にて越冬する。

- 〔八〕 燈蛾科 (*Arctidae*)



第百八圖 ハクエダシヤク

(追加) 二五八

中庸大若くは大形の蛾にして、觸角は櫛齒状をなし、前翅の長さの半ばに達せざるもの多く、翅には美麗なる彩毛を呈するものが多い。幼蟲は疣状突起を有し、剛毛を生じ、粗糙なる繭を造りて蛹化する。多くは害蟲である。

〔一〕 ヒメゴマダラヒトリ

*Spilosoma menthastri* Esp.

翅は白色にして、前翅には二十乃至三十餘の大小不同の黒斑を有し、後翅には二個若くは三個の斑點を有し、腹部の背面は黄赤色にして、五列の黒斑を有する。幼蟲はリンゴ、サクラ、クハ等を害する。

〔二〕

クハゴマダラヒトリ 又スムシテフ 又クハノゴ  
マダラテフ 又クハスムシ 又オスグロシロタヘ  
モドキ *Spilosoma imparilis* Butl.

雄蛾は體長五分、翅の開張一寸三分内外、翅は黒褐色にして、前翅には大小の黒點を散布し、後翅には外縁に近く黒點を並列する。雌蛾は體長六分内外、翅の開張一寸五分

乃至一寸八分、翅は白色にして稍黄色を帯び、前翅には大小の黒點を散布する。幼蟲は一寸七八分に達し、九月下旬に孵化し、桑葉を曲げ、絲を縦横に張りて巢となし、其中に群棲し、葉の組織を食ひ、表皮のみを残して灰白色に變せしむるのである。而して桑の外にリンゴ、ヤナギ、ニレ、アケビ、茶樹を害すといふ。

〔三〕

サラサヒトリ 又サラサモンガ 又クヌギスムシ  
テフ 又クロスヂ 又サラサ *Campoloma interioratum* Wlk.

蛾は六月下旬より七月月上旬に亘りて羽化する。埼玉縣川越に於て余が實驗する所に據れば、該種は普通シラカシに發生する。而して余が本種の蛾の羽化を始めて知りたるは、明治四十一年にては、七月五日で、翌四十二年にありては七月一日で、翌四十三年にありては六月二十二日であつた。余が明治四十二年に於て、寓居内の二本のシラカシ樹につき實驗せる所では、七月一日には二疋、翌二日には三疋、三日には四疋、四日には三疋、五日には五疋、六日には二十八疋、七日には六疋、八日には三疋、十二日には一疋の羽化したばかりの蛾を採集したのである。又明治四十三年に於ける觀察にては、六月二十七日に始めて一疋の成蟲の羽化せるを發見し、其後同月三十日には一疋、七月一日には一疋、二日には二疋、三日には二疋、六日には六疋、七日には七疋、八日には午



第百九圖 リトヒサラサ

後一時乃至午後六時迄に十五疋、九日には十疋を採集し、十日には櫛の葉裏に産卵せしもの四箇所を見、又同日正午より午後三時迄に羽化せるもの十疋を、十二日には四疋を、十四日には夕刻五疋を、十五日には夕刻二疋の羽化せるものを採集した。また同年七月九日川越町喜多院附近の櫛には、午後三時半頃羽化して間もなきもの凡そ二十疋許りを見た。而して明治四十三年に採集せる頭数の内では、雄よりは雌蛾の方が遙に多かつたのである。

雄蛾は橙黄色を装ひ、體長三分五厘、翅の開張一寸一分内外、前翅は橙黄色にして、前縁より臀角に向つて走れる六黒條がある。後翅は濃橙黄色にして、後縁には長毛が叢生する。而して腹部第一節には發音器を有し、夕刻より夜間セツチ、チレツチと低い涼しき音を發して、雌を誘致する。雌蛾は體長五分、翅の開張一寸二分ありて、腹端は太く赤橙黄色であるが、發音器を缺く。雌は被害植物の葉裏に數百の卵子を一箇所に産み、尾端にある長毛を以つて之を被ふ。幼蟲にて越冬し、儲クヌギ、ナラ等の嫩芽、新葉を蠶食するのである。

[四] ヒトリガ又チドリコガ *Arctia cija* L.

後翅は美麗なる赤色にして、黒色の大紋數個を有する。腹部は赤く、各節の背上には黒紋を有し、腹面は黒色である。幼蟲は路傍に徘徊し來り、桑、大麻、苧麻、スグリ、フサスグリを害すと聞くが、川越に於て、余が僅か數年間の實驗にては、寧ろ桑を食する方は少く、アブラナ、ニハトコ、オドリコサウ、ツルウメモドキ、フキ、ゴバウ、イヌタデ、ギシギシ、タシボボ、ハコベ、ヤヘムグラ、ダイコン、ツハブキ等の葉を盛んに蠶食する方が、多いのは事實であつて、彼れは極めて多種の植物を害する。成蟲の現出は九月頃が多いが、また八月上旬に羽化したものもある。

(九) 斑蛾科 (*Zygaenidae*)

小形の蛾にして、晝間飛翔するものが多い。

- (一) タケノホソクロバ又ヒメクロウハバ又タケケ  
*M. Ino fimeralis* Butl.

年二回の發生をなし、蛾は體長三分五厘乃至四分翅の開張は六分乃至八分内外翅は薄くして黒色を呈し、腹部は藍色である。幼蟲は大き六七分に達し、淡樺色にして、各節に四個宛の黒色斑紋を有し、これより短毛を生ずる。竹の害虫である。

- (二) セミヤドリガ *Epiptrops Nawae* Dyar.

本種は明治二十五年十月、名和梅吉氏が始めて発見し、同三十一年八月、名和靖氏の採集によりて、愈々寄生性のことが判然したのである。幼蟲は多くヒグラシに寄生し、次にミンミンゼミ、稀にアブラゼミに寄生し、蛆状にして肢は極めて短く、體長二三分で、體軀に白粉を被覆する。蛹化すれば蟬體を去りて附近の植物の葉上にて繭を造り、續いて羽化する。蛾は體長二分乃至二分五厘、翅の開張六七分にして、前後翅共に黒色にして、前翅には光澤ある瑠璃色の小斑紋を有するのである。

〔三〕 ホタルガ *Pidorus glaucopsis* Drury.

翅の開張一寸五分乃至一寸六七分、前翅は黒色にして一條の白帯ありて全く翅を横斷する、而して頸部は赤い。幼蟲はヒサカキ、サカキ等を食する。蛾は年二回發生する。

〔四〕 シロシタホタルガ *Chaleosia remota* Walker.

前翅は黒色にして一條の白帯を有すれども、全く翅を横斷することなく、腎脈に達して止り、且つ後翅は白色に富む。幼蟲はサハフタギを食し、年一回發生するのである。

(一〇) 刺蛾科 (Cochilidae)

夜間飛翔する小形の蛾にして、吻は退化し、觸角は橢圓狀である。幼蟲は多少扁平にして、小形の收縮すべき肢を有し、毒液若くは刺戟性の液を含める粗毛を生ずる。故に



ガライ 圖十百第

イラムシの名がある。繭は卵形堅硬にして、其一端には蓋を有するのである。

(一) イラガ又イラムシガ又コガネマルバ

*Monema flavescens* Wlk.

蛾の翅は黄褐色にして、翅尖より斜に二個の褐色線を有する。幼蟲はイラムシと稱し、之に觸れば激しき嫩衝を惹起するのである。

(二) 避債蛾科 (Psychidae)

小形の蛾にして、雄は翅を有すれども、雌は蛆状にして、常に筒狀の巢中に棲息する。幼蟲は枝葉の屑片を綴りて筒狀の巢を造り、其中にて蛹化するのである。

(一) チャノミノガ又チヌ

*Usumia Clania minuscula* Butl.

雄蛾は兩翅共に灰褐色を帯び、斑紋な



繭のシムライ 圖一十百第

(追加) 二六四

く、後翅は小さく殆んど三角形をなし、體には長軟毛を生ずる。年一回の發生にして、七月頃羽化する。幼蟲は茶樹、柿樹等の葉を食する。

(一) 螟蛾科 (Pyralidae)

幼蟲は粗毛を生じて、食物の屑を綴りて繭を營みて蛹化する。また幼蟲の腹肢は、五對ありて、肢端には環狀に小鉤を生ずるのである。

(二) メイガ又ニ化螟蟲又ワライロホソバ

*Chilo simplex* Butl.

本種は通例年二回發生すれども、臺灣にては四回なりといふ。又棟方哲三氏は、昆蟲世界第七十五號に「青森縣ニ化螟蟲のニ化率に就きて」の論説を寄せ、詳細に氏の實驗を述べられて居るが、要するに青森縣産ニ化螟蟲のニ化する率は、約一割許で、他は悉く一化に終るものと判定し得るといふことである。今農商務省農事試驗場及び府縣農事試驗場の調査に據り、本邦各地に於ける蛾の發生期を、農商務省農事試驗場及び府時報告、米麥の病蟲害に關する注意事項により表示すれば左の如くである。

地方	第一回の蛾		第二回の蛾	
	發生期の始終	發生の最も盛なる時期	發生期の始終	發生の最も盛なる時期
山形地方	自五月上旬至七月中旬	六月上旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
新潟地方	自五月上旬至六月中旬	六月上旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
東京地方	自五月上旬至六月中旬	六月上旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
三重地方	自五月下旬至六月中旬	六月中旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
岡山地方	自五月下旬至六月中旬	六月中旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
愛媛地方	自五月下旬至六月中旬	六月中旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬
熊本地方	自五月下旬至六月中旬	六月中旬	自八月上旬至九月上旬	八月中旬

蛾は體長平均四分乃至五分、翅の開張八九分である。前翅は略長方形にして、灰黄色を呈し、褐色の小鱗毛を散在し、其の外縁には縦皺多く、雄にては六個、雌にては七個の黒褐點を列生し、縁毛は少くして翅と同色なれども、光澤を有する。後翅は略三角形をなし、灰白色なるも、少しく黄色を帯び、縁毛も同色である。體は少しく灰白色を帯び、肢も亦灰白色にして、觸角は二節より成り、毛の如く細いのである。五六月頃發生するものは、卵を稻葉の表面で、尖端を距る約一寸の所に、二三十粒乃至二三百粒宛、魚鱗の如く重疊して、一塊に産附し、膠質物にて上を被ふ。第二回の蛾は、多くは葉鞘、若くは稻葉

内外普通動物誌

(追加) 二六五

の裏面の下方に産卵する。産卵當時の卵は白色なれども、漸次暗紫色を呈する。但し寄生蜂に犯されたるものは暗黒色である。

幼蟲は孵化せる當時は、淡褐色にして全體に毛を生じ、背には五條の淡褐色の縦線を有し、八九分の長さに成長する。第一回の幼蟲は一莖中一二頭存在し、莖を喰ひ込みて枯黄せしむるが、第二回の幼蟲は多數一莖内に群棲し、已に一莖を蝕害すれば、直ちに他莖に蠶入し、遂に白穂となすのである。第二回の幼蟲は、其儘葉又は刈株の莖中に潜伏し、翌年五月頃蛹化し、ついで羽化するのである。蛹は褐色にして薄き繭内にあり、その長さ約四分である。第一回發生の幼蟲は、葉鞘の間若くは莖中にて蛹化する。又第二回發生の幼蟲は、葉を密積せる場合に於ては、葉の切口を距る三寸内外の部に蛹化することが多いのである。

〔二〕 イツテンオホマイガ又三化螟蟲又ヒトホシ  
ワラホソバ *Schoenobius bipunctifer* Wk.

本種の學名に就いては農學士素木得一氏は、昆蟲世界第八十八號に於て「イツテンオホマイガ(三化螟蟲)の學名に就て」の一論説を発表し、正當なる學名は *Schoenobius inaequalis* Wk. となすべく、前出の從來使用のものは、この異名となすべきを論ぜられて居る。

本種は通常年三回發生するものにして、九州特産のものなりしが、四國、山口、廣島、和歌山縣及び淡路島等に傳搬したのである。而して中川久知氏の研究に據れば(昆蟲世界第七十三號所載「愛媛香川の兩縣に於ける三化性螟蟲の奇現象」參照)愛媛縣の東部と香川縣の西部に於ては、往々第二回發生の幼蟲は、中晩稻の出穂に先ち、稻莖をして頻りに分蘗せしめ、一見萎縮病に罹りたるものゝ如き觀を呈せしめ、遂に過半は出穂せずして畢るものが多い。而して此中に潜伏せる螟蟲は、第三回羽化期に於ては、唯少數のみ羽化し、或は全く羽化せずして過半は其儘越年し翌春を待て羽化するものなりといふ。本種は臺灣にありては、五回の發生をなすといふ。今農商務省農事試驗場の調査によれば、熊本縣及愛媛縣に於ける蛾の發生期は左の如しといふ。

	第一回の蛾		第二回の蛾		第三回の蛾	
	發生期の始終	發生の最も盛なる時期	發生期の始終	發生の最も盛なる時期	發生期の始終	發生の最も盛なる時期
熊本縣	自五月上中旬 至六月中下旬	五月下旬	自七月上旬 至八月中下旬	七月中旬	自八月中旬 至九月中下旬	九月上旬
愛媛縣	自五月中下旬 至六月中下旬	五月下旬	自七月上旬 至八月中下旬	八月上旬	自九月上旬 至九月中下旬	九月上旬の交

蛾は體長三四分、翅の開張八九分、形狀は略ぼ二化螟蟲の蛾と同一なれども、稍細長  
内外普通動物誌 (追加) 二六七

く、其質孱弱である。前翅は稍々三角形をなし、雄にありては淡褐色にして、翅表面に許多の黒點と、翅頂より一條の斜線を有するも、雌にありては淡黄色にして、唯一個の黒褐色斑點あるのみで、雌雄共に腹部の末端には、褐色の毛を簇生し、殊に雌には多い。

卵は三四十個乃至百個の粒が、二三層に重疊して、橢圓形の一塊をなし、稻葉に附着する。而して苗代にありては、二化螟蟲と同じく、稻葉の表面葉尖を距る約一寸許の所に産卵すれども、移植後稻の成長せる時は、葉の表裏を問はず、其の位置は一定しない。何れも卵塊の表面は、蛾の尾端にある鱗毛を以て、厚く被包せられて居る。孵化せる幼蟲は暗褐色にして、全體に二化螟蟲の如く毛を有することなく、又背面にも褐色縦線なく、成長するに従ひ、體は淡黝綠色となり、老熟すれば黄色となる。而して體長七八分となり、一頭宛莖の先端にある莖腋より侵入し、漸次下方に降り、單に心髓のみを蝕害するを以つて、稻の心葉若くは穂のみを枯死せしめ、葉は依然として綠色を呈する。而して其の成長するに従ひ、莖の下部に移動し、此所に於て蛹化するが常である。故に越年せる幼蟲の多數は、刈株中にありて、藁中にあるものは甚だ少いといふことである。

〔三〕 アカマダラメイガ *Salebria semirubella* Scop.

六月中旬頃より雜草間に多く現出する。

〔四〕

イネノハカジ 又ハカジ 又ハマキムシ 又ヒトハ  
マキ 又ヨジリムシ 又トジムシ 又センコウムシ  
又イネノハカジミヅメイガ 又タテハマキ 又イ  
ネウスギ 又 *Bradina admixtalis* Walk.

蛾は六月頃現出する。體は纖弱にして翅をば體の左右に水平に並置して静止し、且つ腹端を上曲する性がある。全體淡褐色にして、鈍白色部を有し、腹部第八節の背線上は、一個の黒紋がある。翅の開張は五分内外である。前翅は淡黄色にして、三個の褐色横波線を有し、後翅は同じく淡黄色にして、二個の褐色横波線がある。幼蟲は稻の葉が大形に成育するときは、一葉を閉ぢ合はせ、其の中にありて表皮のみを食するを以て、葉は裏面のみ白く残るのである。幼蟲はまたスマメノテツボウの如き禾本科雜草を食ふといふ。

〔一三〕 葉捲蛾科 (Tortricidae)

幼蟲は葉を捲きて其中に棲息し、絲を引きて體を垂下するものが多いが、また幹根、果實種子を食害し、其中に棲むものがある。而してキマダラハマキ、又シタカバカクバ (*Archips similis* Eutl.) クハイトヒキハマキ、又ミツオビカクバ (*A. oritagona* Hb.) アトキハ



マキ (*A. asiatica* Vals) クハハマキ、又ウンモンヒメカクバ (*Exartema mori* Mats.) クハヒメ  
ハマキ、又ハイオビカクバ、又桑の心蟲 (*Exartema molivora* Mats.) 等は本科のものである。

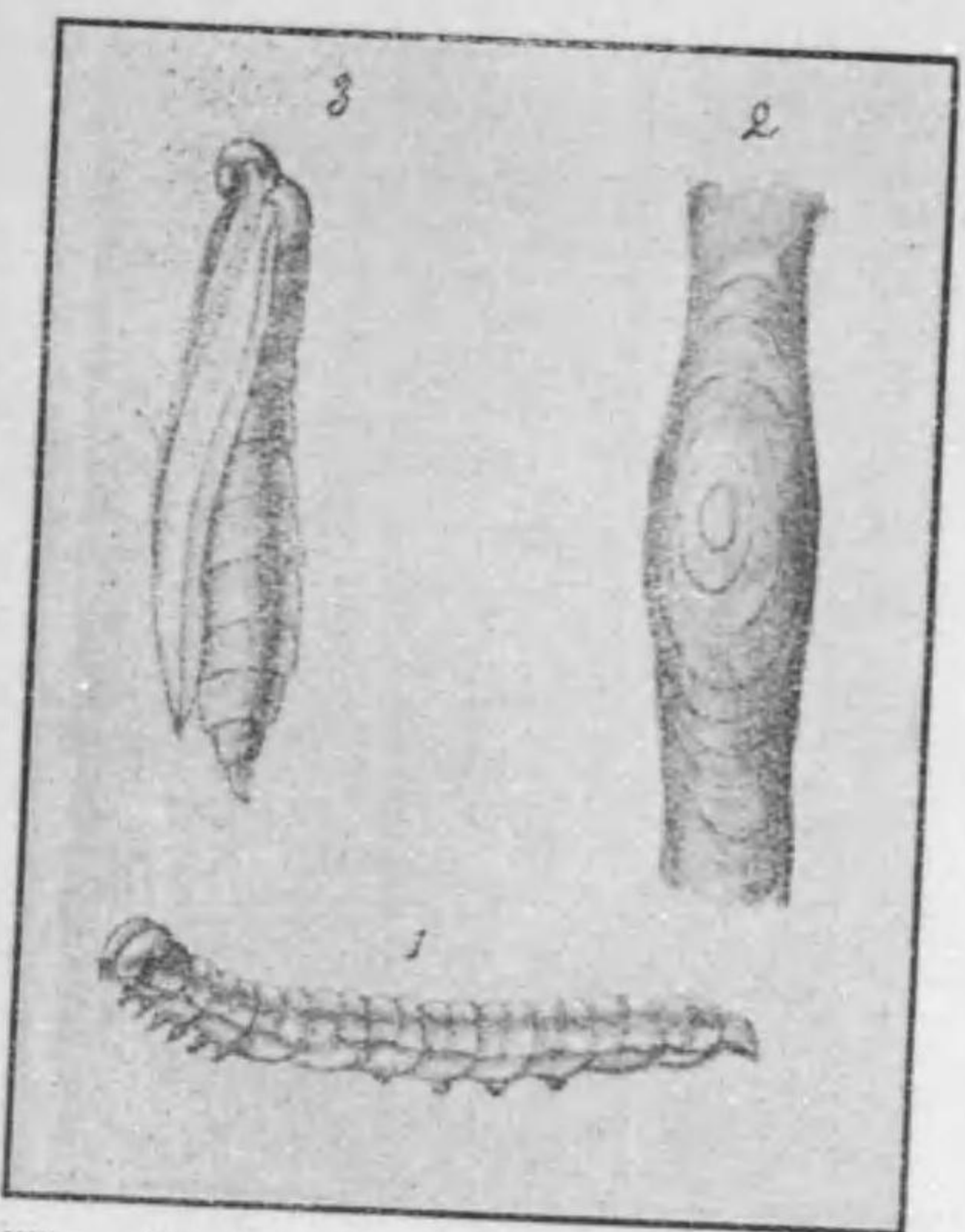
(一四) 穀蛾科 (Tineidae)

[一] 毛氈蛾又ジユタンガ *Trichophaga tapetzella* L.

蛾の前翅底の三分一は暗色にして、暗色の小斑を散在し、外縁の三分二は白色にして、少しく淡青色を帯び、其中央には大小ある灰色紋を有し、翅端には一黒斑がある。幼蟲は巢を造りて其中にありて、毛氈衣服、毛皮、動物標本を加害するのである。

[二] 衣蛾 *Tinea pellionella* L.

蛾は體長二分、翅の開張四分乃至五分、前翅は灰黄光澤を有し、外方の三分の二には暗褐紋を散在し、翅底の三分の一には、同色の二紋、若くは縦紋を有する。幼蟲は老熟すれば、自ら造れる絹絲より成れる筒を適當なるものに固着し、絹絲を以



(Tinea flavifrontella L.)種一蛾衣 圖二十百第  
(after Packard) (大卵) (3) (2) 繭と (1) 蟲幼の

つて其口を閉ち、其中にて蛹化する。毛織物殊に羊毛を害するのである。

[三] 小衣蛾 *Tineola biselliella* Hump.

翅は光澤ある黄褐色にして斑紋を缺く。幼蟲は前種の如く巢を造ることはない。

[四] ヒゲナガガ *Adela optima* Butl.

長形の觸角を有し、翅に黄條ありて美しいのである。

[五] 穀蛾 *Tinea granella* L.

蛾は翅の開張四分乃至四分五厘、前翅は白色にして、暗褐色の斑紋多く、後翅は灰白色を呈し、縁毛長く、頭胸は黄白色で、腹部は灰白色である。年二回發生し、幼蟲は穀粒を食し、之を綴りて灰色の粗繭を造り、其中にありて加害するのである。

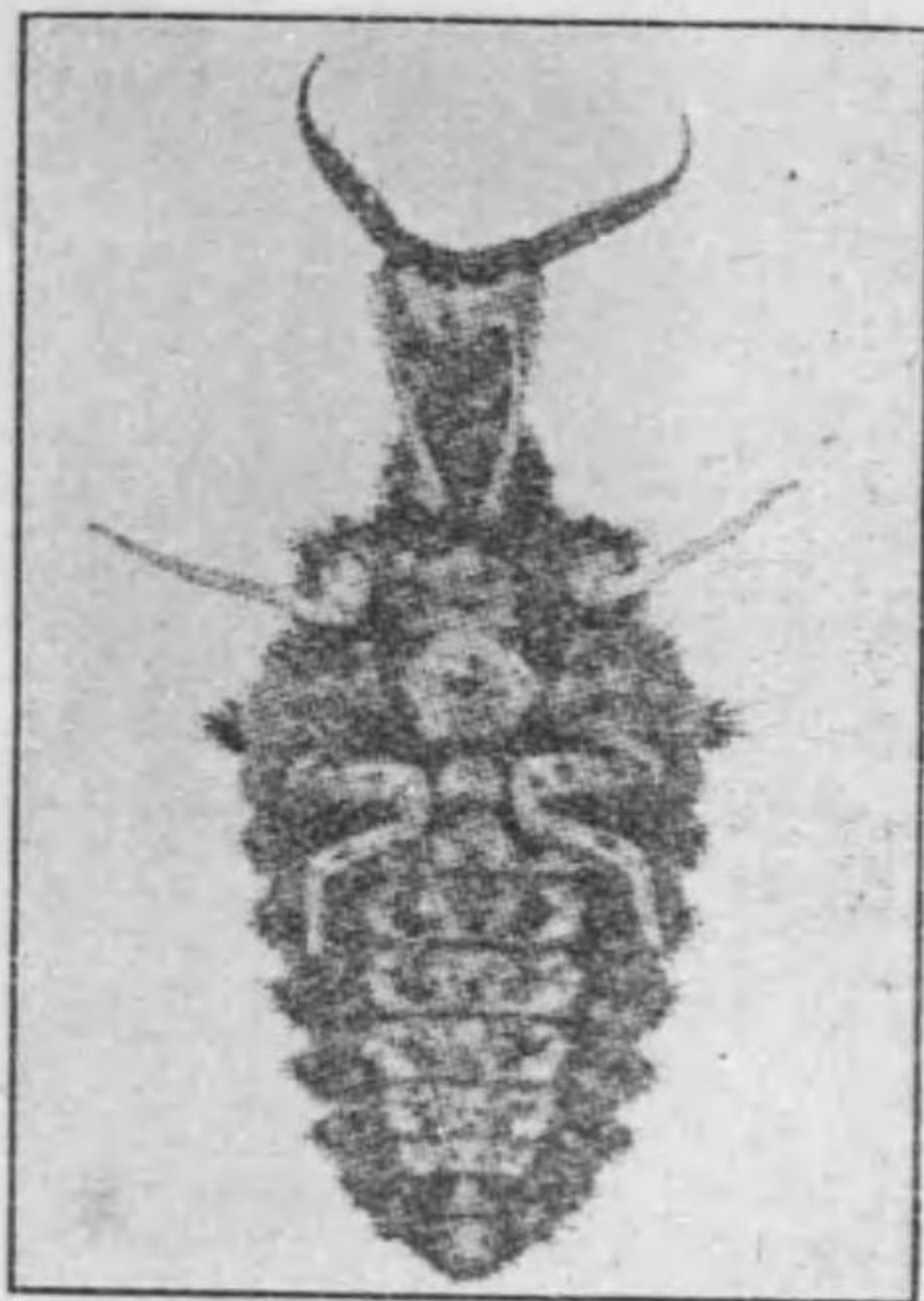
第五目 脈翅類 又 羅翅類 (Neuroptera)

(一) 蛟蜻蛉科 (Myrmeleonidae)

觸角は短く、棍棒状をなし、腹部は細長にして、外形はトンボに似て居る。幼蟲は頭大きく、大顎の内側には鋭齒を有し、腹部は大きく、黒色の小總毛を生じ、肢は細長く、二對は前方に、一對は後方に向き、體を後方に引き摺り歩くのである。而して中には砂中に

插鉢状の孔を造りて、他蟲の陥るを待ち伏せて、之を捕ふるものがある。之をアリデゴ

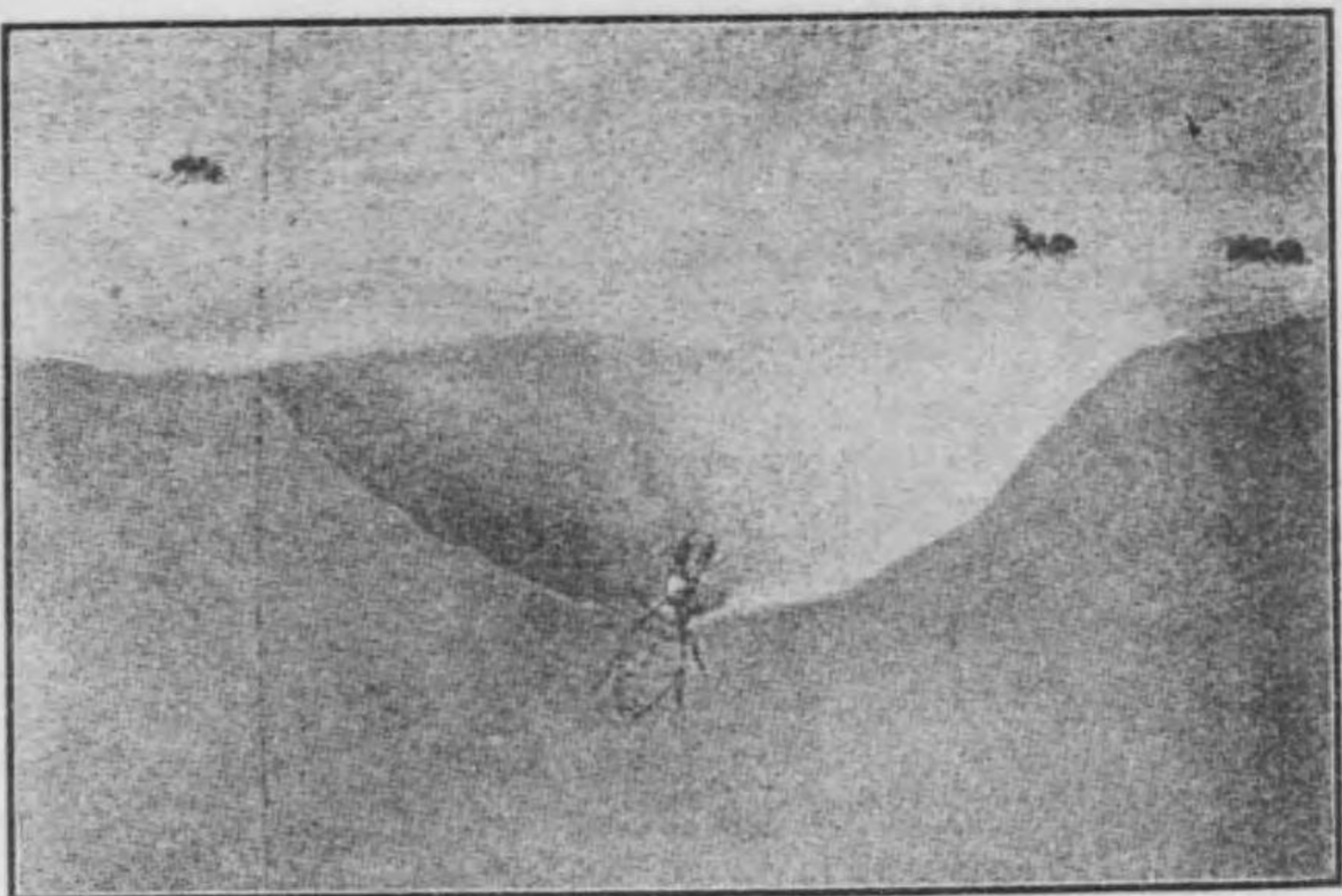
(追加) 二七三



面腹のクゴデリア 圖三十百第 (after H. Main)

クといひ、英にアントライオン (Antlion) といふ。體は幅廣き卵圓形にして、下面には三對の肢を有する。常に蟻、蜘蛛、及び多足類などを捕へて食するのである。

幼蟲が砂地に插鉢状の穴を造るには、先づ腹部の一端をば地に押し付けて圓周を曳きつゝ、後方に進み、其の造らんとする穴に、先づ輪廓を付けるのである。かくて後に、幼蟲は砂中に腹部を埋め、圓廓の中心に最も近き前肢を用ひて、其の幅廣き扁平なる頭上に砂を載せる。而してこの砂をば圓周の外側に突然激しく投擲する。斯くして圓周の内側に於て、ズルリく、と後方に突進しつゝ、絶へず砂を放擲するのである。而して圓が完成した時に、幼蟲はその位置を變じて反對の方向に次ぎの溝を穿ち、斯くして交互に兩側に於て、その足を使用するのであるが、常に内側の前肢を用ひて、頭上に砂を載せるのである。斯く插鉢状の巢を穿がてる時に、防害となるべき小石があると、これの小なるものは、穴外に放擲するが、大きな石になると、幼蟲は石下に行き、其の背の上に石を高め、且つ穴の側壁に登り、この間、石をば落さぬ様に均合を保ち、都合よき處で、石をば穴の外側に落すのである。最後に圓錐形の凹所を穿ち、この底に大頭丈けを出して埋没して、靜に餌物の墜落するを待つて居る。一たび穴に落ちたる蟻が逃れんとする時



(after Theo. Carreras) クゴデリアるせ伏ち待に巢 圖四十百第

は、砂を浴びせ掛けて之を落し、大頭で握り、蟻體の汁液を吸吮した後に、その外皮は穴外へ抛棄するのである。

(一) オホウスバカゲロフ又オホ

カスリウスバカゲロフ

*Acanthaclisis japonica* Hag.

體長一寸六七分、翅の開張三寸七分乃至四寸、前翅は長大にして、縦脈上には黒褐紋あり、腹部は黒く、雄にては第五節背面に、光澤ある灰白紋がある。

(二) ウスバカゲロフ

*Myrmeleon nicans* M.I.

體長一寸二三分、翅の開張二寸六七分、翅は透明にして、前翅には黄褐色の翅脈ありて、前縁にある三縦脈は太く、色稍濃い。又頭より中胸背に亘りて、黄色の一縦溝あれども、前胸にあるものは判然することはない。

(二) 長角蜻蛉科 (Ascalaphidae)

内外普通動物誌

(追加) 二七三

體軀は蜻蛉状をなし、觸角は甚だ長く、末端は太く杓子状をなし、雄の尾端には鉗子状の附屬物を具ふ。夜間出で、飛翔し、小蟲を捕食する。幼蟲はウスバカゲロフの幼蟲に似て小蟲を捕食する。

(一) ツノトンボ *Hybris subjacens* Walk.

體長一寸二三分、翅の開張二寸六七分、觸角は略體と同長にして黒褐色をなし、顔面には長毛を裝ひ、翅は透明にして黒褐の翅脈を有し、縁紋黒く、腹部は黒色にして、背面に縦に太き黄色帯を有する。

(三) 草蜻蛉科 (*Chrysopidae*)

翅は透明にして斑紋を缺く。體は通常綠色で、眼は黄金色である。卵子は長柄の先端に橢圓形をなして着き、二三十本、時としては五十本も一箇所に集り、櫛其他諸種の樹木の枝葉裏、家屋内の天井、神棚の上などに産み附けらる。俗に之を優曇華といふ。四五日経つて、球上部は二つに割れる。幼蟲は、大顎長大にして頭部の先端に突出し、其間に綿蟲及び其他の蚜蟲を挿みて捧げ持ち、其の先端をば體内に挿入し、大顎の内側に沿ふて存せる溝を傳ふて、體液を吸収するのである。

(一) クサカゲロフ *Chrysopa perla* L.

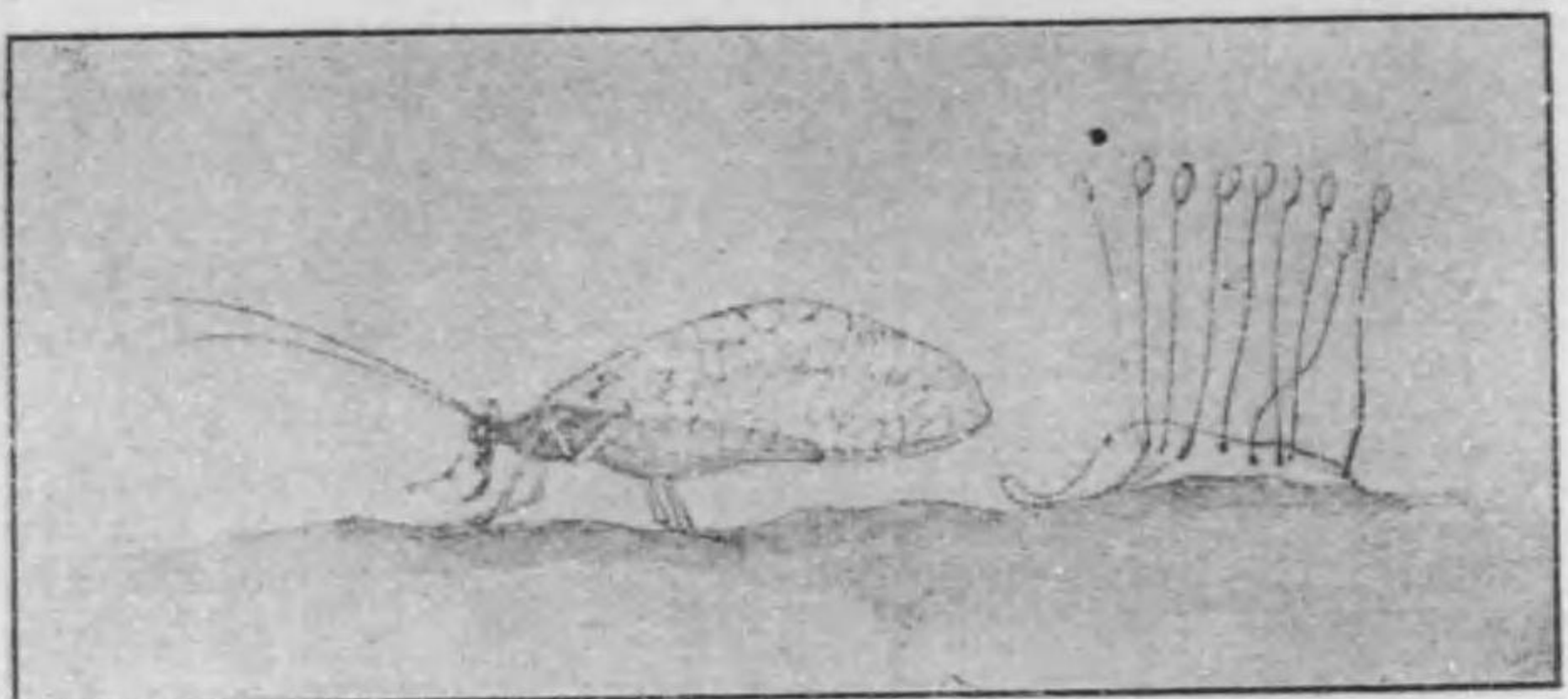
體長三分内外、翅の開張一寸内外、體は綠色、翅は透明にして綠色を帯び、脚は細く體は黄色である。

(四) 舉尾蟲科 (*Panorpidae*)

雄は尾端に鉗子様の附屬物を有し、常に之を上方に擧ぐ、成蟲、幼蟲共に小蟲を捕食するものあれども、また植物質を食するものがある。本科は蠍蟲類 (*Mecoptera*) の一目に編入せらるゝが常である。

(一) シリアゲムシ *Panorpa japonica* Thumb.

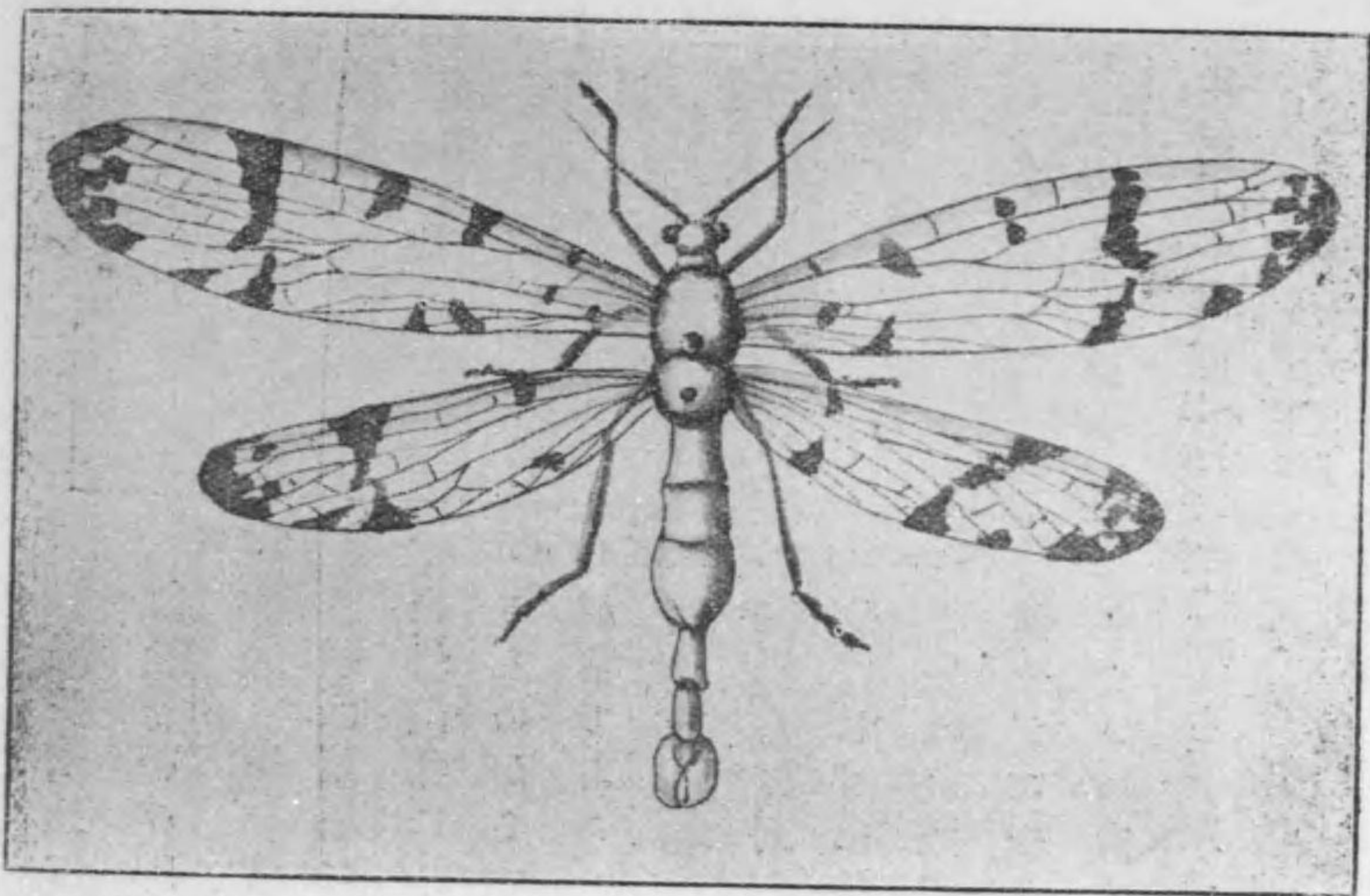
體長六分乃至六分五厘、翅の開張一寸三四分、體は光澤ある黒色にして、前後翅共に、内半は透明に、外半は暗褐色にして、其の中央には透明紋を有するのである。本屬のものは、生動物を捕食せざるやうであるのみならず、植物の花果實の液汁を吸収すといふ。尙詳細は理學士三宅恒方氏の蠍蟲目昆蟲の食肉性



圖五十百第 (after Packard) 華曇優とフロゲカサク

に就ての論説 (昆蟲世界第百八十七號所載) を参照せらるべし。

(二) カモドキシリアゲムシ *Bittacus sinensis* Walk.



(after Packard) (Panorpa rufescens Rambur) 種一シムデアリシ 圖六十百第

(追加) 二七六

本属のものは常に小蟲を捕食すといふ。但し蜜蜂を捕食することは、食蜂家には害蟲と見做さるべきものなりといふ。

(五) 長角石蠶科 (Leptoceridae)

觸角は甚だ細長く、前翅も亦甚だ細長にして短毛を密生する。幼蟲は池沼、急流に棲息し、砂及び小石より成れる圓錐形の自在に動かすべき筒を造りて、其中に棲息する。而して以下の諸科と共に、毛翅類 (Trichoptera) の一目に編入せらるるのである。

(一) ヒゲナガトビケラ又

コヂムキカゲロフ

*Stenopsyche griseipennis* M'L.

體長五六分、翅の開張は一寸四分乃至一寸八分、前翅は細長く、乳白色の地に微細な

る暗褐紋を密布し、後翅も乳白色にして半透明である。體軀は黄褐色にして、觸角は細長く體長の二倍もある。

(六) 筒石蠶科 (Hydropsychidae)

幼蟲の筒は固着して自在に動くことはない。シマトビケラ (*Macronema radiatum* M'L.) は本科の一例である。

(七) 石蠶科又ヂムキカゲロフ科 (Phryganidae)

幼蟲は池沼、溝等の卑濕地に棲み、水生植物の葉枯葉等にて筒を造るが、筒は螺旋状をなし、前端は廣い。

(一) ムラサキトビケラ又ムラサキオホヂムキ

*Holostomis regina* M'L.

體長七分乃至一寸、翅の開張二寸乃至三寸、後翅は幅廣く紫黑色を帯び、先端に近く黄土色の廣き横帯を有するのである。

(二) ツماغロトビケラ又ヂムキカゲロフ

*Phryganea japonica* M'L.

體長五分乃至七八分翅の開張一寸四分乃至二寸餘前翅は鹿毛色にして微細の斑紋を有し中央には黒褐縦帯がある。後翅は幅廣く黄土色を帯び先端は暗褐色である。

(八) 銜石蠶科 (Limnophilidae)

前翅は細長にして内縁は稍弓状をなせるもの多く幼蟲は急流又は止水に棲息する。

- (一) エグリトビゲラ又マツカハヂムキ

*Glyphotaelius admorsus* M.T.

體長八九分翅の開張二寸内外前翅は半透明にして松皮色をなし其後半は列られたるが如くである。

- (二) スヂトビゲラ又スヂヂムキ

*Grammotaurius brevilinea* M.T.

體長五分内外翅の開張一寸三四分前翅は淡黄褐色にして三個の黒斑を有するのである。

第六目 有吻類 (Rhynchota) 又半翅類 (Hemiptera)

有吻類を分ちて異翅類 (Heteroptera) 同翅類 (Homoptera) 及び無翅類 (Aptera) の三亞目となし尙之れに總翅類 (Thysanoptera) 一名胞脚類 (Physopoda) を附録として記述する。

第一亞目 異翅類 (Heteroptera)

前後の兩翅は其の形狀を異にし前翅の基部の大半は革質不透明なる部を有し其の外縁には膜質部を有する。靜止のときは翅を水平に置く。この類を分ちて水棲類 (Hydrocoera) 及び陸棲類 (Geococera) の二類とする。前者は觸角は頭より短く常に頭下に隠れて見へない。後者は觸角は頭より長く陸上若くは水上に棲息するのである。

第二亞目 同翅類 (Homoptera)

前後の兩翅は膜質同形にして靜止のときは翅を屋斜狀に疊み込むのである。

第三亞目 無翅類 (Aptera) 又寄生類 (Parasita)

翅と複眼とを缺き唯頭の兩側には一個宛の單眼を有し口器は伸縮自在なる肉質の口吻にして吸吮に適する。

附録 總翅類 (Thysanoptera) 又胞脚類 (Physopoda)

口は吸吮と咀嚼とに適する。前後兩翅は略同形にして細長く長き縁毛を有し、

跗節端には、一個の膨大せる附屬物を有し、變態は不完全である。  
(追加) 二八〇

### 第一亞目 異翅類 (Heteroptera)

#### 第一類 水棲類 (Hydrocoeres)

##### (一) 田鼈科 (Belostomidae)

體は扁平にして、前肢の脛節は甚しく膨大する。尾端には二個の附屬物あれども、之によりて空氣を呼吸することはない。

##### (一) タガメ又カツバムシ又カハズハサミ

*Belostoma deyrolli* Vuill.

體長一寸八分乃至二寸三四分、體は扁平にして、前肢の脛節は甚しく肥大し、跗節は二節より成り、其先端には鉤狀爪を有し、以て他蟲を捕食するに適する。六七月頃稻莖などに卵塊を産附する。而して食肉蟲にして、養魚を害する外、蛙を食するのである。

##### (二) コオヒムシ又ヒルメシモチ又メシモチ (方言)

*Appasus japonicus* Vuill.

體長六七分、體軀は扁平にして、負卵期は四月初旬より七月下旬に亘り、負卵の數は

多きは八十乃至百以上である。而して負卵するは皆雄にして、雌は雄の背上に登りて、數十分毎に一二塊宛産卵すといふ。

##### (二) 紅娘華科 (Nepidae)

前肢は變じて往々捕獲肢となり、尾節には二個の長き附屬物を有し、これにて空氣を呼吸するのである。

##### (一) タイコウチ又ユリノハナスヒ

*Laccotrepes flavovenosa* Dohrn.

體長は一寸乃至一寸二分許、腹部は扁平にして、其の末端には二個の長き革質針狀の附屬物がある。前肢はよく發育し、腿節の基部に近く、一個の太き棘狀突起がある。跗節は爪狀となり、他蟲を捕へるに適する。而して其の水底に靜止するや、木片などによく似て居る。

##### (二) ミヅカマキリ *Ranatra chinensis* Mayr.

體長は一寸三分乃至一寸五分、前胸は長く伸長し、腹部も細長く、前肢は基節伸長し、腿節の中央に棘狀突起がある。其の水中に靜止するや、樹枝に似て居る。

##### (三) 松藻蟲科 (Notonectidae)

後肢の脛節と跗節とは扁平にして、縁毛を多く生じ、游泳に適する。常に池沼に棲息し、腹部を上方に向けて游泳し、幼魚を食する。

- (一) マツモムシ又バツテラムシ

*Notonecta triguttata* Mats.

體長四分五厘内外、體の背面は龍骨狀に突起し、常に腹面を上にして游泳するのである。

(四) 水蟲科 (Corixidae)

體は扁平なる小蟲にして常に水田に棲息する。

- (一) コミヅムシ又風船蟲 *Corixa substriata* Uhl.

體長二分内外、觸角は四節より成り、末端には輪環を缺く。後肢の脛跗節には細毛を生じ、游泳に適する。而して水中の物體と共に水面に浮び、物體を放ち、後肢を動して水底に達し、又物體を握みて水面に浮び出づる習性よりして、俗に風船蟲といふのである。常に水田に棲息し、食肉性である。

第二類 陸棲類 (Geocores)

- (一) 椿象科 (Pentatomidae)

觸角は稀に四節のものあれども、通例は五節より成りて、頭の下方より起り、絲狀である。稜狀部は大にして、短きものと雖も、腹部の半部に達するのである。多くは植物の汁液を吸吮して、農業上有害なれども、クチブトカメムシ、ルリカメムシ、コブカメムシ等の如く、葉捲蟲其他の小蟲を捕食するものなきにあらずである。

- (一) クロカメムシ *Scotinophora lurida* Burm.

體長は三分内外、長橢圓形にして、全體光澤なき黒色である。稻、麥、粟、其他禾本科植物の害蟲である。

- (二) イネカメムシ又クサガメ

(俗稱) *Aenaria Lewisii* Scott.

體長四分五厘内外、體軀は橢圓形にして、全體暗黄褐色を呈し、翅の兩側は白色を帯び、肢は黄褐色にして、爪の先端は黒い。稻の出穂の際、穂に集り害



第百七十七圖 シムメカロク

をなすのである。

- (三) アチカメムシ *Nezara viridula* L.

體長五分許、全體綠色にして、觸角の第三節以下の各節の先半は黒く、肢は綠色にし



シムメカネイ 圖八十百第

(追加) 二八四  
て爪端は黒い。本種は大小豆、其他各種植物を害するのである。

〔四〕 ルリカメムシ

*Zizrona coerulea* F.

體長二分内外、全體は瑠璃色を帯び、腹背は鈍紅色である。他蟲を捕食し、よくヤナギルリハムシの群中に見るのである。

〔二〕 縁椿象科 (Coreidae)

稜狀部は小さく、腹部の半ばに達することはない。體の周縁殊に腹部の兩側は突出して居る。

〔一〕 ホ、ツキカメムシ *Acanthocoris sordius* Thunb.

體長三分五厘乃至四分五厘、灰褐色、光澤なき種にして、腹縁は暗褐色で黄紋を有し、後肢の腿節は太く、其の内側には數十個の齒狀突起を有する。ホ、ツキ及ビ茄子に加害する。

〔二〕 ヒヘブウ又ホソヘリカメムシ又サ、ゲカメムシ  
*Riptortus clavatus* Thunb.

體長五分五厘乃至六分、暗褐色、細長にして、中胸の兩側は針狀に突出する。後肢の腿節は黒く黄斑を有し、甚だしく膨大する。大小豆、藤、其他の荳科植物を害する。幼蟲はクマアリ類によく擬態する。

〔三〕 水黽科 (Gerridae)

頭部は胸部と略同幅にして、頸狀部を缺く。また前翅は全體同質にして膜質部なく、體は細く下部に絹狀の毛ありて、常に水上に棲息し、他蟲を捕食する。

〔一〕 イトカハグモ *Hydrometra vittata* Stal.

體は細長にして絲の如く、頭部は細長く延び、中部には複眼がある。

〔二〕 ヒメカハグモ *Hygrotrachus pallidum* F.

體長三分内外、黒褐色にして、肢は黄褐色である。

〔三〕 コバナカハグモ *Hygrotrachus remigator* Horv.

體長四分、黒褐色にして、前肢は短太に、中後肢は細く、中肢は最も長いのである。

〔四〕 食肉椿象科 (Reduviidae)



觸角は絲狀にして四節より成り、頭の上方に位するのである。後頭部は伸長して判然たる頸部を有し、稜状部は小さく、肢は細長である。本科の者は食肉性の益蟲である。

(一) アカサシガメ *Cydnocoris ruscatus* Stal.

體長四分五六厘、全體は赤く、觸角の直上には二個の角状突起を有し、其後方には一條の稍太き黒色横線ありて複眼と接近する。常に山林にありて、樅等に發生する鋸蜂の幼蟲などを捕食することが多い。

(二) アカシマサシガメ *Haematoloecha nigrofufa* Stal.

體長三分五厘、頭部は黒く、前胸背は赤く、且つ十字形の溝を有し、翅は黒褐色にして、其の基部と前縁の基部とは赤く、腹縁には赤縞を有するのである。

(三) ゴミアシナガサシガメ又ゴミカメムシ

*Orlunaga bivittata* Uhl.

體長五分餘の細長種にして、觸角は鞭狀をなして細く、前肢は太く、基節は長くして蠕螂の基節の如くである。後肢は甚だ長く、中肢はこれに次いで長く、各肢には軟毛を密生し、黒斑を有するのである。本種は川越地方にては、竹林に多く徘徊し、又便所内の障子などによく來るのである。

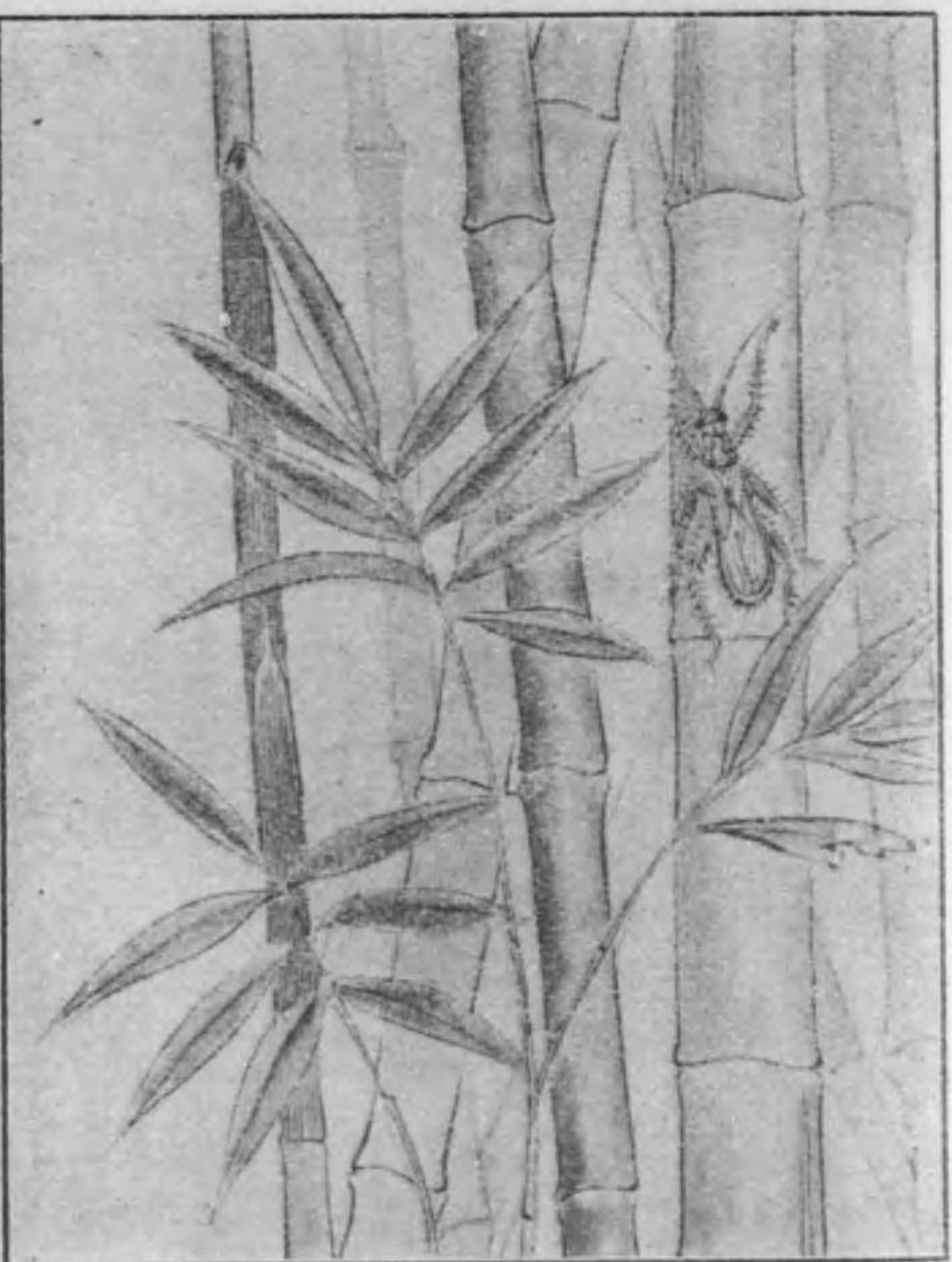
(四) ヤニサシガメ

*Velinus nodipes* Uhl.

體長四分五厘許、黒色にして全體に脂様物を帯びて粘着性に富む。松樹に多く棲む。

(五) 床蝨科 (Cimicidae)

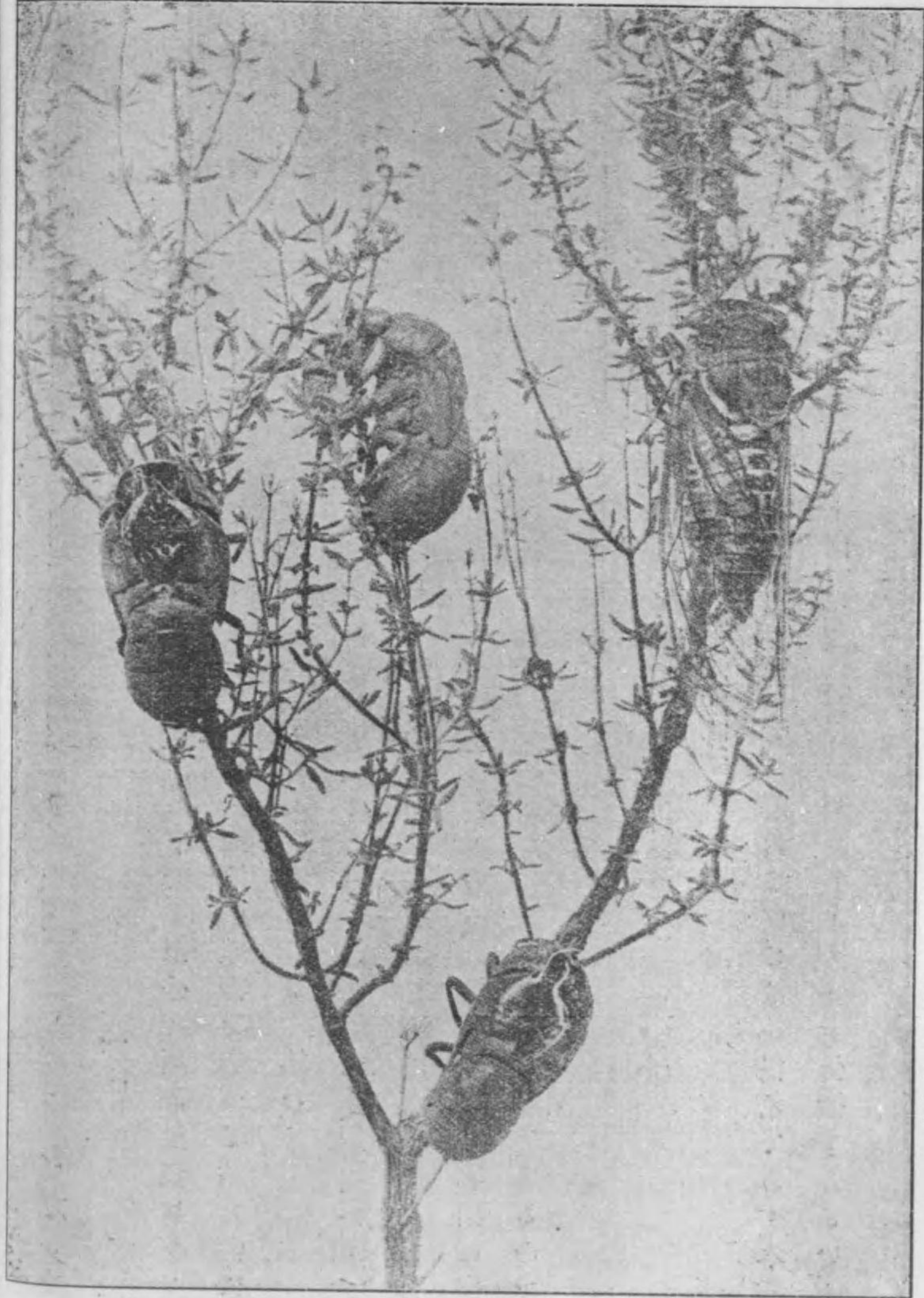
翅を缺き、體は扁平にして卵形である。鳥類若くは哺乳類に寄生して、其の血液を吸吮するのである。



メガシサガナシアミゴ 圖九百十第

(一) 床蝨又鎮臺蝨又寢臺蝨又黒虱(那)又臭蝨(那)又南京蝨 *Cimex lectularius* L.

體長は平均一分二三厘乃至二分、黒褐色にして觸角と肢とは茶褐色である。本種は人を刺蝨するのみならず、ベスト茵、再歸熱、及びスピロヘーテ等を傳播するといふ説がある。



(Photo by P. H. Fabre.) 蟬と成るの種一 圖十二百第

### 第二亞目 同翅類 (Homoptera)

#### (一) 蟬科 (Cicadidae)

頭は短潤にして略二等邊三角形をなし、中央には三個の單眼が三角形に排列する。觸角は短く鞭狀をなし、口吻は長く、中肢の基部に達する。雄は腹部の第一節と第二節の腹面に發音器を有して鳴聲を發する。今アブラゼミに就いて云へば、後胸の後縁より起りて後方に擴り、腹部の前面を被へる一對の瓣狀物がある。之を腹鱗といひ、背面より見ればこれより遙かに小形の一對の瓣狀物が、第二腹節の背側より前方に突出して居る。之を背瓣といふ。背瓣を截ると、その下には貝殼狀をなし、表面に皺裂あるキチン質の薄膜がある。これ即ち發音器の主體で、鼓膜である。また背瓣と鼓膜との中間



第百二十一圖 蟬の腹に於ける發音器の構造 (after Packard)

壁膜の一部によりて、軽く支持せられ、また筋の終りは臆盤に付いて居る。而して共鳴

室は第三氣孔によりて、外方に通ずる外、他は總べて密閉して居る。今蟬が發音筋を伸縮すると、其上の鼓膜が顫動し、其鳴室は共鳴して鼓膜の發音を強大ならしむるので

(追加) 二九〇



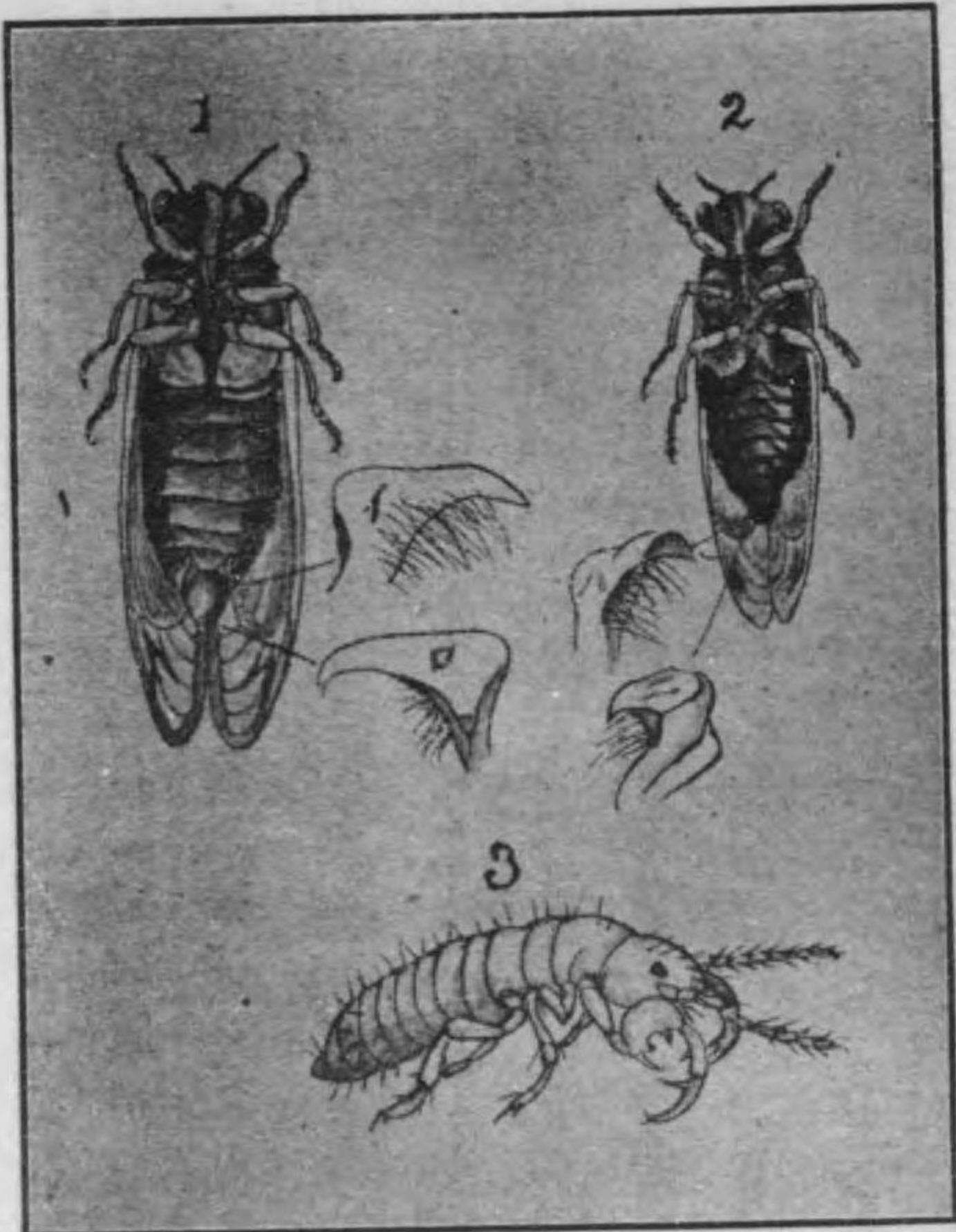
第百二十二圖 蟬の腹の構造 (after Packard)

ある。而して發音器の構造は、蟬の種類によりて

相違するものにして、鼓膜の大小、筋肉の強弱、瓣の大小、其鳴室の廣狹等によりて、その鳴音が異なるのである。尙蟬の發音器の構造については、理學士朴澤三二氏著「蟬の發音器」なる論説が、動物學雜誌第二百七十七號及び二百七十八號に掲載せられあり。就いて参考せられんことを望む。熱帶地方にては、蟬は日中は鳴かずして、唯日没後に鳴くといふことであるが、本邦産のアブラゼミの如きも、余が嘗て川越に寓居する際、午後十時頃に雨後霽れたる月夜に、凡そ十分間も喧しく鳴き出したことがある。其際甲樹の一疋が鳴き出すと、附近に居りし一疋も亦鳴き出したのであつた。

雌は腹面に針狀の産卵管を有し、枯枝内に穴を穿ちて産卵する。幼蟲は孵化すれば

地下三四尺若くはそれ以上の處に穴居し、樹根より養液を吸收して蛹となり、地上に這ひ上り、少時日光に浴しながら待ち、次に有力なる筋肉を用ひて、背の皮を裂開して體外へ出づるが、翅は甚だ迅速に成長し始めて、これが乾燥するに至れば、難なく飛び出すことが出来るのである。彼の



第百二十三圖 雄成蟬年七十 (1) 雄成蟬年七十 (2) (Cicada cassinii Fisher) 種一蟬 (ロ、イ) (Packard) (3) 蟲幼の種一蟬 (ニ、ハ) 鉤の用

北米産の十七年蟬の如きは、幼蟲期長くして、成蟲は十七年目に始めて羽化するのである。

(一) エゾゼミ Cicada flammata Dist.

體長一寸二分乃至一寸四分、翅の開張二寸二分乃至二寸七分、體軀は黒く、茶色の斑紋を有する。胸部は黒色にして、中央にはW字状の橙黄色の斑紋を有し、側面には白粉縦帯を有し、其の後方のX字状の突起も、亦橙黄色にして、中央には黒線を有する。本種は北海道及び東北地方に産し、七八月頃ギ

ギーと鳴く。

(追加) 二九二

- 〔二〕 クマゼミ又シヤアシヤアゼミ又ムマゼミ又ワシワシゼミ *Cryptotympana intermedia* Sign.

翅の開張四寸、全體黒色にして胸腹部の間には白粉を有する。翅は前後共に透明にして斑點なく、翅底は暗褐色を帯び、シャーシャーと大聲にて鳴く、暖地に多く棲息し、臺灣にも産する。

- 〔三〕 ツクツクボウシ *Cosmopsaltria colorata* Stal.

體長一寸許、綠色にして黒斑を有する。翅は透明にして、前翅の先端に近き横脈上には、焦茶色の二斑を有する。早秋盛んに現出し、ツクツクボーシーと鳴く。

- 〔四〕 アブラゼミ又アカゼミ又サトゼミ又アキゼミ  
又ヤマゼミ *Graptopsaltria colorata* Stal.

大形の蟬にして、翅色は赤褐色を呈し、且つ不透明である。七八月頃に最も多く現出し、喧しくジーと鳴く、嘗つて本種が柿樹の直徑四五寸の幹の地上、凡そ五尺位の裂罅中に産卵せるものを見たことがある。

- 〔五〕 ヒグラシ又カナカナゼミ *Leptopsaltria japonica* Hawv.

中形種にして、前胸は茶色を帯び、中胸は茶色と綠色と黒色とを有し、腹部は暗褐色である。四翅共に透明にして、前翅の横脈上には各四個、翅端に近き處に各四個の、焦茶色の斑紋を有する。通常朝若くは夕刻、カナカナ〜と鳴けども、山林にありては、樹木の低き處で、日中でも盛んに鳴き出すことがある。

- 〔六〕 チツチゼミ又ナンキンゼミ *Melampsalta radiator* Uh.

體長六分、翅の開張一寸六七分、體は黒く銀白色の細き毛を生ずる。前後翅共に膜質、透明にして、翅脈は黄綠色で、前翅基部の内縁には、朱色の一室があり、後翅の體に近き翅脈上には、焦茶色の斑がある。八九月頃山林にてチツチツと鳴く。

- 〔七〕 ニイニイゼミ又ナツゼミ又コゼミ又ムギカリ  
ゼミ又ゴシキゼミ *Platypleura kaempferi* L.

小形の蟬にして、體長七分五厘内外、前翅は黒褐色を帯び、所々に透明部を有し、後翅も亦黒褐色にして、翅縁のみ透明である。七八九月頃最も多く現出し、絶へずニーニ〜と鳴く。

- 〔八〕 ミンミンゼミ又ミヤマゼミ又マンメン

*Pomponia maculaticollis* Mats.

大形にして體は黒く、前中胸背には緑色の斑紋を有する。四翅共に透明にして、前翅の横脈上には、焦茶色の斑紋各四個を有する。七八九月頃現出し、ミンミンと鳴く。

〔九〕 ハルゼミ又マツムシ又クダマキ

*Terpnosia Pyrei* Dist.

體長八分乃至一寸翅の開張二寸許、體は大體黒色にして、中胸部には淡褐色の縦條あり、翅は膜質透明にして、翅端に近き横脈上には、四個の焦茶色の斑紋がある。四五月頃山間の松樹にて、盛んにジワ、ジワと鳴く。

〔一〇〕 ヒメハルゼミ

*Leptopsaltria toberosa* Sign.

體長九分内外の小形種にして、前種に似たるも、頭胸腹は綠色を帯び、翅は前縁脈の基半のみ綠色を呈し、他の枝脈は緑褐色である。四五月頃松林にて盛んに鳴く。

〔一一〕 タイワンクサゼミ

*Moganuis hebes* Wk.

本種は臺灣及び南部支那に産し、體軀は淡綠色にして、中胸には暗黒色の四紋を横



第百二十四圖 七メハルゼミ

列し、翅は透明にして翅脈は綠色である。本種は叢間に棲息すといふ。

(二) 泡吹蟲科 (Cercopidae)

幼蟲は皆泡沫様の分泌物を以つて、自體を被包するのである。

〔一〕 アハフキムシ *Aphrophora flavipes* Uhl.

淡褐色をなし、頭部には廣き黒褐縦帯を有し、且つ細く、翅には暗褐色の斑紋を有する。

〔二〕 ハマベアハフキ *Aphrophora maritima* Mats.

體長三分五厘内外、全體葉色にして斑紋を缺く。

(三) 浮塵子科 (Jassidae)

白蠟蟲科のものよりは、頭部は扁平で、觸角は複眼の間にありて、單純にして鞭狀をなす。前胸大きく、また翅は基部厚く、末端部は膜質である。また後肢脛節には、内外兩側に刺毛を並列する。體軀は扁平にして、體軀よりは白蠟の分泌物を生ずることはないのである。

〔一〕 ミミヅク *Tetra auditura* Wk.

體長四分五厘乃至五分五厘、全體暗褐色をなし、前胸背の兩側は板狀に突出する。本

種がクヌギ、柳等に静止するときは其の樹皮と區別することは困難である。

(追加) 二九六

(二) ツマグロヨコバイ

*Nephotetix apicalis* Motsch, var. *cincticeps* Uhl.

體長一分五六厘乃至一分七八厘、頭部は扁平にして、雌は雄に比すれば大きく、前翅は綠色を帯び、雄にありては其の先端は黑色である。これ「襍黒」の名ある所以である。四月中旬乃至五月上旬より、九月中下旬に亘りて發生し、通例年四回の發生をなせども、暖地にては五回の發生をなすことがある。雌は産卵管によりて、稻葉の組織内に産卵するが、其の場所は葉鞘の縁邊にして、一箇所に十數個乃至二十餘箇を産附する。卵は白色半透明にして、長さ二厘内外に過ぎず、形は長橢圓形にして彎曲することはない。卵期は六七日乃至十餘日である。幼蟲は淡黄色を帯び、蛹期にては、雄は黑色なれども、雌は黄色である。而して幼蟲の期間は、氣候に因り十六七日乃至二十六七日に亘りて居る。概して冬季は幼蟲の状態にてレンゲサウ及び雜草中に潜伏する。本種は稻、麥、其他禾本科の害蟲にして、よく飛翔するのみならず、又よく横行し、巧みに體を潜伏するのである。

(三) オホツマグロヨコバイ

*Tetigonia ferruginea* Wlk. var. *apicalis* Wlk.

體長は四分乃至四分五厘、體軀は黄綠色にして、頭部に二個、前胸に三個稜狀部に一個の大なる黒點を有し、前翅は橙黄色にして、翅底の一紋及び翅端は黑色にして、後翅は黒く、少しく紫色を帯びて居る。本種は茶桑を害する。

(四) オホヨコバイ *Tetigonia viridis* L.

綠色にしてツマグロヨコバイに似れども、形甚だ大きく、體長は翅と共に二分六厘乃至三分、雌雄共に綠色にして、翅の先端は黒くない。本種は稻、大豆、桑等を害する。

(五) ホシウスベニヨコバイ *Gnathodus guttatus* Thumb.

(六) カシヨコバイ *Pediopsis quercus* Mats.

(七) コミドリヨコバイ 又ミドリヒメヨコバイ

*Chlorita flavescens* F.

體長一分一二厘許、體と肢とは淺綠色にして、前翅は綠色、外縁に近き部は淡褐色を帯び、後翅は無色にして透明である。本種は茶園にありて甚しく新芽を害する外、リンゴ、ナシ、桑、ダイコン、其他雜草に至るまで各種の植物を害する。

〔八〕 フタテンヨコバイ *Cicadula fascifrons* Mats.

體長は翅を合せて一分乃至二分二厘許翅は淡褐色を帯び、殊に翅の先端部は少しく濃く、後翅は黄色に近けれども、前縁及び翅端は少しく褐色にして、翅脈も亦褐色である。頭部は灰綠色にして、頭頂邊と前頭の左右には、各々一對の褐色横斑を有し、後頭部の中央に近く一對の褐色圓點がある。前胸部は灰綠色にして、腹部背面は褐色である。主に畦畔に棲息し、稻、麥其他の禾本科植物を害する。

〔九〕 ヨツテンヨコバイ *Cicadula Masatonis* Mats.

體長一分二厘乃至一分四厘淡褐色にして、頭頂邊には左右に二個、之と相對して頭部中央の左右に二個、合せて四個の濃褐色を有する。稻、麥其他禾本科の雜草を害する。

〔一〇〕 ヒトツメヨコバイ *Thannotetix cyclops* Mats.

翅を合せて一分五六厘の小形の肥大種にして、翅を疊むときは、菱形の褐色斑を現出する。

(四) 白蠟蟲科 (*Fulgoridae*)

浮塵子科に比すれば、全體稍々縦扁にして小さく、頭部も狭く、翅は一體に膜質にし

て、前翅の基部には鱗狀の小片を有し、觸角は複眼の下方にありて三節より成り、第二節は圓くして、許多の突起物あり、後肢は脛節單純にして、唯外側に二三の刺狀突起を有する。また體より白蠟の分泌物を生ずるのである。

〔一〕 ヒシウンカ *Oiharus apicolis* Uhl.

翅を合せて體長二分内外、全體肥大し褐色を帯び、頭部は濃黒褐色にして、菱狀を呈し、また前胸部の楯板も菱狀に發達して褐色を帯び、五個の縦隆起線を有し、翅は長方形にして淡緑褐色を帯び、翅端は殊に濃褐色である。稻、マコモ等に棲息する。

〔二〕 セジロウンカ *Delphax furcifera* Horv.

翅を合せて體長一分三四厘乃至一分六厘、前胸部の楯板は菱形にして長く、淡黄色の斑紋を有し、腹部背面の兩側は黄色である。稻、麥其他禾本科植物に大害を與ふ。

〔三〕 ヒメトビウンカ *Delphax striatella* Fall.

翅を合せて體長一分四五厘、體軀は褐色にして、前胸の楯板に存する三條の隆起線は、淡黄褐色である。稻、麥其他の禾本科を害する。

〔四〕 ホソミドリウンカ *Oxyranus procerus* Mats.

體は雌を合せて二分内外、細長綠色にして、腹部の末端には夥しく白毛を生じ、翅は

細長にして頗る長く、外縁は尖り淡緑色である。本種は七月頃マコモ、シャウブに多く群棲する。

〔五〕 アナスヂウンカ *Chodou vittatus* Mats.

〔六〕 シロモンヒシウンカ *Issus harimaensis* Mats.

幼蟲は川越地方にては、五月中旬頃、ウゴキ及び藤の莖上に多いのである。

〔七〕 コブウンカ *Tropidocephalus brunipennis* Stal.

山間のス、キ中に棲息する。

〔八〕 アカハネナガウンカ *Diostrombus politus* Uhl.

本種は稗、稻、アハ等を害する。

〔九〕 ツマゲロスケバ *Anagnia splendens* Germ.

體長三分翅の開張八分、體は暗黄色、前翅は透明にして、縁紋と末端より後縁に亘りたる大紋は黒褐色、後翅は透明にして、末端には黒褐紋を有する。

〔一〇〕 ヤナキウンカ *Cotyleceps marmorata* Uhl.

初夏より秋季を通じて二三回發生する。體色は柳の樹皮と同色をなし、またクヌギ

の樹幹などにも棲む。

〔一一〕 トビイロウンカ *Delphax oryzae* Mats.

體長一分内外、褐色にして中胸背の中央には、縦に淡黄色の斑紋を有する。稻の一大害蟲である。

〔一二〕 テングスケバ *Dyctyophora sinica* Wk.

體長は四分五厘許、頭部は甚しく伸長する。稻、麥、其他禾本科植物を害する。

〔一三〕 グンバイウンカ *Epورا onukii* Mats.

體長二分許、全體綠色、翅も亦綠色にして網狀の翅脈を有し、且つ翅は廣大にして軍扇狀に疊む。柑橘類の害蟲である。

〔一四〕 アチバハゴロモ *Geisha distinctissima* Wk.

體長三分五厘内外、體は黄綠色、前翅は淡綠色を呈し、翅縁赤色に細く縁ざられて居る。幼蟲は淡黄綠色にして、多くの綿様物を以つて、全く體を被覆する。桑、茶、柿、カラタチ、橘、クサギ、タラノキ、ウコギ、コブシ、エゴノキ等、各種の植物に發生し、其の液汁を吸収する。

〔一五〕 スケバハゴロモ又スカシバハゴロモ



*Euricania fascialis* Wlk.

前翅は透明にして黄色を帯び、周縁は黒褐色にして、其の中に黄斑を有する。後翅は小さい。本種は桑、クサギ、ニハトコ等に多く発生し、またオニグルミにも多く付く。

〔一六〕 アミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata* Uh.

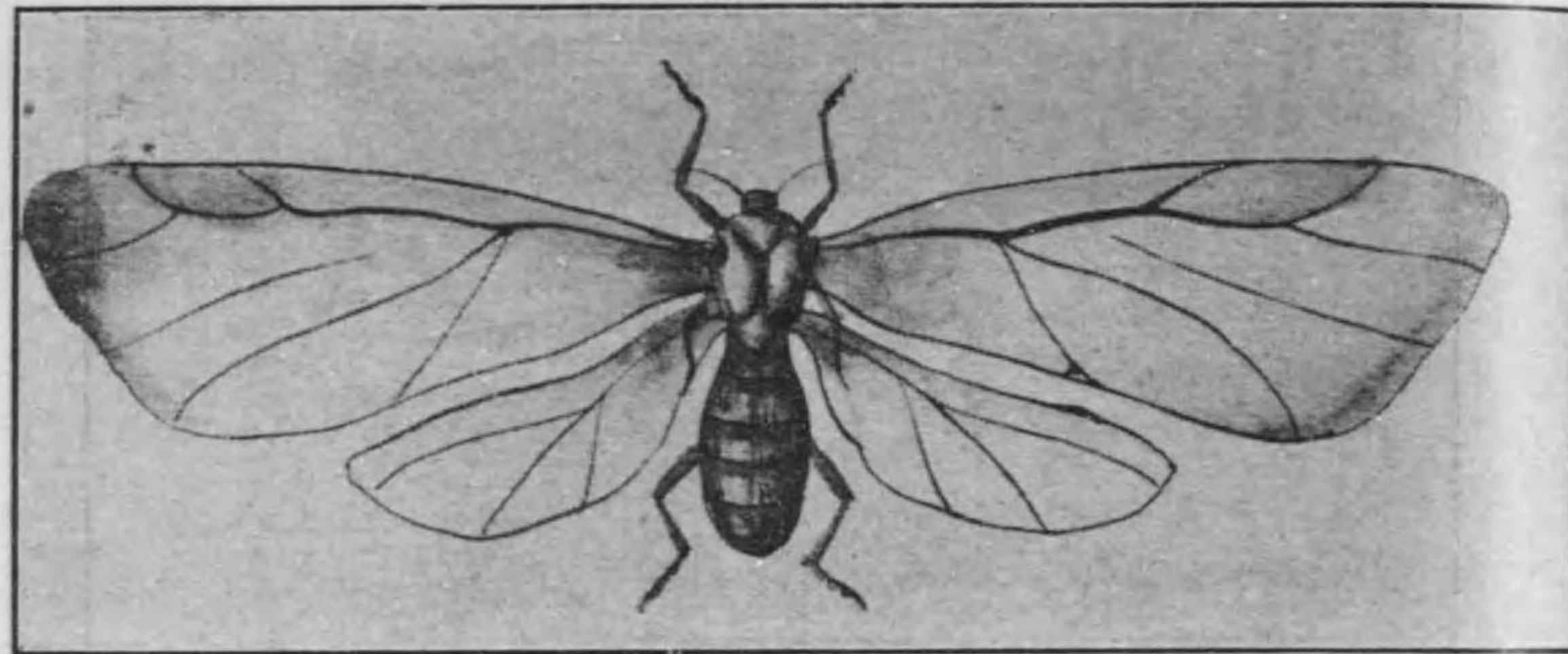
前翅は大きく、外縁廣く、淡褐色にして半透明で、前縁の中央には白紋を有する。後翅は三角形、半透明にして、翅脈は淡褐色で、縦走する翅脈多く、二條の横脈ありて、恰も編笠の如くである。クサギに多く発生する。

〔一七〕 ベツカフハゴロモ *Ricania japonica* Melich.

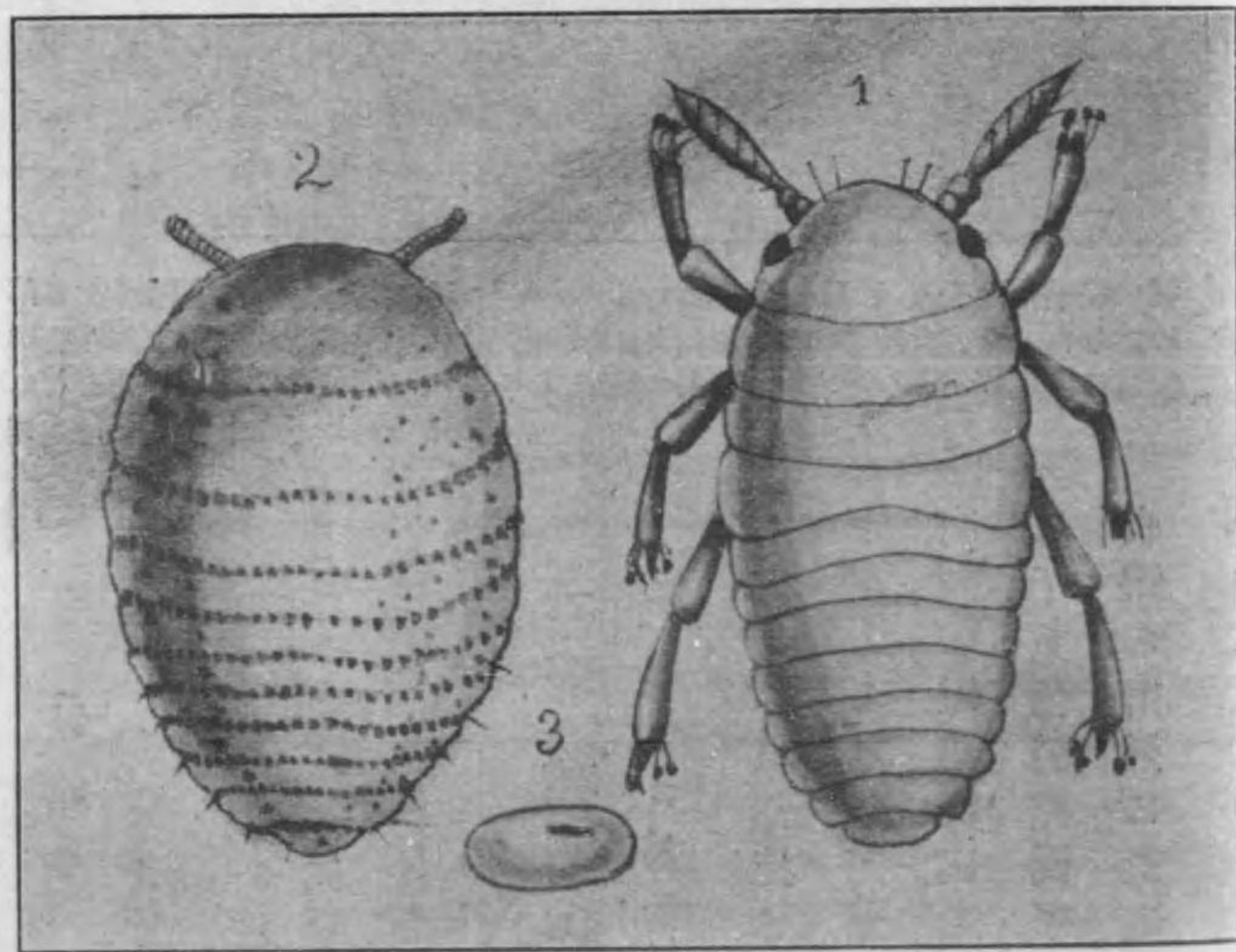
前翅は甚だ廣く、籠甲色をなし、大小三個の黄白透明紋を有する。桑、茶、クサギ、オニグルミ、ウコギ等に発生する。

(五) 蚜蟲科 (Aphidae)

本科のものは肛門より甘味ある液を排出して、蟻を誘致する。又腹部の後方に位置する角状管 (Cornicle) よりは蠟質の汁液を排出して體を保護する。翅脈には細室を有し、雌は單爲生殖をなして胎生する外に、又有性繁殖を営みて産卵する。總べて植物の汁液を吸収して加害するのである。

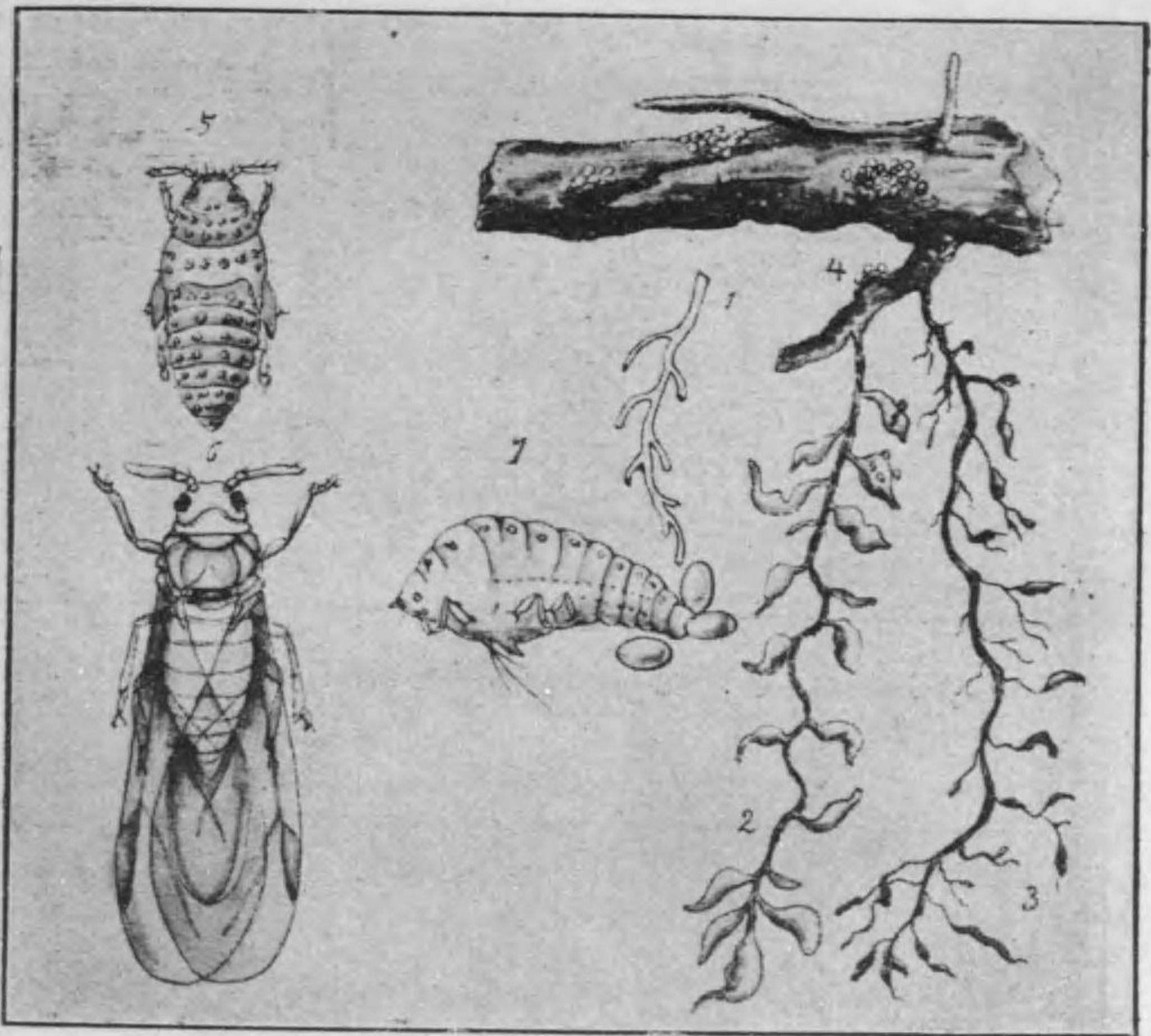


(Fackard) (*Pemphigus vagabundus* Walsh) 種一科蟲蚜 圖五十二百



幼るせ化卵 1 (*Phylloxera vitifoliae* Fitch.) 種一蟲蚜葡萄 圖六十二百第

(after Riley) 子卵 3 面腹上同 2 面背の蟲



根の葡萄るな全第 1 (Phylloxera vitifoliae) 種一蟲蚜葡萄 圖七十二百第  
め爲るたり去が蟲幼 3 のもるせ大膨に狀瘤が根の葡萄にめ爲たけ受を生寄 2  
無るせ卵産 7 雌の翅有 6 面背の蛹雌 5 子卵 4 のもるため始し縮萎が根に  
(after Packard) 圖面側の雌の翅

(追加) 三〇四

〔一〕 リンゴノアブ

ラムシ Aphis

mali Fab.

〔二〕 マメノアブラ

ムシ Aphis

runicis L.

〔三〕 葡萄蚜蟲 Phyl-

loxera vastatrix Plan.

成蟲には無翅と有翅の二  
形がある。八月乃至十月頃に  
有翅の雌蟲現出し、單爲生殖  
にて、黄色長橢圓形の卵をば、  
自體の附近に散亂して産卵  
する。これより孵化せる幼蟲

は雌雄ありて十分成長すれば翅を生じ交尾して産卵し、卵は越冬して、翌春孵化し幼蟲は葡萄の根に瘤を造りて加害する。

〔五〕 ミミブシムシ Schlechtendalia chinensis Bell.

成蟲の體長三分翅の開張一分八厘許、盛夏の候にヌルデの葉に止り、口吻を挿入して蟲癭を造り、幼蟲を胎生する。

〔六〕 リンゴノワタムシ Schyzoneura lanigera Haus.

無翅と有翅の二形ありて、無翅の成蟲は皆雌にして、體長五六厘、體軀稍扁平にして紡錘狀をなし、通例赤褐色にして白色の蠟質分泌物を以つて被はる。十月頃より現出する有翅蟲は、體長六分内外翅の開張二分餘、全體黒色にして、少しく光澤を帯び體には少しく綿絮を附す。而して本種は苹樹に寄生し、樹皮の寄生部に腫瘤を生ずる。又野生のサンザンにも付くといふ説がある。幼蟲にて越冬する。

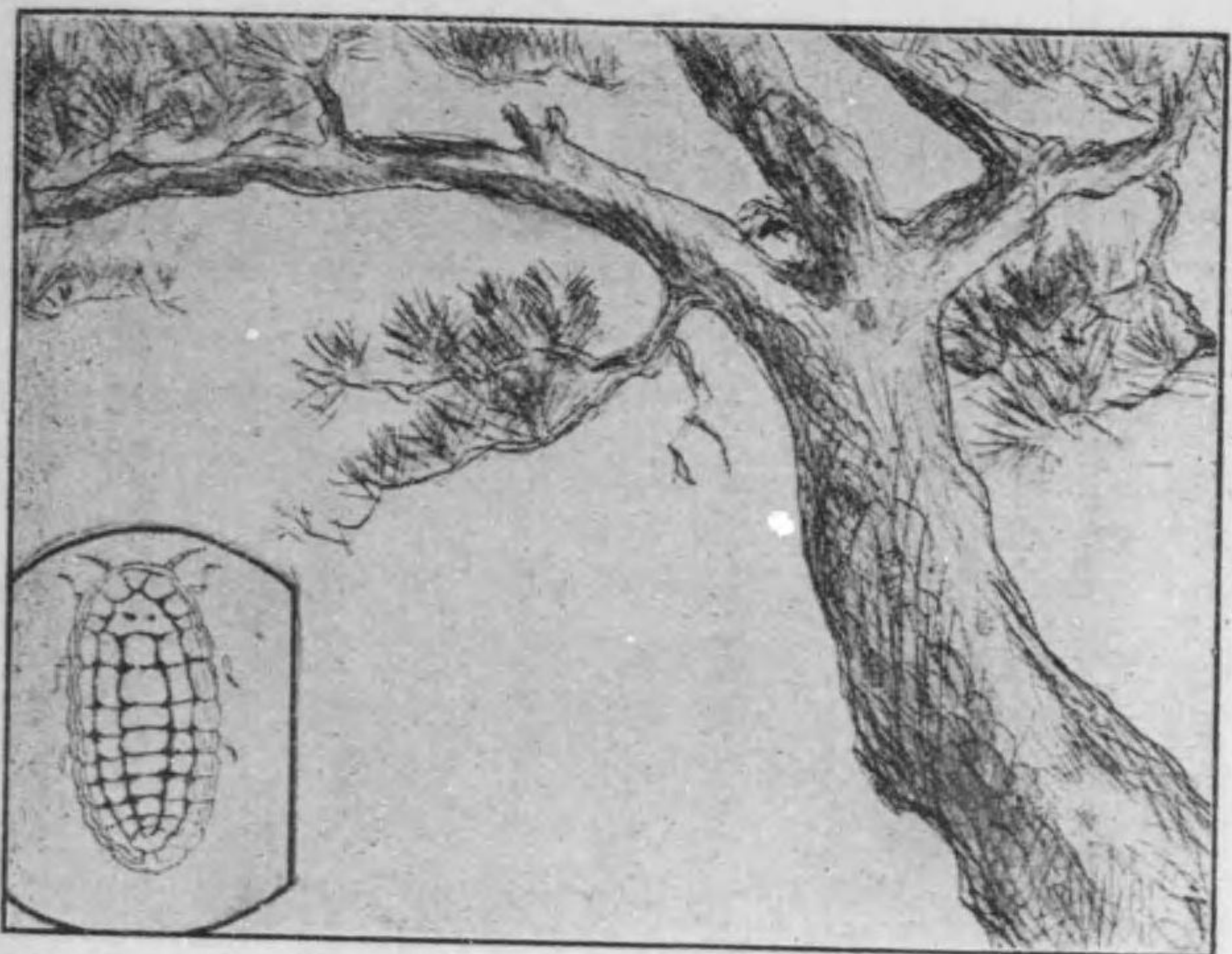
〔七〕 シギアブラムシ Stomaphis quercus Reaum.

體軀は長橢圓形灰褐色にして、細毛を生ずる。特に背管は短く、口吻は非常に長く、體長の二倍以上もある。常に殼斗科植物、朴樹等を害し、必らず蟻の墜道中に生活する。

(六) 介殼蟲科 (Coccidae)

本科には二千餘種の多數を含む。雌は無翅無肢のもの多く、雄は一對の觸角と、一對の前翅と、肢とを有するが常である。雄は蛹期判然すれども、雌は大概異形變態をなし、

(追加) 三〇六



第百二十八圖 松のモノフレバの雌(樹幹に於るものも概して大)

春季産卵する。本科のものは、植物の大害虫にして、介殼質、綿質、蠟質、角質、粉状等をなせる分泌物を以つて自體を被覆し、枝葉莖幹の表面などに固着するのである。而して分泌物は介殼状をなし、球形、不正圓形、橢圓形等をなし、多くは扁平なれども、また表面に種々の斑紋を有するものがあり、或は腫起部を有するものがある。而してバルグイナリア(Pulvinaria)ケルメス(Kermes)及びレカニアム(Lecanium)等の諸屬のものは、何れも幼蟲若くは成蟲の産卵期に當りて、體の表面に存する幾多の分泌孔より甘液を分泌して、蟻を招致するのである。

〔一〕 松のモノフレバス

*Monophlebus corpulentus* Kuwana.

通常松の樹幹に寄生し、又ナラクヌギ、クリ、カシ等にも寄生する。雌は長橢圓形にして幅廣く、ワラジムシ状をなし、體長五分幅三分餘ありて、背面は暗紫褐色を呈し、介殼を缺く。雄は扁平にして淡赤紫色で、體長は一分六厘許で、二枚の翅を有するのである。

〔二〕 綿吹介殼蟲 *Icerya purchasi* Mask.



第百二十九圖 寄生せる綿吹介殼蟲 相思樹

介殼を有せざる介殼蟲にして、雌は翅を缺き、體軀は橢圓形にして廣く、背面は少しく隆起し、體長一分二三厘許、全體赤褐色にして暗色紋を有し、觸角と肢とは黒い。雄は前翅濶大にして暗褐色を呈し、後翅は鉤状に變化し、末端に二鉤ありて、以つて前翅に懸くる用をなし、全體赤橙黄色にして、體長九厘内外、翅の開張二分五六厘である。本種は千八百八十年代に於て、北米カリフォルニア州に蔓延して、柑橘

栽培地に非常なる慘害を與へたり。また我臺灣に於ても相思樹を枯らし、爲めにウエダリア瓢蟲を輸入して、之が驅除に努めた位である。

〔三〕 ミカンノコナムシ *Pulvinaria auranti* Okih.

雌は老熟すれば、白色綿様の蠟質を分泌して卵囊を造る。而して柑橘類の枝葉に點々白粉の附着せるものは本種である。

(追加) 三〇八

〔四〕 ヒモワタカヒガラムシ *Takahashia japonica* O'Kill.

長き卵囊を分泌する状は、恰も綿にて造くれる紐の如くである。本種はハギ、カウヅ、ヤナギ、エノキ、クサギ、クハ等に寄生する。

〔五〕 クロイロカヒガラムシ *Aspidiotus duplex* O'Kill.

介殼は圓形灰黒褐色にして、柑橘、ツバキ、木犀、ボタン等の枝幹及び果實等に寄生する。

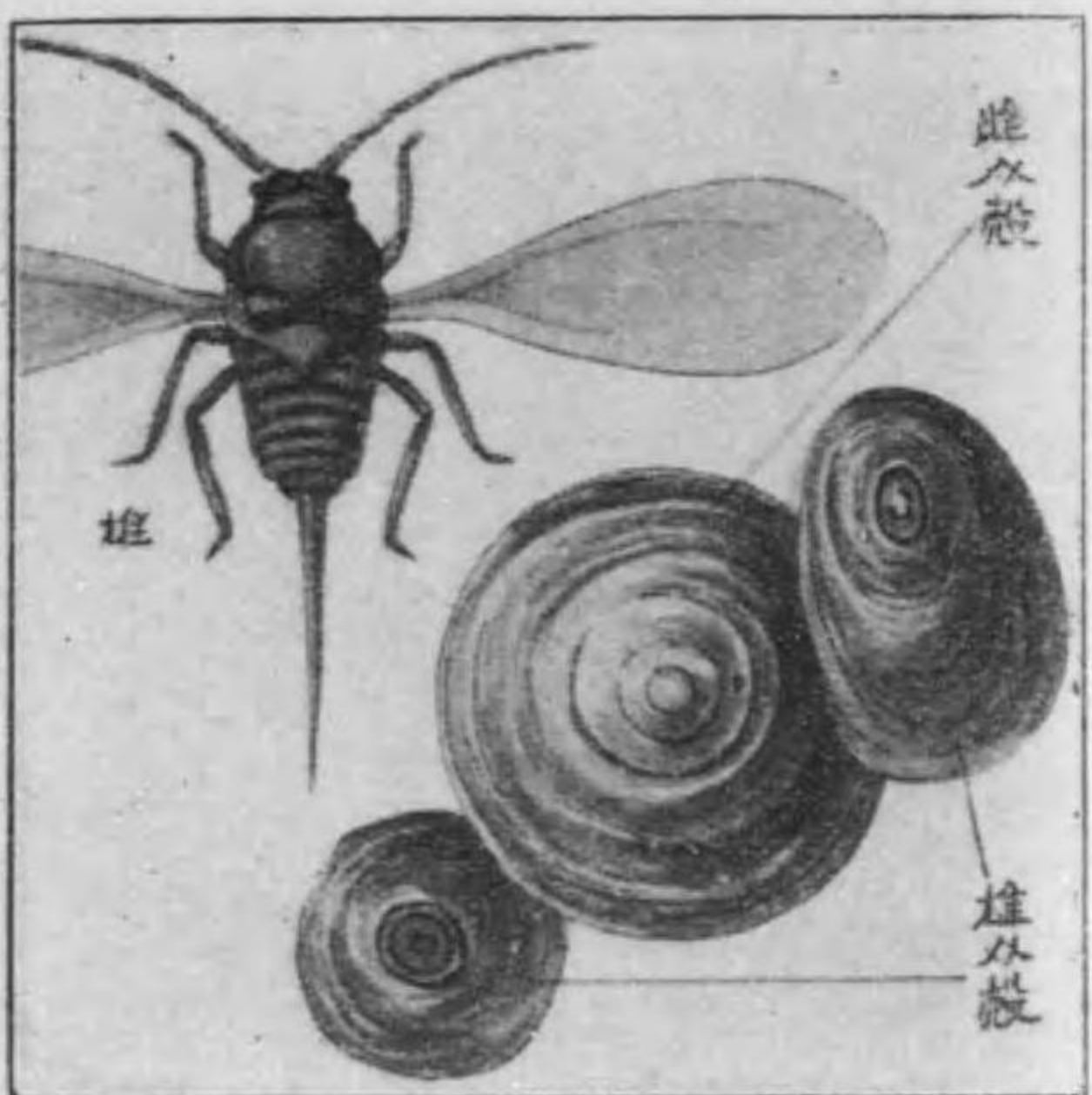
〔六〕 マルガタカヒガラムシ *Aspidiotus ficus* Riley et Asl.

介殼は圓形である。マサキ、柑橘類、バラ、イチヂク、ネズミミチ等の葉面、又は枝幹に寄生する。

〔七〕 サノーゼカヒガラムシ又ナシカヒガラムシ

*Aspidiotus perniciosus* Comst.

マーラット氏 (Marlatt) によれば、本種は北支那の原産にして、恐らく開花せる支那桃に附着し、千八百七十年頃カリフォルニア州サンノーゼ河谷に輸入せられ、千八百



第三百十三圖 サノーゼカヒガラムシ

七十三年に、此地に著しき惨害を興へたのである。其の後千八百八十六年或は八十七年に、スモモ樹幹に附着して大陸を横断して、ニュウジャージーに運搬せられ、此處より苗木により、他の諸州に蔓延し、遂に全合衆國に亘りて、園藝上恐るべき惨害を興へ、また本邦を始め、布哇、濠州、智利などにも發生を見るに到つたのである。

本種は胎生にして、幼蟲は産出後凡そ三四時間乃至二十四時間、樹梢を敏捷に活動するものである。雄の介殼は不正圓形にして、中央は少しく乳嘴狀に隆起し、蛇目狀の紋を有し、殼の大きさは五六厘許にして暗褐色、灰白色等を呈する。雌の介殼は灰黑色にして、橢圓狀をなし、蛇目紋は稍や一方に偏せる中央部に位する。本種は苹果、梨、梅、杏、李等を害する。

〔八〕 ササヨコスヂカヒガラムシ *Eriococcus onuki* Kuwana.

點々一個宛竹葉の基部に寄生し、白色橢圓形にして、背面には數個の凸隆起を有する。

〔九〕 トビイロカヒガラムシ *Chionaspis aspidistrae* Sig.

雌の介殻は、状をなし茶褐色にして縁邊は少しく白色を帯び、雄の介殻は白色である。多く群集して柑橘類に寄生する。

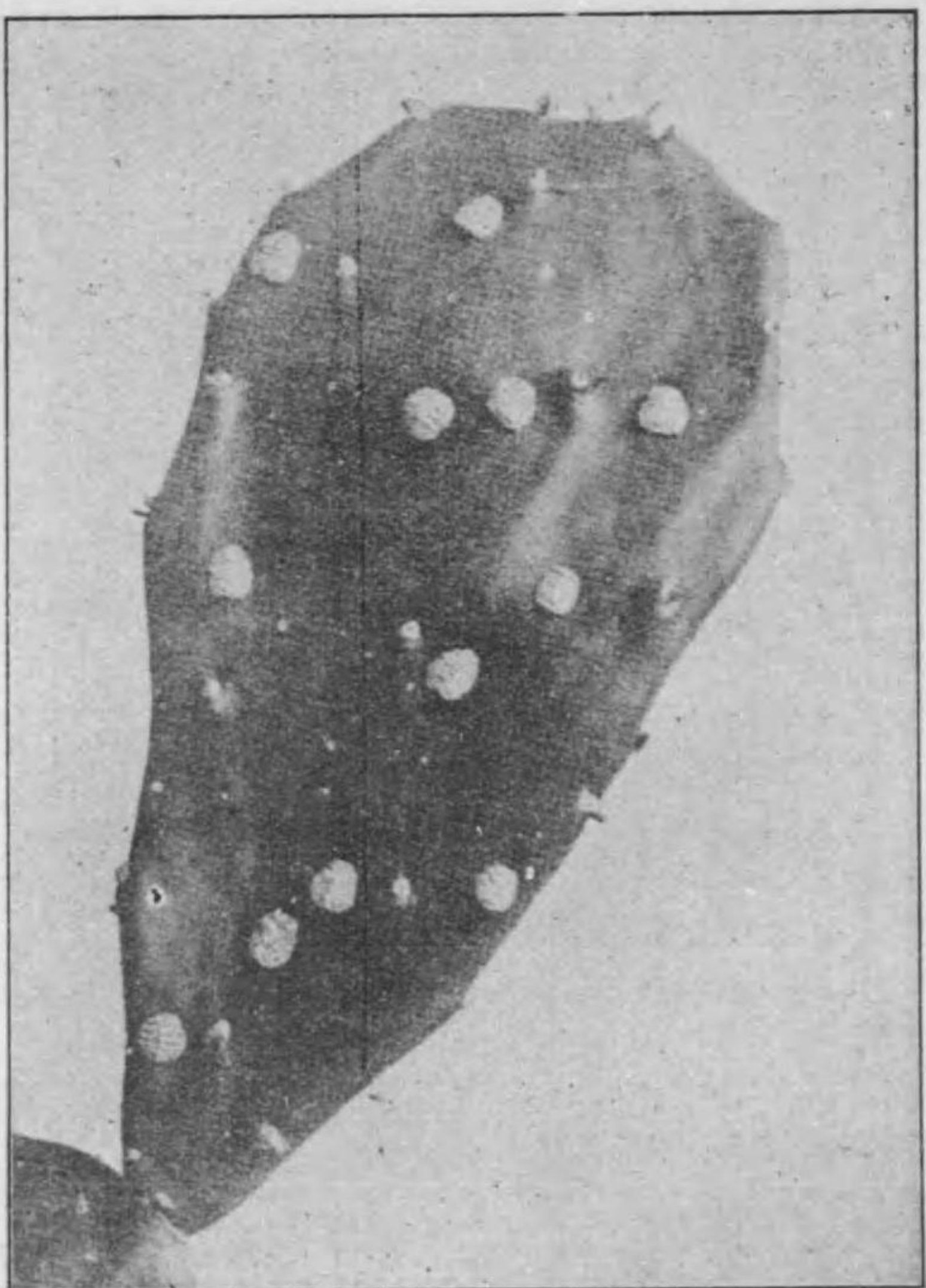
〔一〇〕 イボタロウムシ *Ericerus pela* Chavannes

イボタに寄生するものにして、雄は蠟を分泌する。雌は圓く雄は一分許にして、桑の介殻蟲に似て居る。而して樹枝に綿様物を分泌して群生し、秋季には翅を生じて飛翔し、尾端に二個の絲がある。神苑會發行、農業館列品目録に曰く、蠟白蠟イボタ、東京市産一個壹圓六拾錢、水蠟樹、女貞樹等に附く蟲の巢なり。信濃にてトスベリといふ、採りて蠟を製するに、堅くして光澤あり、以て光澤布となし、又は擬珊瑚を製する等、其用多し。嘗つて第四回内國博覽會出品にて、遠江敷知郡濱松町、中村某製、蠟白蠟の根掛九掛貳圓七錢とあるものを見たことがあるから、根掛には廣く使用せらるゝものと見へる。

〔一一〕 臙脂蟲 *Lecanium Cacti*, L.

英にコチニール (*Cochineal*) といふ、元來メキシコの原産にして、千八百二十七年頃に東半球に輸入せられ、地中海沿岸に於て其の移殖を見るに到つたのである。カナリア諸島にては、非常によくその移殖に成功し、洋紅と稱し、嘗つては主要なる商品であつ

て、今より四十年許前にカナリア諸島より英國に輸入せし額は、八十萬磅以上の價格に上つたが、今ではアニリン染料が使用せらるゝ爲めに、洋紅の使用は大に減退したのである。本種の雌は活



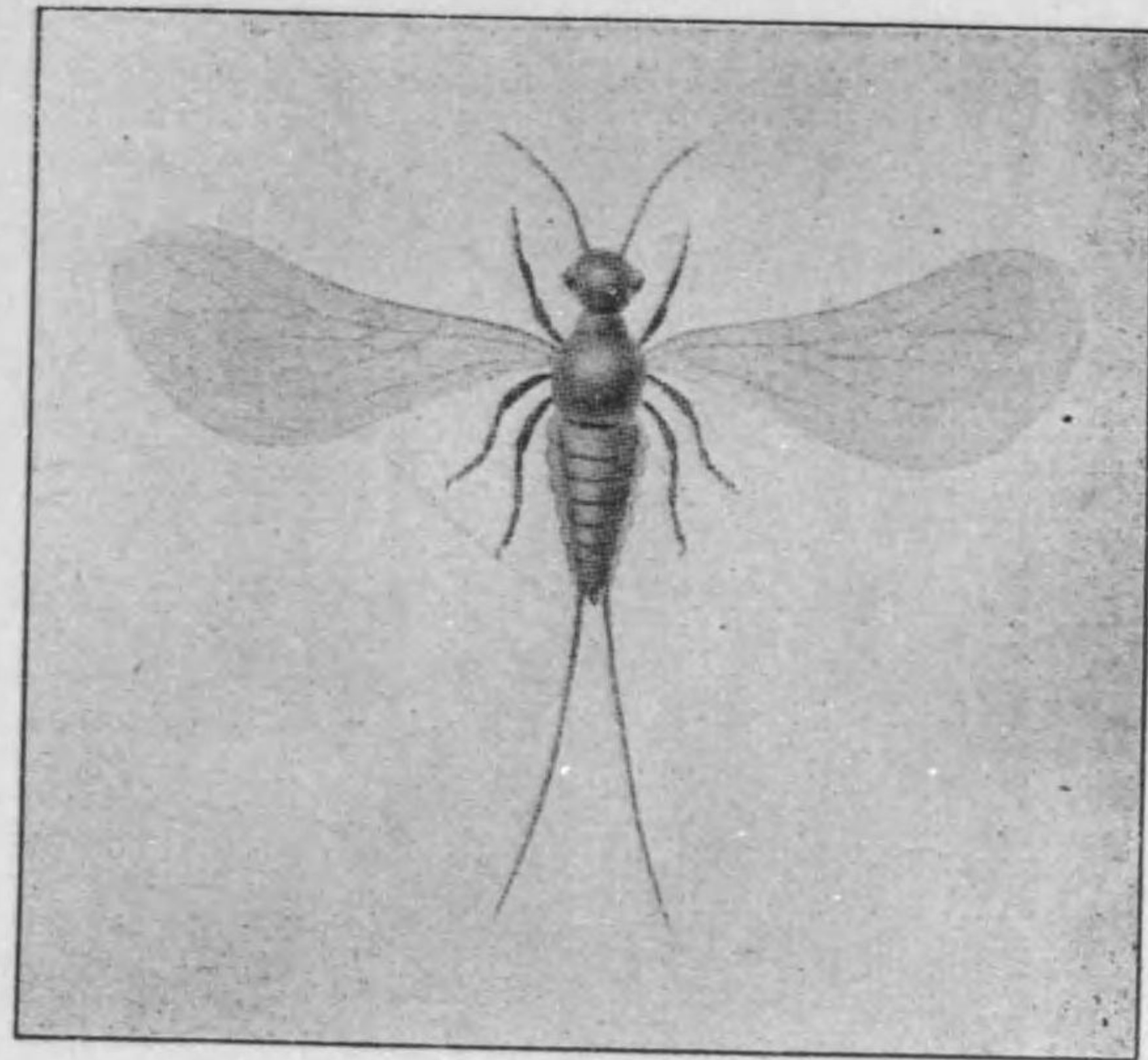
臙脂蟲の上ニテボサ 圖一十三白第  
(Photo by Har. H. Bastin)

動力なき蛆狀にして、雄は完全に變態し、二枚の翅を有し、體は赤く、翅は白色で、大なる複眼と十節より成れる觸角とを有するが、吸吮用の口器を缺くを以つて、食物を取ること能はずして、直ちに死滅するのである。雌はその生活の終る頃

には眞に卵囊となり、この際體中には色素物質を多く含有するやうになる。而してこの動物はサボテン屬 (*Opuntia*) の數種及びノパレア屬 (*Nopalaea*) の如きサボテン科に

寄生して、其の汁液を吸吮する。而して洋紅を取るは、唯雌のみにして、年に二回、産卵後

(追加) 三二



(By J. Teklenburg) (大廓)雄の蠟脂蠅 圖二十三百第

し、體は其後乾燥し、且つ堅硬となりて、凹める鱗片状のものに化し、以つて卵を保護する。而してこの下から幼蟲の孵化して匍ひ出すのである。

### 第三目 無翅類 (Aptera) 又寄生類 (Parasita)

#### (一) 蝨科 (Pediculidae)

##### 〔一〕 頭蝨 (Pediculus capitis Deg.)

體長五六厘、體軀は卵形にして頭髪に寄生する。チブスを傳染せしめるといふ。

##### 〔二〕 衣蝨 (Pediculus vestimenti Burm.)

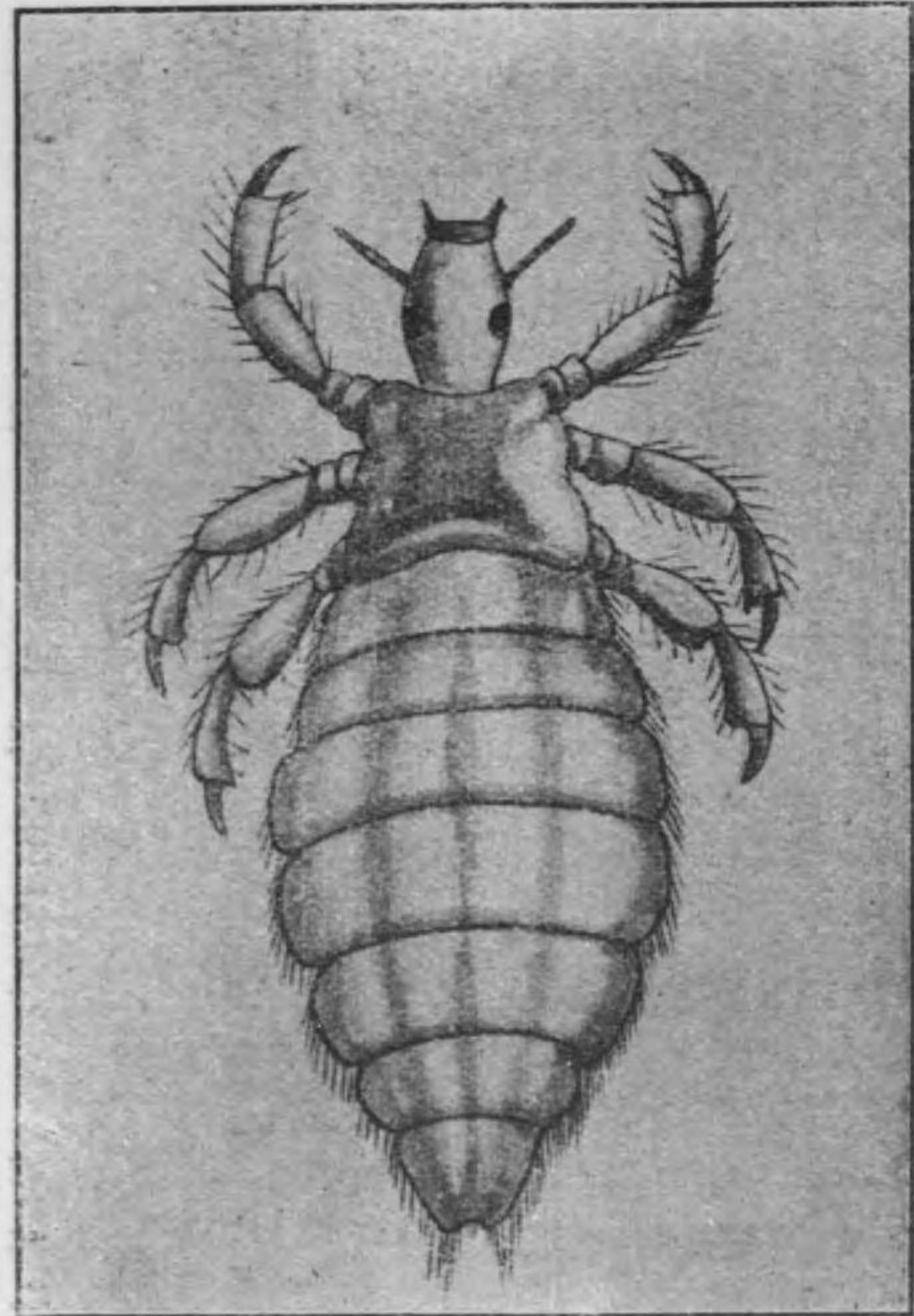
人の衣服に寄生する。鼠のトリバノゾーマの中間宿主となり、又人間のチブスを傳染せしめる。近來再歸熱を傳染せしめると唱道する學者もある。

##### 〔三〕 ウマジラミ

Haematopinus mac-rocephalus Burm.

體軀は黄色、若くは赤黄色にして、馬の頸部に多く寄生する。

(追加) 三一三



(Pa. karl) 蝨 頭 圖三十三百第

〔四〕 牛蝨 *Haematopinus vituli* L.

體軀は褐色にして長吻を有し、腹部は長く灰色である。牛に寄生する。

〔五〕 犬蝨 *Haematopinus piliferus* Durm.

犬に寄生する。

〔六〕 豚蝨 *Haematopinus*

*sis* L.

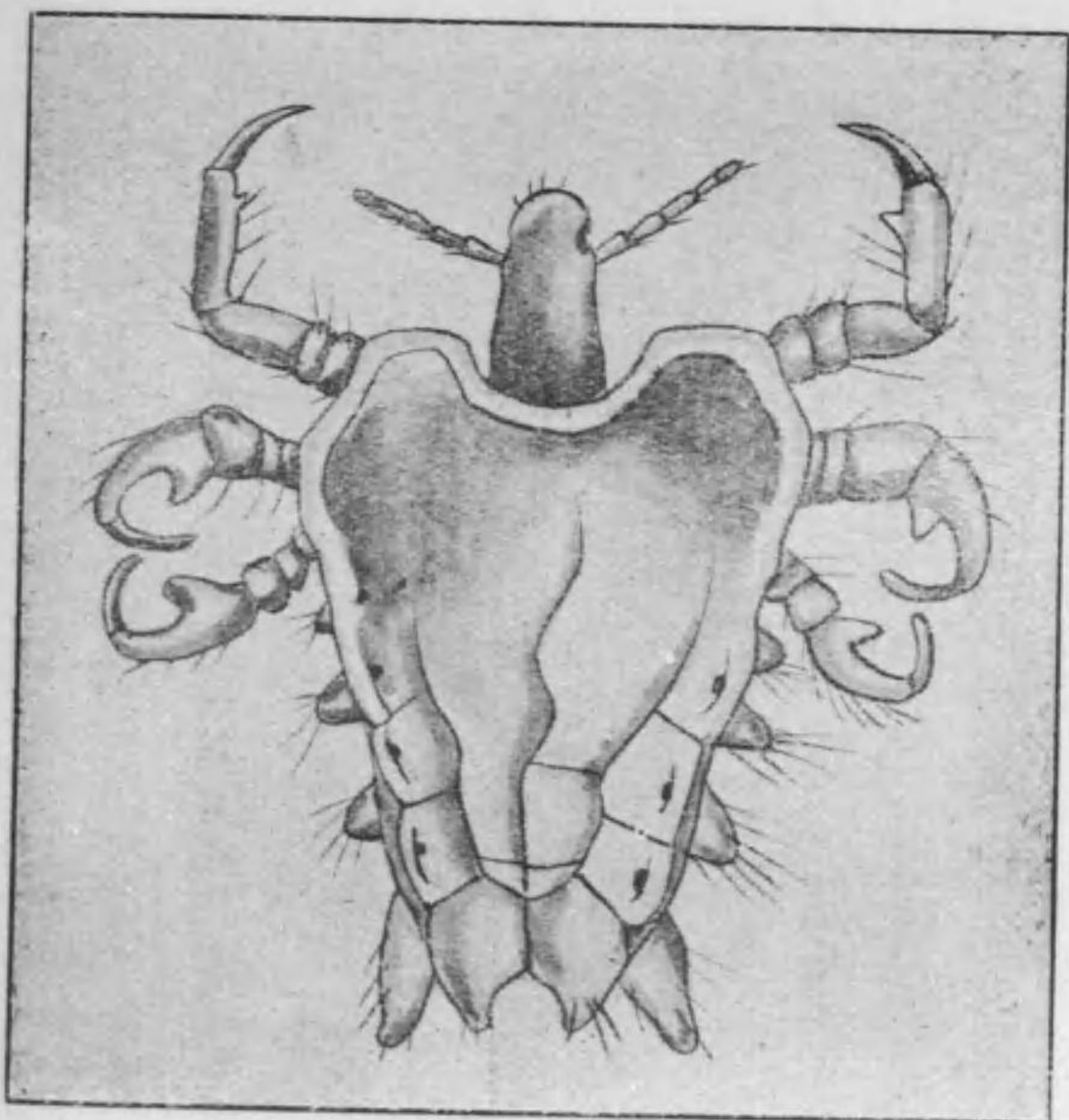
豚に寄生する。

〔二〕 毛蝨科 (*Phthiridae*)

〔一〕 毛蝨 *Phthirus*

*pubis* L.

體軀は白色扁平なる蝨にして、中後兩肢の爪は、非常によく發達する。常に陰毛及び腋毛等に棲み、皮膚に喰ひ込み、血液を吸収する。本種は主として觸接により傳搬するものな



(Fackard) 蝨 毛 圖四十三百第

るべく、水銀軟膏の塗布は撲滅に効ありといふ。

### 附 録

總翅類 (*Thysanoptera*) 又胞脚類 (*Physopoda*)

〔一〕 薊馬科 又 虬蟲科 (*Thripidae*)

〔一〕 ネギノアザミウマ *Thrips tabaci* Lind.

體長七厘内外、黒褐色にして頭は細く、腹部は黒褐色にして環節部は黄色で、尾端は

圓錐形に突出する。晩秋より春季に亘りて現出し、葱を害し、爲めに被害部は灰白色と

なるのである。

〔二〕 縞薊馬科 又有管虬蟲科 (*Aeolothripidae*)

〔一〕 シマアザミウマ (*Aelothrips fasciatus* L.)

〔三〕 管薊馬科 又 黒虬蟲科 (*Phloeothripidae*)

〔一〕 イネノアザミウマ 又 イネノムクゲムシ

*Phloeothrips oryzae* Mats.

體長五厘位、全體黒褐色にして年二回發生し、五六月頃苗代に來りて苗葉を咬みて養液を吸收するのみならず、また稻の穂に集りて養液を吸ひ、實入りを悪くするのである。

第七目 直翅類 (Orthoptera)

(一) 蟋蟀科 (Gryllidae)

頭部は圓く大きく、觸角は長く線狀をなし、前翅は短く、雄の前翅脈は波狀を呈し、雌の翅脈は網狀をなす。後翅は長くして之を扇狀に疊む。肢の跗節は三節より成り、前肢の脛節には聽器を有する。後肢は長く跳躍に適する。雄は前翅の右翅を左翅の上に重ね、右翅の鱗狀部を以て左翅の硬質部に摩擦し發音する。多くは暗所に棲息し、常に地中若くは石木の下に隠れる。尾端には長き二尾様突起ありて、環節を缺く。また雌の産卵管は錐狀にして細長なれども、ケラは産卵管を缺いて居る。

(一) 金琵琶 *Galyptryphus marmoratus* D. H.

鈴蟲よりも大きく、體長六分五厘、全體灰褐色にして、恰もツルレイシの種子に肢を附けたるやうである。本種は九州四國には最も多く、北方は磐城岩代、越後に至れば其の聲を聞かすといふ。性質高燥の地を好み、丘陵、山麓、河堤、原野のカヤ、ス、キ、オミナへ

シ、小松等の生ずる處に棲息し、八九月頃出でて夜チンチロリンと鳴く。

(二) カネタ、キ *Ectatoderus kanetataki* Mats.

體長三分許、觸角は褐色にして略體長に三倍し、頭部、前胸背は茶褐色にして、腹部は黒く、銀白色の鱗毛を生じ、雄の前翅は短く、後翅は退化し、雌は翅を缺く。九十月頃桑畑、杉垣、其他樹木の窩中に隠伏してチンチンと鳴く。

(三) クサヒバリ *Cyrtoxiphus ritsemæ* Saus.

體長二分二三厘、灰黄色を呈し、觸角は長さ一寸五分許である。雄は七八月頃より九月に亘り、晝夜ヒフリ、ヒフリと鳴く。

(四) エンマコホロギ *Gryllodes miratus* Burm.

體長八分乃至一寸、頭部は大きく球形にして、顔面は褐色で、體は黒褐色を呈し、前翅は油質の光輝ある暗褐色にして、腹部より稍短い。幼蟲は粟、蕎麥、大小豆の嫩芽及び幼莖を食すること甚しいのである。雄は晝夜の別なくコロコロ……リリリリ……と鳴く。

(五) コホロギ *Gryllodes berthelms* Saus.

前種より小さく、頭は圓形にして黒褐色を呈し、顔面には淡褐色の斑紋と、後頭に六



條の短線を有する。後翅は退化して小さく、肢は灰白色の地に、黒褐色の細紋を有する。雄は夜間リユー……………と鳴く。

[六] ミツカドコホロギ *Ioxoblemmus Haanii* Saus.

體長六七分、黒褐色にして雄の頭部は大に變形し、顔面は上下左右に突出して、菱形をなす。雌は前種の雌に似たれども、顔面稍扁く且つ黒い。八九月頃雄は夜間チュチュ……………と鳴く。

[七] オカメコホロギ *Ioxoblemmus equestris*, Saus.

體長四五分、雄の顔面は扁く、斜めに截りたるが如きも、頬は前種の如く左右に突出することはない。體は黒褐色である。晝夜の別なくリリリリ……………と鳴く。

[八] ケラ *Grylloptera africana* Pall.

全體褐色を呈し、前肢は短大扁平にして、脛節及び跗節の第一、第三節は鋸齒状をなし、ムグラの前肢と似て居る。成蟲は初夏より現出し、夜間ガーンと鳴けども、稀に晝間も鳴くことがある。本種は稻、麥、玉葱、葱、其他各種植物の稚根を食すれども、また甲蟲の幼蟲及び蠕蟲を食する。余は大正元年九月下旬、川越町字久保町の一知人の宅にて、玄關のランプの光線が映する壁周囲の疊に、本種が毎夜數疋も飛來し、壁上に群れるツマ



(Photo by H. Main) ラケ 圖五十三百第

グロヨコバイ(其他二三種はあるが、主として本種なり)の集團を見懸けては、疊より壁に飛び付き、之を捕食すること頻りなりし事實を觀察する機會を得たのである。

[九] 金鐘兒 *Honoegryllus japonicus* D. H.

體は黒褐色にして、西瓜の種に肢を附けたやうである。體長五六分許、觸角は長く、體長の二倍以上に達し、其先端の半部は黒褐色を帯び、七乃至九月頃より出で、草間に夜リーンと鳴く。本種は北は磐城岩代、越後等にも其聲を聞くこと稀れならずといふ。

〔一〇〕 邯鄲 *Oecanthus longicauda* Mats.

(追加) 三二〇

體長四分五厘許體軀は淡黄綠色、觸角も亦同色にして、體長に三倍する。七乃至九月に亘りて現出し、晝夜の別なくフヒヨロ、フヒヨロ……と鳴く。

(二) キリギリス科 (Locustidae)

頭部は尖り、觸角は長くして體よりも長い。前翅は長く、右翅の上に左翅を重ね、雄は右前翅の表面基部に、發音鏡なる透明の膜質部を有し、左前翅の裏面には、横に鐘狀部ありて、互に摩擦して發音する。跗節は四節より成り、前肢の脛節の基部には聽器を有する。常に乾燥せる向陽地の草叢間に棲息して、二個の尾様の附屬部は短く、環節を缺き、雌の産卵管は劍狀にして長いのである。

〔一〕 クサキリ *Conocephalus fuscipes* Redt.

體長一寸許、綠色と褐色との二形あり。頭は圓錐形なれども、頭頂は尖らずに突出し、其周邊には白色の細き横線を有し、觸角は淡褐色、體長と同長である。前翅は腹部より長く、綠色にして幅狭く、腹部も亦綠色である。八、九、十月頃現出し、晝夜の別なく草間、稻田にてジーンと鳴く。

〔二〕 クビキリバツタ *Conocephalus Thunbergi* Stal.

體長一寸二分許、綠色と褐色との二形がある。頭部は圓錐形をなし、頭頂は著しく前方に突出し、周縁には白色の細線があり、其の兩側には黄條がある。觸角は暗褐色で體長と同長で、前翅は綠色にして腹部外に出ること八分許、腹部背面の中央には濃褐色の縦帯を有し、他は綠色である。十、十一月頃より翌年初夏にかけて現出し、晝夜共に鳴く。

〔三〕 イブキギス *Decticus japonicus* Boliv.

體長六乃至八分、體は光澤ある黒褐色にして、前翅は短く、腹部の第六節まで達し、翅脈は黒褐色である。後翅は小さく、色淡い。七八月頃多く現出し、伊吹山にて得られたるを以つて此名あれども、其他の諸處にも産し、川越附近にては小流畔の草叢間に見るのである。

〔四〕 セスヂツコムシ *Duceitia japonica* Thunb.

體は綠色、前胸背の中央には一黄褐縦線ありて、腿節下には小刺を並列する。夜出て、スイチヨーンと鳴く。

〔五〕 キリギリス *Gonypocleis mikado* Burr.

體長一寸有餘、綠色と褐色の二形あり。頭頂は尖らずして圓く、觸角は暗褐色にし

て體より少しく長く、前胸背は平潤にして後縁は廣く圓く、綠色にして二列に褐色の縦線を有し、腹面には一對の棘を有する。肢は淡綠色にして、各腿節の内側には黒き齒狀突起を有し、脛節の内外兩側には刺を有する。本種は七、八、九月頃現出し、向陽地の堤防路傍の叢間、サツマイモ畑などにありて、晝間チョンギースと鳴く。幼蟲は動物質を食ふといふ。

[六] コホロギス *Gryllacris japonica* Shiraki.

本種は發音することなく、夜間よく燈火に來り、又肉食する。

[七] 馬追蟲 *Hexacentrus unicolor* Serv.

體長七分許、全體綠色にして頭胸部の背面は褐色である。八、九月頃現出し、スインチヨと鳴く。

[八] 絡緯又草馬 *Locusta japonica* Brun.

體長一寸餘、全體は綠色にして頭胸腹の背面には褐色の縦線がある。成蟲は六月上旬より九月頃にかけて、竹藪樹木上にて晝夜の別なく、リース——と鳴く。幼蟲成蟲共に肉食する。

[九] 聒々兒又紡績娘 *Mecopoda niponensis* D. H.

綠色と褐色との二形がある。成蟲は八月中旬より九月下旬に亘りて、竹藪、カヤ野にて夜間ガチャガチャと鳴く。

[一〇] ヒゲナガサ、キリ *Xiphidium longicorne* Redt.

體長六七分、觸角の長さは約體長の五倍もある。體軀と肢とは綠色にして、頭部より腹部末端に亘り、背面には褐色の條帶を有し、前翅は狭く、その長さは三四分である。

[一一] クダマキダマシ

*Holochlora japonica* Brun.

體長一寸餘、全體は綠色にして頭頂尖り、其兩側には白點を有する。觸角は褐色にして體長に倍し、前翅は綠色にして腹部より遙に長く、後翅は前翅と同長にして、雌の産卵管は長さ三分、薙刀狀である。九、十月頃より現出し、雄は樹上にありてグル………と恰もクダを捲くが如く晝間盛んに鳴く。産卵の際は桑、果樹、其他の植物の枝條を穿ちて産卵するを以つて、枝は枯るゝことがある。

(三) 蝗蟲科 (*Acrididae*)

觸角は短く、頭部には三個の單眼を具へ、肢の脛節には鋸齒狀に排列せる棘を有し、後肢は膨大して跳躍に適する。腹部第一節の側面には圓板狀の聽器を有する。雄は前

翅の側面に、後肢の腿節を摩擦して、一種の音を發するのである。

(追加) 三三四

〔一〕 セスチツチイナゴ *Acridium consanguineus* Serv.

體長一寸三分乃至二寸、體は褐色にして頭頂より前胸の後縁に亘りて、太き一條がある。翅を疊むときは、表面は淡黄色を呈する。

〔二〕 ツチイナゴ *Acridium succinctum* L.

體長一寸四分乃至二寸八分許、體は黄褐色若くは赤褐色にして、複眼の直下には黒色の横條を有し、前胸の中央には黄褐條あれども、判然することなきか、又は之を缺いて居る。

〔三〕 チンブバツタ *Atractomorpha bedeli* Boliv.

體は綠色にして雄は小さく、交尾の時は雌の背上に登る。本種は好みて印度藍の嫩芽を咬み切るといふ。

〔四〕 ナキイナゴ *Chrysochraon japonicus* Boliv.

雄は體長七分五厘、全體葉色なれども、頭部は青黄色にして頭頂は突出する。前翅は稍四角形にして、腹部第五節にて截斷狀に終つて居る。翅脈は粗にして、前後脛脈の間にある幾多の小室の縦脈は粗澁にして、後肢腿節の内面の小突起に觸れて、チキ...

と十數回も續けて發音する。後翅は退化して僅に痕跡を存するのみである。本種は本邦各地に産し、五月下旬より七月頃に亘りて茅野にて鳴くのである。

〔五〕 アシベニイナゴ *Eupreponemis plorans* Charp.

體長八分乃至一寸三分、前胸背は殆んど平滑にして、黒褐色天鵞絨狀をなし、後肢脛節の後半及び跗節は鮮紅色である。秋季向陽の草叢中に極めて普通である。

〔六〕 キチキチバツタ *Gelastorhinus esox* Sauss.

體は綠色にして頭は圓錐狀をなして前胸より長く、前胸背には三縱隆起を有する。前翅は尾端より遙に長く、飛ぶときキチキチと鳴く。

〔七〕 ハネナガイナゴ *Oxya velox* Fabr.

體は黄綠色、前翅は細長にして尾端よりも突出する。卵は塊をなし、褐色の膠質物を以て被はれ、一卵は橢圓形にして、長さ二分乃至五分許、大抵二三十粒宛集りて、稻株田面及び畦畔の土中に産み付けらる。稻の害虫である。

〔八〕 コバネイナゴ *Oxya vicina* Brm.

翅は短く腹部に達することはない。前種同様に稻を害する。

〔九〕 クルマバツタ *Oedaleus narmoratus* Thunb.